

党部ノ勢力拡張ト各師、軍改編ニ伴フ不平分子ノ妄動ニ乗  
スル共産党ノ活動ヲ連想セハ平和ヲ装エル京津地方モ決シ  
テ樂觀ヲ許ササルカ如シ

## 五 第二次山東出兵（済南事件と解決交渉）

305 昭和3年4月(21)日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

済南在留邦人の動揺および一時避難の状況に  
ついて

済南 発  
本省 4月21日後着

第九五号

時局ニ関シ四月十七日頃ヨリ在留邦人一時動揺ヲ来シ在郷  
軍人会及各町代表者数ヶ所ニ集合シ出兵請願方万一ノ場合  
ノ引揚準備等ニ関シ協議ヲ遂ケ一方十八十九兩日ニ亘リ婦  
女子六十余名ハ青島ニ避難シタルカ十九日夜ニ至リ天津ヨ  
リ派兵ノ報伝ハリ二十日午後本官ハ在留民ノ各団体ヲ集メ  
時局ノ経過及政府ノ保護方針ヲ略述シ益々邦人行動ノ慎重  
ナルヘキ事ヲ注意シ次テ同夕三個中隊到着セルヲ以テ昨朝  
来一名ノ避難スルモノ無ク邦人側ハ余程静穩ニ帰シタリ  
在支公使、青島、天津へ転電セリ

306 昭和3年4月(23)日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡公時を外交署主任に任命の通知について

上海 発  
本省 4月23日後着

第二四七号

国民政府戦地政務委員会主席蔣作賓及同委員会外交署主任  
蔡公時兩名ヨリ本官ニ宛テタル内容左ノ如キ公文（四月十  
一日付）ヲ本二十三日交渉員ヲ經テ送付シ来レルカ同様列  
国領事ニモ通告シタル由ナリ  
国民政府ハ今回戦地政務委員会内ニ外交署ヲ設ケテ委員蔡  
公時ヲ外交署主任トシテ戦地ニ特派シ随時蔣總司令ノ指揮  
ニ依リ外交部ヲ代表シ戦地地方外交事項ヲ管理セシムルコ  
トトシ蔡ヲ四月三日徐州ニ向ハシメタルカ戦地地方各友邦  
人民ト地方軍警人民ト言語不通等ノ關係ヨリ誤解ヲ生スル

処アリ外交署ハ職責トシテ充分慰懃ニ措置シ親善ノ精神ヲ表ハシテ友邦ノ義ヲ厚フスルニカムヘキニ付右貴国出先領事ニ転知シ在留民ニ周知セシメラレタシ  
北京、済南、青島、天津、坊子、張店、博山ニ転電セリ

307 昭和3年4月24日 在済南岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

日本の山東出兵に対する国民党の慎重なる反応について

別電 四月二十四日付在済南岡本領事より田中外交大臣宛第七六号

国民党中央執行委員会より全国党員に対し発出した命令

南京 発  
本省 4月24日後着

第七五号

往電第七二号ニ関シ

本二十三日午後二時ヨリ中央党部緊急會議ノ結果国民党中央執行委員会ヨリ全国党員ニ対シ別電第七六号ノ通命令ヲ

日本政府ハ居留民保護ニ藉ロシテ膠済沿線ニ出兵シ毫モ理由ナキ暴挙ヲ以テ我主権ヲ蔑視シ國際正義ニ反セルヲ以テ各地民衆大ニ激昂ス我国民党全党員ハ宜シク厳正ナル精神ヲ以テ正当ニ之ヲ指導スヘシ

一、今次日本出兵ハ田中内閣ノ誤レル措置ニシテ日本国民党ハ素ヨリ日本国民ノ希望セサル処ナリ故ニ吾人ハ從來通兩國親善ノ態度ヲ保持シ日本国民及民党ニ対シ速ニ内閣ノ暴挙ヲ訂正スル様希望ス

二、日本出兵ハ我主権ヲ侵シ國際正義ニ反スルヲ以テ吾人ハ世界各国ニ通告シテ其ノ同情ヲ求ムヘク又各国居留民ノ生命財産ハ戦地ト否トヲ問ハス之ヲ安全ニ保護シ日本政府ヲシテ藉ロセシメス

三、吾人ハ速ニ北伐ヲ完成シテ独立自主ノ計ヲ為シ以テ帝國主義的侵略ニ反対スヘシ而シテ北伐完成ハ前線ノ進行後方ノ強固相共ニ緊要ナルヲ以テ吾人ハ後方秩序ノ維持ヲ勵行シ戦線ノ將士ヲシテ後顧ノ憂ナク一意前進セシムルカ為吾人ノ言論行動ハ中央ノ指示標準ヲ尊重シテ苟モ違背スヘカラス凡ソ罷工罷課ノ如ク一切ノ無用ナル挙動ヲ避ケ各地ノ共産党ヲシテ乗スルノ機会ナカラシムヘシ

発セリ右ニ依リ承知セラルル如ク今次ノ我出兵ニ対シテハ国民党当局ハ努メテ排日行動ヲ戒メ兩國間事端ノ醸成ヲ避クルト共ニ之カ為反対党及共産党ニ乗スルノ余地無カラシメツツアリ蔣介石又戦地ヨリ政府及自派ノ新聞記者ニ打電シテ輕率妄動ヲ戒ムル処有リタル旨上海時事新聞主筆來談セリ總司令部軍事委員会其ノ他政府当局ノ平素屢面会セル關係並ニ戦勝ノ關係モ有ルヘキモ未タ従前ト毫モ変ラズ市中ノ人氣又頗ル平靜ナリ  
本日面会セル何應欽モ日本兵青島或ハ済南到着前済南ヲ占領シ得ハ多ク問題ト為スニ足ラスト云フカ如キ口吻ヲ洩シ出来得ル限り我出兵ヲ延期サレタシト懇願セリ  
転電先前電通り

（別電）

南京 4月24日後発  
本省 4月24日後着

第七六号

革命軍今次ノ北伐ハ屢々勝利ヲ博シ残存軍閥滅亡、革命完成期シテ待ツヘシ

如上ノ趣旨ヲ以テ隨時法案ヲ指令スヘキニ付各級党部ハ嚴重ニ之ヲ遵行シ全体党員ヲ訓練シテ民衆ヲ善導スヘク勇氣ヲ振ツテ困難ヲ排シ同心協力大業ヲ完成スヘシ  
北京ニ転電シ其ノ他ヘ郵送セリ

308 昭和3年4月24日 在済南西田總領事代理より  
田中外交大臣宛（電報）

万一事件勃発の際の在留邦人避難の手筈について

済南 発  
本省 4月24日後着

第一一三号

時局急迫セル次第ハ累次電報ノ通ナルカ第六師団到着迄ニ万一事変突発セル場合ハ本官ヨリ避難命令ヲ出タス筈ニテ之カ方法ニ関シ小泉派遣隊長及民団側ト連絡協議ノ結果危険状況急迫程度ニ応シ避難時期ヲ二期ニ分チ（一）第一期避難命令ヲ発シタル時ハ在留邦人ノ老幼婦女子及病者ヲ領事館及小学校済南医院ニ收容保護シ尚城内及商埠地外等遠隔居住者ヲ商埠地内ニ移転セシムルコト（二）第二期ニ於テハ残留

在留者全部ヲ前記記載ノ避難所ノ外庚申倶楽部ニ避難セシムルコトニ決定シ(三)之カ通報ニ関シテハ既定ノ各町内通報代表者ヲシテ一般ニ周知方取計ハシムル外警察官及在郷軍人会ヲシテ完全ニ避難セシムル方法ヲ講シ居レリ  
北京、青島へ転電セリ

309 昭和3年4月25日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛(電報)

日本の山東出兵に対する国民党のアピールについて

南京 4月25日後発  
本省 4月26日前着

第七九号

一昨二十三日ヨリ二十四日夜ニ亘リ討議ノ末中央党部常務會議ニ於テ通過セル我山東出兵ニ関スル世界民衆ニ告クルノ書及日本国民ニ告クルノ書大要左ノ如シ  
世界民衆ニ告クルノ書

在留民ヲ一時交戦地帯ヨリ引揚ケシムル米國ノ故例ニ倣ハス田中内閣ハ居留民保護ニ藉ロシテ突如五千ノ大兵ヲ山東

之ト親善ヲ計ルト共ニ日本民衆ト提携シテ東亜ノ新運命ヲ開拓スヘシ

帝國主義ハ徒ニ目前ノ利ニ走リテ支那ノ内乱ニ乘シ利権ヲ獲得シ来レルモ輓近三民主義ノ思想全国ニ普及シ革命完成近ツキツアルヲ以テ各帝國主義者ハ漸次其ノ態度ヲ改メツツアル際日本政府ノミ頑迷不靈ナルハ東亜和平ノ為深く遺憾トシ日本民衆ノ注意ヲ促ス次第ナリ云々

310 昭和3年4月28日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

交戦禁止区域設定説、済南商埠地の日中共同警備問題に関する陳交渉員との会談について

済南 発  
本省 4月28日前着

第一二五号

昨二十六日夜陳交渉員来訪

(一)青島ヨリノ報道ニ依レハ膠済沿線警備ニ関シ藤田総領事ハ日本陸軍司令官ト協議ノ結果ニヤ蔣介石ニ対シ膠済沿線三十支里以内ニ於テ南北兩軍ノ交戦ヲ避クルコトト致

ニ派遣ス実ニ主権ヲ侵害シ國際公理ヲ無視セル行動ニシテ為ニ重大ナル結果ヲ惹起スルモ我國ハ責ヲ負フノ理由ナシ國民政府ハ本出兵ニ対シ日本政府ニ嚴重抗議中ナルカ更ニ国民党ハ世界正義ノ士ニ訴ヘ支那民族ニ道義上ノ援助ヲ与ヘラレンコトヲ切望ス國民革命軍ハ鞏固ナル決心ノ下ニ革命ノ完成ニ努力シ苦痛ニ呻吟スル支那民衆ヲ救済シテ東亜ノ和平ヲ保障スヘシ云々  
日本国民ニ告クルノ書

国民党ハ総理ノ遺教ヲ遵奉シ日本ト協力シ東亜ノ和平ヲ確保セントス日本具眼ノ士ハ之ヲ了解シ革命開始以來多大ノ援助ヲ与ヘラレタルヲ以テ日本政府ニ対シ不満ノ意ヲ有シ居ル我民衆モ日本民衆ニ対シテハ何等ノ隔意無シ從來三民主義ニ同情シ今又内閣ノ出兵ニ極力反対セラレタル日本民衆及国民党ノ好意ハ本党及支那民衆ノ忘却シ能ハサル処ナリ今次日本ノ山東出兵ハ如何ナル事実及声明ニ藉ロスル共明ニ支那ノ独立及主権ヲ侵害セル行為ニシテ日支親善上之ヲ惜ムト共ニ之ニ反対セル日本民衆ニ同情ス田中内閣ハ政權掌握ノ為日支ノ民意ニ反シ支那ノ主権ヲ侵害セリ之レ兩國民ノ容認シ難キ処ナリ本党ハ在支日本人ノ安全ヲ保護シ且

度旨通知方ヲ南方側ニ電報セラレタリトノコトナルカ事実如何ト問ヒタルニ付本官ハ右様ノコトニ就テハ電報モナク聞知スル所ナシ唯新聞紙上ニ日本人居住地域三里以内ニ於テ戦闘ヲナササル様ノ手段ヲ取ルヘントノ記事ヲ見タルモ其ノ真否不明ニシテ若シ本邦人ノ生命財産及膠済鉄道保護ノ措置ニ関シ何カ決定スルカ如キ場合ニハ勿論南北双方ニ通知シ且一般ニ周知セシムルコト当然ナルヘント認ムルニ付斯カル場合ニハ貴方ニ通知スルコトアルヘント答ヘ置ケリ

(二)陳ハ前線ノ戦況ハ目下ノ所張督弁及孫傳芳モ余程決心セル模様ナルニ付大丈夫ナルヘク考ヘラルルモ何分戦争ノコトナレハ予断シ難シ万一界首ノ線ニシテ敗ルレハ一兩日内ニ騷擾スヘク斯カル場合ニハ山東軍及孫軍ノ退出ハ致方ナシトスルモ済南市民ハ非常ナル恐慌ヲ来スヘキニ付自分ノ如キ文官側ノ者トシテ当地支那官兵及警察隊ハ日本軍隊ト協同シ済南商埠ノ警備ヲ講シ度シト個人トシテ希望ヲ述ヘタルニ付本官ハ齋藤旅団長ト本邦人ノ多数居住セル当地商埠ノ整備地域ニ付協議ノ上何等カ支那側ト商議スル必要アランモ商埠内ノ行政及治安ハ支那官兵

及警察隊ニテ維持セラルヘキコト勿論ナランモ日本軍ノ警備地域ニ関シテハ支那官憲又ハ警察隊ト協同警備スルコトハ少シク困難ノコトト考フルモ何レ司令官ト協議ノ上必要ニ応シ何分ノ御通知ヲナスコトニ致シ度シト答ヘ置キタリ  
北京、青島、天津、上海、南京、芝罘、博山、張店、坊子ニ転電セリ

311 昭和3年4月30日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

戦況急迫により城内および商埠地外居住者老幼婦女などの商埠地内移転について

済南 本省 4月30日前着

第一三八号

時局ニ関シ避難命令ヲ発スル程度ト認メサルモ戦況急迫セルヲ以テ当地派遣軍司令官トモ協議ノ上二十九日夕城内及商埠地外遠隔居住者老幼婦女及病者ヲ商埠地内ニ移転ヲ命セリ

漸次状況ニ応シ第一次老幼婦女及病者、第二次在住者全部ヲ安全地域ニ避難ヲ命スル筈英国、米国、独逸領事ニ対シテハ余力アル限り万一ノ場合ニ出来得ル限りノ尽力ヲ為スヘキ旨話シタルニ何レモ感謝シ居リタリ  
張店、博山、坊子ニハ青島ヨリ転電アリタシ  
北京、青島、天津へ転電セリ

312 昭和3年5月(2)日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南における日本軍の兵力配置、避難、警備方法などについて西田総領事代理報告

青島 本省 5月2日後着

第一四一号

済南発本官宛電報第一四三号

本官発外務大臣宛電報第一四五号

往電第一四〇号ノ(四)ニ関シ

(一)派遣軍側ニ於テ警戒区域ヲ左ノ三区ニ分チ

(イ)商埠地内主ニ邦人居住箇所約十分ノ八強ヲ警備地域

(商埠地ノ約八割ノ面積)ト定メ必要ノ警戒兵ヲ配置シ担任地域ノ治安維持ニ努ム

(ロ)急迫<sup>(イ)</sup>ニ応シ警備地域内ヲ縮少シ東西各一箇所ニ守備地域ヲ定メ宿営設備ヲ施シ此ノ線内ニハ絶対ニ南北兩軍及無頼ノ徒ノ進入ヲ防止ス

(ハ)更ニ領事館民団及済南病院ヲ一廓トシ及庚申俱樂部付近並ニ正金銀行内ヲ各一廓トセル地域ヲ定メ合計三区城ヲ複廓トシ此ノ地域線内ハ最モ安全地帯トシ危険程度ニ応シ最後ノ在任邦人避難地域トス

(ニ)而シテ避難方法ハ成ルヘク警備地域内ニテ保護スルモ尚危険迫リタル時ハ之ヲ守備地域内ニ集ムルコトトシ更ニ危険ノ場合ニハ本官ヨリ第一次避難命令ヲ発シ老幼婦女子病者ヲ領事館民団及病院ニ避難セシメ尚急迫セル時ハ第二次避難命令ヲ発シ残留団ノ全部ヲ三区区域中ノ複廓線内ニ集メ之ヲ以テ其ノ後ノ避難地域トス

(三)<sup>(2)</sup>而シテ右事項中支那側ト連絡ヲ要スル件ニ関シ三十日午後本官ハ河野参謀員、憲兵司令部副官長、李交渉署々員及第三、四両区警察署長等ヲ当館ニ参集ヲ求メ協議ノ結果

(イ)支那人ニ関スル治安維持ハ原則トシテ日本軍ノ警備及守備区域ト雖支那側警察ニテ為スコト

(ロ)動乱発生セサル当分ノ間日本軍ノ守備区域内ニハ午後七時三十分ヨリ午前五時迄通行者ヲ一、支那巡警二、郵便電信集配人三、日本軍ニ依リ通行券ヲ交付セル支那憲兵四、派遣軍司令部総領事館又ハ民団ノ通行券ヲ有スル者ニ限ル（尤モ日本人ハ通行券ヲ要セス）

(ハ)当分ノ間派遣軍及支那憲兵警察ノ共同詰所ヲ東部及西部ニ各一箇所ヲ設ケ派遣軍側ヨリハ將校一名支那側警察及憲兵隊ヨリ幹部各一名参加シ居リ事件発生ノ場合ノ通報其ノ他ノ連絡処理ニ当ラシムルコト

(ニ)事件発生ヲ知リタル時ハ日本警察及支那警察ハ互ニ通報シ即時派員シテ調査及処理ニ努ムルコト

(三)<sup>(3)</sup>等ヲ協議決定シ即時執行スルコトトセリ尚英米各領事館其ノ他外国宣教師多数居住ノ南関ハ派遣軍ノ警備区域内ニアラス独逸領事館ハ守備区域内ニアルモ同国人ノ多クハ各所ニ散在シ郵政管理局ハ是亦守備区域内ナルモ其ノ關係外人ハ多ク守備区域外ニ居住セルヨリ右守備区域内ノ夜間通行禁止ハ種々ナル不便アルノミナラス誤解ヲ来ス虞アルニ

付派遣軍側警備方法ヲ通知シ万一ノ危険迫リタル際ニハ右  
守備地域内ニ移転ニ関シ出来得ル限りノ援助ヲ与フルニ吝  
ナラサル事及守備区域ノ通行券発給方ヲ申入レタルニ三十  
日英、米、独三国領事ヨリハ夫々公文ニテ当方ノ通知ヲ感  
謝シ我方警備方法ヲ尤モトシ同国人ノ当地在住者及右三領  
事館使用支那人ノ各姓名表ヲ送付シ通行券ヲ依頼シ来リタ  
ルニ付本官ハ右三国人及郵政管理局長伊国人「キヤリテイ  
」其ノ他ニ対シ通行許可証ヲ送付シ又支那側交渉署其ノ  
他ノ当館ト直接関係アル残留文官及民間団体員ニモ守備区  
域ノ通行証ヲ送付シ置キタリ  
在支公使、青島、天津、上海、漢口、南京、奉天へ転電セ  
リ

313 昭和3年5月3日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南にて日中両軍間に衝突発生について西田

総領事代理報告

青島 5月3日後発  
本省 5月3日後着

(一) 五月三日午後八時三十分新聞発表

陸軍省

済南ニ於テハ午後ニ至ルモ交戦尚ホ熄マズ  
午前十時事件発生後支那軍ハ商埠地ニ対シ一斉ニ計画的攻  
撃ヲ採リタル模様アリ昨二日蒋介石カ我軍ニ警備撤廃ヲ申  
込ミタル事実ト対照シ事件ハ支那側ヨリ挑発セラレタルカ  
如シ

發送先 外務省亜細亞局長、同情情報部長、内務省警保局長

(二) 五月三日午後十二時新聞発表

陸軍省

天津派遣隊長小泉中佐報告左ノ如シ  
一、本三日午前十時半当隊警備区域内ノ邦人家屋南軍兵士  
ノ掠奪ヲ受ケ之カ弾圧ニ赴ケル第四中隊ニ対シ発砲セル  
ニ端ヲ発シ同地付近ニ宿営シアリシ革命軍約二千名交戦  
午前十一時半迄ニ之ヲ撃退シ約八百名ノ武装解除ヲ行ヘ  
リ

二、正午ニ至リ旅団ノ増援隊到着シ各方面共戦闘一時止ミ  
目下領事ヲ通シ支那側ニ停戦ヲ求メ軍ハ停戦実行ノ監視  
中ナリ而シテ今後成ルヘク事件ノ拡大ヲ誠メ交渉ハ当局  
ニ一任シ専念守備ノ任務ヲ完ウシアリ

第一五五号（至急）

(欄外記入) 済南発本官宛電報第一五四号（三日午後）

大臣、公使、天津、芝罘、上海、漢口、南京へ転電アリタ  
シ

本官発大臣宛電報第一五四号

三日午前十時頃邦人家屋内ニ支那兵ノ掠奪アリトノ報ニ我  
軍四名救護ノ為赴キタルニ対シ発砲負傷セシメタルニ付我  
軍已ムナク応戦警戒線ヲ警戒スルト共ニ日支双方ニテ発砲  
ヲ中止スルコトナリ我軍ヨリハ十一時半攻撃中止ノ命令  
ヲ出セルモ支那側ノ命令急ニ行キ亘ラス尚交戦中ニテ日支  
双方ノ死傷者多少アリトノ派遣軍側ヨリノ通報ナルカ大事  
ニハ至ラサル予測ナルモ本官ニ於テモ極力停戦ニ尽力中ナ  
リ右不取敢

(欄外記入) 五月三日午後十一時情報部ヨリ本電要領発表ス

314 昭和3年5月3日 陸軍省新聞発表

済南における日中両軍衝突事件に関する陸軍

省発表(一)、(二)

三、事件ノ否<sup>(マ)</sup>ハ全ク支那側ニ在リ戦ハ已ムヲ得ス自衛ノ手  
段ニ出テタルモノニシテ現在迄ノ我負傷兵ハ第四中隊鳥  
居利吉右肩胛部貫通銃創ヲ受ケアルモ生命別条ナキ見込  
支那兵ノ死傷ハ相当大ナルカ如シ

四、後報ニ依レハ午後商埠地東方面ノ戦闘ハ概ネ沈静セル  
モ我警備線内各所ニ敗退軍滞留シ依然之ト対峙シアリ將  
校以下最モ勇敢ニ行動シ天津派遣隊ノミニテモ支那兵ノ  
武装ヲ解除セルモノ一千名以上ナリト

發送先 海軍省軍務局長、外務省亜細亞局長、同情情報  
部長、内務省警保局長

315 昭和3年5月(3)日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

陸軍士官学校退学の中国人学生の退学理由照

会について

上海 発  
本省 5月3日後着

第二六四号  
出兵ニ反対セル為士官学校ヲ退学サレタル支那学生団ヨリ

当地有力各新聞社へ「我等ハ既ニ退学シ死ヲ誓ヒテ日本ニ  
反対シ四日長崎丸ニテ上海着直ニ排日運動ヲ起スニ付右民  
衆ニ周知アリタシ」ト打電シ来レル旨二日民国日報等ニ特  
報シ居レリ本件ニ付質問シ来レル向モアリ右学生退学ニ関  
スル真相為念御電報ヲ請フ  
在支公使ニ転電セリ

316 昭和3年5月4日 田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛（電報）

陸軍士官学校在学中の中国人学生の退学処分  
について

本省 5月4日発

第九〇号  
貴電第二六四号ニ関シ

陸軍省ヨリノ通牒ニ依レハ士官学校在学支那学生ハ四月二  
十二日在校国民党学生全体ノ名ヲ以テ山東派兵ニ反対シ首  
相並日本国民ニ警告スル意味ノ投書ヲ各新聞ニ送付シ且ツ  
第二〇期学生二十五名ハ四月二十四日山東派兵ニ不満ナル  
理由ヲ以テ連袂退学ヲ願出テタルカ陸軍当局ハ推薦保証者

ノ依頼ニヨリ教育ヲ実施シアルモノニシテ個人的情願ヲ容  
ルヘキニアラサルヲ以テ極力其不心得ヲ論シ懇切ニ其反省  
ヲ促シタルモ之ニ従ハス却テ反抗的氣勢ヲ示シ他ノ留学生  
ト策動シ良好ナル分子ニ悪影響ヲ及ホサントスルニ至リタ  
ルハ彼等教育ノ本旨ニ背キ帝國陸軍ノ軍規及士官学校ノ校  
規維持上許スヘカラサルヲ以テ四月二十七日退学処分ニ付  
シタル由ニ付一般ニ誤解ナカラシムル様可然御配慮アリタ  
シ

317 昭和3年5月4日 在天津加藤総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南における日中衝突事件に関する大公報論  
説について

天津 5月4日後発  
本省 5月4日後着

第四三三号  
五月四日大公報ハ済南日支兵衝突事件ニ関シ大要左ノ通論  
評セリ  
電信不通ノ為今迄ニ知り得タルモノハ日本側発表ノミナレ

318 昭和3年5月4日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

済南における四日夕刻までの日本側被害につ  
いて

済南 5月4日後発  
本省 着

(欄外記入)  
（電報番号付）  
目下交通通信不通流言区々ニテ取調困難ニ付正確ニハ判明  
セサルモ四日午後七時迄ニ聞知セルモノノ下士以下死亡十二  
名重傷二名軽傷二十六名在住者死亡セルモノ一名疑アルモ  
ノ四名行方不明者数名支那軍ニ拉致セラレ後帰来セルモノ  
四名掠奪セラレタルモノノ大小約四五十ノ見込守備区域ニ避  
難セルモノ約八百余危険地域在住者明五日軍隊保護ノ下ニ  
収容スル見込

(欄外記入) 昭和三年五月六日午後四時情報部ニテ発表

319 昭和3年5月5日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南における日中両軍の戦闘および停戦状況に関

ハ論断ハ保留スルモ日本側ニ於テ軍規嚴肅ナリト評シ居タ  
ル南軍部隊カ急ニ掠奪ヲ行ヒタリトハ信シ難キ処ニシテ南  
軍トシテハ蔣介石モ既ニ入城、黄郛モ呼寄セツツアル等事  
件発生防止ニ努力シ居リシ際ナルニ今此ノ事アルハ寔ニ了  
解ニ苦シム処ナリ  
齋藤少将ハ商埠ハ支那ノ領土ナレハ日本軍ニ於テ警備保護  
スヘキニアラス一小部分ノミヲ以テ目立タサル様警備スヘ  
シトノコトナリシニモ拘ラス今回ノ電報ニ依レハ商埠ヲ日  
本軍ノ警備区域ト為セルカ如ク秩序恢復後ニ於テモ歩哨ヲ  
立テ居リシモノノ如シ日本軍大部隊ノ到着ハ済南陥落後ニ  
シテ二千ノ居留民保護ノ為ノ出兵ト称サムヨリモ出兵セム  
カ為ノ出兵ト云フヘシ狭キ地域内ニ多数ノ兵ヲ入込マシム  
ルコトハ事端ヲ醸ス所以ナレハ日本軍ハ寧ロ主力ヲ速ニ青  
島ニ引返スヘカリシモノナリシナリ  
今回ノ事件ノ曲直ハ一面ノ主張ノミニテハ判断シ得ス何レ  
明カトナルコトアルヘキモ南京事件ハ支那人モ其ノ不幸事  
件タリシコトヲ認め居ルコトナレハ常識アル日本国民ハ悪  
意ヲ以テ本件ヲ判断セサラムコトヲ望ム  
北京、奉天、上海、青島へ郵送セリ

青島 5月5日後発  
本省 5月5日後着

第一七五号(大至急)

往電第一七一号ニ関シ

五日午後五時日本政府ニ急報アリタシトテ鉄道電話ニ依リ西田領事ヨリ直接児玉ニ大要左ノ通通知アリタリ  
五月二日ヨリ凡ユル方法ヲ講スルモ通信ノ途絶エタリ同日同様ニシテ九時半蔣介石ニ面談出兵ノ理由ヲ説明シテ帰館ノ途中本事件突発シ辛ウシテ自動車ニ依リ危険区域ヲ通過セリ正午日本軍側ト蔣介石側ト停戦ヲ協議シ停戦命令ヲ発シタルモ蔣介石側ノ命令行亘ラス市街戦ヲ続行スルニ至レリ同日午後六時辛ウシテ蔣介石ト書面ヲ往復シ津浦鐵路局内ニ於テ日本側黒田参謀長及本官支那側蔣介石代表熊式輝ト会見シ

(一)南軍ハ商埠地域ヨリ撤退スルコト

(二)南軍側ハ巡警ニテ商埠地内ノ治安維持ヲ計ルコト

ヲ協議シ翌四日午前六時ヨリ実行ノ約束成リシニモ拘ラサ南軍側ハ毫モ之ヲ実行セス市街戦ヲ継続シ家屋内ヨリ日本

濟南における五日夕刻までの在留邦人被害、  
掠奪状況について

濟南 5月5日後発  
本省 着

(電報番号欠)  
(一)五日午後六時迄ニ判明セル居留民死亡者十名(既報ノ分ヲ合ム)負傷者重傷二名軽傷十数名

(二)掠奪ハ合計大小百個所前後ニ達スル見込ナリ

321 昭和3年5月(8)日

在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

濟南における日中衝突事件の対策につき意見

具申

北京 発  
本省 5月8日前着

第五八〇号

往電第五五一号ニ関シ

日本ノ山東出兵ハ在留民ノ生命財産ノ保護ヲ目的トシタルモノナルカ我出兵前南京政府当局ハ外国人ノ生命財産ハ完全ニ保護スヘキ旨ヲ累次声明シタル次第ナルモ日本政府ニ

軍民ノ區別無く発砲セリ本五日ニ至リ師団幹部ト南軍幹部トノ間ニ漸ク諒解成立シ目下停戦中ナルモ日支両国民共激昂甚ク双方ノ感情非常ニ悪化シツツアリ本官ニ於テハ双方ニ対シ事件発生以來ノ事情ヲ説明シ誤解無キ様尽力中ナリ商埠地外ハ今尚危険甚ク往来不可能ナリ館員一同無事日本側被害者中只今迄判明セルモノ軍隊側戦死十二、負傷三十内外、在留民側ハ守備区域内ニ於テ死亡セルモノ五、商埠地外ニ於テ九名ノ死骸発見シタルモ氏名判明セス右ノ外ニモ相当死亡者アル見込又負傷者多数アリ目下取調中掠奪サレタル家屋五十軒以上南軍側ニ於テハ最初ヨリ商埠地内ニ便衣隊ヲ潜伏セシメ組織的ニ日本人殺害ヲ計画シタルモノト確信ス商埠地内ニハ食料品欠乏セリ又電燈ナク電話不通目下修理ニ努力中ナルモ見込立タス

北京、天津、奉天、芝罘、坊子、上海、漢口、南京、広東、福州、汕頭、厦門、蕪湖、九江、沙市、長沙、宜昌、重慶、杭州、蘇州、香港へ転電シ張店、博山へ暗送セリ

320 昭和3年5月5日

在濟南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

於テハ南京政府ノ声明ニハ充分ノ信用ヲ置キ難シトノ見地ヨリ出兵ヲ断行シタルモノト認メラルル処今回ノ濟南事件ノ発生ノ事実ヲ見ルニ果シテ南京政府累次ノ声明ハ全然裏切ラレ我出兵カ初メテ意義有リシ事実ヲ証明スルモノナリト云フヘシ而シテ濟南ニ於ケル日支兵ノ衝突ハ要スルニ我軍隊カ支那兵ノ掠奪ヲ制止シタルヨリシテ惹起シタル事件ナルカ故ニ其ノ非支那側ニアルコトハ云フ迄モ無キ処ナルカ右問題ノ善後措置ヲ考察スルニ(一)濟南事件自体ノ解決ト(二)濟南事件ノ結果将来支那ニ於ケル日本人ノ保護方法トノ二点ニ區別シテ考究スルヲ要ス

第一濟南事件自体ノ解決ニ付テハ今日ノ処蔣介石初メ南京政府当局ハ「ルーター」其ノ他ニ依リ日本軍隊ハ何等ノ原因無く発砲シタルモノトシテ日本側ニ全然責任ヲ負ハシメ世界ノ同情ニ訴ヘムト焦慮シ居ルモノノ如ク即チ斯ノ如キ態度ヲ以テシテハ只今我方ヨリ交渉スルモ全ク話ニナラズ応酬振ヲ示スヘキハ想像ニ難カラサルモ兎ニ角順序トシテハ先ツ往電第五五一号ノ如ク

当面ノ責任者タル蔣介石ニ対シ詰問ノ措置ニ出ツルコト然ルヘク之ニ対シ蔣ハ多分不満足ナル応答ヲナスヘク若シ果

シテ先方ニ於テ不満足ナル態度ニ出ツル場合ニハ交渉ヲ開クモ差当リ成功ノ望ナカルヘク從テ此ノ場合我方ノ執ルヘキ措置トシテハ（甲）南京政府又ハ南軍ニ手応ヘアル一撃ヲ加フルカ又ハ（乙）差当リ睨合ノ姿ニテ南方ト相對峙シテ事毎ニ南方派ノ邪魔ヲナシ以テ持久策トシテ出ツルカノ二途ノ一ヲ採ルヨリ致方ナカルヘキ処（甲）ノ場合ハ成ルヘク外観上大袈裟ナル手段ヲ避ケ手輕ニシテ急所ヲ衝ク方法ヲ講スルコト必要ナルヘク夫ニハ種々ノ手段アルヘキモ仮ヘハ先ツ海軍ヲ派遣シテ浦口ヲ扼シ濟南ニ於ケル南方軍ト南京政府トノ連絡ヲ絶チ出先南軍ヲ窮地ニ陥ラシメ以テ南軍幹部及南京政府ノ反省ヲ促スコトモ一策ナルヘシ或ハ此ノ際山東ニアル南軍ニ膺懲的制裁ヲ加ヘンカ為事件ニ関係アル全軍隊ノ武装解除ヲナスヘシト主張スルモノアルモ大部隊ノ武装解除ハ事實非常ニ多数ノ軍隊ヲ以テスルニアラサレハ困難ニシテ之カ実行ニハ必スヤ可ナリノ犠牲ヲ払ヒ非常ナル慘劇ヲ起スカ故ニ右ハ執ルヘキ策ニ非ス將又此ノ際山東保障占領或ハ膠濟鐵道占領等ヲ主張スルモノアラシモ

今回ノ事變ハ在留民保護ノ為ニ派遣シタル日本軍隊ト支那

財産ノ保護ハ到底充分ナルヲ期待スルコト困難ナルヘキカ<sup>(4)</sup>之カ対策トシテ絶エス且各地ニ出兵スルカ如キコトハ勿論不可能ナルカ故ニ先ツ例ヘハ漢口、上海、青島等ノ如キ中心地ニ海軍又ハ陸軍ヲ駐メテ保護ノ実ヲ挙げ僻遠ニシテ在留民ノ数少キカ若ハ利害關係薄キ場所ニ於テハ何時ニテモ引揚ヲ用意シテ居住セシムルヨリ致方無カルヘシ然レト山東省ニ於テハ在留民ノ外例ヘハ淄川炭坑ノ如キ我方ニ取り重大關係アル事業アルカ故ニ該炭坑保護ノ為該地ニ駐兵ヲ必要トシ又鐵道交通維持ノ為トシテハ濟南始メ主ナル駅ニ相当數ノ置兵ヲ為スコトハ已ムヲ得サルヘキカ唯此ノ場合モ軍隊ノ駐屯ハ居留民及居留民事業ノ保護ノ為ニシテ鐵道ヲ占領セムトスルニ非サルハ申迄モ無シ最後ニ今回ノ事件ハ南軍カ日本人ノミヲ目標トシテ暴行ヲ為シタルモノニシテ其ノ他ノ外國側ハ被害無キモノノ如キカ故ニ我方单独ニテ交渉ニ当ルノ外無ク從テ外國ノ協調ヲ予期シ難キノミナラス南方側ニ於テハ外國ノ援助ヲ唯一ノ頼ミトシテ頻リニ其ノ同情ニ訴ヘ宣伝ニ努メ居ルカ故ニ本事件ノ善後策ヲ講スルニ際シテハ常ニ此ノ事實ヲ念頭ニ置キ事實ノ真相ト交渉ノ成行トハ差支無キ限り主ナル外國ニ通告シテ我立場ノ

側ノ声明ニ反シテ行動シタル支那軍隊トノ衝突ニ端ヲ發シタルモノナルカ故ニ日本側トシテハ出兵ノ根本理由ヨリ出テ解決案ヲ講スルヲ至当トシ從テ此ノ際山東占領ハ勿論膠濟鐵道ノ占領等ノ如キ考察モ全然考慮ノ範圍外ト為スヘク但シ在留民ノ保護若ハ在留民保護ノ目的ヲ以テスル鐵道交通ノ維持ノ為ニ必要ナル期間膠濟鐵道ヲ我軍力ノ下ニ置クハ予テノ声明ニモ適合シ又事實必要ナル措置タルヘシ（乙）ニ付テハ已ムヲ得サル措置トシテハ持久策モ一策ナルモ日本ニハ南方同情者モ鮮カラサルノミナラス南京事件其ノ他ノ事例ニ見ルモ本事件ノ解決ヲ遷延スルハ其ノ結果概シテ我方ニ有利ナラサルカ故ニ（甲）ノ措置ニ出ツルヲ得策ト信ス兎ニ角右様ノ手段ニ依リ南方側ヲ反省セシメタル上交渉ヲ開始シ陳謝、損害賠償、將來ノ保障等ノ条件ニ付詮議ヲ為スヲ適當トスヘク若シ然ラスシテ只今交渉ヲ開始スルモ南方側ハ之ニ応スル事無カルヘク假令応シテモ実績アル効果ヲ得ルコト無カルヘシ

第二將來在留民ノ保護方法ニ付テハ列國ニ於テ協同シテ内亂終熄ノ措置ニ出テサル限り現下ノ如キ戰爭ハ絶エス行ハルヘク支那軍閥ニ於テ幾多ノ声明ヲ發スルモ在留民ノ生命

公明正大ナルコトヲ充分ニ會得セシメ置クコト必要ナルヘシ卑見御參考迄  
濟南、青島ニ転電セリ

322 昭和3年5月8日 在芝罘森岡（正平）領事より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件勃發後の芝罘、龍口の治安、警備状況について

芝罘 5月8日後發  
本省 5月8日後着

第四八号

濟南事件ノ報伝ルヤ当地龍口地方内外人ハ恐慌ヲ起シ大取引ハ殆ト停止シ龍口ノ如キハ全然我陸戰隊ノ力ニ依リテ治安ヲ維持シ居ル状態ナルト同時芝罘ニ於テモ支那軍隊定海及楚子ノ兩艦ハ本日午前十一時陸戰隊百名機関銃四門ヲ掲ケ警戒ヲ援助スルニ至リ一般ニフタメキ龍口及当地在留民中ニハ任意家族ヲ大連ニ避難セシムル者続出セリ尚南軍ニ内通セリトノ噂アル劉志陸軍約二千ハ漸次龍口ニ接近シツツアリ

青島ヨリ濟南ニ転電アリタシ  
在支公使、天津、奉天、上海、青島へ転電セリ

昭和3年5月(8)日  
在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

濟南在留外国人の避難に關し各国領事と協議  
についての西田總領事代理報告

青島 本省 5月8日後着 發

第二〇二号(至急)

濟南發本官宛電報

第一八二号

大臣、公使、天津、上海、漢口へ転電アリタシ

本官發大臣宛電報

第一七二号

五日午後三時四十分黒田參謀長ヨリ当派遣軍ハ今回ノ不祥  
事件ニ対シ軍ノ立場上必要ナル要求ヲ蔣總司令ニ提出セム  
トスルニ付テハ其ノ態度如何ニ依リ此ノ儘軍事行動ニ出ツ  
ルヤモ測ラレサルヲ以テ予メ各国領事(各居留民)へ通告

言明シ英、米領事モ多分居残ル筈ナリ

324 昭和3年5月9日 政府発表

山東に第三師団など増派について

山東増兵ニ関スル声明 昭和三年五月九日発表

曩ニ動乱濟南方面ニ波及セムトスルヤ同地方在留邦人保護  
ノ為メニ軍隊ヲ派遣スルト同時ニ右派兵ニ関シ帝國政府ノ  
態度ヲ闡明スルトコロアリタリ

然ルニ濟南ニ於ケル不祥事件ノ發生以來同地方ノ事態悪化  
シ現在ノ兵力ヲ以テシテハ居留民保護ニツキ万全ヲ期シ得  
サルノ憾有ルノミナラス青島ト濟南トヲ連絡スル山東鐵道  
ハ随所ニ破壊セラレ交通ノ確保ヲ期シ難キノ現状ニ在リ依  
テ同方面居留民ノ保護ニ遺憾無カラシメ且ツ山東鐵道交通  
ノ確保ヲ期スル目的ヲ以テ第三師団ヲ山東ニ増派セラルル  
コトトナレリ

今次ノ増兵ハ上述セルカ如ク山東方面在留邦人ノ保護及之  
レカ為ニ必要ナル山東鐵道交通ノ確保ヲ期スルニ在ルカ故  
ニ其ノ目的ハ第一次派兵ノ際ニ於ケルト何等異ル所無シ

アリタキ旨照会ニ接シタルカ本官趙世瑄ト会見ノ為外出セ  
ムトシタル際ナリシヲ以テ不敢取錦田ヲシテ英、米、独領  
事ニ伝ヘシメ趙トノ会見直後黒田參謀長ニ面会(往電第一  
七一号ノ通)シ歸館シタルニ米領事ハ先ツ書面ヲ以テ次テ  
三国領事(英、米、独)來訪シ福田師団長ノ通告ニシテ最  
後通牒ナラハ場合ニ依リ開戦ニ至ルヤモ知レサル処安全地  
帯ナキ当地ナレハ本件ヲ自国民ニ通知シ可然避難手段トシ  
テ列車テモ仕立テ貫ヒタキカ余リ急迫ニ付二時間ノ猶予出  
来スヤト申出アリタリ依テ本官ハ右ハ最後通牒ニアラスシ  
テ我軍及居留民ニ対シ殺害行為ヲ為シタル軍隊及其ノ指揮  
官ノ膺懲等五件(此ノ五項ハ黒田參謀長ト協議ノ上各国領  
事ニハ本官ヨリ大要話シ置ケリ)ニ止マリ支那軍ニシテ誠  
意アラハ之カ実行ハ可能性ヲ有シ先ツ大丈夫ト思ハルルモ  
若シ避難セラルルナラハ何時ニテモ青島ニ避難セラルルヘク  
極力尽力スヘキ旨答ヘ尚其ノ方法ニ関シ本官同參謀長ト協  
議ノ上明八日膠濟鐵道濟南駅構内ニ國際列車ヲ準備シアル  
ヲ以テ同日午前四時迄ニ同駅ニ集合五時青島ニ向ヒ出發ス  
ヘキニ付各所属居留民ニ通知セラレタキ旨答ヘタルニ各領  
事ハ早速斯ク取計フヘシトテ引取レリ独逸領事ハ居残りヲ

右第三師団ノ増派ト共ニ別ニ五個中隊ヲ内地ヨリ天津ニ派  
遣セラルルコトトナリタルカ右ハ曩ニ支那駐屯軍ヨリ応急  
ノ措置トシテ其ノ一部ヲ濟南ニ派遣シアル事情ニ顧ミ來ル  
六月内地ヨリ派遣セラルルヘキ支那駐屯軍ノ定期交代部隊ノ  
出發期ヲ繰上ケ此際派遣セラルルコトトナリタルモノナリ  
尚長江及南支方面ニ巡洋艦、驅逐艦若干ヲ増派セラルルコ  
トトナリタルカ右ハ南方諸地方ニ於テ濟南事件ニ関スル万  
一ノ誤解ヨリ意外ノ事端ヲ發生スルカ如キ場合居留民ヲ保  
護セムトノ目的ニ出テタルニ外ナラス

要之今次陸兵ノ増派及軍艦ノ増遣ハ濟南事件ニ関連シテ生  
スルコト有ルヘキ不祥事件ニ対シ居留民ノ生命財産ヲ保護  
セムトスル主旨ニ外ナラスシテ其必要止ムニ從ヒ隨時撤退  
セラルルヘキモノナルコトハ言ヲ俟タサルトコロナリトス

325 昭和3年5月9日 田中外務大臣より  
在芝罘森岡領事宛(電報)

濟南事件勃發に當り芝罘、龍口在留邦人の保  
護方について

本省 5月9日後4時30分發

第一一四

濟南事件ノ反響ニ依リ貴地方ノ事態悪化シ居留民ヲ避難セシムルノ已ムヲ得サルニ至ル場合ニハ其ノ全部ヲ一時軍艦又ハ商船上ニ収容保護スルヲ要スヘキモ形勢更ニ悪化シ急速鎮静ノ見込立タサル場合ニハ天津又ハ大連方面ニ一時引揚ケシムル外無カル可シ

就テハ貴官ハ海軍側ト一層協調ヲ保チ龍口トモ充分連絡ヲ執リ貴地方ノ形勢ノ推移ニ最善ノ注意ヲ払ヒ万一ノ場合ニ対スル措置ニ付遺算無キ様予メ御手配置アリ度  
尤モ右ハ最悪ノ場合ニ処スル方針ナルヲ以テ之カ為メ形勢甚シク切迫セサルニ先チ居留民ヲ不必要ニ動揺セシムルコト無キ様形勢ノ判断及臨機ノ手当等ニ付テハ申ス迄モ無キ儀乍ラ充分冷静且慎重ニ措置セラレ度  
北京、青島、濟南ニ転電アリタシ

326 昭和3年5月10日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

濟南在留外国人避難の国際列車運行について  
西田総領事代理報告

上海 発  
本省 5月10日前着

第二八八号  
往電第二八七号ニ関シ

蔡交渉員遭難ノ際逃レタリト称スル「(張漢儒)チヨウウカンジュ」ノ黄郛ニ対スル報告ハ支那側ノ宣伝振ヲ知ル上ニ於テ参考トナルヘシト存シ大要電報ス

蔡交渉員ハ五月三日午前十一時濟南交渉署ニ入り就任シ事務ヲ執レルニ正午頃ニ至リ銃声甚シク署員一同吃驚セルニ蔡ハ之ハ日本軍ノ示威射撃ナルヘシトシテ安心シテ執務為シ可ナル旨語レリ

銃声ハ当夜九時頃ニ至リ益々甚シキニ付交渉員ハ署員ニ就寝ヲ命シタリ同十時半門前ニ於テ叫フモノアリ間モナク門衛ヨリ武装日本兵来襲セル旨ヲ報告セリ依テ日本兵ノ様子ヲ窺ヘルニ彼等ハ何レモ恟々トシテ事ヲ尋ネムトスル気配アリ交渉員ハ門戸ノ厳守ヲ命シ其ノ入門ヲ差止メタルニ日本兵二十余名ハ銃身ヲ以テ門灯ヲ打壊シ入門セリ當時市内ノ電灯線ハ既ニ切断暗黒ナリシ為日本兵ハ懐中電灯ヲ携ヘ戸ヲ打壊シテ寢室ニ入り武器ノ有無ヲ声高く尋ネタルヲ以

五 第二次山東出兵 (濟南事件と解決交渉)

青島 発  
本省 5月10日前着

第二二四号(至急)

濟南発本官宛電報  
第一八九号(至急)

本官発大臣宛電報第一七二号ニ関シ  
五月八日午前五時当地発車予定ノ国際列車ハ当日午前八時五分当地発車青島ニ向ヘリ搭乘外国人米人男九、女六、外ニ小児二、英人男四、伊国人男一、仏人男一、計二三、外ニ右外国人ノ使用支那人三名、次ノ特別列車ニテ青島大學教師米人一名監督ノ下ニ同大学女学生(支那人)一行青島ニ向フ予定ナルモ発車未定尚各人ハ何レモ当地残留尚又一行中英国飛行大尉「オガワン」ハ上海ニ到リ今回事件ノ真相ヲ詳細同国駐屯軍本部ニ報告スヘキ由  
大臣、公使、天津、上海、漢口ヘ転電アリタシ

327 昭和3年5月10日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

蔡交渉員遭難に関する中国側報道振りについて

テ交渉員ハ本署ハ交渉公署ニシテ自分ハ交渉員ニ相違ナク又其ノ他ノ家人ハ其ノ職員ニシテ武器等ヲ有セス此ノ事ハ日本領事ニ聞合セラレレハ分明スヘキ旨ヲ告ケタルモ該兵ハ耳ヲ傾ケス交渉員等ヲ其ノ寢台ヨリ引下シ各人ノ上衣ヲ強行脱下シ銃剣銃身ヲ以テ乱打シ四名宛ヲ縛ニテ縛リ上ケ室内ニアル靴等ヲ開キ捜査セリ

統テ該兵等ハ士官ラシキ者ヲ伴ヒ来リタルニ付交渉員ハ之ト抗弁セシニ該士官ハ交渉員ヲ屋外ニ引出シ銃殺スヘキ旨ヲ命シタリ庶務員張某ハ此ノ暴状ニ憤激シテ其ノ兵ヲ罵倒シ交渉員又涙ヲ振テ抗弁セシモ遂ニ如何トモ為シ難ク交渉員ハ先ツ室前ノ庭ニ引出サレ一発ノ下ニ銃殺セラレタリ此ノ四名中張某ハ耳、眼、鼻ヲ削リ取ラレ尤モ慘澹ニシテ交渉員ハ鼻ヲ斬ラレ片耳ヲ傷付ケラレタリ自分ハ縄ヲ切断シ日兵等カニ回目ニ他ノ四名ヲ銃殺セントスル暇ニ乗シ逃レ内堀ヲ越ヘントスル際日兵ニ見付カリ狙撃セラレ二名ハ其ノ場ニ倒レ自分ト徐某ハ逃ケ延ヒ更ニ二ヶ所ノ内堀ヲ乘リ越ヘ漸ク大通ニ出テ撤水夫ニ会ヒタルヲ以テ情ヲ告ケテ救ヲ求メ其ノ着衣ト着替ヘテ日本兵ノ警戒線ヲ逃カレ緯一路ニ出テ九死ニ一生ヲ得タルモノニシテ同時ニ逃レシ徐某ハ

何処ニ行キシヤヲ知ラス尚遭難者ハ庶務員「チヨリリンシヨ」参議「チヨウコウゼン」書記「オウヘイタン」課長「ユードウゾン」及「シユ」<sup>(周)</sup>「エン」<sup>(英)</sup>「コー」<sup>(奥)</sup>事務員三名自分ノ同僚五名ニシテ「チヨウカンジユ」ハ目下濟南戦地政務委員主席蔣作賓ノ下ニ在リ云々  
濟南へハ青島ヨリ転電ヲ請フ  
在支公使、天津、青島、漢口、厦門、汕頭、福州、広東、香港、奉天、芝罘ニ転電セリ

328 昭和3年5月10日 在南京岡本領事より 田中外務大臣宛（電報）

蔣介石の福田師団長宛回答を海軍無線にて電送について

南京 発  
本省 5月10日後着

第一一一号  
本九日午後十一時半葛参謀所長来訪シ本日午後三時頃ヨリ上海經由ニテ蔣介石ヨリ福田師団長宛「全權代表トシテ何総参議ヲ濟南我司令部ニ派シ細目協定ヲ為サシムヘク白旗

長又同意ヲ表シ我海軍無線ニ依リ打電シ置ケリ

329 昭和3年5月11日 在青島藤田総領事より 田中外務大臣宛（電報）

青島における在留邦人保護状況について

青島 発  
本省 5月11日後着

第二三六号  
青島警備ニ関シテハ既ニ海軍側ヨリ海軍本省宛報告済ノ通ナルカ海軍陸戦隊約八百五十名、内三百ヲ四方、滄口ノ紡績方面、五百五十ヲ市内要所ニ配置シ一個分隊（約十名）以上ノ巡察隊ヲ昼夜四回ニ分チ各地形勢ヲ考慮ニ加ヘ右警戒ノ下ニ居留民一同略々安心シ居レリ  
尚当地義勇隊、扶桑会（在郷軍人）青年団等ノ応援出動ハ総テ総領事ノ指揮ニ属セシメ絶対ニ武器兇器ノ類ヲ携帯セシメス専ラ後方勤務ニ就カシムルコトトセリ  
北京、天津、芝罘、濟南へ転電セリ

二旅ヲ立テ汽車ニテ進行スヘキニ付前線將士ニ同代表ヲシテ無事通過セシムル様命令サレ度キ」旨再三申送レルモ通セサル様ナルニ付本官ヨリ海軍無線ヲ通シ同様ノ取次キヲ願ヒタシト申出タリ海軍側ニ於テハ右ハ一種ノ欺瞞ニテ以テ我軍ノ行動ヲ牽制シ其ノ間支那軍隊ノ防備ヲ完成セシメムトスル策ナラスヤト懸念セルモ本官ハ右ハ余リニ穿チ過キタル觀察ニシテ往電第一〇七号譚延闓一行ノ北行ト言ヒ国民政府当路ノ態度ト言ヒ又今回福田師団長要求条件ニ付テハ

- (一) 賀耀組ノ懲戒免官
- (二) 膠濟沿線ニケ所ノ南軍撤退
- (三) 濟南ニハ武装巡警ノミヲ配置シ南軍ハ一律二十支里以外ニ撤去

(四) 排日取締ノ厳行（上海ニ於テ排日漸ク激烈ナラムトシツツアルニ付黄郛ハ三日鎮庄ノ為急遽同地ニ赴キ何應欽又明日頃赴滬ノ予定ト語レリ）  
等日本側要求ニ応スルコトナレリト葛参謀所長ノ話ハ事實ヲ彼是考察シ単ニ取次クタクケナラハ其ノ欺瞞ナリヤ否ヤハ福田師団長ノ判断ニ委セ差支ナカルヘシト思料シ利根艦

330 昭和3年5月12日 在青島藤田総領事より 田中外務大臣宛（電報）

蔡交涉員遭難に関する西田在濟南総領事代理よりの情報について

付記 五月三日付及川大隊長報告  
「山東交渉公署掃蕩ニ関スル状況」  
青島 発  
本省 5月12日前着

第二四四号  
濟南発本官宛電報  
第二〇六号（大至急）  
大臣、公使、天津、上海、漢口、南京、奉天、芝罘、広東、汕頭、長沙、九江、蕪湖、沙市、宜昌、香港へ転電アリタシ  
本官発大臣宛電報  
第一九三号（極秘）  
貴電第三一号ニ関シ  
蔡公時虐殺云々ノ件ニ付テハ目下取調中ナルモ未タ其ノ真相判明セサルカ今日迄各方面ノ情報ヲ綜合スルニ左ノ通

(一)三日午前十時半頃四馬路緯六路方面ニモ銃声盛ニ起リ交渉公署付近ヲ巡廻セル我兵中ノ一名ハ交渉公署方面ヨリ飛来セル銃弾ノ為重傷ヲ負ヒ（後ニ死セリ）尚小出大佐住宅（交渉公署西北向側）ヲ番セル我兵一名ハ同住宅入口ニテ負傷セリ午後二時ニ至リ四馬路緯六路ノ十字路ニテ機関銃一挺ヲ有スル歩哨線ヲ張り突当リノ兵營ヲシキ建物ト応戦中ナリシカ前後左右ノ家屋ヨリ射撃ヲ受ケタルヨリ終ニ交渉公署付近ニ後退シタルニ該公署ノ二階ヨリノ発射弾ニ依リ我兵一名即死セリ依テ直ニ侵入シタルモ発砲者ヲ探シ得ス其ノ儘トナリ午後八時半頃ニ至リ更ニ同公署ヲ搜索シタルニ地下室ニ於テ軍服ヲ著ケ銃ヲ携帯セルモノ十八名ヲ発見之ヲ同公署ノ裏側（支那憲兵司令部ノ裏ノ広場ナラム）ニ連レ行キ全部刺殺ノ上埋メタルト言フ説ト其ノ内二名ハ遁走シ一名ノ隊長ヲシキモノハ縛リ居リシヲ未明ニ放免シ逃ケ行ク後ヨリ之ヲ射殺セリト言フ説トノ二説アリ右隊長ヲシキモノカ蔡公時ナラムト察セラル（以上ハ各方面ノ実見者並ニ各種報告ヲ綜合シタルモノニシテ大体真相ヲ得居ルモノト認メラル）

(二)<sup>(2)</sup>三日本官蔣介石ニ会見シタル際蔡公時ヲ交渉員ニ任命シ

ニ非ス不取敢電報ス

（付記）

極秘 昭和三年五月三日

山東交渉公署掃蕩ニ関スル状況

歩兵第四十七連隊

第二大隊長 及川源七

五月三日午前十時頃守備線ヲ占領スル為メ第六中隊第二小队第三分隊金田上等兵ノ指揮ニ因リ日本綿花公司ヲ出テ前方小緯四路ノ家屋、旧山東交渉公署、旧山東憲兵營並旧山東軍兵營（以上ノ家屋ノ名ハ休戦後知リタルモノ）ヨリ猛烈ナル射撃ヲ受ケツツ全ク十字火ノ中ヲ勇敢ニ前進シ午前十時二十分頃山東交渉公署ト基督教會トノ中間道路ニ散開直チニ各方面ノ敵ニ対シ射撃ヲ開始シタルカ地形ノ不利ニヨリ苦戦ノ状態ニ陥リ午前十時五十分頃上等兵玉井部戦死スルニ至リシヲ以テ分隊長ハ危険ヲ慮リ山東交渉公署表門付近ノ囲壁ニ抛リ戦鬪スヘク部下兵卒ヲ道路上ヨリ早駈ヲ以テ表門東側囲壁ニ転位セシメタルカ其際上等兵白石儀忠ハ玉井上等兵ノ屍体ヲ収容セムトシテ右方ヨリノ側射弾ニ

タルニ付同人ハ今頃（午前十時頃）外交署ニ於テ就任セル筈ナリト述ヘタリ尚同公署前第二科長張華年ノ内話ニ抛レハ就任式中銃声起リタルヲ以テ逃ケ帰リタルカ蔡ノ外交署ニ居タルハ事実ニシテ其ノ後日本兵進入シ目下行方不明ナリト

(三)五日英国領事ノ談ニ依レハ日本軍交渉公署ヲ攻撃シ新任蔡公時ヲ射殺シ耳鼻等ヲ切り取リ虐殺セリト支那側ニテハ宣伝シ居レリト述ヘ又英国領事モ同様ノ話ヲ耳ニセルモ例ノ宣伝ト考ヘ自分ハ之ヲ信セスト述ヘタリ

(四)派遣軍側ニテ取調ヘタル処ニ依レハ日本軍ハ発射シ来リタル場所ニ応戦シタルニ止リ交渉公署ヨリモ盛ニ射撃セルニ付之ヲ沈黙セシメ次テ夜ニ入り各所ト同様ニ捜査セルニ反抗者ヲ処置シタル迄ナリ

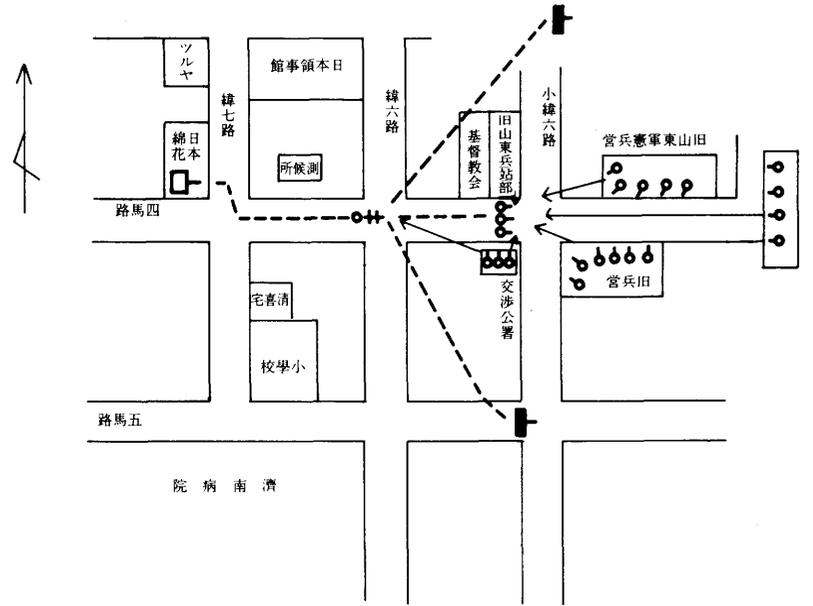
(五)尚交渉員ハ文官ナルモ南軍ノ文官ハ武官ト殆ト同様ノ軍服ニテ文官トテモ武官或ハ護衛兵ヲ伴ヒ文武官共ニ多ク<sup>(前)</sup>正服ヲ着用スルヲ以テ或ハ日本軍捜査ノ際反抗者トシテ射殺サレタルヤモ知レサルモ今日ノ処確報無シ

要スルニ本人ハ今尚行方不明ト云フ外何等確証無ク耳目等ヲ削キテ虐殺セリナト言フハ勿論支那側ノ宣伝ニシテ事実

ヨリ戦死スルニ至レリ

敵ノ所在ハ最初不明ナリシモ兩上等兵ノ受ケタル射弾ノ景況並時間ノ経過ト共ニ漸クニシテ山東交渉公署ノ階上ヨリ射撃ヲ受クルモノナルコトヲ知り分隊長ハ部下兵員ノ大部ヲ拳ケテ山東交渉公署階上ノ敵ニ対シ射撃開始ヲ命シタルニ暫時ニシテ敵ハ射撃セサルニ至リシヲ以テ表門ヨリ玄関ニ移リ戦死者ヲ収容シ又長ク現在地ニ止ルヲ不利ナリトシ逐次、後方ノ十字路付近ヲ占領スヘク後退セリ

午後八時頃ニ至リ中隊長木庭大尉ハ第二小队（長、鎌賀少尉）ヲ指揮シ山東交渉公署ヲ掃蕩シタルニ地下室ニ拳銃（モーゼル）ヲ有スル便衣隊ヲシキ者十六名潜伏シアリテ我ニ向ツテ射撃シタルニ因リ直チニ之ニ対シ数発ノ射撃ヲ行ヒ続イテ全部ヲ刺殺スルニ至レリ



331 昭和3年5月12日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔣介石の福田師団長あて電報転送について

青島 5月12日前発  
本省 5月12日前着

第二四七号

済南宛

第二三八号

南京ヨリ（九日）

青島領事館済南第六師団司令部福田師団長

只今私ノ全権代表何総参議カ細目協定ノ為汽車ヲ泰安カラ行キマスカラ何卒同汽車ヲ貴軍ニ知ラセテ通行サセテ貰フ返待ツ

蔣介石

332 昭和3年5月12日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

福田師団長の蔣介石あて電報転送について

第二一号

在淄川炭坑桜井部長ヨリノ報告ニ依レハ

(一) 済南ニ於ケル日支軍衝突事件ハ在留本邦人ニ大ナル不安ヲ懐カシメ本九日午前八時同地発列車ニテ婦女子百七十七名青島ニ引揚タリ

(二) 炭坑使用苦力ノ挙動不穩ニシテ同盟罷業センモ計リ難キ状況ニ在リ右ハ多分淄川城内ニ潜入シアル南軍便衣隊ノ仕業ラシキヲ以テ炭坑側ニテハ嚴重警戒中ナリ  
右転電方然ルヘク御取計アリタシ

334 昭和3年5月13日 陸軍省発表

山東派遣部隊の行動について

陸軍発表 昭和三年五月十三日

山東派遣部隊ノ行動ニ就テ

支那戦局進展シテ其ノ波乱膠済鉄道沿線及済南付近ニ及ヒ帝国臣民ノ生命財産將ニ危殆ニ瀕セントスルヤ帝国政府ハ該方面在留邦民ヲ現地ニ於テ保護スルノ必要ヲ認メ四月十九日心急ノ処置トシテ先ツ天津ヨリ歩兵三箇中隊ヲ済南ニ

第二四八号

済南発本官宛（無番号）

貴電第二三八号及第二三九号ニ関シ福田第六師団長ヨリ蔣介石ニ対シ左ノ通り

本司令官ノ要求ヲ全然承認セラレタル意味ナリヤ返事承リ度ク其ノ上ニテ貴代表派遣ノ事ハ何分ノ儀回答スヘシ  
貴電第二三八号及第二三九号並本電ヲ大臣、天津、上海、漢口、南京、奉天ニ転電アリタシ

青島 5月12日前着  
本省 5月12日前着

333 昭和3年5月12日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南より婦女子一七二名青島に引揚げについて

て博山出張所よりの報告

青島 5月12日後着  
本省 5月12日後着

第二五二号

博山発本官宛電報

派遣シ同時ニ内地ヨリ第六師団ヲ青島ヲ經テ膠濟鐵道沿線ニ派遣セラルルニ決シ同日發令セラレタリ抑々帝國政府カ支那動亂ニ對シ一党一派ヲ敵視スルカ如キ意志ハ毛頭ナク派兵ヲ斷行セル所以モ亦我居留民保護上已ムヲ得サル措置タルハ曩ニ政府カ中外ニ聲明セシ所ニシテ我派遣部隊亦右聲明ノ趣旨ヲ体シテ其ノ任務ニ就キタリ天津ヨリ濟南ニ派遣セラレタル部隊ハ二十日濟南ニ到着第六師団ハ二十三日ヨリ二十五日ニ亘ル間ニ於テ逐次門司ヲ出發シ其ノ先頭部隊タル歩兵第十一旅団（歩兵三大隊ニシテ若干ノ特科部隊ヲ付ス）ハ四月二十六日乃至二十八日ニ濟南ニ歩兵一大隊ヲ以テ博山ニ到着ス該旅団ハ曩ニ天津ヨリ派遣セラレタル部隊ト共ニ濟南商埠地ヲ守備シ在留邦人ノ保護ニ任スルニ至リシヲ以テ帝國在留民為ニ其ノ堵ニ安ソスルヲ得タリ

師団ノ後統部隊ハ四月二十八日迄ニ逐次青島ニ上陸シ坊子ニ歩兵一中隊青島ニ約四大隊ヲ配置シ各々該地域ニ於ケル居留民保護ニ遺憾ナキヲ期セリ

然ルニ二十八日ニ至リ支那南北兩軍ノ戦局ハ既ニ膠濟鐵道上明水付近ニ波及シ濟南ノ運命旦夕ニ迫リ青島、濟南間ノ置シ主力ヲ集結スルニ至レリ

然ルニ翌三日午前九時半頃嶺祥門外滿州日報取次店吉房長平方ニ支那兵二、三十名闖入シテ掠奪ヲ始め現場ニ急行シタル領事館巡查岡田繁一之ヲ制止シタルモ却テ支那兵ノ爲毆打脅迫セラレ如何トモ為シ難キ情況ニ在リシカ急報ニ接シ天津部隊ヨリ桑川中尉ノ指揮スル部隊ヲ現地ニ派遣セシニ暴兵ハ付近ノ支那兵宿舍ニ退避シ歩哨ハ同時ニ射撃ヲ開始シ逃亡セル部隊亦翻転シテ之ニ加ハリシ為何等掩護物ヲ有セサル我部隊ハ已ムナク応射以テ彼ヲ撃退セシカ之ヲ動機トシ殆ント一斉ニ各所ニ於テ南軍部隊ノ掠奪的攻撃開始セラルルニ至レリ

此ノ掠奪隊ノ背後ニハ隊伍ヲ整ヘタル大部隊アリ掠奪ハ忽チ我警備区域外各所ニ行ハレ至ル所人道上赦スヘカラサル邦人ノ虐殺行為ヲモ敢テスルニ至リシカ如何ニセン事件ハ突発的ニ起リ且瞬時ニシテ禍乱全市街ニ瀰漫セシ為警戒区域外ノ邦人ヲ安全地域内ニ収容スルノ暇ナカリシコトハ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ

連絡モ亦甚タ不確實トナレルヲ以テ師団長ハ歩兵第三十六旅団ノ一連隊（二大隊）ヲ青島ニ殘置シ殘余ノ部隊ト共ニ二十九日夜青島ヨリ先ツ張店ニ至リ万一ニ備ヘシカ濟南方面ノ情況益々切迫セルヲ以テ破壊セラレタル鐵道ヲ修理シツツ西進ヲ続行シ龍山以西ハ徒步行軍ヲ行ヒ二日午前濟南ニ到着セリ

之ヨリ先山東軍ハ二十九日以来続々濟南ヲ通過シテ退却シ三十日夜張宗昌、孫傳芳等ノ首脳部モ亦同地ヲ撤退セシカ支那住民ハ敗兵及不良暴民ノ為所在ニ掠奪ヲ受ケシカ我居留民ハ何等生命財産ヲ脅サルルコトナカリキ五月一日早朝南軍ノ一部ハ濟南ニ入城シ二日夕刻迄ニ同地付近ニ到着セルモノ其ノ数十万ト稱シ内商埠地ノ周圍ニ駐屯スルモノ四万ニ及ヒシカ概ネ靜穩ニシテ何等我レト事ヲ醸スコトナシ二日蔣介石入城スルヤ彼ハ我カ連絡將校佐々木中佐ヲシテ濟南ノ治安ハ責任ヲ以テ之ヲ保持スヘキニ依リ革命軍ヲ敵トセサル以上日本軍現在ノ警備区域ヲ撤シ且ツ機關銃等ヲ街路ニ配置セラレサル様致シ度旨懇請スル所アリ

我軍モ之ヲ諒トシ防禦ノ諸設備ヲ撤シ警戒部隊ヲ要所ニ配

請アリ我軍之ヲ容レテ兩軍協力停戦ニ努メタルモ家屋内ノ支那兵ハ二階、三階或ハ屋上ヨリ盛ニ射撃シ支那側ノ命令徹底セスタ刻ニ至リ辛ウシテ大部ノ支那兵ヲ我警戒線外ニ退去セシメ或ハ武装ヲ解除シ得タルモ尚支那兵ハ諸所ノ家屋内ニ殘存シ交通頗ル危險ニシテ商埠地ノ東部ハ依然杜絶ノ状態ニ在リタリ

三日夜兩軍代表者合議シ支那兵ハ四日朝迄ニ全部商埠地内ヨリ撤退スヘク尚殘存スルモノハ日本軍ノ自由ニ委スルコトトナリ其ノ大部ハ撤退セシモノ一部ハ尚殘存セシヲ以テ我軍隊ハ四日朝來更ニ強行掃蕩ヲ行ヒ漸クニシテ商埠地内交通ノ安全ヲ期シ得ルニ至レリ此ノ混乱中居留民ノ被害ヲ受ケタルモノ左ノ如シ

殺害セラレシモノ 一三

行方不明 二八

殺害ノ疑アルモノ 二

婦人ノ凌辱セラレシモノ 二

負傷者 九

掠奪被害 二〇件

之ヨリ先青島ニ殘留セル部隊ハ濟南方面ノ情況急變セルヲ

知ルヤ独断ヲ以テ済南ニ向ヒ前進スルニ決シ四日午後二時青島ヲ発シ途中破壊セル鉄道ヲ修理シツツ前進シ五日夕済南ニ到着セリ

帝国政府ハ山東方面ノ情况急変ニ応シ更ニ兵力ヲ第六師団ニ増加スルノ必要ヲ認め不取敢関東軍ヨリ外山少将ノ指揮スル歩兵四大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ済南ニ派遣スルニ決シ四日発令セラレ

第六師団ハ一面商埠地内ニ於ケル居留民ノ保護並ニ整頓ニ努力スルト共ニ他面在済南及膠済鉄道沿線ノ我居留民ノ安全ヲ確保シ且ツ国家及国軍ノ威信ヲ保持スルノ必要上狂暴ニシテ加之表裏常ナキ暴兵ヲ速ニ驅除シ且ツ責任者ヲ懲戒スルヲ急務ト認め責任者ノ処罰、関係軍隊ノ武装解除、支那軍ノ膠済鉄道沿線二十支里（三里強）以外ヘノ撤退等ヲ条件トシ十二時間ノ期限ヲ付シテ七日午後四時蔣介石ニ回答ヲ求メシカ蔣介石ハ現場ヲ去リ本件交渉員トシテ其ノ資格不完全ナル者ヲシテ我レニ回答セシムルニ蔣介石ノ在ラサル故ヲ以テ回答期限ノ延長ヲ求メ或ハ日本軍ノ要求ヲ容ルルト共ニ日本軍責任者ノ処罰ヲ要求スル等ノ事ヲ以テセシカハ彼レニ我カ要求ヲ容ルルノ誠意全然ナキモノト認め

コトヲ慮リ或ハ飛行機上ヨリ伝單ヲ散布シテ武装解除ヲ勸メ或ハ総商會ヲ通シテ之カ退去ヲ迫リ且ツ住民避難ノ便宜ヲ与ヘタルモ支那兵ハ近ク来援ヲ受クヘキヲ期待シテ闘志ヲ棄テス却テ住民ヲ脅迫シ軍ト運命ヲ共ニスヘキヲ強要シテ其ノ避難ヲ妨ケ畜ニ我軍ニ対シ射撃スルノミナラス国際列車ニ対シ発射スル等其ノ暴状座視スルニ忍ヒサルヲ以テ十日払曉来攻撃ヲ開始シ故ラニ南面ヲ開放シテ其ノ脱逸ニ便ナラシメ機会アル毎ニ屢々武装解除ヲ勸告セシモ依然頑強ニ抵抗スルヲ以テ師団ハ終ニ断然タル攻撃ニ移リ主トシテ督弁公署兵營等住民ニ危害ヲ及ホス虞少ナキ地点ヲ砲撃スル等頗ル困難ナル戦闘ヲ交ヘ逐次内城ノ諸城門ヲ占領シ数次ノ逆襲ヲ撃退シ漸次戦闘圏ヲ縮小スルニ及ヒ城内ノ守兵ハ遂ニ力竭キ十一日午前三時頃ヨリ逐次城外ニ逃レ十一日未明我軍ハ済南城ヲ占領シ一部ヲ以テ残存セル支那兵ヲ掃蕩スルト共ニ主力ヲ以テ退却セル支那兵ニ尾シテ我安全地域ノ確保ニ努メ居レリ

抑々今次派兵ノ目的タル単ニ我居留民ノ保護ニ存シ一党一派ヲ敵視スルモノニ非サレハ既述ノ如クニシテ済南事件ノ善後処置ヲ講スルニ当リ我カ派遣軍カ南北兩軍ニ要求スル

自力ヲ以テ之ヲ強制スルニ決シ八日早朝先ツ商埠地付近ノ搜索ヲ開始シタルニ信家庄南方兵營ニ在リシ支那兵ハ俄然我軍ヲ射撃セシヲ以テ茲ニ再ヒ交戦状態ニ入り済南ノ四囲及其ノ内部ニ亘リ各所ニ支那軍ヲ撃破シ九日ニ至リテ済南城内ニ残存シ頑強ニ抵抗セル部隊ノ外済南ノ四囲二十支里以内ニ略々支那兵ノ影ヲ認めサルニ至レリ

此ノ間第二次派遣部隊タル外山旅団亦八日朝済南ニ到着シテ第六師団長ノ指揮ニ入り直チニ任務ニ就ケリ  
帝国政府ハ済南方面全般ノ情况ニ鑑ミ済南及膠済鉄道沿線ノ我居留民ノ保護ヲ一層確實ナラシムルト共ニ唯一ノ交通線タル膠済鉄道ノ交通確保ノ必要ヲ感シタルヲ以テ更ニ山東方面ニ増兵ノ要アリト為シ九日第三師団ノ動員ヲ令セラレタリ

又別ニ将来禍乱京津地方ニ波及スル場合アルヲ顧慮シ該方面我居留民保護ノ目的ヲ以テ恰モ定期交代期ニ在ル歩兵隊ノ交代兵（五箇中隊）ヲ派遣シ帰還兵ノ帰還ヲ一時見合セラルルコトナレリ

済南旧城内ニ於テ頑強ニ抵抗セル支那兵ハ方振武軍ノ有力ナル一部ナルモノノ如ク我軍ハ無辜ノ住民ニ危害ヲ及ホスニ商埠地ヨリ二十支里以外ノ地ヘノ撤退ヲ以テセシコトモ敢テ毫モ革命軍ノ北伐ヲ妨害セントスルニアラスニ一節制ヲ欠ケル革命軍ヲシテ再ヒ此ノ暴挙ニ出テシメサラントスルニ他ナラス現ニ北方張宗昌軍カ済南事件ノ為革命軍ノ混乱シアルノ好機ニ乗シ攻撃ニ転セントセシ場合ニ在リテモ済南ヲシテ再ヒ危地ニ陥レンコトヲ慮リ之カ中止ヲ要求シ又同軍飛行機ノ済南爆撃ニ対シテモ我居留民ノ生命財産ニ危害ヲ与フルノ虞アルヲ以テ張作霖並張宗昌ニ対シ嚴重抗議シタルニ見テモ我軍カ敵ニ南北兩軍ニ対シ公平無私ノ態度ヲ持シアルコトヲ証シ得ヘシ

膠済鉄道ハ済南及其ノ沿線ニ於ケル我居留民唯一ノ交通線ニシテ此ノ鉄道ニシテ一度其ノ運転ヲ阻害セラレンカ我居留民ハ勿論派遣軍ノ運命モ亦測リ知ルヘカラサルモノアリ從テ膠済鉄道沿線ノ我居留民ヲ保護センカ為ニハ該鉄道ノ交通確保ハ今ヤ絶対ニ必要トナレリ從テ軍ハ一時該線路ノ兩側ニ南北兩軍ノ近接ヲ拒否シ以テ此等兩軍ノ無謀ナル破壊ヲ防止スル事ハ此ノ際蓋シ当然ノ処置ナリト謂ハサルヘカラス

之ヲ要スルニ我派遣軍ハ邦人保護ノ任務達成上曩ニ済南付

近ニ於テ我レニ敵對セル部隊ニ對シ応戰ノ已ムナキニ至リ  
タリト雖モ右ハ固ヨリ支那ノ内戰ニ干涉シ其ノ一党一派ヲ  
敵視シタルニアラサルハ勿論吾人ハ寧ロ此ノ際心アル支那  
國民ト共ニ戮力協心速ニ此ノ種暴挙ニ出ツルモノヲ絶滅シ  
以テ日支兩隣邦ノ渝ル所ナキ真ノ友好關係ヲ保持スルコト  
ヲ望ンテ已マサル次第ナリ

335 昭和3年5月13日

在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

博山、淄川の治安の悪化に鑑み我が軍派兵方  
について

青島 本省 5月13日後着

第二七五号

本官發濟南宛電報第二六七号

博山ニハ上村大隊及無線班張店移駐後ハ僅ニ二箇小隊残留  
スルノミナル処同地方南軍ニ帰シテ以來反日気分濃厚トナ  
リ又劉黑七ノ土匪軍ハ南軍ト離レテ自由行動ヲ執ルヤノ噂  
アリ更ニ濟南事件ニ依リ同地支那人激昂シ居ル際ニ南軍便

第三一二号

十二日南京ニ於ケル中央及國民政府委員ハ連席會議ニ於テ  
譚延闓ヨリ米國大統領領宛左ノ通打電スルニ決セル由ナリ  
日本ハ軍隊ヲ我山東ニ派遣シ我交渉員ヲ殺害シ累次我和平  
ノ軍民ヲ砲撃セシメ國際的戰爭ト侵略ノ為ニ今尚増兵シツ  
ツアリ余ハ中華民國國民政府主席ノ資格ヲ以テ謹テ貴大統領  
領カ中国側ハ深ク國際平和ト正当ナル交誼ノ維持ハ文明諸  
國ノ共同責任ナリト信スルカ故ニ日本側ノ暴行ニ對シ今日  
迄極端ニ容認シツツアルコトニ注意サレムコトヲ請フ往年  
山東問題ノ解決ハ実ニ諸友邦ノ斡旋ニ因レリ而シテ貴國ノ  
尽力最多カリシハ弊國人民ノ今ニ至ル迄且々トシテ記憶ニ  
存スル処ナリ今ヤ余及我國民ハ速ニ日本ノ遣出セル嚴重ナ  
ル陸兵ニ對スル貴國政府ト臣民ノ態度ヲ聴カムト欲ス  
濟南ヘハ青島ヨリ転電アリタシ  
在支公使、青島、漢口、広東、福州、奉天、南京ヘ転電セ  
リ

337 昭和3年5月14日

在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

衣隊巧ニ人心ヲ煽動シ居ル等情況窺フ許ササルモノアル  
ニ付此ノ際一箇大隊及無線電信班ヲ派遣セラレタキ旨在同  
地佐々木主任ヨリ申出アリ尚又淄川ハ今回ノ事件以來物価  
六割ノ高騰ヲ来シ同地炭坑々々夫等ヨリ賃銀値上運動ヲ起ス  
氣配アリ不取敢高粱及粟七十五屯ヲ廉売シ其ノ要求ヲ緩和  
セムト力メ居ルモ職員等ノ大部分ハ江蘇、浙江出ニシテ南  
方派タル博山県知事ト連繫アルラシク日本人従業員ハ甚シ  
ク不安ニ駆ラレ居ルニ付曩ニ引揚ケタル我軍隊ヲ更ニ同地  
ニ派駐セラレタキ旨魯大公司ヨリ申出アリ執レモ尤モト認  
メラルルニ付テハ右ニ関シ貴地福田師団長ニ對シ至急御交  
渉相成様致シタシ  
大臣、公使ヘ転電セリ

336 昭和3年5月13日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件に関する國民政府の米大統領あて通  
告について

上海 本省 5月13日後着

蔣介石總司令より福田師団長との無線による  
連絡斡旋方岡本在南京領事より西田在濟南總  
領事代理へ依頼について

青島 本省 5月14日後着

第二九七号（至急）

十四日在南京領事ヨリ左ノ通電報アリタリ  
左ノ通濟南ヘ転電アリタシ  
蔣介石ヨリ諸般ノ打合せヲ直接福田師団長ト話シタキニ付  
師団長ニ於テ同意ナラハ至急短波無線ノ波長等取極メ度キ  
趣ヲ以テ外交部ヲ通シ本官ノ斡旋ヲ依頼越セリ何分ノ儀御  
回示アリタシ  
北京ヘ転電セリ

338 昭和3年5月15日

在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔣介石總司令との交渉に参加の意向を福田師  
団長に伝達について

第三〇八号（至急）

本官発済南宛電報第二九二号  
往電第二八九号ニ関シ

青島 発  
本省 5月15日前着

福田司令官へ左ノ通御伝へテ請フ

蔣介石ノ意中ヲ測ルニ彼我交渉ノ範圍ヲ軍事行動ニ関スル事項以外ノ重要交渉案件ニモ及ホサトスルニ非サト存セラル就テハ若シ閣下ニ於テ今次彼ノ申出テニ応セラルル御意思ナラハ曩ニ外務大臣ヨリ本官ニ対シ訓令ノ次第モアリ本官又貴地ニ出向ノ上之ニ参加致シ度キニ付先方申出諾否ニ対スル貴意御回電相煩度ク尚申ス迄モ無キ儀乍ラ本件措置ニ際シテハ蔣今後ノ下野等彼ノ地位ノ変動ニ付篤ト御考慮ノ必要アルヘキカト存ス右心付ノ儘申添フ  
外務大臣、在支公使ニ転電セリ

339 昭和3年5月15日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔣介石総司令との無線による連絡を福田師団

青島 発  
本省 5月15日後着

国側へ伝達方福田師団長に伝言について

第三一七号（至急）

本官発済南宛電報第三一六号（至急）  
貴電第二五一号ニ関シ

福田司令官へ左ノ通御伝へテ請フ

本件ニ関シテハ既ニ西田総領事代理宛拙電第二九二号ヲ以テ卑見不取敢申進メ置キタル処既ニ在南京領事ヲ通シ直接交渉応諾ノ旨御回答相成リタルニ付テハ卑見更ニ左ノ通申述へ度シ

彼我交渉開始ニ際シ先方申出ニ係ル交渉ノ範圍カ軍事行動以外ノ点ニ亘ルニ於テハ其等ノ点ニ付テハ閣下ヨリ居留民保護延ヒテ山東鉄道運營ノ妨害除去ノ目的ヲ以テスル軍事行動以外ノ点ニ付テハ外務当局ノ専掌スル処ニシテ閣下ノ管掌セラレサル処ナリト明白ニ拒絶シ置カレ場合ニ依リテハ爾余諸案件ノ交渉ニ関スル先方願意丈ナラハ外務当局ニ引継クモ可ナリト御応酬相成置カハ先方ヲシテ我方ノ建前ヲ有利ニ且明瞭ニ了解セシメ同時ニ動モスレハ帝國政府出

長拒否に關し西田在済南総領事代理より岡本  
在南京領事へ伝達について

青島 発  
本省 5月15日前着

第三一〇号

済南発本官宛電報  
第二五一号（至急）

大臣、公使、南京、上海へ転電アリタシ

本官発南京宛電報

第四八号

貴官発青島宛電報第六七号ニ関シ直ニ右福田師団長へ伝タル処福田師団長ヨリ蔣介石ニ左ノ通伝達方依頼アリタリ一、直接交渉ニ同意スルモ無電ハ都合悪シキニ付有線ノ回復ヲ俟ツカ然ラサレハ委任状ヲ有スル代表ヲ特派セラレタシ

340 昭和3年5月15日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

軍事行動関連以外の交渉は外務省管轄の旨中

兵ノ意図ニ対シ惹起シ易キ内外ノ誤解ヲ解キ悪宣伝防止ニ便スル処アラムカト存ス  
外務大臣、在支公使、上海、南京ニ転電セリ

341 昭和3年5月15日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

福田師団長軍事行動関連以外の交渉に關係せずかつ蔣との会谈への参加了承の旨回答につ  
いて西田在済南総領事代理報告

青島 発  
本省 5月15日後着

第三一九号

済南発本官宛電報第二五四号

貴電第二九二号ニ関シ

早速福田師団長ニ貴意ヲ伝ヘタル処師団ニ於テハ軍事行動ノ見地ニ基ク要求事項ヲ除キ涉外事項ニ関シ協議スル考ハ毫モ有シ居ラス依テ曩ニ蔣介石ニ提示セル五箇条ノ要求事項以外ハ我軍軍事行動及面目上必要ナル範圍ヲ出テサルモノニシテ決シテ政府トシテノ涉外事項ニ干与スル意ハ無シ

支那代表ハ其ノ談話中ニ軍事行動以外ノ事ヲ持出シタルコトアルモ師団長ノ權限トシテハ協議スヘキ限ニ非スシテ撥付居ル次第ナリ尤モ蔣介石申出ノ会見ニ貴官ニ於テ御参加ノ希望ナレハ当方ニ於テハ別ニ異存ヲ有スル理由アルニ非サルニ付左様御承知ヲ請フ  
大臣、公使へ転電アリタシ

342 昭和3年5月15日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南事件に関する交渉は局面を転換し外交機  
関に移すべき旨意見具申

上海 発  
本省 5月15日前着

第三二一〇号ニ関シ  
往電第三二〇号ニ関シ

済南ニ突発セル不祥事件ニ付テハ南軍ノ狂暴憎ミテモ余リアル事ハ申ス迄モ無キ義ナルモ冷静ナル立場ニ還リ本件ヲ觀察スレハ要スルニ日支兩軍ノ衝突事件ニシテ（極端ナル暴行ハ右衝突ノ結果現地支那軍民ヲ狂セシメ其ノ野蛮性ヲ

ラシ我カ武威ヲ示シテ無智ナル彼等ニ忘ルヘカラサル教訓ヲ与ヘ其ノ後多大ノ犠牲ヲ忍ヒテモ付近南軍ヲ一掃シタル次第ナレハ軍事行動ノ目的ハ達成セラレ武力行使ハ南軍ノ來襲セサル限り一段落ヲ告ケタリト云ハサルヘカラス從テ局面ヲ転回シ人心ヲ新ニスヘキ重要ナル機会ニシテ此ノ局面転回ノ第一着手トシテ福田司令官ノ七日南軍側ニ提出シタル条件ヲ外交機関ノ手ニ移シ軍事ト外交トヲ截然區別スルコト必要ナリト存セラル当方面ニ於テハ福田司令官ノ要求条件ハ時間ニ余裕少カリシノミナラス通信機関ノ不完全ト乱雑ナル軍ノ組織等ヲ考慮スレハ支那側ニ誠意アリトスルモ事實上実行不可能ナリシニハ非サリシカト觀察サレツツアリ執レニセヨ既ニ主ナル条項タル二十支里以内ノ支那兵ノ駐屯禁止ヲ我軍自ラ実行シタルモノナルヲ以テ本件条件ハ福田司令官ト蔣介石トノ間ニ関スル限りハ消滅シタルモノトノ理論モ立チ得ヘシ從テ本問題ヲ今日ニ於テ外交機関ノ手ニ委セタリトモ軍ノ威信上差障リアリトモ申難ク若シ我軍憲ニ於テ飽迄当初ノ条件ヲ固執シ蔣介石ニ対シテ文字通りノ実行ヲ強要スル時ハ次ノ如キ結果ヲ惹起スヘシト観測セラル

暴露セシメタルモノト見ル可ク斯ル事件ハ珍ラシカラヌ事ニテ現ニ過般広東ニアリ而モ必スシモ支那ニ特有ニ非サルハ西比利亜ニ於ケル実例若ハ程度コソ異ナレ関東大震災ノ際ニ於ケル支那労働者ノ虐殺等ニ依リテ証セラルヘシ）惟フニ我国カ滿蒙ニ於ケル特殊地位ノ擁護ハ如何ナル犠牲ヲ払ヒテモ之ヲ保持セサルヘカラストノ国是ヲ一貫スル以上又在支居留民ハ其ノ現地ニ於テ武力ヲ以テ保護スヘシトノ方針ヲ確定スル以上南軍カ北伐ヲ続行シ北軍カ大勢ニ押サレテ現状維持ヲナシ難キ以上支那ニ於ケル日支兵ノ衝突ハ何レカノ地点ニ於テ突発スヘキ運命ヲ有シタルモノト見ルヲ得ヘク兩兵一度衝突シテ銃火ヲ交ヘ市街ヲ修羅場トセンカ今回ノ如キ不祥事件ノ發生モ予期シ得ラレサル次第ニハ非ラサルヘシ又今次ノ不祥事件ノ發生ヲ予期シタレハコソ支那政府ノ抗議ニ拘ラス大部隊ノ陸軍ヲ派遣シタルモノナリトノ理論モ立ツ次第ナリ

果シテ然ラハ我政府トシテハ最モ慎重ニ考慮スヘキハ予期シタル衝突其ノ者ニハ非スシテ衝突ノ結果ヲ如何ニ收拾スルカノ点ニ存スト存セラル翻テ事件ノ經過ヲ觀察スルニ支那兵ノ狂暴ニ對シテハ既ニ現地軍憲ニ於テ徹底的ニ之ヲ懲

一、当初我方ノ軍事行動ヲ已ムヲ得サル措置ト認メタル外國人側ノ同情ヲ転シテ支那側ニ向ハシムルコト（当地ニ於テモ既ニ其ノ兆候表ハレ来リツツアリ）  
二、蔣介石ヲ失脚セシムルコト、蓋シ蔣ノ失脚スルトセサルトハ我方ノ関スル処ニ非スト云ヒ得ヘキモ蔣失脚スルトモ張作霖等北方軍閥ノ勢力挽回ハ今日ノ処見込無カルヘシ又蔣ノ失脚必スシモ南京政府ノ瓦解ニ非ス結局蔣ヲ逐ヒテ馮玉祥白崇禧等ヲ擡頭セシムル結果ヲ生スヘシ蔣カ今回ノ事件ノ責任者ニシテ許スヘカラサルモノアリトスルモ日支国交ノ大局上ヨリ打算シテ果シテ露国トノ關係深ク我方トノ縁薄キ馮等ヲ引立ツルコトノ我方ニ利益ナルヘキ否ヤハ考慮ヲ要スヘシ  
三、交渉ハ未解決ノ儘ニ時日遷延シ我軍ハ引クニ引カレサル破目ニ陥リ結局米國其ノ他外國ニ對シテ調停申出ノ機会ヲ与ヘ我方ニ於テ之ヲ拒絶スルコトヲ得サルニ至ル無キヤヲ懸念セラル而モ其ノ間不安ノ空氣ハ南支一帶ニ漲リ在留民ハ其ノ業務ニ落付カス日貨ハ排斥セラレ今日南軍ノ徹底的膺懲ヲ主張スル声ハ一変シテ問題ノ解決ヲ政府ニ歎願スルノ声トナルヘシ

以上ノ見地ヨリ本官ハ帝國政府ニ於テ人心ノ推移ヲ察知シ  
行懸ニ拘泥サルルコト無ク局面ノ転回ヲ図ラルルコト大局  
上得策ナリト信ス  
済南へハ青島ヨリ転電アリタシ  
北京、天津、青島、漢口、南京、広東、奉天へ転電セリ

343 昭和3年5月15日 在芝罘森岡領事より  
田中外務大臣宛（電報）

今後事態悪化の場合には芝罘、龍口の在留邦  
人大連に引揚げの予定について

芝罘 発  
本省 5月15日後着

第五八号

本官発関東庁長官宛電報

第七号

貴電関外第六号ニ関シ

今後事態最悪ノ場合ニ在留民全部大連ニ引揚クルモノト仮  
定シ芝罘約二〇〇名龍口約九〇名ナリ何レモ相当手荷物ヲ  
有ス宜シク御配慮ヲ請フ

軍カ無防衛ノ地ヲ砲撃シ市民ニ恐怖ヲ与ヘ居ル等無稽ノ言  
ヲ弄シ居レルコトヲ前程トシ往電第二二四号所報ノ意味繰  
返シ尚交渉員惨殺問題ノ如キモ独立家屋タル交渉員公署ヨ  
リ三日午前十時過ニ我軍ニ多数射撃シ数名ノ死傷ヲ出シタ  
ル事実及同公署内ニ南軍ノ服装兵器弾丸等今日迄遺棄シア  
リ南軍ノ同所ヲ根拠トナシ居リタル新事実ハ恰モ山東医院  
カ日本軍ニ攻撃セラレタリト称シ其ノ内部ニ南軍ノ正規軍  
カ立籠リテ日本軍ヲ狙撃シ日本軍ニ損害ヲ与ヘ居ル事実ヲ  
全然閑却セルト同様ナリト説明シタルニ同領事モ山東医院  
ニ南軍ノ立籠リシ形跡アルコトヲ視察シ居リ相当諒解ヲ得  
タルカ如シ

345 昭和3年5月16日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

福田師团长蔣介石総司令に代表派遣を督促に  
ついて

済南 発  
本省 5月16日後着

第二三四号

大臣、北京、青島ニ転電セリ

344 昭和3年5月16日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

日本軍の済南城內攻撃に対する米國領事の感  
触について西田総領事代理報告

青島 発  
本省 5月16日後着

第三二六号

済南発本官宛電報第二五六号

大臣、北京、天津、奉天、上海、漢口、南京、広東、福州  
へ転電アリタシ

本官発大臣宛電報第二二七号

本官昨十四日米國領事ヲ往訪シタルニ同領事ハ十三日城内  
ノ戦跡ヲ視察シタルニ日本軍ノ発シタル着弾ノ正確ニシテ  
兵用地ヲ外レス支那市民ノ災害カ以外ニ輕微ナリシハ其ノ  
用意ノ深甚ナリシヲ想像シ得其ノ旨ヲ北京ノ公使ニモ報告  
シ置キタリト語りタルニ付本官ハ市俄古領事ヨリノ電報ニ  
依レハ王正廷等ハ「チャイナ・トリビュン」ノ記者ニ日本

本官発南京宛電報

第五二号

往電第四八号ニ関シ

福田司令官ヨリ蔣総司令へ交渉全権委員派遣ノ儀ハ如何ナ  
リシヤ本司令官ハ日本軍及日本人ニ危害ヲ加ヘタルモノニ  
対シ自衛ノ行動ヲ執レルモノニシテ貴総司令ハ勿論南軍全  
部ニ敵意ヲ有シ或ハ其ノ北伐ヲ妨クルモノニアラス速ニ何  
分ノ回答アリタシト伝達方依頼アリタリ右蔣介石ニ伝達セ  
ラレタシ

大臣、公使、天津、上海、漢口、広東へ転電セリ

346 昭和3年5月17日 在米國松平大使より  
田中外務大臣宛（電報）

南京政府の米國大統領宛電報に対する米側取  
扱いぶりについて

ワシントン 発  
本省 5月17日後着

第一五四号

往電第一五〇号南京政府ヨリ米國大統領ニ対スル電報（内

ハ上海電報ニ依リ御承知ト存スルニ付略ス）ニ関シテハ其ノ後國務省方面ニ於テハ之ヲ接手セサル旨洩シ居リタル処本十六日ノ新聞ニ愈到着ノ旨記載アリタルニ付同日國務長官ト面会ノ機会ニ確メタル処長官ハ之ヲ肯定シタル上右電報ニ対シテハ何等注意ヲ払ヒ居ラサルノミナラス支那人ハ事毎ニ電報ヲ寄セ来ル傾アルモ斯カル電報ニ対シテハ一々返答ノ限リニ非スト述ヘ居リタリ  
英ニ転電シ英ヲシテ伊露獨白ニ転電セシム

347 昭和3年5月17日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

何成濬代表が福田師団長の交渉態度非難について

南京 発  
本省 5月17日後着

第一一〇号

本官発済南宛電報

第三七号

貴電第五二二号ニ関シ

テ山東病院長ト会谈シタルカ同院長ハ日本兵ハ九日午前九時山東医院ヲ襲撃シ收容中ノ患者全部及同院ニ避難セル支那人ヲ殺シ同院ヨリ紅卍字会ノ手ニ收容セラレタル死体百十個アリタル旨語リタル趣ナルカ本官ノ取調ハ往電第二二一号ノ通ニシテ其ノ結果ハ直ニ当地英米領事ニモ充分説明（其ノ際米國領事ハ百五個ノ死体ヲ見タリト語レリ）シ置キタル処「ゴルマン」ニハ其ノ内容ヲ告クルノ暇無ク同人ハ今十七日当地ヲ出発セルニ依リ本人貴地帰還ノ際貴官ヨリ然ルヘク御説明アリ度尚「ゴルマン」ニ対シテハ充分ノ便宜ヲ与ヘ置キタリ  
外務大臣、天津、青島、上海、南京、広東へ転電セリ

349 昭和3年5月18日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

タイムス特派員アベントの済南事件に関する  
電報内容について

北京 発  
本省 5月18日前着

第六六八号

御来示直ニ蒋介石へ電報セシメ置ケリ  
何総参議十六日帰寧福田師団長トノ会見ニ付左ノ通語レル趣ナリ御参考迄  
師団長ハ軍使ヲ遇スルノ途ヲ知ラス予ニ対シ会見ノ際椅子ヲモ与ヘス傲然タル態度ニテ予ノ発言毎ニ高圧的批評ヲ加ヘ威嚇ヲ受ケタルカ不愉快極マレリ彼ノ如キ態度ナラハ何人モ会見スルヲ欲セサルヘシ云々

大臣、北京、青島、上海へ転電セリ

348 昭和3年5月18日

在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

日本軍の山東医院襲撃の情報について

済南 発  
本省 5月18日前着

第一四一号

本官発在支公使宛電報

第一五五号

本官発大臣宛電報第二二二一号ニ関シ北京「スタンダード」特派員「ゴルマン」齊魯大学付属医院ヲ視察シ同病院ニ於

<sup>(1)</sup>十四日大連発紐育「タイムス」特派員「アベント」ノ電報要領御参考迄左ノ通尚同紙ニ発表セララルル迄極秘ニ取扱ハレタシ

青島ノ支那人ハ現ニ支那軍並ニ官憲ノ無能ニ愛想ヲ尽カシタル為済南事件ニハ啞然タルモノアルモ一方銀行員鉄道従業員等各階級共痛烈ナル愛国心ニ駆ラレツツアリ青島ハ表面上ハ北軍ノ下ニアルモ市民ハ内々久シク国民党ニ傾キ張宗昌ノ秕政ヲ免カルルノ日ヲ待チツツアリ市民ハ実情ヲ知ラスシテ南軍ヲ常勝軍ト信シ居タルカ故ニ日本軍カ十倍以上ノ南軍ヲ攻撃シタル事実ヲ見テ屈辱ノ極ニシテ最早之ニ希望ヲ繋ク能ハスト為セリ国民軍中ノ真ノ愛国者ハ既ニ蔣介石及其ノ他ノ軍憲ヲ信セス山東ニ文官政府ノ確立ヲ企画シツツアリ国民派ト雖青島官憲ニ依頼スルノ事実ハ新聞検閲ニ反映シ例ヘハ米國方面ヘハ事件ノ概要ヲ電報スル事ヲ許スモ日本ニ有利ナル部分ハ総テ削除セラレ例ヘハ済南事件突発前ニ日本軍カ砂囊鉄条網ヲ撤去シタル為南軍ノ不意打ヲ受ケタリトカ或ハ日本人ハ支那軍ノ為ニ虐殺セラレタリトカノ通信ハ一切差止メラレタリ  
<sup>(2)</sup>但シ日本人ノ虐殺ハ米國領事及其ノ他ノ領事ノ面前ニ撮影

セラレタル写真ニ依リ実証セラレタリ又支那一流ノ虚構ヲ以テ日本人ハ支那官吏ノ唇鼻舌等ヲ切取リタリトカ逆宣伝ヲナシタルカ不幸ニシテ二日以後ニハ同人ハ商埠地内ノ地下室ニ隠レ居タル事判明セリ目下青島ニハ或ハ「ケロック」ハ日本ノ山東ニ対スル意向ヲ質問セリトカ或ハ漢口日本租界ハ支那群衆ノ襲撃ヲ受ケタリトカ流言蜚語盛ナルカ外部トノ通信不便ニシテ北京ノ政局及戦況ハ明カナラス又米国宣教師ノ一部ハ既ニ悪戯ヲ始メ客年ノ漢口事件ニ於ケルカ如ク支那人ニ対シテハ米国ハ支那人ニ味方スヘシ等公言シテ支那人ヲ煽動シテ排日氣勢ヲ煽リツツアルカ米国ノ輿論ニ対シテモ宣伝ノ「キヤムベイン」ヲ起サムト計画シツツアリ尤モ宣教師ヲ除ク青島外国人ノ輿論ハ日本ハ制御シ得サル暴行ニ対シ厭々作ラ断乎タル処置ニ出ツルノ已ム無キニ立至レリト観測スルニ一致シ居レリ  
済南、青島へ転電セリ  
（欄外記入） 十四日付満鉄「キニー」ヨリモ有田局長宛内報アリタリ

北京、済南、芝罘、天津、南京、漢口、広東へ転電セリ

351 昭和3年5月20日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡交渉員殺害事件に関する木庭大尉談話について

済南 本省 5月20日前着 発

第二四八号

往電第一九三号ニ関シ

五月十七日藤村カ黒田参謀長ト共ニ五月三日ノ交渉公署事件ニ直接関係セル四十七連隊第六中隊ノ木庭大尉ヨリ聴取セル事件顛末左ノ通

三日午前十時頃第六中隊ノ首藤分隊（分隊長外兵七名）ハ交渉公署建物前ヲ東西ニ直通スル幅七間ノ道路（四馬路）ヲ西ヨリ東方ニ前進シ居リタルカ該方面ハ既ニ南軍ノ占領スル処トナリ居ルノミナラス道路ノ縦射猛烈ニシテ前進困難ニ陥リ交渉公署建物（道路ノ右側ニ在リ）前ニ散開シテ応戦中中隊長モ亦該分隊ノ約二十米ノ後方道路ノ左側ニ在

350 昭和3年5月20日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
蔡交渉員殺害事件に関する日本側の情報発表  
方について  
青島 本省 5月20日前着 発

第三五五号（至急）

蔡公時事件ニ付テハ既ニ支那側ニ於テハ之ヲ発表シ居レルニ拘ラス日本側ヨリハ何等説明ヲ聞キ得サルハ支那側発表ヲ承認スル趣旨ナリヤト当地各国通信員等ヨリ質問ヲ受クルコトアリ之ニ対シテ当時蔡ハ軍服ト一見識別シ難キ<sup>（制カ）</sup>正服ヲ着用シ相当多数ノ衛兵ニ護衛セラレ居リ且三日ノ戦鬪ニ於テ交渉公署二階ヨリ我兵ニ対シ発砲シ我兵一名ヲ斃セリ右ノ如キ事情ナリシヲ以テ場合ニ依リテハ戦鬪ノ内ニ殺サルルコトアリトスルモ已ムヲ得サルヘシト答ヘ置ケルモ本件我方発表ハ既ニ相当遅延シ居リ此ノ上ノ遷延ハ却テ支那側宣伝ヲ有利ニ導キ我方ニ於テ之カ措置ニ窮シ居ルカ如キ感触ヲ外支人ニ与ヘ甚タ不利益ナリト存ス之カ発表ニ関スル本省ノ御方針至急御決定ノ上結果御電訓仰キタシ

リ付近ノ警戒ヲ為シ居タルニ交渉公署建物三階上ヨリ右散開セル分隊及中隊ノ居ル方面ニ狙撃シ居ルヲ発見シ中隊長ハ直ニ随行シ居タル伝令ヲシテ交渉公署建物ノ三階ニ応戦セシムル内交渉公署前ニ散開セル兵中ノ玉井一等卒ハ交渉公署建物ノ二階ヨリ射撃ヲ受ケテ戦死ス（玉井ノ傷ハ右側ヨリ入りタル腹部貫通銃創ナリ）此ノ時該分隊ハ始メテ交渉公署建物（当時該分隊ハ交渉公署タルヲ知ラス）ヨリ射撃シ居ルヲ感知シ直ニ交渉（公署）側ノ煉瓦ノ塀ニ身ヲ寄せ階上ヨリノ狙撃ヲ避ケタルカ未タ全ク身ヲ躲シ得サル内白石一等卒亦交渉公署ヨリノ射撃ニ依リ重傷シ後遂ニ死亡セルヲ以テ分隊長ハ残り五名ノ兵ト共ニ交渉公署ノ前門内ニ突撃シ階上ヲ射撃シ階上ヨリノ射撃ヲ沈黙セシメ直ニ他ノ戦線ニ赴キタリ三日午後七時過（薄暮ニシテ前方十米位迄目視シ得タリ）商埠地内ノ南軍残兵ヲ掃蕩スヘキ命令ヲ受ケタル全中隊ハ其ノ一小隊ヲシテ先ツ日中南軍ノ占拠狙撃セシ交渉公署建物ノ捜査ヲ行ヒ一部ハ階上ニ登リ一部ハ階下ノ各室ヲ見テ地下室前ニ到ルヤ突然地下室ヨリ拳銃ヲ発射セルヲ以テ捜査隊ハ地下室ニ向ヒ射撃ヲ加ヘ直ニ突入シテ其ノ場ニ十六名ヲ射殺又ハ刺殺セリ此ノ時日ハ暮レ

居リシモ被害者ハ私服ヲ着用シ軍帽軍服等散乱シアリ各自事件前ニ軍服ヲ脱キ私服ニ着替ヘタルヲ意識セシメタリ右十六名ノ死体ハ五月四日午後七時頃関係中隊之ヲ担当シテ之ヲ交渉公署建物ノ後庭ニ埋没セルカ本事件ヲ終始其ノ現場ニ於テ指揮目撃セル中隊長ハ其ノ部下兵士ノ耳ヲ削ク等残虐ナル行動アリシヲ絶対ニ否認シ又斯ル暇ヲモ有セス且銃剣ハ刺殺ニハ便ナルモ耳又ハ鼻ヲ削クニハ不適當ニシテ殆ト不可能ノ利器ナリト右ハ二十八日中隊長ノ陳述ニシテ現状トモ良ク符合シ居ルノミナラス尚五月十三日酒井少佐カ我憲兵ヲ伴ヒ交渉公署建物ノ現場ヲ臨検セルニ事件發生後既ニ十数日ヲ経過シ該建物内ノ目星キモノハ土民ニ持去ラレシ後ナリシニ不拘尚其ノ建物ノ三階ニ於テ小銃及軍刀一小銃彈三百発其ノ他内空葉莢等散乱シアリ又地下室ニハ軍帽十五軍服二十其ノ他内空葉莢等ヲ発見シ之ヲ同所管轄ノ巡警二名及交渉公署建物前ニ在ル基督教會員ノ立会ニテ証拠物トシテ押収シタル旨モ通知アリ建物（脱）是等ヲ綜合スルニ支那側ニ於テハ建物カ交渉公署ニ充テラレ居タル事交渉員カ文官ナリシ事ヲ唯一ノ材料ニ為シ一般ノ印象ヲ強メ居ルモノナルモ交渉員ハ文官ナリト雖南軍ノ文官ハ

死体ノ中両三名ハ容貌卑シカラス内一名ハ鼻下ニ髻ヲ貯エ居リシモノアリ其ノ後軍司令部カ交渉署ニテ押収セル写真（徐州ノ戦地政務委員交渉署ニテ撮影セル旨記シアルモノ）ニ蔣介石ノ右側ニ立チ軍装セルモノカ右死体ノ有髻者ニ酷似シ居リ或ハ右カ蔡公時ナリシヤモ知レスト語リシ一節アリ支、青島、天津、奉天、漢口、上海、福州、厦門、南京、芝罘、広東へ転電セリ

353 昭和3年5月20日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南における日本軍の行動に關し国民政府より英國に斡旋方依頼について

北京 本省 5月20日後着

第六八六号（極秘）

十九日英國公使來訪ノ節内密ニ御参考迄御話スヘシトテ南京政府外交部長ノ命ニ依リ在上海金交渉員ヨリ英國總領事ニ對シ濟南ニ於ケル日本軍隊ノ行動ニ付英國側ノ斡旋ヲ望

何レモ軍服ト同様ノ服装ニテ常ニ護衛兵ヲ伴ヒ仮令右建物カ交渉公署タリ蔡カ交渉員トシテ其ノ内ニ居リシヤモ知レサリシモ是等ヲ全然不案内ノ我軍カ同建物ニ南軍カ多数立籠リ我軍ニ對シ射撃ヲ加ヘ剩ヘ二名ノ戦死者ヲ出シタルハ動カサル事実ナレハ我軍カ之ニ攻撃ヲ加ヘタルハ正当ナル軍事行動ト認メラル尚往電第一九三号ハ取調ハ未タ行届カス聞及ヒノ儘速報シタルモノニシテ不符合ノ点ハ本電ニ依リ訂正シ適宜外国人並ニ支那側ニ説明スル様致シタシ北京、青島、天津、奉天、上海、漢口、福州、厦門、南京、芝罘、広東へ転電セリ

352 昭和3年5月20日 在濟南西田總領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡交渉員殺害事件に關する木庭大尉談話について

濟南 本省 5月20日前着

第二五四号

往電二四九号木庭大尉ノ談ニハ交渉署ノ地下室ニテ見タル

ム旨申出テタルニ付同總領事ハ南北双方ヨリノ依頼アルニアラサレハ此ノ種ノ「デリケート」ナル問題ニハ干与シ難キ旨答ヘタル旨語りタル上同總領事來電ヲ示シタルニ付一読シタル処右様ノ趣旨ニテ極秘ト題シアリタリ英國公使ハ尚広東ニ於テ同國總領事カ広東政府ヨリモ同様ノ交渉ニ接シタル処同總領事ハ上海總領事同様ノ回答ヲ為シタル旨語りタリ英國公使ハ尚付言シテ英國国民ニハアラサルモ他ノ国民ニシテ濟南事件ニ付日本ニ不利ナル運動ヲ為シツアルモノアルヤノ趣旨ヲ述ヘ居タリ青島、濟南、上海、漢口、広東へ転電シ天津、奉天へ暗送セリ

354 昭和3年5月20日 在濟南西田總領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡交渉員殺害事件に關する木庭大尉談話の取扱いについて

濟南 本省 5月21日後着

第二六四号

往電第二四八号<sup>(三五〇文書)</sup>木庭大尉談話ノ交渉公署内ノモノヲ殺シタ  
リトノ場所ニハ疑アリ取調中今日迄ニハ電報シ得ル見込夫  
レ迄ハ此点発表ハ見合セラレタシ  
在支公使、青島、天津、奉天、上海、漢口、福州、杭州、  
厦門、南京、芝罘、広東へ転電セリ

355 昭和3年5月21日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡交涉員殺害事件に関する中国側対応について

上海 発  
本省 5月21日後着

第三三八号

当館出入ノ支那新聞記者カ清水ニ洩セル口吻ニ依ルモ「支  
那側ハ蔡事件ヲ宣伝スルコト最モ有効ナリトノ腹ナル処日  
本側ハ之ヲ否認シ外人側モ日本説ヲ信スル傾アル為此ノ際  
蔡ノ死ノ事実ナル事ヲ認めシムル宣伝ニ努メ居レリ」トノ  
事ニテ当地支那紙カ連日絶間無シニ蔡ニ関スル宣伝記事ヲ  
掲ケ居ル事及蔡夫人自身カ上海ニ於テ各方面ニ運動シ同情  
ヲ求メ居ルコト南京政府側ノ差金ナリト思ハルル節アル処

蔡公時事件ハ往電第六一九号ニ依リ御察知ノ如ク当初ヨリ  
外国新聞通信例ヨリ絶ヘス質問ヲ受ケ居リタルカ五月十二  
日青島転電西田総領事代理発閣下宛電報第二〇六号接到セ  
ルニ付当館新聞記者係ヲシテ蔡カ済南ニ居リシハ事実ラシ  
キ事商埠地内ニ在ル交渉公署ヨリ盛ニ発砲シ巡邏中ノ我兵  
二名射殺セラレタルニ依リ我兵モ之ニ応戦シタル事実有ル  
事交渉員初メ南方官吏ハ軍服ト識別シ難キ正服<sup>(制カ)</sup>ヲ着シ護衛  
兵ヲ付シ居タル事及其ノ後蔡ノ消息不明ナル事等ヨリ推測  
シテ多分日支兵ノ戦鬪中ニ戦没シタルモノナルヘク勿論南  
方側ノ云フカ如キ耳ヲ殺ク等ノ残虐行為ハ絶対ニ有リ得ヘ  
カラストノ趣旨ヲ以テ応酬セシメ置キタリ為念  
天津、青島、済南、上海、南京へ転電セリ

357 昭和3年5月22日 在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡公時の交渉員任命に関しては何等正式通知  
に接せざることについて

済南 発  
本省 5月22日後着

本二十一日ノ各支那紙ハ国民政府ハ熊秘書ヲ特派シテ遺族  
ニ一千元ノ宥恤金ヲ給スル旨ノ公文ナルモノヲ発表シ尚南  
京ニ二十日蔡公時殉難大会ヲ開キ李烈鈞以下各会代表二百  
余名出席政府代表其ノ他ヨリ蔡ノ亡魂ヲ慰ムル為復仇スル  
ノ準備ヲ為ササルヘカラスト演説シ満場異常ニ緊張セリト  
ノ旨特報シ居レリ右様ノ次第ニテ蔡事件ノ真相ハナルヘク  
詳細ニ内外ニ発表乃至説明シタキ処本日接受ノ済南発閣  
下宛電報第二四八号ノ要領ニテ発表説明差支無キヤ青島発  
閣下宛電報第三五五号ノ次第モアリ為念電請ス<sup>(三五〇文書)</sup>  
北京、天津、青島、済南、芝罘、漢口、南京、厦門、汕  
頭、福州、広東、奉天ニ転電セリ

356 昭和3年5月22日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡交涉員殺害事件に関する説明振りについて

北京 発  
本省 5月22日前着

第七〇六号

藤田総領事発外務大臣宛電報第三五五号ニ関シ<sup>(三五〇文書)</sup>

第二七一号  
貴電合第一七三号ニ関シ  
蔡公時ノ交渉員任命又ハ就職等ハ何等正式ノ通知モ挨拶モ  
受ケ居ラス唯往電第一九三号（二）ノ通五月三日午前十時頃  
本官カ南軍総司令部ニ蔣介石ト会見シタル節蔣介石カ本官  
ニ対シ蔡公時ヲ済南交渉員ニ任命セリト語リタルコトアル  
ノミナリ  
北京、青島、天津、奉天、上海、南京、漢口、広東、福  
州、厦門へ転電セリ

358 昭和3年5月23日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡公時の赴任に関する公文通知について

上海 発  
本省 5月23日前着

第三四三号

貴電合第一七三号ニ関シ

蔡公時カ交渉員ニ任命サレタル事ハ何等通知ニ接セサル処  
同人カ特派戦地政務委員会外交署主任ニ任セラレ戦地地方

ニ赴任シタル旨公文通告有リタルハ既報（四月二十三日往電第二四七号）ノ通ナリ  
在支公使、濟南、青島、天津へ転電セリ

359 昭和3年5月25日 在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉への対策について

青島 本省 5月25日後着

第三六八号（至急）

濟南事件ニ伴フ軍事行動モ今後南軍側ニ於テ新ニ敵対行動ヲ執ラサル限リ既ニ一段落ヲ告ケタルモノト観ル可ク從テ濟南事件ノ解決ハ軍事機關ヲ離レ主トシテ外交機關ノ交渉ニ移ル可キモノト考ヘラルル処此ノ際先ツ考慮ヲ要スヘキハ本件解決ノ衝ニ当ル可キ交渉ノ相手方ト時期トノ問題並之ニ伴フ我方ノ対策問題ナリ我方トシテハ濟南事件ノ主ナル責任者ニシテ良ク日本ヲ諒解シ且周囲ニ多クノ日本通ヲ控ユル蔣介石ヲ以テ相手方トスルコト当然ニシテ最モ望マシキ次第ナルモ蔣現在ノ地位ト将来ノ立場トヲ一考スル必

カ如シ就テハ先方ノ出様如何ニ依リテハ此ノ際敢テ我方ヨリ進ンテ本件解決ヲ焦慮スルノ要ナク機会ノ到来ヲ俟ツコトトシ且相手方ノ最悪ナル場合ヲ予期シ他日交渉ノ際我方ノ主張貫徹ニ必要ナル用意ヲ為シ置キ相手方出現ノ場合与フヘキハ与ヘ取ルヘキハ取ル方針ニテ善後措置ヲ講シ今後ノ交渉ニ備フルコト得策ナラムカト思考ス而シテ当方面ノ善後措置トシテハ

一、出兵ノ目的ニ関シ内外人ノ疑惑ヲ招クカ如キ行動ヲ絶對ニ避クヘキコト

二、濟南ニ於テハ現在ノ如ク支那側ノ有力団体ヲシテ自治セシメ唯警備其ノ他ニ関シ力ノ及ハサル場合表面ハ彼等ノ懇願黙視シ難ク已ムヲ得サルニ出テタル形式ヲ整ヘ我軍ニ於テ之ヲ援助指導スルニ止ムルト同時ニ軍閥ノ圧迫ヨリ脱セシメ民力ヲ休養セシムルニ努メ不当課税ノ如キ此ノ際一律ニ之ヲ全廢シテ支那人ニ我方ノ德ヲ謳歌セシムルコト

三、膠濟鐵道ハ現在ノ儘トシ唯交通確保ノ必要上日本支持ノ下ニ支那護路隊ヲシテ警備ニ當ラシムルコト

四、北軍何日迄モ青島方面ニ駐在スルコトハ南軍ヲシテ日

要無キヤ目下蔣ノ威令ハ部下ニ徹底セス且其ノ部下ハ寄合世帯ニシテ単ニ北伐ノ美名ノ下ニ蔣ト行動ヲ共ニセルニ過キス何時決裂起ルヤモ計リ難ク殊ニ今回ノ濟南事件ハ蔣ノ立場ニ致命傷ヲ与ヘ北伐ノ遂行寬東ナク北伐完成ニ先立チ蔣ノ失脚スルコト無キヲ保シ難ク又仮ニ北伐成功セリトスルモ北京ニ先鞭ヲ付クル者ハ恐ラク馮玉祥ナル可ク馮一度北京ニ乘込マハ其ノ味方ニシテ旧縁ヲ有スル王正廷、黃郛、李烈鈞、崔士傑、于右仁等ハ蔣ヲ見放シテ悉ク馮ノ傘下ニ馳セ參スヘク又其ノ機会ニ予テヨリ南京ヲ狙ヘル李宗仁ノ進出モ想像シ得ラレサルニ非スシテ蔣ハ將ニ腹背ニ敵ヲ受クルノ難境ニ立テルヤノ觀アリ從テ我方トシテハ此ノ際我方ニ最モ都合好キ蔣ノミヲ當ニセス或ハ他日馮ノ如キ日本ニ不利益ナル人物ヲ交渉相手トシ其ノ他最悪ノ場合アルコトヲ考慮ニ入レ之ニ善処スヘキ用意ヲ為シ置クコト必要ナラント思考セラル

又濟南事件ノ急速解決ハ我方ノ固ヨリ望ム処ナルモ蔣一派ノモノハ既ニ北伐ノ成功ヲ夢ミ北京占領後濟南事件ノ交渉ヲ開始セム意向アルヤニ伝ヘラレ又交渉ヲ急カサル方却テ支那側ニ有利ナリト観ルモノモアリテ交渉ノ開始手間取ル

本側ノ態度ヲ疑ハシムル虞アルヲ以テ之ヲ青島以外ニ移駐セシムルコト可ナルカ如キモ青島ノ現狀ニ顧ミ寧ロ祝軍（三千人）ヲシテ適當ノ機会ヲ見保安隊ニ改編セシメ

（当地ニ於テハ支那側ニ行政移管直後保安隊組織セラレ保安司令ヲ任命シテ専ラ治安維持ノ任ニ當ラシメ之ニ要スル武器ハ我方ヨリ供給セリ其ノ後保安司令ノ辭職ト同時ニ保安隊ハ警察庁ニ隸屬シ次テ之ヲ巡警制度ニ改編セリ陸軍ハ大正十四年十月渤海艦隊謀叛事件鎮圧ノ為畢庶澄濟南ヨリ手兵ヲ率ヒ來青セルヲ動機トシ始メテ駐兵ノ端ヲ開ケルモ支那側カ当地ニ軍隊ヲ駐屯セシメス警察保安隊ヲシテ治安ヲ維持セシムル意向ナリシ事ハ華盛頓條約細目協定ニ関スル議事録ニ付明白ナリ）青島一帯ノ治安維持ニ當ラシメ其ノ力ノ足ラサル処ヲ我軍ニ於テ援助スル事ト為ス事

五、濟南事件ニ鑑ミ在留民保護ノ必要上陸軍側声明ノ通濟南並膠濟鐵路沿線ノ何哩カラ限リ南北兩軍ヲ駐屯セシメサル事

六、濟南事件解決ヲ見ル迄ハ這次不祥事件勃発ノ為山東一帯内外人心ノ不安動揺甚シク在留民ノ保護延テ交通確保

ノ必要切実ナルモノアリ此ノ理由ノ下ニ濟南、膠濟鐵路沿線及青島ヲ事実上ノ自由地帯トシ南北兩軍ノ政治圏外ニ置ク可キ事此ノ点ニ関シ南軍ハ山東交渉員、膠濟鐵路局長其ノ他戦地政務委員等ノ文官ヲ任命シ濟南一帯ニ乘込マシムル計画ナルカニ予見シ得ルモ是等文官ノ入込ハ之ヲ既往ノ事実ニ徴シ惡宣伝、謠言等ノ流布、「ストライキ」ノ誘発、便衣隊ノ使喚等ニ依テ土匪軍以上ノ実害ヲ醸シ事端ヲ繁クシ我方ニ百害アリテ一利無キヲ以テ絶對ニ之ヲ寄付ケサル事

七、<sup>(4)</sup>今後駐屯ノ兵數ハ在留民保護ニ必要ナル最少限度ニ止メ其ノ他ハ適當ノ機會ニ他地方ニ移動セシメ唯必要ノ場合變ニ応シ即時出動シ得ル手筈ヲ為シ置クコト

八、將來ノ為必要ナリト信セラルル山東方面ノ諸政策殊ニ華府會議ニ於テ列強モ認メタル我方獲得ノ權利ニシテ支那側ノ未タ履行シ居ラサルモノ仮ヘハ外国人施政<sup>(市カ)</sup>参与制度ノ如キハ此ノ際自治機關ヲシテ之ヲ実施セシムルコト差当リ必要カト思考ス大体右ノ方針ニテ当方面ノ時局ニ善処シ今後形勢ノ推移如何ニ依リテハ單ニ濟南事件其ノ他ヲモ併セ總決算ヲ為スタケノ決心ト用意トヲ為シ置ク

タリ

三月二十四日南軍カ南京ニ入ルヤ共產系ノ軍隊ハ日本領事館ヲ襲ヒ領事以下館員及日本居留民ニ忍フヘカラサル侮辱ヲ与ヘ傷害ヲ加ヘ且ツ領事館其ノ他居留民ノ家屋殆ント全部ヲ一物モ残ササル程度ニ掠奪シ其ノ他各国領事及居留民等ニ対シテモ同様若ハ以上ノ残虐ヲ擅ニシ英米軍艦ヨリハ自衛上砲撃スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

四月三日漢口日本租界ニ於テハ共產党分子ノ煽動ニ依リ予テ事端ノ誘発ニ力メ居リタル暴民ノ一団ハ事ヲ構ヘテ上陸中ノ一水兵ヲ侮辱毆打シタルヲ手初メニ日本人ノ店舗ヲ襲ヒ通行人ニ危害ヲ加ヘ事態收拾スヘカラサルニ至リシ為同租界ノ日本人二千五百名ノ大部分ハ上海日本方面ニ引揚ケ、重慶、宜昌、沙市、長沙、蕪湖、九江等、長江一帯ノ在留民モ亦南京漢口事件ニ顧ミ相繼イテ引揚ケヲ開始セリ

十二月十一日広東ニ於テ共產党系支那軍隊ト非共產党系支那軍隊トノ間ニ起リタル争鬪ハ十三日迄継続セラレ幸ニ居留地ニ在リタル外国人ニハ被害ナカリシモ彼等ノ間ニ於ケル争鬪ノ慘酷ニシテ掠奪虐殺（女子ニ対スルモノ

事モ必要カト察セラル御参考迄卑見申進ス  
在支公使、濟南、上海、南京、漢口、天津ニ転電セリ

360 昭和3年5月28日 外務省公表

濟南事件に關シ國際連盟へ提出の説明書（公表）

付記 蔡交涉員殺害事件の説明振りに関する在外公館への訓電案要旨

公表第六号

外務省

帝國政府ハ濟南ニ於ケル日支兩國軍隊衝突ノ事情ニ関シ別紙文書ヲ國際連盟加盟諸國ノ参考トシテ五月二十八日壽府連盟事務局ニ提出シタ

（別紙）

濟南ニ於ケル日支兩國軍隊衝突事情

一、昨年一月三日過激分子ノ為煽動セラレタル支那暴民ハ大華シテ漢口英國租界ニ迫リ英國側ノ防止ヲ冒シテ之ヲ占領シ同月六日九江英國租界ニ於テ同様ノ暴狀繰返サレ

ヲ含ム）ノ甚シカリシコト殆ント筆紙ニ尽スヘカラサルモノ有リタリ事件後モ所謂共產黨員ナルモノノ撲滅行ハレ日々二百名内外ノ檢挙ヲ見タルカ是等ハ市内三箇所ノ臨時刑場ニ於テ何等ノ形式ヲモ用ヒス銃刑ニ処シ其ノ數二千五百名ニ達シタリト稱セラレ

二、右ハ單ニ昨年中ニ於ケル最モ顯著ナル數例ヲ示セルニ過キサルモ最近支那ニ於ケル狀勢ハ概ネ此ノ如キモノ有リ第一次革命以來内乱ニ繼クニ内乱ヲ以テセル為治安ノ維持困難ヲ来シツツアリシ支那ハ兩三年来共產党ノ活動ニ依リテ一般ノ治安一層乱レ今ヤ在留外国人ノ生命財産ハ支那官憲ノ保護ニノミ信賴シ得サル狀況ニ在ルヲ以テ支那ト接壤シ複雑セル利害關係ト多數ノ居留民トヲ支那ニ有スル日本トシテハ場合ニ依リテハ自力ヲ以テ現地ニ於テ其ノ居留民ト既得ノ權利トヲ擁護セサルヘカラサルハ誠ニ已ムヲ得サル所ナリ

三、最近蔣介石ノ率イル南軍カ南京ヨリ北進シテ濟南ニ向ハムトスルヤ日本カ濟南在留二千ノ居留民保護ノ為同地ニ派兵シタルハ上記ノ如キ支那ノ実狀ニ照ラシ已ムヲ得サル自衛ノ措置タルコト言フ迄モ無シ然ルニ右派兵ニ拘

ラス南軍兵士カ日本人ノ家屋ヲ掠奪セルニ端ヲ発シ同地ニ在リシ南軍ハ日本派遣軍及居留民ヲ随所ニ攻撃シ日本居留民十数人（女子ヲ含ム）ヲ虐殺シ百余戸ヲ掠奪シタル為日本軍トシテ居留民保護ノ為実力ヲ行使スルノ余儀無キニ至リタルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ

世上日本カ濟南ニ軍隊ヲ派遣セサリシナラハ今次ノ不祥事起ラサリシナルヘント觀察スル者ナキニアラサルモ軍隊ノ駐派ナカリシ漢口ニ於テ又南京ニ於テ上述セルカ如キ事件ノ發生シタリシコトヲ思ヘハ右ノ觀察ノ誤レルコトハ明カナリ

四、今次軍隊ノ派遣カ居留民ノ生命財産保護ノ目的ニ外ナラスシテ南北兩軍ノ何レニ對シテモ其ノ軍事行動ニ干渉スルモノニ非ス又其ノ必要止ムニ至ラハ直ニ撤兵スヘキコトハ派兵ノ当初日本政府ノ声明シタル所ニシテ昨年濟南ニ同様ノ状況發生セルニ當リ同年六月日本政府ハ居留民保護ノ為同地方ニ派兵シタルカ其ノ必要止ムト同時ニ九月八日ヲ以テ全部ノ撤兵ヲ実行シタリ

五、濟南事件ノ概要ハ左ノ如シ

(イ)四月下旬ヨリ五月二日ニ亘リ濟南ニ到着セル日本派遣

共ニ南軍ノ商埠地外驅追及武装解除ニ努力シ一方日本領事ハ數回危険ヲ冒シテ支那側ト連絡ヲ取り停戦ニ尽力セシモ蔣介石ノ威令行ハレサル為カ支那兵ハ依然発砲ヲ続ケタル為漸ク五日午後ニ至リ停戦ヲ見ルヲ得タリ

(ニ)然ルニ當時濟南城內ニハ尚四千ノ支那軍隊殘留セルノミナラス付近ニ在リシ支那軍隊ハ其ノ數数万ニ上リ商埠地ノ四囲ニ塹壕ヲ裝置シ又付近高地ニハ濟南ニ嚮ク砲列ヲ布クルモノアリ斯ル陣容ノ下ニ戦闘再開ニ立到ラハ日本軍及居留民ハ極メテ危険ナルヘキ地位ニ置カレタリシヲ以テ居留民保護ノ任務ヲ有スル日本軍ニ於テハ此等武装支那兵ヲ濟南及山東鐵道沿線ヨリ遲滞ナク退去セシムルコトヲ以テ絶対必要ナリトシ七日午後四時日本側師団參謀長ハ支那側ニ對シ支那軍ノ濟南及山東鐵道ノ周圍二十支里（約七哩）外撤去及日本軍及居留民ニ危害ヲ加ヘタル支那軍隊ノ武装解除及其ノ幹部ノ処罰ヲ要求シ且十二時間以内ニ之ニ對シ回答ヲ為スヘキコトヲ要求シタリ然ルニ支那側ハ之ヲ承諾セサルノミナラス其ノ軍隊ノ態度愈々險惡ナルモノアリタ

軍ハ邦人居住ノ主要箇所タル商埠地ノ約八割ヲ警備地域ト定メ其ノ内ノ二箇所ニ防備設備ヲ施シ置キタルカ一方四月三十日北軍ノ濟南撤退ニ次テ五月一日ヨリ南軍統々入濟シ二日ニハ商埠地及城內ニ駐屯セル支那兵其ノ數七万ヲ超エタリ二日入濟ノ南軍總司令蔣介石ハ日本師団長ニ對シ南軍ニ於テ絶対ニ治安ヲ維持スヘキヲ以テ日本軍ハ速ニ撤退セラレ度キコト及前記防備設備ハ之ヲ撤去セラレ度キ旨申出テタルヲ以テ日本軍ハ五月二日夜ヨリ右防備ヲ撤去シ一旦安全地帯ニ引揚居リシ日本居留民中ニモ帰宅スルモノアリタリ

(ロ)五月三日午前九時半日本人吉房長平方南軍正規兵ノ為掠奪セラレタルヲ以テ一中尉ノ率イル約三十名ノ日本兵現場ニ急行シタルニ右支那兵等ハ付近ノ支那兵營ニ遁入之ヨリ発砲シ日本兵若干名ヲ負傷セシメタルヲ以テ日本兵ハ之ニ応射シタリ右衝突開始スルヤ當時濟南市中ニ充滿シ居リタル南軍ハ殆ント同時ニ隨処ニ日本軍ニ発砲シ日本居留民ヲ虐殺シ日本人家屋ヲ掠奪シ初メタリ

(ハ)是ニ於テカ日本軍ハ日本居留民ノ收容保護ニカムルト

ルヲ以テ日本軍ハ八日ヨリ其ノ掃蕩ニ着手シ翌九日ニ亘リ漸次濟南周圍ノ支那軍ヲ略二十支里外ニ驅逐セリ

(ホ)一方濟南城內ニ殘留セル支那軍隊ハ便衣隊ヲ交ヘテ日本軍及山東鐵道列車ニ向ヒ発砲シツツアリタルヲ以テ日本軍ハ八日午後平和手段ニテ之ヲ武装解除セムトセルモ該軍隊ハ之ヲ肯セス依リテ九日早朝城內督軍公署、道尹公署、城壁等支那兵根拠地ヲ目標トシテ砲撃シ同時ニ凡ユル手段ヲ以テ其ノ脱出ヲ誘導シタル結果十一日早朝ニ至リ支那兵ノ大部分ハ便服ニ着換ヘテ城內ヨリ脱出シ斯クシテ便衣隊ノ潜在セルヲ除キ支那軍隊ハ濟南及其ノ周圍二十支里以外ニ擊攘セラレタリ

(ニ)五月十五日迄ニ判明セル所ニ依ルニ本事件中日本居留民ノ支那兵ノ為受ケタル被害ハ殺害セラレタル者十四名ニシテ其ノ多數（女ヲ含ム）ハ最モ殘虐ナル行為ヲ加ヘラレ殆ント見ルニ忍ヒサルモノアリ其ノ他負傷者十五名ノ外公衆ノ面前ニテ極端ナル侮辱ヲ加ヘラレタル男女アリ尚掠奪セラレタル戸數百三十一戸ニ達ス

(ト)支那側ニ依リ広ク世界ニ宣伝セラルル山東交渉員蔡公時及交渉署員ノ虐殺ナル報道ニ関シテハ五月三日事件

勃発ト共ニ支那兵及便衣隊ハ随所ノ建物ニ抛リテ日本軍民ノ区別ナク乱射シ交渉公署（当時此ノ方面ノ日本兵ハ其ノ交渉公署タルヲ知ラス）内ヨリノ射撃ニ依リテモ日本兵二名戦死シタルヲ以テ同日夕日本軍ノ一部ノカ搜索ニ赴キタルニ此ノ内部ニ潜在セシ者十数名矢庭ニ射撃ヲ開始シタルヲ以テ日本兵已ムヲ得ス応戦シテ之ヲ斃シタル事実アルカ果シテ蔡カ此ノ中ニ在リシヤ否ヤ判明セス孰レニセヨ日本軍ハ無抵抗ノ市民ヲ殺害シタルカ如キコトナク況ンヤ耳ヲ切り鼻ヲ削クト言フニ至ツテハ日本人ノ性質慣習上断シテ為シ能ハサル所ナリ

六、済南事件ノ経過ヲ通シテ左記諸点ハ特ニ注意ノ要アリ

- (イ) 事件ハ南軍兵士カ日本居留民ノ家屋ヲ掠奪シ且之カ救護ニ赴ケル日本兵ヲ射撃セルニ端ヲ発セルコト
- (ロ) 事件前南軍幹部ハ繰返シ治安維持ノ責ニ任スヘキ旨ヲ述ヘ日本軍ノ防備撤去ヲ要求シ来リ日本軍ハ事件突発ノ前夜之ヲ撤去シ又一旦安全地帯ニ引揚居リシ居留民中ニモ帰宅セルモノアリシコト
- (ハ) 事件カ右防備撤去ノ直後発生シタルコト其ノ発端ト時

警戒ハ当然ナリシコト

（付記）

蔡公時事件ニ関スル在外公館ヘノ訓電案要旨

（欄外記入）  
蔡公時ノ件ニ関シ外部ニ対シ説明ノ必要アル場合ハ大体左ノ趣旨ニ依リ説明セラレ度尚（一）日本軍ハ支那兵及便衣隊カ建物ノ掩護ニヨリ乱射セル為甚シク困難ナル状況ノ下ニ市街戦ニ従事セルコト（二）南軍文官ハ其ノ服装武官ノ夫レニ酷似シ且護衛兵ヲ伴ヘルコト等適宜付言セラレ度シ

五月三日事件勃発ト共ニ支那兵及便衣隊ハ日本軍民ノ区別ナク随所ノ建物ニ抛リテ乱射シ交渉公署ヨリノ射撃ニ依リテモ我兵二名戦死シタルヲ以テ同日夕刻我軍ノ一部ノカ搜索ニ赴キタルニ署内ニ潜在セシ者十数名矢庭ニ射撃ヲ開始シタルニヨリ我兵ハ止ムヲ得ス応戦シテ之ヲ倒シタル事実アルモ果シテ蔡カ此中ニ在リシヤ否ヤ分明セ

ス孰レニセヨ我軍ハ無抵抗ノ市民ヲ殺害シタル如キコトナク況ンヤ鼻ヲ削リ耳ヲ切ルカ如キ惨虐ハ日本人ノ性質慣習上断シテ為シ得ル所ニアラス

（欄外記入） 五月二十五日協議ノ為陸軍ヘ送付ノモノ二十

ヲ同シクシテ各方面ノ支那兵一斉ニ日本軍ヲ攻撃シ居留民ニ対スル迫害掠奪ヲ開始シタルコト此等迫害掠奪ノ目的カ殆ント日本人ニ限ラレシコト等ノ諸事情ニ徴シ本事件ハ支那側少クトモ下級者間ニ於テ計画的ニ行ヒタルノ印象ヲ与ヘタルコト

- (ニ) 日本側ハ屢次困難ヲ冒シテ支那側ト連絡ヲ取り停戦ヲ協議セルモ其ノ都度支那側ノ命令徹底セサル為戦闘続行ノ止ムナカリシコト
- (ハ) 支那兵ハ便衣隊ヲ交ヘ随所ノ家屋ノ掩護ニ依リ乱射シタル為日本軍ハ最モ困難ナル状況ノ下ニ市街戦ニ従事セルコト
- (ヘ) 事件発生直後支那兵カ日本居留民男女ニ加ヘタル蛮行ハ其ノ残虐言フニ忍ヒサル程度ノモノアリシコト
- (ト) 七日第六師団長ノ為シタル要求ハ十二時間ノ期限ヲ付シ殆ント南軍側ニ於テ熟慮回答ノ余裕無カリシコトヲ非難スルモノアルモ当時ノ状況ハ極メテ逼迫シ第六師団長ハ若シ時日ヲ遷延スルニ於テハ南軍ノ詭計ニ罹リ居留民ハ勿論軍隊自身モ非常ナル危険状態ニ陥ルノ虞アリト信シタルモノニシテ支那側従来ノ不信ニ鑑ミ右

六日根本少佐ヨリ宇佐美事務官宛同意シ来レリ

361 昭和3年6月(1)日 在中国芳沢公使より 田中外交大臣宛(電報)

ランブソン英公使済南事件に關し日本に理解ある態度表明について

北京 本省 6月1日前着

第七七七号

五月三十一日英国公使ハ本使ト会谈中済南英国領事ヨリ済南事件ニ関シ極メテ詳細ナル報告ニ接セル処右ニ依レハ五月三日事件発生二日前南軍ハ既ニ掠奪シタル事実アリ三日ノ事件ニ於ケル日本軍ノ行動ハ一々尤モニシテ又福田師団長カ蔣介石側トノ意思疏通ヲ計ルコトヲ非常ニ希望シタルハ現ニ同師団長カ西田総領事代理及蔣介石等ト会食スルコトトナリ居タル事実ニ依ルモ明ニシテ又以テ日本軍カ如何ニ南軍ノ暴挙ヲ予期セサリシカヲ証スルニ足ルヘク其ノ後済南城ノ砲撃ニ付テモ日本軍ノ行動ハ賞讃ニ値スヘク殊ニ

不必要ナル砲撃ヲ避ケテ支那人ニ対スル損害ヲ成ルヘク少クスルコトニ努力シ且射撃ノ非常ニ正確ナリシコトハ驚クヘキモノアリ例ノ交渉員虐殺ノ件モ交渉員カ平服ヲ著セスシテ軍服ヲ著シ居タルト思ハルル故或ハ殺サレタリトスルモ致方ナシトノ趣旨ニテ非常ニ日本軍ノ行動ニ対シ好意的意見ヲ表示シ居ルカ唯山東病院ノ患者斃殺事件ノミハ不明ナリト報告シ越セル旨内話セリ  
済南、青島へ転電セリ

362 昭和3年6月(1)日 在南京岡本領事より 田中外務大臣宛(電報)

済南事件要求条件緩和に関する情報および松井中将の済南行について

南京 発  
本省 6月1日前着

第一六六号

曩ニ我新聞紙上政府ハ済南事件ニ関シ蔣介石自身ノ謝罪ヲ要求スト報セラレタル際袁良ヨリスノ如キハ到底不可能ニ属スルヲ以テ何等カ緩和ヲ方政府ニ申送ラレ度シト依頼シ来

内帰還ヲ懲憑シオリタル何應欽ヨリ左ノ通 出アリタリ

代表派遣方ニ付テハ種々苦心シ居ル次第ナルカ何人モ代表タルヲ欲セサルニハ各種ノ理由アルモ其ノ主ナルモノハ師団長要求ノ範圍如何ナルモノヤ全然不明ナル点ニアリ伝ヘラルルカ如ク賀耀組、方振武、陳調元等ヲ極刑ニ処スヘシトカ或ハ前記三軍長部下ノ武装解除ヲ為スヘシト云フカ如キ峻烈ナルモノナレハ到底之ヲ応諾シ得ス他方田中首相、松井部長ハ我代表ヲ通シ師団長要求ハ緩和セシムヘシト累次伝ヘラレ居ルモ其ノ緩和ノ程度判明セサルニ付代表派遣ニ先立チ国民政府ノ態度ヲ決シ得サル次第ナリ依テ松井中将モ来済セル事ニモアリ此ノ際要求条項特ニ第一、第二ノ範圍ニ付大体ニテモ承知スルヲ得ハ甚タシク嫌悪シ居ルモ説得シテ河南ニ於ケル蔣作賓及総司令部康中将等ヲ代表トシテ派遣スヘシ云々

松井中将ノ渡来カ本件ニ関スル善後処置ノ為ナルヤ否ヤハ承知セサルモ累次電請シタル通り李烈鈞外政府要路ヨリ申出ノ次第モアリ御差支無キ限り小官含ミ迄ナリトモ本件ニ関スル御方針御見込御回示ヲ得タシ  
公使、天津、済南、青島、上海、漢口ニ転電セリ

リタルモ本官ハ右ハ寧ロ当然ナリシモ体好ク断ハリタル処袁良ハ恰モ来寧セル東亜鉱業内田ニ対シ更ニ斡旋方ヲ求メタル趣内田ヨリ聞及ヒタルカ最近東亜本社ヨリ在九江内田ニ対シ「佐藤(首相)ノ對支外交顧問ト伝ヘラルル代議士佐藤ナルヘシ」ハ軍事要求ハ師団長ノ独断ニ出テ閣議ニ関係ナシ蔣介石ヨリ正式テナク氣ノ毒テアツタ位ノ申出テアラハ円ク収マルヘシト云ヘル」旨電報シ来リ右ノ趣袁良ニ伝言方内田ヨリ本官ニ依頼シ来レリ

斯ノ如キコトヲ輕々ニ本官ヨリ外交当局ニ伝フルヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ何等ノ処置ヲ執ラサリシ次第ナルカ福田師団長要求ノ是非ハ別トシ既ニ之ヲ支那側ニ提出シタル後或ハ政府ハ之ニ関知セストカ又ハ条件ヲ緩和セシムトカ伝ヘラレナハサラテタニ困難ナル本件解決ヲ一層困難ナラシメ師団長ノ地位ハ頗ル「オークワード」ノモノトナルヘキハ云フ迄モナク見方ニ依レハ支那側ニ於テ故意ニ遷延放置ノ策ニ出テ居ルモノト考ヘラレサルニ非ス本件軍事要求ノ前途甚タ憂フヘキモノアリト思料セラレタル次第ナルカ最近松井中将ノ来訪ニ依リ支那側ニ於テモ何等ノ望ヲ抱クニ至リタルカ如ク曩ニ屢々公私兩用ノ資格ニ於テ本官ノ城

上海ヨリ広東ニ御転電ヲ請フ

363 昭和3年6月(3)日 在済南西田總領事代理より 田中外務大臣宛(電報)

済南の治安状況に関する英・米・独各国領事の見解について

済南 発  
本省 6月3日前着

第三〇六号

本官ハ過般来累次当地英米独ノ三国領事ト会见セシ際済南ノ治安善後問題ニ関シ断片的ニ語レル是等領事ノ意見ヲ綜合スルニ左ノ通

(一) 英国領事ハ日本ノ済南出兵居留民ノ現地保護ノ必要ハ今回ノ事変ニ鑑ミ全然同感ヲ為シ居ルモノニシテ日本軍カ時局安定セサル中ニ済南ヨリ撤退セハ在留民モ之ニ從テ引揚クルノ外自分ノ如キモ其ノ場合ニハ引揚ヲ実行スル外安全ヲ期シ難シト

(二) 米國領事ハ米國トシテハ上海天津等ニ於テ居留民ノ現地保護ヲ行ヒ済南ノ如キ少数居留民有ル場所ニ対シテハ之

ヲ安全地ニ引揚ケシムル方針ヲ執リ居ルモ今回ハ日本ノ出兵ニ頼リ当地ノ米人ハ自分等トモ其ノ半数ハ濟南ニ居残リタリ蔣介石ハ一般外国人ノ保護ヲ四月十五日上海ニ於テ声明シ居ルニ拘ラス其ノ翌十六日ニ一米人宣教師「シーモア」ハ濟寧ニ於テ同シク二十九日一米人「ホバート」夫人ハ泰安ニテ各南軍ノ為ニ射殺サレタル事實アリ南軍ノ声明ノ信用無キヲ如実ニ説明セリ多数ノ居留民ヲ有スル日本カ濟南ニ出兵セルハ無理ナラヌ次第ニシテ事變ノ發生セシニ徴シ一層其ノ有効ナリシヲ感セリ最近当地津浦線駅付近ニ在ル南軍「ポスター」ニ宣教師カ椅子ニ坐シ聖書ヲ兩足ニテ踏ミ其ノ下ニ数名ノ支那人カ圧迫セラレ右支那人ヨリノ血ヲ「パイプ」ニテ宣教師カ吸ヒ居レル繪ノ如キハ明カニ排外的思想ヲ高唱セルモノニシテ共產主義ヲ宣伝セルモノナリ有ノ儘ニ言ヘハ日本カ永久ニ濟南駐兵ヲ為スハ対内外ノ情勢モアリ如何カト思ハルルモ政情ノ安定セサル限り撤兵ハ当分出来サルヘシ若シ日本カ直ニ撤兵スルカ如キアラハ自分如キモ一時引揚クルノ外無シト思フ濟南ノ外人生命財産ノ安全保障問題ニ関シ私見トシテハ濟南ノ如キ自由市トシテ地方治安

364 昭和3年6月3日

谷（寿夫）第三師団參謀長より  
南參謀次長宛（電報）

濟南事件交渉に際し軍の威信貫徹の必要につ

いて

付記 六月二日付第三師団司令部付磯谷（廉介）

中佐意見書

「山東善後方案」

6月3日後0時10分発

6月3日後4時40分着

（6月5日外務省写接受）

三参第七八号（極秘）

鉄道沿線ノ北軍ハ第三師団長ノ要望ニ依リ二十支里外撤退中ニシテ此間我カ居留民ノ保護ノ目的モ差当リ達成シアル情况ナルモ濟南事件ニ対スル軍ノ行動不徹底ナリシト爾後ノ軍事交渉カ蔣ニ対スル政府ノ態度軟弱ナルカ為反テ彼等ヲ中心トスル不良分子ノ利用スル処トナリ現ニ泰安、兗州付近ヲ根拠トシ排日宣伝ヲ続ケ又鉄道沿線各地ヘ南方分子ヲ入込マシメ将来ノ地歩ヲ獲得セントシツツアル等一般ノ不安ハ更ニ除去セラルルニ至ラス此際政府ハ出兵ノ意義ヲ

問題ハ南北兩政府ノ干渉ヲ受ケサルヲ理想トスルモ夫ハ  
實現困難ノ問題ニシテ結局ハ（一）濟南商埠地ニ共同市政  
部ヲ設ケ商埠内ノ支那人及各国人ヨリ議員ヲ選出シ又ハ委  
員ヲ擧ケテ市政ニ参与セシメ（二）商埠地ノ警察、道路及衛  
生ノ諸政ヲ執リ（三）支那ノ政局ニ影響セラレサル組織即チ  
「ロースアンゼルス」市ノ如キ市政ト為サハ好都合ナリト  
語レリ

（三）独逸領事ハ支那ニ対シ治外法権無キニ付商埠地ニ於テハ  
諸外国人ト共同シテ自国民ノ安全ヲ期シ度キモ武力ノ  
「バック」無キ為飽迄モ支那側ト協議シテ此ノ儘濟南ニ  
住ムコトハ考慮シツツ居レリ云々

以上各領事共支那ノ政局ニ於テハ支那側ニ其ノ生命財産ノ  
保全ヲ期シ得ス現在ニ於テハ日本軍ニ期待シ居ルコトニ一  
致シ居レリ

在支公使、青島、天津、奉天、哈爾濱、上海、漢口、広  
東、福州、南京、厦門、芝罘ニ転電セリ

（欄外記入）米領事ノ意見ハ恒久的施設トシテニアラズ応急  
施設トシテノ思付ニスギザルモノノ如シ

明ラカニスルト共ニ派遣軍撤退後ニ於ケル山東政權ノ指導  
ヲ適當ニシテ我対支政策遂行ノ一大權威ヲラシメ始メテ  
濟南ニ於ケル犠牲ノ償ヒト為スヲ得ヘシ山東出兵ハ今ヤ濟  
南事件解決ヲ以テ第一ノ目的トシ始メテ意義ヲナスモノナ  
ルヘク此解決ノ如何ニ依リ従来ノ我支那ニ於ケル權威ヲ挽  
回シ延イテ将来ノ問題ヲ有利ニ進捗セシメ得ルモノト信ス  
此際蔣ノ勢力ヲ過信シ之ニ恩ヲ施シ他ニ代償ヲ求メントス  
ルカ如キ政策ハ過去ノ事實ニ鑑ミ第二、第三ノ同一事件ヲ  
北支、滿蒙ニ迄導クニ過キスシテ今次出兵ノ意義ヲ没却セ  
シメ禍根ヲ将来ニ胎スモノニ等シ山東ノ現状ハ濟南事件ニ  
伴フ幾多ノ犠牲ト現下駐兵ノ威力トニ依リ目前居留民ノ安  
住ヲ見ツツアルモ濟南事件解決ノ方法如何ニ依リテハ将来  
幾多ノ不安ヲ残スコトトナルヘク此際特ニ注意ヲ要スヘキ  
コトトス

右ノ事實ニ鑑ミ左ノ主義ニ基キ山東問題解決ニ当ルヲ要ス  
一、濟南事件軍事解決ハ軍ノ威信ヲ絶対貫徹スヘク飽ク迄  
蔣介石ヲ対手トシ我ノ払ヒタル犠牲ヲ償ハシメ之ニ応セ  
サル場合ハ更ニ軍事行動ヲ以テ其根拠ヲ倒壊シ軍トシテ  
ハ過去ノ非礼ノ如キニ対シ断シテ耳ヲ藉サス一面南京政

府ニ対スル外交交渉ニ依リ過去ニ於ケル未解決問題ノ一  
律即決ヲ期ス

二、派遣軍ハ山東一帶居留民保護ノ外進テ済南事件交渉ノ  
後楯タラシムルヲ以テ任務トシ少クモ鉄道沿線地方ニ対  
スル勢力ノ浸潤ヲ防止スルト共ニ北方勢力ニ対シテハ地  
方自治ノ見地ヲ以テ之カ施政ヲ善導シ民意ニ反スル軍閥  
ノ跋扈ヲ排シ領事官憲ト協力シテ支那自体ヨリ現出スル  
正当ナル政權ノ擁護指導ヲ期ス

三、南方勢力ノ京津地方進出ヲ予期シ之ヲシテ各中南支ニ  
於ケル彼等ノ排外的無謀政治ヲ威圧スルニ必要ナル我威  
力ヲ山東ニ確保ス

四、将来ノ為済南事件解決ヲ以テ滿蒙問題ト我對支政策実  
行ニ對スル日本ノ一大威力タラシム

（付記）

山東善後方案

在青島

昭和三年六月二日 陸軍歩兵中佐 磯谷 廉介

青島並ニ膠濟鉄道沿線駐屯北軍ハ第三師団長ノ要望ノ如ク

中外ニ對シ意義ヲ有スヘク過去広東、南京、又ハ漢口事件  
ノ總決算ハ済南事件ノ解決並ニ山東勢權ノ将来ニ對スル日  
本ノ態度如何ニヨリテ始メテ有利ニ展開セシメ得ルノミナ  
ラス今日北支、滿蒙ニ迄侵入セル南方不良性空氣ノ排除ヲ  
モ之ニヨリテ始メテ實現シ得ルモノニシテ此際仮リニモ蔣  
ノ勢力ヲ過信シ之ニ恩ヲ与ヘテ他ニ求ムル所アラントスル  
カ如キニ於テハ広東事件ヲ不問ニシテ之ヲ南京ニ移シ之ヲ  
膺スニ緩ニシテ更ニ済南事件ヲ起シタル過去ノ実情ニ鑑ミ  
第二第三ノ同一事件ヲ京津、滿蒙ニ迄導クコトトナリ今次  
出兵ノ意義ヲ没却セシメ禍根ヲ残シテ将来滿蒙問題ニ對シ  
更ニ幾層倍ノ犠牲ヲ払ハサルヘカラサルニ到ルヘキコトヲ  
覚悟セサルヘカラス

山東ノ現情ハ曩ニ済南事件ニ伴フ多大ノ犠牲ト現下駐兵ノ  
威力トニヨリ目前居留民ノ安住ヲ見ツアルモ済南事件解  
決ノ結果ト将来山東勢權ノ如何ヲ顧慮セハ尚幾多ノ不安ヲ  
包藏シアル次第ニテ将来滿蒙問題解決ニ對シテモ亦之カ重  
要ノ關係アルヘキヲ思ハサルヘカラス以上ノ卑見ニ基キ現  
下左ノ処置ニ出スルヲ適當ト思考ス

一、済南事件軍事解決ハ軍ノ威信ヲ絶対貫徹スヘク飽ク迄

同地点二十支里外ニ撤退スルコトトナリ目下逐次行動中ニ  
シテ此間同地区一帶ニ於ケル我居留民ノ保護ニ関シテモ差  
シ当リ考慮ヲ要セサルカ如キ情況ナルモ済南事件ニ對スル  
軍ノ行動不徹底ナリシト同時ニ爾後ノ軍事交渉ニ於テモ我  
ノ蔣ヲ中心トスル南方勢力ニ對スル態度兎角軟弱ニシテ單  
ニ事件ノ解決ヲ速カナラシメントスルカ如キ嫌アルハ又彼  
等南方不良分子ノ利用スル所トナリ泰安、兗州付近ヲ根拠  
トシテ排日宣傳ヲ続ケ又北軍ノ退避ニ乘シ沿線各地ニ南方  
分子ヲ入り込マシメ各種利權ヲ其ノ手ニ収ムルノ準備中ニ  
シテ一般ノ不安ハ更ニ除去セラルルニ至ラス此際我政府ハ  
派遣軍撤退後ニ於ケル山東勢權ノ如何ヲ顧慮シ今日ニ於テ  
之カ對策ヲ講スルコト頗ル緊要ニシテ徒ラニ蔣介石及ヒ其  
左右ノ者等現在並ニ将来ニ於テ南方ニ於ケル威力皆無ノ人  
物ノ言ノミヲ信シ南方勢力ノ真相ヲ誤リ又ハ済南事件ヲ一  
局地ノ出来事トシテ蔣一派ニ恩ヲ施シ之ニ直接關係無キ滿  
蒙問題解決ニ利用シ得ルモノト考フルカ如キ過去失敗ノ事  
例ヲ殘セルモノニ等シキ政策ハ大ニ戒メサルヘカラサルモ  
ノト信ス

山東出兵ハ今ヤ済南事件解決ヲ以テ第一ノ目的トシ始メテ

蔣介石ヲ相手トシ我ノ払ヒタル犠牲ヲ償ハシメ之ニ応セ  
サル場合更ニ軍事行動ヲ以テ其根拠ヲ倒壊シ軍トシテ彼  
ノ辞令ノ如キニ對シ断シテ耳ヲ貸サス一面南京政府ニ對  
シ外交交渉ニヨリ過去未解決問題ノ一律速決ヲ期ス

二、派遣軍ハ山東一帶居留民保護ノ外進テ済南事件交渉  
ノ後楯タラシムルヲ以テ任務トシ少クモ鉄道沿線地方ニ  
對スル南方勢力ノ浸潤ヲ防止スルト共ニ北方勢力ニ對シ  
テハ地方自治ノ見地ヲ以テ之カ施政ヲ善導シ民意ニ反ス  
ル軍閥ノ跋扈ヲ排シ領事官憲ト協力シテ支那自体ヨリ現  
出スル正当ナル政權ノ擁護指導ヲ期ス

三、南方勢力ノ京津地方進出ヲ予期シ之ヲシテ過去中南支  
ニ於ケル彼等ノ排外的橫暴政策ヲ抑圧スルニ必要ナル我  
威力ヲ山東ニ確保ス

四、将来ノ為済南事件解決ヲ以テ滿蒙問題等我對支政策実  
行ニ對スル帝國ノ一大威力タラシム

365

昭和3年6月(3)日

在済南西田總領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

済南事件の解決交渉は軍事外交一括して行う

第三〇八号

藤田総領事ヨリ

今回政府ニ於テハ濟南事件ニ関スル声明書ヲ國際連盟ニ送り同事件ノ顛末ヲ発表セラレ責任ノ帰屬ヲ宣明セラレタルニ付テハ事ノ順序トシテ此ノ際蔣介石側ニ対シ本件解決ニ必要ナル我方ノ要求ヲ提示シ本件交渉ノ端ヲ開カレ我方ノ決意ト態度等ヲ示サルルコト当然ノ措置カト思考セラル

南京政府側トシテハ南北統一後民衆ヲ背景トシ強硬ノ態度ヲ持シ我方ニ臨ムヘク又日本側輿論ノ軟化ヲ予想シ曠日彌久ヲ事トシ時機ノ到来ヲ待ツモノノ如シ之ニ対シ我方トシテハ持久ノ策ヲ講シ敢テ焦慮スル必要ハナキモ既ニ本件ノ真相明白トナリタル以上ハ事件ノ性質重大ナルニ鑑ミ此ノ際南京政府側ニ対シ我方ノ要求事項ヲ突付ケ其ノ責任ヲ問フノ措置ニ出ツルコト必要カト思料ス而シテ濟南事件ノ交渉ニ当リテハ軍事關係ト善後措置ニ関スル外交關係等ヲ切離シ相前後シテ交渉ニ入ルヘキヤ否ヤハ先決問題トシテ考

去ラルヘシ

元來陸軍側ニ於テハ北伐ノ進行ヲ阻止セサル意味合ニ於テ南軍ノ津浦線利用ヲ重要視居ラルルカ如キモ黄河ノ鉄橋ハ基礎工事ヲ破壊セラレ仮修繕ニサヘ數個月ヲ要スルコトハ御承知ノ筈ナルヘク又蔣介石ノ地位ノ如キモ今後政状ノ推移ニ依リ如何ニ変リ行クヘキヤモ予斷ヲ許ササルモノアリ然ルニ之ヲ察セスシテ単ニ蔣介石ヲ目標トシ此ノ際軍事解決ヲ先ニシ善後処置ノ交渉ヲ後廻シニスルカ如キコトハ我方ノ主張ヲ無視セシムル結果トナリ我方ノ立場ハ不利ニ陥ルノ惧アリ

又政府ニ於テハ出動軍隊撤退ノ必要上軍事解決ヲ急カルルニ非サトモ察セラルル処此ノ際軍事解決纏マリタリトテ直ニ全部ノ軍隊ヲ山東ヨリ引去ラルル事ハ当方面ノ形勢ト実状之ヲ許ササルノミナラス当方面ノ不安未タ去ラサルニ軍隊全部ノ撤退ハ政府出兵ノ御趣旨ニモ反スヘク若シ又機宜ノ処置トシテハ他日適當ノ機会ニ於テ最少限度ノ軍隊ヲ重要地点ニ残シ形勢ノ變ニ備ヘ其ノ他ハ全部撤兵セラルルコトハ敢テ差支無カルヘク而モ此ノ種撤兵ノ為特ニ軍事解決ヲ急カルル理由ハ別段存セサルカ如シ

慮ヲ要スヘシ

福田師団長ノ意見ニ依レハ曩ニ同師団長ヨリ蔣介石ニ要求セル五個条ノ軍事關係事項ハ曩ニ蔣ニ於テ之ヲ聽入レサリシ為砲火相見ユルニ至リタル關係上右ニテ軍事問題ハ一先ツ落著シタルモノト観テ此ノ際強ヒテ蔣ヲ相手ニ軍事解決ヲ為スノ必要ナク之ヲ外交關係ノ交渉中ニ含メ一括解決スルモ不可ナシトノコトナリ然ルニ目下來濟中ノ松井中將ハ政府ニ於テモ前記五個条ノ要求ハ実力ニ依リ解決済ノモノト解釈シ居ルモ南軍ノ掠奪暴行ニ対シテハ別ニ改メテ責任者ノ処罰ト謝罪トヲ要求スヘキ必要アルヲ以テ之ニ対スル軍事解決ヲ先ニシ外交上ノ交渉ハ之ヲ其ノ後ニ譲リタキ陸軍側ノ使命ヲ帯ヒ且之ヲ遂行スル為目下蔣介石ノ來濟ヲ促サレツツアル処卑見ニ依レハ濟南事件ノ善後交渉ト引離シ難キ暴行掠奪ニ対スル処罰及責任者ノ陳謝等ヲ軍事解決ニ委ネ南軍側之ヲ承諾スル場合ニハ先方ノ希望タル津浦線ノ利用ト武器ノ返還等ヲ許容スルコトトシ軍事解決成立スルコトトモナラハ南京政府側ニ於テハ我事成レリト満足シ濟南事件善後措置ノ交渉ノ如キハ之ヲ棚ニ上ケテ顧ミス益々傍若無人ノ振舞ヲ為シ本件解決ハ終ニ有耶無耶ノ間ニ葬リ

要スルニ軍事解決ハ善後措置交渉解決ト同時ニ行フカ又ハ軍事問題モ最初ヨリ濟南事件解決ノ要求事項中ニ包含セシメ一括シテ南軍側ニ提示シ其ノ責任ヲ問フ事トセハ我方ノ主張ハ割合ニ達成シ得ヘク若シ先方ニ於テ我方ノ要求ヲ承認セサレハ先方ノ希望タル津浦線ノ利用モ武器ノ返還其ノ他ヲモ凡テ拒絶シ必要ニ応シテハ第二段ノ措置ニ出ツルカ如キ事モ敢テ辞セサルノ氣勢ヲ仄カシ本件解決ヲ企図スルニアラサレハ遂ニ本件モ南京事件、漢口事件ノ覆轍ヲ踏ムニ至ルヘキヤヲ惧ル

政府若シ右ニ御異存無クンハ本件交渉ノ場所ハ軍事關係モアリ濟南ハ適當ノ場所柄カト認メラル尚本件促進ノ必要モアラハ此ノ際矢田総領事ヲシテ夫レト無ク本件未解決ノ不利ナル所以テ指摘セシメ主要人物ヲ至急濟南ニ派遣セシムル様南京政府側ニ暗示セシムルモ一方便カト察セラル尚濟南事件善後措置案ニ付テハ西田領事トモ協議ノ上追テ電報スヘシ

卑見御参考迄

北京、青島、天津、上海、南京、奉天、漢口へ転電セリ

366 昭和3年6月3日 在濟南松井中将より  
南參謀次長宛（電報）

濟南事件解決交渉の見込みなどにつき意見具申

6月3日後8時35分発  
6月4日前6時50分着

松井電第二号

軍事解決ニ関シ未タ支那側ト接触ノ機会ヲ得サルモ南京政府ノ意向ハ大要上海重藤中佐報ニテ察スルヲ得ヘシ然ルニ第六師団長及青島濟南兩總領事ノ意見ハ本日同官ヨリ夫々貴方ニ電報セル通りニテ軍事解決ノ結果直ニ我保護圈内ニ南方側行政機関ノ設置ヲ許スニ於テハ其一流ノ宣伝殊ニ便衣隊等ノ活動ニ依リ居留民ノ不安ハ勿論之ニ對シテ我帝國權威ノ保持上頗ル困難ナル事情ニ遭遇スヘキヲ憂慮シアリ從ツテ師団長ノ意見ノ如ク少クモ當分ノ間即支那本部力革命政府ニ統一セラルルノ時期迄其行政機関ノ設置ヲ許サストセハ軍事解決ノ交渉ハ相当困難トナルヘク京津地方ノ戦況更ニ進捗スルニ從ヒ益々然ルヘシ小官ハ此際一日モ早く南方側ノ真意ヲ確ムルコトニ努メツツアルモ蔣ノ不在其他

般支那人ノ対日觀念モ意外ニ不良ナルヲ感知スルノ現状ニ鑑ミ此際政府ノ山東問題ニ関スル方針ハ更ニ慎重考慮ノ必要アリ既往ノ方針ニ基ケル單純迅速ナル軍事解決及之ニ伴フ迅速ナル撤兵ヲ期待スルコトハ無理ナルヘシト思考セラ

ル

右不取敢師団長及總領事ノ意見具申ニ関連シ着後ノ感想ヲ報告ス尚今後南方代表者トノ交渉ノカツヲ得次第具體的意見ヲ提出スルコトトス可シ

367 昭和3年6月3日 在濟南福田第六師団長より  
南參謀次長宛（電報）

在留邦人の安住保障を得るまで濟南および山東鉄道沿線の駐兵継続方意見具申

6月3日後8時45分発  
6月4日前8時50分着

濟謀第六八号

濟南事件解決ニ関シ松井中将藤田西田領事等ト協議ヲ重ネタリ当方ノ忌憚ナキ意見左ノ如シ

一、軍事解決ノ促進ハ師団ノ体面上可ナルカ如キモ從來ノ

ノ事情ニ依リ今後短時日内ニ果シテ所望ノ連絡ヲ遂ケ得ヘキヤ疑ハシク多分不満足ナル南方代表者トノ会见位ニテ軍事解決不能ノ儘帰任スルノ止ムナキニ至ルヘシト考ヘアリ尚又總領事側ニテハ上述ノ事情ニ依リ軍事解決後ニ於テ居留民ノ不安及其後我政府ノ行フヘキ正式談判ノ困難ヲ顧念スルカ為此際單ナル軍事解決ニ止メス一氣ニ我政府ノ諸要求ヲ提出シテ其解決ヲ図ルヲ得策ナリト認メアリ是我政府全体ノ立場ヨリ寧ロ正当ナル意見ナリトモ認メラル

以上ノ事情ニ依リ此際從來ノ方針ニ基キ先ツ軍事解決ヲ遂ケントセハ今後諸般ノ困難ナル事態ノ頻出ヲ予期シツツ南方側行政機関ノ設置ヲ許容スルノ覚悟ヲ要スヘク否ラサレハ寧ロ當分軍事解決ヲ遷延シ將來全般的政府ノ交渉解決迄現状ヲ維持スルコト或ハ得策ナルヘシ勿論斯ノ如キ事態ノ継続ハ漸次我政府ノ内外ニ對スル立場ヲ不利ナラシムヘキニツキ此際一日モ早く全交渉ヲ一挙ニ解決スルニ努ムルハ有利ナリト雖サリトテ此種ノ交渉カ左程迅速ニ解決サレ得ヘシトモ考ヘ難ク自然我軍ノ駐屯ハ相当長期ニ亘ルノ覚悟ヲ必要トスヘシ

之ヲ要スルニ南軍側ノ排日運動ハ相当ニ根深ク又当地方一

行掛上及彼我ノ情况上ヨリ見テ今日之レヲ師団ヨリ持チ出スコトハ不成立ノ場合ニ於テ軍部ノ立場ヲ困難ナラシムルヲ以テ彼ヨリ交渉兩解ヲ希望シ且ツ我要求ヲ容ルルノ誠意ヲ認メタル後ニ於テ正式交渉ニ移ルヲ可トス

若シ蔣介石側ニ誠意ノ認ムルモノ無キ場合ハ單獨解決ヲ急クコト無ク現状ヲ以テ推移シ濟南事件ニ對シ政府ノ交渉ト共ニ解決スル方針ヲ採ルヲ必要トス

總長電第一一五号ノ解決ノ重点ハ三項ナルモ當方ニ於テハ行掛上余リ讓歩的態度ヲ示ス如キハ幾多死傷者ヲ出セル現下軍隊統率上忍フ能ハス

二、此ノ際蔣ニシテ軍事解決ニ応スルトスルモ四囲ノ狀況特ニ濟南及山東鉄道沿線ノ我居留民不安ノ現況ニ鑑ミルトキ何等居留民保護ノ保障ヲ獲得スルコトナク撤兵スルカ如キハ他ニ如何ナル国策アルニセヨ出兵ノ声明ニ對シ事實上不可能ナリ

之レヲ要スルニ居留民安住ノ保障ヲ得ル迄ハ所要ノ兵力ヲ濟南及鉄道沿線ニ駐留セシメ其間本事件ニ對シ根本的解決ヲ為スコト絶對ニ必要ナリ

368 昭和3年6月4日 在濟南福田第六師團長より  
南參謀次長宛(電報)

國民政府の態度に鑑みまた在留邦人保護のため  
軍駐留継続の必要性について

6月4日後5時55分発  
6月5日午前10時10分着  
(6月7日外務省写接受)

濟謀第七〇号(極秘)

濟南事件軍事解決及前後ノ処置ニ関スル所見ノ大要ハ濟謀  
第六八号ニ依リ電報セルカ尚之ニ関シ多少付加スル所アラ  
ントス

一、押収セル南軍ノ宣伝書類其他最近各方面ヨリ郵送シ来  
レル宣伝文ヲ見ルニ彼等ノ排外特ニ排日運動ハ根底深ク  
加フルニ是等ニ依リ教育セラレタル南軍ノ不規律ニシテ  
日本人ニ対シテ特ニ残忍ナルハ今次事件ノ証明スル所ナ  
リ更ニ又今回日支人惨害ノ兩國国民ニ及ホセル反感反目ノ  
大ナルコトニ鑑ミ濟南付近ノ居留民カ此儘何等カ実力ノ  
背景ナクシテ此ノ地ニ安住シ得可シトハ思ハレス居留民  
ノ大部ハ万一日本軍撤退セハ共ニ引揚クル外無カルヘシ

障ノ実施ヲ見ル迄一部ノ駐兵ヲ決行スル事ハ實ニ已ムヲ得  
サル処ニシテ外国人モ之ヲ批判スル事ナカル可キヲ信ス

369 昭和3年6月(6)日 在濟南西田總領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件に關し要求すべき条項に關する藤田  
在青島總領事の意見具申

濟南 本省 6月6日前着

第三一七号

藤田總領事ヨリ

濟南事件ハ國民革命軍カ長江ニ進出シ南京事件漢口事件ヲ  
惹起シタルト同様ナル情勢ノ下ニ演セラレタルモノニシテ  
其ノ主因ハ政情ノ不安定ニ依ル各派勢力ノ暗闘継続シ其ノ  
首領ハ軍隊内ノ不良分子ヲ弁別淘汰スル能力ト実力トヲ有  
セス加フルニ民心惑乱ノ方便トシテ排外的宣伝ヲ高唱シ条  
約上ノ權利ヲ蹂躪シツツアル情勢ニ基キ遂ニ五月三日ノ暴  
挙ニ其ノ端ヲ發シタルモノナリ之カ為邦人ノ惨殺セラレタ  
ル者十三名凌辱セラレタルコト確實ナル者一名負傷者十六

又目下ノ空気がテハ英米領事モ日本軍ト共ニ引揚クト語  
レル由ニテ日本内地ニテハ居留民カ仮令一時引揚クルト  
モ間モ無ク帰来ス可シトノ樂觀アルモ右ハ居留民ヲ現  
地ニ保護スヘシトノ現内閣ノ聲明ノ主旨ニ合ハサルノミ  
ナラス当師團ノ主任務タル居留民保護ノ実ハ現地ニ於テ  
彼等ノ生命財産ヲ永久安全ニ保護スルニ在リテ以上ノ如  
キ居留民及各國領事ノ引揚ケ等ノ事実ヲ惹起スルハ師團  
ノ任務ヲ放棄スルコトトナリ最近幾多人命ヲ犠牲トシ努  
力セシコトモ全然水泡ニ帰セシムルモノニシテ現地ニ於  
ケル情況ハ当分ノ間有力ナル軍隊ヲ以テ直接間接ニ居留  
民ヲ安住ニ導ク要アリ

外交問題解決ニ於テハ以上ノ外、国内政策ノ必要ニ鑑ミナ  
ルヘク最少限ノ国帑ヲ以テ保護ノ目的ヲ達スル如ク兵力減  
少ノ手段ヲ取ル可キハ勿論ナルカ南方軍カ過去二ヶ年間ニ  
於テ釀成シタル排日ノ根底ハ予想外深刻ナルコト及南方政  
府ノ外人保護ニ関スル聲明ハ從來一ツモ實施セラレタルモ  
ノナキコト並ニ支那國民ノ民族の殘虐性ハ無力ナルモノニ  
對シテハ極メテ残忍ナル事等ヲモ考ヘ少クモ濟南其他ノ各  
地ニ於テ内外人カ永久安全ニ居住營業ヲ保障セラレ又其保

名掠奪破壊セラレタル家屋一三九軒ノ多数ニ達シタリ惟フ  
ニ今後支那ニ於テ政情ノ安定軍隊ノ整理排外的宣伝ノ中止  
並ニ条約上ノ權利尊重ヲ見サル限り支那官憲ニ誠意アリト  
スルモ其ノ聲明ハ毫モ信賴スルニ足ラサルハ勿論今後共此  
ノ種排外的紛乱ノ再発ハ到底免カレサルヘシ依テ帝國政府  
ハ支那現下ノ実状ニ照シ濟南事件ノ再発ヲ防圧スル為必要  
不可欠ト判定シタル左記条件ヲ要求ス

第一、直接被害ニ対スル要求

(一) 南京政府ハ邦人ノ被リタル虐殺暴行掠奪ニ対シ帝  
國政府ニ遺憾ノ意ヲ表示スルコト

(二) 邦人ヲ虐殺シ又ハ暴行ヲ加ヘ若ハ掠奪ヲ行ヒタル  
軍隊ノ幹部及加害者ヲ嚴罰シ其ノ旨ヲ南京政府ノ名ニ  
於テ濟南市内ニ告示スルコト(单独ニ軍事解決成立シ  
タル時ハ本項ハ削除ス)

(三) 虐殺セラレタルモノ凌辱ヲ受ケ又ハ負傷セルモノ  
ニ対スル慰藉金

(四) 掠奪破壊ニ対スル損害賠償

第二、在留民ノ生命財産保護ニ対スル保障

(一) 山東方面現下ノ実状ニ顧ミ民心ノ安定ヲ見ルニ至

ル迄濟南青島及膠濟鐵路沿線ノ重要地点ニ最小限度ノ  
日本軍隊ヲ駐屯セシムルコト  
(二) 日本軍隊ノ駐屯期間ハ事端予防ノ為濟南青島及沿  
線兩側二十支里ノ範圍内ニハ支那軍隊ヲ駐屯セシメサ  
ルコト

(三) 日本軍隊撤退後ト雖モ支那軍隊ハ濟南及青島各商  
埠地内ニ駐屯セサルコト（濟南商埠地内ハ濟南事件ニ  
関シ当然駐兵ノ不可ヲ主張シ得ヘク青島ハ還付當時支  
那側ニ於テ自ラ駐兵ヲ希望セス警察保安隊ヲシテ治安  
ヲ維持セシメ居リタル事実ニ徴シ駐兵ノ不可ナルヲ主  
張シ得ヘシ）

(四) 南京政府ハ在留民ノ生命財産ニ対シ完全ニ保護ノ  
責ニ任スヘキハ勿論不当課税ノ如キヲ再ヒ徴収セスト  
ノ声明ヲ發スルコト

(五) 民（衆）ヲシテ直接行動ヲ誘導セシムルカ如キ排  
外的宣伝ハ一律之ヲ禁止スルコト

第三、膠濟鐵路ノ交通確保ニ対スル保障

(一) 從來支那軍憲ノ圧迫ヲ受ケ鐵路交通ノ安全ト自由  
トヲ妨ケラレタル事実ニ鑑ミ膠濟鐵路局ヲ日支合弁ノ

(四) 青島埠頭擴張工事遂行

等ヲ同案ニ付帯セル諒解事項トシテ提議スル事モ必要カト  
察セラル為念申添フ

在支公使、青島へ転電セリ

370 昭和3年6月(6)日 在濟南西田總領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉早期実施必要との若杉書記

官意見具申

濟南 本省 6月6日前着

第三一九号 若杉書記官ヨリ

濟南ニ於テ全ク局外者トシテ觀察セル要点何等御参考迄  
一、今回日支兩軍ノ衝突ハ兩軍首脳部ニ於テ極力不祥事ノ  
發生ヲ防止スルニ努メタニ拘ラス事件擴大シ遂ニ濟南全  
市無政府状態トナリ事実上我軍ノ軍事占領ノ姿トナリタ  
ル結果我軍ニ於テ軍及在留邦人ノ安全ノ為警備司令ヲ設  
ケ行政命令及刑罰ヲ含メル布告ヲ發スル等軍政類似ノ行

組織ニ改メ且速ニ鐵路及鐵路ト不可分ノ關係ヲ有スル  
青島埠頭ノ改善ヲ図ルコト

(二) 日支合弁ノ改組實現ニ至ル迄ハ膠濟鐵路ニ対スル  
日本担保權ノ擁護並ニ多數日本人ノ往復及食糧ノ供給  
安全ヲ図ル為其ノ沿線兩側二十支里ヲ限り交戦地帯ト  
為ササルコト

(三) 事務処長及會計主任ノ權限ヲ明確ニシ之ヲ擴張ス  
ルコト

右西田領事トモ協議濟尤モ右ハ濟南事件ノ起因ヲ深く考察  
シ山東方面現下ノ実状ニ照シ最モ重キヲ将来ノ保障ニ置キ  
且努メテ条約論ニ触ルルヲ避ケ実力ヲ主眼トスル根本的解  
決案トシテ起草シタルモノナルヲ以テ今後四週ノ事情ト形  
勢ノ推移トニ依リ多少ノ手加減ヲ加フルノ要有ルハ申ス迄  
モ無ク從テ尚考慮ノ余地有ルハ勿論ナルモ原則トシテ之ヲ  
我方要求ノ骨子トスル事ハ妨無カルヘシト認ム尚場合ニ依  
リテハ此ノ際山東還付条約中支那不履行ノモノ例ヘハ

(一) 青島在住ノ外国人ニ市政参与權ノ付与

(二) 膠濟鐵路沿線都市ノ開放

(三) 同沿線主要駅電信取扱所ノ開放

動アルニ至リタルハ當時ノ事情已ムヲ得サリシニ依ルヘ  
キハ之ヲ諒トスルモ畢竟平時ニ於ケル自衛的軍事行動ト  
戰時ニ於ケル戰鬪行為トヲ混同セルノ嫌アリ今回ノ如ク  
平時ニ於テ他國ニ出兵スル場合単ニ戰時ニ於ケル戰爭ノ  
ミノ訓練ヲ有スル陸軍ノ行動ヲシテ平和關係ヲ維持シ居  
ル國ニ於ケル緊急自衛ノ軍事行動ノミニ局限シ中外ニ対  
シ非難ノ口実ヲ与ヘサラシムルハ容易ノ業ニ非サルヲ以  
テ之カ為ニハ予メ充分ノ用意ト努力ヲ要ス然モ軍ノ命令  
系統上出先外務省員ニ依リテ之ヲ制スルコト困難ナル事  
情アルヲ以テ軍部ニ於テ這般ノ命令ヲ徹底セシムルノ外  
ナシ現ニ偵察飛行機ノ爆彈投下ノ如キ軍事行動ヲ不必要  
ニ擴張セントスル一例ナリ我軍ノ精銳、敵肅誠ニ國家ノ  
誇トスルニ足ルモノアルカ故今一段ノ努力ヲ以テ瑣末ノ  
非難ヲ蒙ルカ如キ行動ヲ慎ム様軍部ニ於テ一層御考慮ノ  
要アルヤニ感セラル今後滿州又ハ北支ニ於ケル兵力使用  
ノ場合モアルニ付特ニ申進ス

二、濟南城内及商埠地共僅ニ日本側支持ノ下ニ治安維持會  
及巡警表面上保安ノ任ニ當リ居ルモ南北兩軍逃亡ノ跡ト  
テ地方有力者ニ乏シク又來ルヘキ權力者ノ意向ヲ氣兼シ

実績挙ラス当地ノ治安ハ事実上日本軍ノ威力ニ依リ維持セラレ居ル姿ニテ我軍ハ商埠地ニ於ケル在留邦人ノ保護以外ニ支那側ノ依頼ニ依リ  
済南城內ニモ一大隊ヲ駐屯シ城門ニ番兵ヲ置キ事実上軍事占領ノ形ニテ警備ノ任ニ当リ居ル始末ニテ事情已ムヲ得サルニ出ツルトハ言ヘ斯ノ如キ状態カ何日迄無事ニ継続セラルヘキヤ又其ノ必要アリヤ疑問ナリ從テ当面ノ急務ハ済南事件ノ解決ト共ニ当地地方政權ノ樹立ヲ計リ之ヲシテ治安維持ノ責ニ任セシムルニアリ

三、今回事件ノ善後措置ニ付非公式ニ第六師団長同參謀長松井中將兩總領事及小官会合懇談ノ結果既ニ藤田、松井並師団長ヨリ夫々意見電票ノ次第アリタルヲ以テ既ニ御承知ノ通松井中將ノ使命ト当地ニ於ケル師団側及兩總領事意見トノ間ニハ著シク懸隔アリ又蔣介石ニ對スル觀測及態度ニ付テモ東京ト済南トノ見解異ナルモノ有リ要スルニ本件ハ結局出兵ノ目的タル在留邦人安全保障ノ方法ト之ニ依テ全部又ハ一部ノ撤兵ヲ行ヒ得ヘキ時機如何ノ問題ニ帰着スヘシ卑見ニ依レハ松井中將ノ斡旋セムトスル軍事的解決案モ外交交渉モ今日ニ於テハ其ノ成否ノ難

371 昭和3年6月(6)日

在済南西田總領事代理より  
田中外交務大臣宛（電報）

松井中將の済南事件解決交渉の見込みおよび  
我が方の立会い方に関する政府の意向照会に  
ついて

済南 発  
本省 6月6日前着

第三二二号

五日松井中將ノ談ニ依レハ蔣介石自身又ハ然ルヘキ代表者兩三日中ニ済南付近ノ或地点ニ来リ会谈スルコトナルヘク同中將モ自然軍事解決ノ端緒ヲ得タキ意向ナル処軍事解決問題ニ付テハ往電第三〇八号及福田師団長、松井中將並若杉書記官ヨリノ電報ニ依リ既ニ御承知ノ通当方面ノ実情ハ単ニ軍事解決ヲ為シタリトテ外交交渉ヲ或程度ニ纏メサル限り済南事件解決ノ見込立タサルノミナラス軍事解決ノミニテハ当地時局解決ニ何等効果ナキ事ニ意見悉ク一致シ居ル際政府ニ於テハ今尚单独ニ軍事解決ヲ進捗セラルル御方針ナルヤ御内示ヲ得度シ  
尚右会见ノ際本官ニ立会方松井中將ヨリ申出アリタル処右

易ハ五分五分ナルヘク若シ撤兵ノ必要条件トシテ在留邦人保護ノ保障ヲ要ストセハ軍事的解決案ハ斯ノ如キ事項ヲ含マサルカ故ニ仮令成立ストモ撤兵ノ役ニ立タスニ  
反シ

(一)在留邦人安全ノ保障ヲ得ル為ニモ(二)前記済南ニ於ケル支那政權樹立ノ必要上ヨリスルモ(三)撤兵又ハ駐兵ニ関スル公正ナル態度ヲ中外ニ宣明スル為ニモ(四)昨今支那政局ノ推移ニ鑑ミテモ一日モ早ク外交交渉ノ開始又ハ少クトモ開始ノ提議ヲ為スヲ得策トスヘシ而シテ之ヲ為スニハ現ニ兵力ヲ擁スル間ニ於テ行フニ非サレハ南京事件ノ轍ヲ踏ムノ憂ヒアリ而モ本件ハ南京事件ト異ナリ慘殺凌辱掠奪ノ外現ニ我軍駐屯シ居ルノ事実ハ其ノ解決ヲ放任シ難キ事情アリ或ハ支那側ハ成ルヘク交渉ヲ後日ニ延サムト欲スヘク交渉ノ成否ハ逆睹スヘカラストスルモ苟モ我方ニ於テ現状ノ儘山東ニ居据ルノ覚悟ナキ限り其ノ成否如何ニ拘ラス交渉開始ニ努ムルノ外ナン万一交渉成立セサル場合ニ於テモ駐兵又ハ適當ノ自衛措置ニ付中外ニ向テ申訳立ツ利益アリ

ハ外交交渉開始等ニ関シ先方ノ意向ヲ内探スルニモ好都合ナリトモ察セラレ藤田總領事モ同感ナルニ付テハ同行シ差支ナキヤ併セテ折返シ御回電ヲ請フ  
北京、青島、上海、南京ニ転電セリ

372 昭和3年6月(6)日

在南京岡本領事より  
田中外交務大臣宛（電報）

蔣介石は松井中將と会見のため張群を党家荘  
に派遣について

南京 発  
本省 6月6日後着

第一七九号

既ニ御承知ノコトト思料スルモ左記為念電報ス  
松井部長ノ命ニ依リ重藤、佐々木中佐、大倉組岡田ト共ニ昨五日來寧本官トモ打合セノ上右三名ノミ蔣介石ニ面会交渉ノ結果張群ヲ蔣ノ代表トシテ党家荘迄派遣シ松井ト会见セシムルコトナリ同夜十時出發セリ重藤岡田ノミ同行ス  
往電第一七七号ノ通転電セリ  
上海ヨリ広東ニ転電ヲ請フ

373 昭和3年6月(7)日

在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

七日開催予定の松井・張群会談同行について

済南 本省 6月7日前着 発

第三二八号

往電第三二二二二号ニ関シ

蔣介石ハ張群ヲ代表トシテ派遣スル旨松井中將ニ通報アリ  
松井中將ハ明七日朝当地泰安間ニ在ル党家莊ニ於テ張群ニ  
会见スルニ付本官ハ藤田総領事ト打合ノ上右会见ニ立会フ  
為同行スルコトセリ  
北京、青島、上海、南京ニ転電セリ

374 昭和3年6月(7)日

在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

中国の現状認識に関するブライス米國領事の  
談話について

与ヘタルカハ疑問ナリ斯テ米國今日ノ支那国民軍ニ対スル  
觀念ハ是迄ノ革命軍ニ対スル同情ヲ未タ全然翻スニ至ラサ  
ルモ一時擴張セシ米國ノ対支実業家ノ損失打続クヨリ一般  
米國人ヲシテ漸ク支那人ノ革命運動カ建設能力無キ事ニ最  
近疑ヲ生シ来レリ又他面米國人ハ日本カ滿州ハ勿論支那本  
土ニ対シテモ政治的野心ヲ有スル疑念頗ル深刻ナルモノ有  
リ日本ノ態度ニ注意ヲ私ヒ居ルハ事実ニシテ将来共米國ノ  
外交政策ニ之ノ点ヲ加味スルハ自然ノモノト思慮ス唯本年  
十一月ニハ米國ノ上院ハ三分ノ一、下院ハ全部改選セラレ  
次テ大統領選挙有ル為目下米國ノ一般言論界ハ米國ノ内政  
問題ニ集中シ支那問題ヲ輕ク取扱ヒ居ル傾有ルモ右選挙終  
了後ハ米國ノ輿論ハ翕然トシテ東洋問題ニ集中セラルルニ  
至ルヘシ然ルニ今回ノ済南事件ノ如キモ日本トシテハ已ム  
ヲ得サル行動ニ出テ当地ニ在ル自分等ノ如キハ其ノ正当ナル  
実状ヲ好ク承知シ居レルモ米國ニ於テハ支那側ノ逆宣伝  
ニ依リ最初ハ誤解セル者有リタル模様ナルカ当地ヲ实地ニ  
視察シタル「アベント」ノ通信ハ漸次其ノ誤解ヲ解クニ特  
ニ大ナル効果有リシモ未タ充分米國人ヲシテ諒解セシムル  
ニ至ラス日本側ノ報道ノ如キモ単ニ日本側ノ宣伝トシテ見

第三三一号

済南 本省 6月7日後着 発

当地米國領事「ブライス」カ一昨五日本官ヲ来訪シ支那時  
局不安ノ為妻子ヲ米國ニ止メ居ル処本人生活ノ実状ヨリ妻  
子ヲ呼寄セントモ思フトテ支那時局ノ前途ニ付本官ノ所見  
ヲ求メタルニ付然ルヘク率直ニ応答シタルニ同領事カ極メ  
テ私的談話トシテ米國ノ国情及其ノ支那觀ヲ述ヘタル内参  
考トスヘキ点左ノ通

支那国民運動ハ其ノ標榜スル主義主張ニ相当ノ条理有リ又  
米國留学生出身等ノ宣伝ノ巧妙ナリシニ加ヘ在支米國商人  
等ハ自己目前ノ利益ニ囚ハレ又宣教師ハ其ノ立場ヨリ支那  
人弁護ニ努メタル嫌有リ米本國ニ於テハ最初国民軍ニ頗ル  
同情ヲ有シタルハ事実ナリ然ルニ国民軍ノ長江流域進出ト  
共ニ其ノ主義主張乃至ハ其ノ宣伝カ国民軍ノ実質トハ甚タ  
シク相違有リシ事ニ漸次気付キ来リ且在支米國人モ非常ナ  
ル打撃ヲ蒙リ居ルニ拘ラス宣教師等ハ支那布教費ノ杜絶ヲ  
懸念シテ其ノ実状ヲ本國ニ報告セス在支米國商人ノ報告ハ  
關係者一部ヲ覚醒セシメタルモ米國ノ輿論ニ幾何ノ刺戟ヲ

ルヨリ米國人ノ実見シタル報道有リテ初メテ米國人ヲシテ  
納得セシム次第ナルカ自分ノ如キ当局者ハ政府ニ実情ヲ報  
告スルノミニテ一般ニ広ク通信シ得ス而シテ遂ニ米國人ヲ  
シテ日支關係特ニ済南事件又ハ日本ト滿州トノ關係等ヲ充  
分ニ諒解セシメ得サル嫌有ルニ付自分ノ如キモ場合ニ依リ  
テハ寧ロ辭職シテ帰国シ大學ノ講師トナリテ支那問題ノ研  
究著書ニ依リ支那ノ実情ヲ一般米人ニ周知セシムルト同  
時ニ一般米人カ日本ノ対支政策ニ今尚政治的野心有リト疑  
ヘル誤解ヲ積カン考ナリ云々  
尚本件内話ハ全然私談ニ付其ノ個人ニ関スル件ハ発表無キ  
様致シタシ為念  
在支公使、南京、上海、広東、青島、天津、奉天、漢口へ  
転電セリ

375 昭和3年6月(7)日

在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

米・英領事、日本人新聞記者等の時局観に関  
する若杉書記官より小村情報部長への報告

濟南 本省 6月7日後着

第三三三号

若杉書記官ヨリ情報部長へ

当方面ニ於ケル一般ノ気分及論調何等御参考迄

当地ニハ目下欧米人通信記者ナシ依テ英米領事ヲ訪問シタル処（独逸領事ハ泰安掠奪状況調査ノ為不在）

(一)米國領事ハ濟南事件ニ於ケル日本軍ノ行動ヲ全然是認シ濟寧及泰安ニ於ケル米國宣教師二名ノ虐殺ニ徴スルモ無謀ノ支那ニ對スル唯一ノ方策ハ強力ヲ以テ正當ノ權利利益ヲ擁護スルノ外ナシ此ノ際ニ於テ現在日本ノ執リツツアル政策ハ当然ニシテ米國政府ノ傍觀無為ノ主義ハ誤ナリト迄極言シ第三者タル米人ノ支那ヲ理解セルモノヲシテ反擊セシムルノ要アリトナシ紐育「タイムス」通信員「アベント」ノ通信ノ如キモ同領事ノ指導ニ負フ所少ナガラサリシト自慢シ居レリ

(二)英國領事ハ南北兩軍素質惡シキ点ハ大同小異ナルモ北方側ハ其ノ幹部ト交渉スレハ兎ニ角其ノ約束ヲ部下ニ徹底セシメ得ルモ南軍ニ至リテハ幹部如何ニ保障ヲ与フルモ

都合十一名ヲ招待其ノ論調ヲ吟味シタル処朝日、日日ノ如ク出兵反對側ノ通信員ハ動モスレハ軍隊ノアラ探シト駐兵ノ弊害ヲ見出スニ努ムルノ傾アルニ反シ山東地方新聞及出兵師団所在地新聞特派員等ハ軍ノ武功ヲ稱揚シ永ク駐兵ノ必要ヲ力説シ何レモ我儘勝手ノ議論ヲ為シ居レリ殊ニ当地地主立チタル官民ノ組織シ居ル庚申俱樂部ノ意見ノ如キハ最モ強硬ニシテ慘虐ナル支那人ヲ膺懲スル為日支戰爭ヲモ辞スヘカラス居留邦人ノ保護上駐兵絶對ニ必要ナリト迄激昂シ居レリ

376 昭和3年6月(7)日

在中國芳沢公使より 田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉に對する本省の見込み照会 について

北京 本省 6月7日後着

第八三二号

濟南事件ノ交渉ニ関シテハ濟南ヨリ累次意見ノ提出アリタルカ往電第五八〇号及藤田總領事ノ意見ノ如ク目下四團ノ

其ノ部下ノ間ニ何事ニ拘ラス所謂「打倒」ト称スル破壊的ノ気分横溢セルヲ以テ到底其ノ制令部下ニ徹底スルヲ信用スル能ハス濟南事件ノ如キモ全然本邦人ヲ引揚クルカ武力ヲ以テ之ヲ保護スルノ外ナカラム

(2)英國ハ漢口九江ノ租界ヲ還付セルモ支那人ハ其ノ國民性トシテ一向之ヲ徳トセス却テ英國カ弱キ故還付セリト信シ居ルカ如シ但シ支那ノコトハ相当隱忍スルヨリ外無シト愚痴ヲ零シ尚五月七日我軍ノ濟南城攻撃最後通牒ハ当初ハ英米領事共之ヲ日本政府ノ發セル對支宣戰ノ通牒ト誤解シ其ノ各自國民引揚ケ等ニ付僅カニ十二時間ノ通告ハ余リニ火急ニ過クトテ非常ニ怒リタルカ西田領事ノ努力ニ依リ誤解ヲ一掃シ安心シタル次第ナリ又英國領事ハ五月四日蔣介石ト城内ニ於テ会见シタルカ五日蔣ハ英領事ニ書ヲ送リテ前線出動ノ為此ノ地ヲ去ル旨ノミヲ通信シ何等後ニ残スヘキ責任者又ハ交渉ノ相手ヲ指名セスシテ逃ケ出シタルハ支那人一流ノ無責任極マルモノニテ若シ蔣ニシテ居残リタラハ日支軍ノ衝突モ或ハ緩和ノ途モ有リシヤモ計ラレズト歎シ居タリ

(三)日本人通信記者朝日、日日、電通其ノ他当地方新聞記者情勢ヨリ察シ將又南京事件其ノ他從來ノ案件交渉ニ鑑ミ成ル可ク速ニ解決ヲ計ル事然ルヘク殊ニ我山東駐兵ノ間ニ交渉ヲ開始スル事有利トスルモ南方側ニ於テハ交渉ノ遷延ヲ計リ居ルモノノ如ク殊ニ最近戦局ハ有利ニ展開シタルニ付濟南ニ於テ交渉スルハ支那側ヨリ言ハハ敵地ニ乘込ミテ交渉スルニ等シキカ故ニ益々交渉ヲ遷延セントスルニカムヘキハ明ナルカ西田總領事代理發閣下宛電報第三二八号ニ依レハ張群カ蔣介石ノ代表トシテ山東ニ來ル由ニテ又同電報第三〇八号ニ依レハ福田師団長及帝國政府ハ同師団長提出五ヶ条ノ要求ハ砲撃ニ依リ解決済ノモノト解釈シ居ラルル趣ナルニ付テハ若シ張群カ相当ノ權限ヲ以テ來ルモノトセハ先ツ交渉ノ端緒ヲ開キ得ヘキヤニ見受ケラルル処元來所謂軍事解決事項モ其ノ内容ニ於テハ善後交渉要求事項ト明確ナル區別ヲ為シ難キ事情アルカ故ニ相手方ニ於テ事實交渉開始ノ用意ヲ為シ其ノ代表トシテ相当權限ヲ有スル者ナルニ於テハ我要求事項ヲ一括シテ交渉ヲ為ス事然ルヘク然シテ右我方ノ要求トシテハ大体濟南發閣下宛電報第三一七号ニテ主要ナル事項ハ包括セラルルカ南方側トシテハ最近ノ戦局益々有利ニ發展シ殊ニ濟南ニ於ケル事件ノ

発端ハ勿論我方ニ正シキ道理アルヘキモ五月三日乃至十一日頃迄ノ戦鬪ノ結果ハ支那側ノ死傷遙ニ我方ヨリモ多数ナルカ故ニ南方側ハ我要求ニ応セサルノミナラス相当ニ過大ノ要求ヲナスヘク從テ交渉開始スルモ種々ノ点ニ於テ行惱ヲ生シ結局速決セントスレハ我要求ヲ緩和セサルヲ得ス我方ノ主張ヲ貫徹セントセハ交渉停頓ヲ来スノ惧アル場合ニ遭遇スヘキヤニ認メラル就テハ其ノ辺ノ事情予メ御考慮ノ上然ルヘク対策ヲ講シ置カルルノ必要アリヤニ思考ス青島、済南、上海ニ転電セリ

377 昭和3年6月(8)日

在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

党家莊における松井・張群会談について

済南 発

本省 6月8日前着

第一三五号

今七日午前十時松井中将ト共ニ当地ヨリ特別列車ニテ党家莊ニ赴キ松井中将ハ先ツ蔣個人ノ代表者トシテ来リタル張群ト二人限り一室ニテ約一時間会见セルカ其ノ内容トシテ

考慮致度ク

(一) 蔣及南京政府側ニ於テモ済南事件ハ日支ノ為至急解決ヲ欲セル次第ナルカ此ノ点ヨリスルモ済南事件ノ確カナル実情ヲ成ルヘク速ニ承知致度ク

(二) 南京政府ハ御承知ノ通内部関係アリテ蔣介石カ福田師団長ニ陳謝スルカ如キ結果ニ至ラハ蔣介石カ全責任ヲ負ヒ黄郛ノ轍ヲ踏ムニ至ルヘキヲ恐ルト称シ体面問題、蔣介石ノ立場ニ付繰返シ陳述シ居タルカ結局南京政府ノ適當ナル人物ノ来済、実情ノ調査ト蔣介石ノ福田師団長ニ対スル陳謝ヲ避ケ南京政府対日本側代表者間ノ交渉ヲ進メ度キ意向ニ聴取セラレタルニ依リ本官ハ軍事直接ノ問題ハ既ニ松井中将トノ会谈アリシ次第ナルカ自分トシテハ済南事件ハ速ニ解決シ日支両国人ノ人心ヲ安定セシムルコトノ肝要ナル次第ヲ力説シ南京政府ノ人物派遣ハ日本側トシテ敢テ拒ム訳合ニアラサルモ支那側ノ治安ハ支那側ニ於テ担任シ居リ其ノ実力モ充分ナラサルニ万一反対派又ハ日本中傷ノ意味ニテ是等要人ヲ傷害スルカ如キコトナキヲ保セス又今日ノ火薬庫爆発事件モアリ實際其ノ辺ノコトヲ憂慮シ居ル次第ニシテ若シ南京政府カ単ニ

松井中将ノ談別電ス次テ松井中将ハ済南事件前後ノ事情ハ本官ヨリ聴取スヘシト告ケ本官ハ松井中将等同席ノ上張群ニ対シ日本軍ノ出兵ヨリ南軍ノ入城、五月三日事変、五月七日以来ノ経過等ヲ述ヘ尙支那側ノ治安ハ治安維持会其ノ衝ニ当リ当面ノ措置ヲ執リ居ル実情ヲモ約一時間ニ亘リ叙述シ私見トシテ速ニ済南事件ヲ解決スルコトハ日支双方ノ為ニシテ若シ早目ニ本件ヲ解決セサレハ日支双方ニ不利ナルモ万一ニモ支那側ニ於テ之カ解決ヲ遷延スルカ如キ意図アルニ於テハ本件ハ益々解決困難トナルヘシトノ意ヲ述ヘタルニ張群ハ

(一) 済南事変概要ハ張本人カ事件当時日本ニ在リテ新聞ヲ通シ承知シ居ルモ右事変ノ経過及実情ハ本官ノ説明ニ依リ能ク諒解シ又南方側ニテ誤解ノ点モ明瞭トナリタルカ南京政府ニハ南京政府トシテノ種々報告ノ集マリ居ルモノアリ双方ノ言フ所ニハ非常ニ相違アリ張自身トシテハ強チ日本側ノ言フ所ヲ信セサル訳合ニアラサルモ南京政府又ハ蔣トシテハ日本側ノ言分ヲ鵜呑ニ出来サル立場ニアリ依テ南京政府トシテハ適當ノ人物ヲシテ親シク済南ニ於テ実情ヲ調査サセ其ノ実情報告ヲ根拠トシテ充分

実情ヲ調査ノ必要アレハ泰安方面ニ本拠ヲ置キ充分調査出来得ヘキナリト思ハルルモ尙福田師団長等トモ篤ト打合ハス必要モアリ即答シ難キモ自分トシテハ出来得ル限り尽力スルニハ吝ナラス唯右派員ヲ機会ニ一事件ノ解決ヲ見サル内ニ種々南方政府ノ画策ヲ試ミルカ如キハ絶対ニ避ケ度シト述ヘ置ケリ

尙張群ハ事件ニ於ケル日支双方ノ被害ヲ尋ネタルニ依リ今日迄ノ調査ノ大要ヲ告ケ置キタリ(一行午後四時帰済セリ)  
北京、青島、上海、南京へ転電セリ

378 昭和3年6月(9)日

在済南西田総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

松井・張群会談にて張は蔣介石の陳謝は困難

との意向表明について

付記 「軍事的解決交渉」

済南 発

本省 6月9日前着

第三四二号

往電第三三五号ニ関シ

松井中将張群兩名ノ会谈内容ハ松井中将ヨリ藤田総領事及本官ニ詳述有リシカ要領左ノ通

張ヨリ非公式ニ蔣ノ立場ヲ述ヘ蔣ノ陳謝ニ付テハ蔣地位ノ破滅ニ付何トカ穩便ノ方法ニ依リタシト述ヘタルニ付松井中将ハ日本政府ノ蔣介石ニ対スル好意ヲ詳述シ蔣介石ノ陳謝ハ日本軍ノ威信保持上絶対必要ト共ニ虐殺其ノ他ノ不祥事件直接ノ責任者タル蔣介石カ日本軍ノ前ニ陳謝スルハ当然ノ義務ニシテ義務ヲ果シ初メテ蔣介石ノ責任感大ナリトシテ我軍並ニ日本国民ノ信望ヲ繫キ且内外ニ其ノ人格ノ高キヲ認メシムル所以ニシテ日本及各国カ支那時局ニ対シテ有スル疑惑ハ国民軍及其ノ幹部ノ責任感ノ強弱否有無ニアルヲ説述シタルカ遂ニ張群独自ノ決心ヲモ促シ得サリシヤニ松井中将ニモ印象セラレタルカ松井中将ハ兎ニ角上海ニ赴キ蔣介石本人ニ面会シ更ニ右趣旨ヲ縷述スル事ヲ約シタル趣ナリ

其ノ他ハ往電第三三五号ト大同小異ナルカ委細ハ七日付松井中将發參謀次長陸軍次官宛電報ニテ御承知アリタシ尚松井中将ノ談ニ拠レハ張群トノ会谈ニ於テ濟南事件ニ関

トハ何分ノ儀回答スヘシト答電セリ

ハ、右何総參議ハ兎ニ角赴濟師團長ト会见セルモノノ如ク十六日帰寧

右会见ニ付左ノ通話レル趣

師團長ハ軍使ヲ遇スルノ途ヲ知ラス予ニ対シ会见ノ際椅子ヲモ与ヘス傲然タル態度ニテ予ノ發言毎ニ高圧的批評ヲ加ヘ威嚇ヲ受ケタルカ不愉快極マレリ彼ノ如キ態度ナラハ何人モ会见スルヲ欲セサルヘシ

二、蔣ノ直接電信交渉提議

イ、五月十四日在南京岡本領事ハ「蔣介石ヨリ諸般ノ打合ヲ直接福田師團長ト話シタキニ付師團長ニ於テ同意ナラハ至急短波無線ノ波長等取極ラレ度趣ヲ以テ外交部ヲ通シ本官ノ斡旋ヲ求メ来レル」旨濟南ニ電報セリ  
ロ、右ニ対シ福田師團長ハ十五日頃蔣介石ニ対シ「直接交渉ニ同意スルモ無線ハ都合悪シキニ付有線ノ回復ヲ俟ツカ然ラサレハ委任状ヲ有スル代表ヲ特派セラレタシ」ト傳達方岡本領事ニ依頼セリ

三、福田司令官ノ全權委員派遣督促

シ南京政府カ日本政府ニ対スル陳謝ハ兎ニ角トシテ蔣ノ六師團長ニ対スル陳謝ハ不可能ノ意ヲ表シタルニ付松井中将ヨリ然ラハ寧ロ日本陸軍ヲ代表スル松井ニ陳謝スルヤト問ヒタルニ張ハ黙シテ答ヘサリシトノコトナリ  
前電ノ通電セリ

（付記）

軍事の解決交渉

一、何総參議赴濟

イ、五月九日葛參謀次長在南京岡本領事ニ対シ本日午後三時頃ヨリ上海經由ニテ蔣介石ヨリ福田師團長宛「全權代表トシテ何総參議ヲ濟南日本司令官ニ派シ細目協定ヲ為サシムヘク白旗ニテ汽車ニテ進行スヘキニ付前線將士ニ同代表ヲ無事通過セシムル様命令サレ度」旨再三申送レルモ不通故同領事ニ於テ海軍無線ニテ右取次カレタシト申出アリ依リテ同領事ニ於テ右趣旨ノ蔣發師團長宛電報和文及英文ヲ取次タリ

ロ、右ニ対シ師團長ハ「本司令官ノ要求ヲ全部承認セラレタル意味ナリヤ返事承リ度其上ニテ貴代表派遣ノコ

次イテ十六日頃師團長ハ前記十五日ノ電報ニ関シ蔣介石宛「交渉全權委員派遣ノ儀ハ如何ナリシヤ本司令官ハ日本軍及日本人ニ危害ヲ加ヘタルモノニ対シ自衛ノ行動ヲ執レルモノニシテ貴總司令ハ勿論南軍全部ニ敵意ヲ表シ或ハ其北伐ヲ妨クルモノニ非ス速ニ何分ノ回答アリタシ」ト傳達方在南京岡本領事ニ依頼セリ

四、軍事的解決案

五月七日福田師團長ヨリ提出セル五個条ノ要求ハ爾後ノ実行行使ニ依リ一応落着ヲ見タルモノトノ陸軍側解釈ナルカ更ニ五月十五日參謀總長ハ同師團長ニ対シ左記要旨ノ電訓ヲ為セリ

大体左記条件ニテ速カニ軍事的解決ヲ為スヲ要ス

一、山東鐵道沿線兩側地区ニハ治安維持上妨ケナシト認ムル迄南北兩軍ヲ駐兵セシメサルコト

二、押収武器ハ指示アル迄差当り南北軍孰レニモ交付セサルヲ可トス尤モ師團長ニ於テ治安維持上妨ケナシト認ムル時期トナラハ之ヲ還付スルノ意見アルコトヲ予メ示スモ可ナリ

三、掠奪暴行ヲ働キシ軍隊ノ長官以下幹部ノ蔽罰

四、革命軍總司令止ムヲ得サレハ之ニ相当スル權威アル代表ノ陳謝

五、以上ノ要求ヲ認メタル場合南軍ノ北伐ヲ妨害セサルノ趣旨ニ基キ任務達成上支障ナキ限り南軍ノ津浦線使用ハ先ツ軍需品ノ通過ヲ許ス程度ニ始メ爾後ハ師団長ノ裁量ニ依リ其範圍ヲ擴張スルモ可ナリ

五、松井部長及西田領事ト張群ノ会見

五月末松井參謀本部第二部長ハ前記軍事の解決促進ノ目的ヲ以テ山東方面ニ出張セルカ同部長ノ命ニ依リ重藤佐々木兩中佐及大倉組岡田六月五日南京ニ於テ岡本領事ト打合せ右三名ニテ蔣介石ト面会交渉ノ結果蔣ハ其ノ個人的代表トシテ張群ヲ濟南南方ノ黨家莊ニ派遣松井部長ト会見セシムルコトトナリ張ハ同夜十時発重藤岡田同伴北上シ七日午前黨家莊ニ於テ同部長及西田領事ト会見セリ  
右会見ニ際シ先ツ松井部長及張ノ二人ノミニテ会谈セルカ其際張ハ非公式ニ蔣ノ立場ヲ述ヘ蔣ノ陳謝ハ同人地位ノ破滅ニ付穩便ノ方法ニ依リタシト述ヘタルヲ以テ部長ハ日本政府ノ蔣ニ対スル好意ヲ詳述スルト共ニ其ノ陳謝

結局本会見ニ於テ先方ハ南京政府ヨリ実狀調査員ヲ濟南ニ派遣シ又蔣ノ師団長ニ対スル陳謝ヲ避ケ南京政府対日本側代表ノ交渉ニ進ミ度意向ナルヤニ看取セラレタリ尚張群ハ日支双方ノ被害ニ付尋ネタルヲ以テ領事ヨリ同日迄ノ調査ノ大要ヲ告ケタリ

379 昭和3年6月9日

在濟南西田總領事代理より  
田中外務大臣宛（電報）

上海で開催予定の松井・蔣会谈に関する藤田  
在青島總領事より有田亜細亞局長宛情報につ  
いて

第三四四号

藤田總領事ヨリ有田亜細亞局長へ

松井中将ハ七日黨家莊ニ於テ張群ト会見ノ際張群ノ口吻ニ徴シ蔣總司令ノ福田師団長ニ対スル陳謝ハ地位ノ權衡上好マシカラサルヤニ見受ケタルヲ以テ同中将近々上海ニ於テ蔣介石ト会見ノ際ニハ同中将ノ資格ハ我陸軍ヲ代表スルモ

濟南 6月9日發  
本省 6月10日着

ハ日本軍ノ威信保持上絶対必要ト共ニ事件直接ノ責任者トシテ当然ノ義務ニテ之ヲ果シテ始メテ同人ノ責任感大ナリトシテ日本側其他内外ノ信望ヲ繋キ得ヘキ次第ヲ詳述セルカ張ハ南京政府ヨリ日本政府ニ対スル陳謝ハ兎モ角蔣ノ師団長ニ対スル陳謝ハ不可能トノ意ヲ表セルヲ以テ部長ハ然ラハ蔣ヨリ日本陸軍ヲ代表スル松井ニ陳謝スルヤト問ヘルニ張ハ黙シテ答ヘス結局張独自ノ決心サヘモ促シ得サリシヤノ印象ヲ受ケタルカ尚部長ハ兎ニ角上海ニ赴キ蔣ニ右趣旨ヲ面談スヘキ旨約セル趣ナリ  
次イテ西田領事ハ張ニ対シ事件ノ経過及治安維持ノ現狀ニ関シ説明シ本件ハ速カニ解決スルニ非サレハ日支双方ニ不利ナルモ万一支那側ニ於テ之ヲ遷延スルカ如キ意図アルニ於テハ益々解決ノ困難ヲ来スヘシト述ヘタルニ張ハ本事件ニ関シ南京政府ノ受ケ居ル報告ハ日本側言分ト大イニ異リ直ニ後者ヲ鵜呑ニ出来サル立場ニ在リ一方本件ノ急速解決ハ其ノ希望スル所ナルヲ以テ適當ノ人物ヲ濟南ニ派シ其実情調査報告ヲ俟テ考慮シ度旨述ヘ之ニ対シテハ領事ヨリ別項（入濟策動者ニ関スル「レジュメ」）ノ通応酬セリ

ノトシテ蔣總司令ヨリ同中将ニ対シ直接遺憾ノ意ヲ表セシムルコトトシ軍事解決ヲ計リ度キ内意ヲ蔣ニ漏ラシタリ右ハ第六師団長ニ於テ異存ナカルヘキヲ以テ若シ蔣ニシテ之ヲ受諾スル場合ニハ正式ニ上海ニ於テ軍事解決ヲ計リ度キ旨政府ニモ電稟シ尚右成立ノ場合ニハ蔣ノ代表ヲ濟南ニ遣ハシ師団長ニモ然ルヘキ挨拶ヲナサシムヘク右ハ充分成算アル見込ナル旨九日青島ノ松井中将ヨリ福田師団長宛來電アリタル趣ナリ

松井中将ノ上海ニ於ケル軍事解決ニ付テハ強テ反対スル限リニアラサレト蔣介石カ我方ノ要求ヲ承諾シタル場合ニハ是ニ対シ我方ヨリ津浦線ノ利用及武器ノ返還ヲ許容サルルコトトナルヘク右ハ軍事ニ直接關係アル事柄トシテ已ムヲ得サルコトナルヘキモ此ノ際同中将ヨリ蔣ニ対シ軍事關係以外ノコト殊ニ政治關係ノ事柄ニ迄モ言及セラルルカ如キコトアラハ是明カニ他日開始セラルヘキ外交交渉ノ解決ヲ至難ナラシメ我方ノ立場ヲ不利ナラシムル惧アルニ付テハ其ノ辺申迄モナク政府トシテ充分ノ御考慮ヲ願度特ニ松井中将ノ蔣ニ対スル同情ト融通性ニ富メル資質トニ顧ミ為念申進ス

北京、青島、上海、南京へ転電セリ

380 昭和3年6月10日 在南京佐々木中佐より  
南参謀次長宛(電報)

濟南事件解決は無条件讓歩か強硬措置採択以  
外に途なき意見具申

南京 6月10日午後8時30分発  
参謀本部 6月11日午後1時10分着

南京電第一二号(極秘)

一、国民政府部内ニハ蒋介石ニ濟南事件解決ノ権能ナシト  
スル議論有力ニテ蔣一派モ之ヲ口実トシテ責任ヲ回避セ  
ントシ或ハ密ニ張群ヲ派遣センモノト思ハレタルニ拘ラ  
ス新聞ニハ「松井カ事態ヲ拡大スル虞アリト蔣介石ヲ恫  
喝シテ会见ヲ強要セリ」トカ「松井ニ誠意無キ為張群ト  
ノ会见ハ得ル処ナカリシ」ト云ヒ且事件ニ関スル宣伝印  
刷物ハ皆猛烈ヲ極メ居レリ  
二、表面ニ表ハルル謝罪ハ絶対ニ実行セサルコトハ初ヨリ  
明瞭ナルカ辭職シテ巧ミニ日本ノ銚先ヲ外サントスル蔣  
介石ヲ捕ヘテ安々と謝罪サセタレハトテ我軍ノ威信ハ立

出ツルノ外解決ノ見込無キモノト觀察ス  
松井中將張群ノ密談要旨ヲ承知セサルモ取り敢ヘス鄙見  
ヲ具申ス

六、松井中將ノ南京訪問ハ絶対ニ不可ナリ

張群ハ先般小官ニ対シ「蒋介石カ濟南ニ出掛ケルコトカ  
既ニ謝罪ノ意味ヲ為ス故不可能ナリ」ト云ヒシコトアリ

381 昭和3年6月11日 外務省覚書

濟南事件善後交渉に関する件

付記 六月十一日付外務省試案

「濟南事件善後交渉方針ニ関スル件(試案)」  
濟南事件善後交渉ニ関スル件

昭和三年六月十一日

(欄外記入)  
襄ニ五月七日在濟南第六師団長ハ支那側ニ五個条ノ要求ヲ  
提出シ之ニ対シ満足ナル回答ヲ得サリシ為五月八日ヨリ十

一日ニ亘リ軍事行動ヲ執ルニ至リタル処其ノ後我軍ニ於テ  
ハ支那軍隊ノ膠濟鉄道沿線駐兵禁止、暴行軍隊ノ長官以下  
幹部ノ敵罰、蔣總司令ノ陳謝、押収支那軍武器ノ返還、支  
那軍隊ノ津浦線使用等ノ事項ニ付軍ヨリ直接交渉スルノ必

テラレス

三、此際二案アリ

イ、(消極案)

責任者ノ処罰、排日制止等カ兎モ角自発的形式ニテ実  
行サレ居ルニ鑑ミ此際日本ニテ「南京代表ハ濟南事件  
ノ責任者トシテ蔣介石ヲ譴責シ辭職セシメタリ」ト宣  
伝スルコト

ロ、(積極的)

南京政府ニ対シ武力的強圧ヲ加フルコト我足下ヲ見透  
シアル彼等ハ普通ノ威嚇ニテハ到底屈服セサルヘキヲ  
以テ英國ト協同シテ長江一帯ノ保障占領ヲナスノ覚悟  
ヲ以テ進ムコト

四、李烈鈞ハ「該事件ハ近ク円満ニ解決スヘシ」ト事モ無  
ケニ放言シアルニ付キ善意ニ解釈スレハ蔣ヲ表面辭職ノ  
体トシ暗ニ日本ノ諒解ヲ請ハントスル様ニ見ラレ悪意ニ  
トレハ蔣介石モグルニナリ居ルモノト見ラル

五、要スルニ日本カ無条件讓歩スルカ又ハ更ニ軍事行動ニ  
ハ解決ハ望ミナシ

要ヲ認メ蔣介石ニ代表者ノ派遣ヲ求メタル結果張群蔣個人  
ノ代表トシテ来ルコトトナリタルヲ以テ過般来山東ニ出張  
中ノ参謀本部第二部長松井中將ハ右軍事の解決ヲ速進セシ  
ムル為六月七日党家莊(濟南ノ南方数里)ニ於テ右張群ト  
会见シタル処張群ハ蔣介石ヲシテ陳謝セシムルコトノ困難  
ナル事情等ヲ縷述シ容易ニ我軍ノ要求ヲ容ルル様子ヲ示サ  
サリシ趣ナリ

右ノ如キ事情ニテ本件軍事的解決ハ急速成立ノ見込ナク他  
方本事件解決ノ遷延ハ不得策ナルニ付政府ニ於テハ本事件  
ニ関スル全般の解決ヲ遂クルノ方針ヲ以テ外交交渉ヲ開始  
シ度キ意向ナリ

(欄外記入) 西園寺公爵へ説明ノ為原田秘書ニ交付済 六

月十一日

(付記)

濟南事件善後交渉方針ニ関スル件(試案)

一、交渉ノ範圍

五月七日第六師団長ノ提出シタル五個条ノ要求ニ端ヲ発  
シタル所謂軍事的解決ヲ事件解決ノ一般の交渉ヨリ切離

シテ单独至急ニ交渉セントスル意見アレトモ斯克テハ取  
残サレタル一般の交渉ヲシテ有耶無耶ノ結果ニ終ラシム  
ル危険アルノミナラス軍事の解決自身モ急速成立ノ見込  
少キヤニ認メラルルヲ以テ寧ロ右ノ如キ區別ヲ立ツルコ  
トナク本事件ニ対スル我方要求ヲ一括シ此ノ際全般的の交  
渉ヲ開始スルヲ可トス

二、交渉開始ノ時期

時日遷延スルトキハ交渉ヲシテ自ラ困難ナラシムル危険  
アルノミナラス山東ノ事態ヲシテ速カニ常態ニ復セシム  
ルカ為ニモ本件解決ノ要アリ又軍隊ノ駐屯シ居ル間ニ交  
渉ヲ為スコト寧ロ我方ニ有利ナルヘク旁々此ノ際速カニ  
交渉ヲ開始スルヲ得策トス

三、交渉ノ場所当事者及相手方

交渉ヲシテ大袈裟ナラシメス以テ解決ヲ容易ナラシムル  
ノ趣旨ニ於テ不取敢現地タル濟南若クハ其ノ付近ニ於テ  
交渉ヲ開始スルコト適當ナルヘシ然ル上ハ我方交渉当事  
者ハ藤田総領事若クハ其ノ他適當ノ外務省側代表者トシ  
之ニ陸軍側代表者ヲ参加セシムルコト至当ナルヘシ支那  
側ヨリハ国民政府ノ正式委任ヲ受ケタル代表者ヲ派遣セ

行セシムルコト

(一) 排外的運動若クハ宣伝ハ之ヲ有効ニ禁止セシムルコ  
ト

(二) 總テ日支間ノ条約其ノ他ノ協定ニ定ムル所ハ双方合  
意ニ依リ改訂セサル限り敵ニ之ヲ履行スルコトヲ国  
民政府ヲシテ声明セシムルコト

(丙) 此ノ際要求スヘシト主張セラルル其ノ他ノ事項

(一) 山東主要地ニ永久的若クハ半永久的の駐兵権ヲ認メシ  
ムルコト

右要求ハ我方出兵声明ニ反スル所ニシテ支那ノミナ  
ラス各国側ノ反対モアルヘク到底實現困難ニシテ単  
ニ我方ノ侵略の意圖ヲ示スモノト宣伝セラルルニ終  
ハルヘク大局上甚タ不利ナリト思考セラル

依テ派遣軍ハ適當ノ時機ニ撤退スルノ方針ハ其ノ儘  
維持スヘク唯支那側ハ本件交渉ニ於テ即時撤兵ヲ要  
求スヘキヲ以テ其ノ際我方トシテハ撤兵ノ勿論ナル  
ヲ回答スルト共ニ撤兵ヲ可能ナラシムル時機迄ノ臨  
時的駐兵ヲ認メシムルコトヲ要スヘシ

(二) 濟南青島及鐵道沿線兩側二十支里内ニ支那軍隊ヲ駐

シムヘシ

右ノ如ク一応濟南ニ於テ交渉ヲ行ヒタル上交渉容易ニ成  
立セサルカ或ハ同地ニ於テ交渉ヲ続行スルコト不得策若  
クハ不可能トナリタル場合ニハ之ヲ国民政府ノ所在地ニ  
移スコトトスヘシ

四、我方要求事項

(甲) 直接被害ニ対スル要求

(一) 国民政府ヲシテ邦人ノ蒙リタル虐殺暴行掠奪ニ対シ  
帝國政府ニ向ツテ遺憾ノ意ヲ表示セシムルコト

(二) 邦人ヲ虐殺シ又ハ暴行若クハ掠奪ヲ行ヒタル支那軍  
隊ノ幹部及加害者ヲ嚴罰ニ処セシムルコト

(三) 支那人カ邦人ニ対シテ為シタル虐殺暴行並掠奪破壊  
ニ対シ完全ナル賠償ヲナサシムルコト（軍隊側ノ損  
害ハ之ヲ除外ス）

(乙) 在留民ノ生命財産保護ニ対スル保障

(一) 国民政府ヲシテ在留民ノ生命財産ニ対シ完全ニ保護  
ノ責任スヘキコトヲ約セシムルコト而シテ之カ為  
國民政府ヲシテ在留外国人ノ生命財産ニ対スル暴行  
掠奪等ヲ嚴罰ニ処スヘキ法規ヲ制定シ之ヲ嚴格ニ励

屯セシメサルコト

本件ハ我軍ノ行動ニ依リ事實上實現シ居ルノミナラ  
ス軍ノ宣言モ存スル次第ナルヲ以テ一時的措置トシ  
テハ是以上正式ニ要求スルノ要ナク寧ロ之カ緩和ニ  
付軍ヲシテ適宜支那側ト交渉セシムルノ要アルヘシ  
又永久的の措置トシテ斯カル要求ヲナスノ面白カラサ  
ルハ前項(一)ノ場合ト大体同様ナルノミナラス我軍ノ  
駐屯ナキ場所ニ付斯カル禁止ヲ求ムルモ實際上効果  
ナカルヘシ

(三) 暴行支那軍隊ノ武装解除ヲナサシムルコト

斯カルコトハ實行不可能ナレハ支那側トシテ到底承  
諾セサルヘク依テ之ハ我軍ノ行動ニ依リ事實上解決  
シタルモノトシテ要求セサルヲ可トス（曩ニ參謀總  
長ヨリ第六師團長ニ訓令シタル軍事的解決条項中ニ  
ハ此ノ事項ナシ）

(四) 膠濟鐵道ヲ日支合弁ノ組織ニ改メ或ハ同鐵道日本人

職員ヲ増加シ若クハ其ノ権限ヲ擴張セシムルコト  
此等ノ事項ハ居留民保護ニ直接ノ關係少キモノナル  
ニ國權回復熱ノ強キ南方派ヲ相手トシ華府条約ノ規

定ノ上ニ出ツルスクノ如キ要求ハ到底其ノ目的ヲ貫徹シ得サルヘシ寧ロ斯クノ如キ實現不可能ナル要求ハ之ヲ提出セサル方大局上得策ナルヘシ

(四)山東ニ関スル取極中支那側ノ不履行ニ属スルモノノ実行ヲ要求スルコト

前記(一)(二)ノ趣旨承認セラルルニ於テハ此ノ種居留民保護乃至ハ濟南事件ト直接關係ナキ事項ヲ此ノ際強テ主張スルノ要ナカルヘシ

(丁)要求事項ニ関スル方針

要之我方要求事項ニ付テハ之ヲ最小限度ニ止メ以テ本事件ヲ速カニ解決セントスル説ト之ニ反シ我軍ノ駐屯ヲ利用シ山東ニ於ケル半永久的駐兵權、膠濟鐵道ノ日支合弁等山東ニ於ケル我地歩ヲ確固ナラシムヘキ各種ノ要求ヲモ併セテ提出シ將來ニ於ケル保障ヲ確実ナラシムトスル説トノ兩説ニ分ルヘシ後者ニシテ若シ無難ニ貫徹シ得ルニ於テハ甚タ可ナリト雖實際ハ支那側ニ於テ到底承諾セサルヘキコト前記ノ通りニシテ支那側ハ却テ之ヲ以テ日本ノ侵略的意圖ヲ表明スルモノナリト宣伝シテ我方ノ世界ニ於ケル立場ヲ不利ナラシム

問ヒ來ルヘク之ニ對シ我方ヨリ責任ノ支那側ニアルトヲ説キ且前記ノ穩和ナル態度ヲ示スモ尚支那側ニ於テ其ノ不当ナル主張ヲ固執シ本件解決ヲ妨クルカ如キ場合ニハ我方トシテ嚴然タル態度ヲ以テ支那側ノ反省ヲ待ツコトトシテ差支ナカルヘシ其ノ際事件カ國際的討議ニ上ルコトアリトスルモ我方要求ニシテ前記ノ如ク公正ナルモノナルニ於テハ我カ立場ハ極メテ有利ナルヘシ

382

昭和3年6月(11)日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛(電報)

蔣介石の辞意と濟南事件解決交渉との関連について

第一九九号

南京 本省 6月11日前着

松井中将張群間円満ニ交渉進行セハ松井上海ニ來リ蔣介石亦同地ニ赴キ謝罪ノ形式ヲ執ルニ至ルヘシト聞及ヘル処張群八日夜歸來浦口ニテ蔣介石ト交談翌九日朝發本官ニ伝言

ヘク而シテ我ニ於テ主張ヲ貫徹セムトセハ相当武力ヲ用フルノ必要モ生スヘク斯クノ如キハ華府九国条約ニモ反スルコトナリ列国トシテモ黙視セサルヘシ故ニ斯クノ如キ六ヶ數要求ノ為ニ徒ラニ事件ノ解決ヲ遲延シ其ノ間支那ノ形勢進展スルコトアルモ我方トシテハ日支ノ關係ヲ改善スルニ由ナキ立場ニ立至ルカ如キハ甚タ不利ナルヘク寧ロ此ノ際ハ右ノ如キ六ヶ數要求ヲ避ケ本件解決上已ムヲ得サル要求ノミヲ提出シテ一方敵ニ支那側ノ責任ヲ問フト共ニ他方我方ノ公正ニシテ誠意アル態度ヲ示シ以テ本件ノ急速解決ヲ可能ナラシムルヲ得策トス之トテモ支那側ハ固ヨリ容易ニ承諾セサルヘキモ幸ニシテ支那側モ誠意アル態度ヲ示シ本件解決ヲ見ルニ於テハ支那人ノ対日感情モ少ナカラス改善セラルヘク之ト同時ニ山東ニ於ケル南政權ノ確立ヲ促シ同地方ヲ常態ニ復セシムルニ於テハ人心モ自ラ安定シ我派遣軍ノ撤退ヲ可能ナラシムル時期モ速カラサルヘシ

尤モ支那側ニ於テハ濟南事件ニ於ケル損害ノ大ナル事實ニ鑑ミ我方ニ對シ各種ノ要求ヲ提出シ事件ノ責任ヲ

ヲ殘シテ上海ニ赴キ九日何應欽モ本官ニ對シ「諸事円満ニ進行セリ」ト語レルヲ見テ松井張群間ニ談合纏リタルモノト思料シ居タル次第ナルカ往電第一九五号ノ如ク蔣介石突如辭職ヲ申出ツルニ至リタルハ其ノ表面ノ理由タル軍事終熄以外濟南事件ニ関スル同人ノ立場益々困難トナリタルニ起因スト思料セラレサルニアラス

即チ政治軍事ニ對スル其ノ潔白ヲ表示シテ將來ノ立場ヲ良好ナラシメ他面好ク濟南事件ノ責ヲ避ケテ非難ヲ防止セムト為スニ在リ事實蔣介石現官ノ儘ニテ謝罪ヲ為スコトハ其ノ失脚ヲ予期セサル以上到底不可能ナル状態(ニ)在リタルハ累次往電ノ通ニシテ過日何應欽本官來訪ノ際モ「八日以後ノ日本軍隊ノ行動ハ福田師團長ノ軍事要求貫徹シ得ストシテ執ラレタル自由行動ニシテ即チ同要求ハ右自由行動ニ依リ消滅セシモノト見ルヲ至当トス」ト語レルコトヨリ一般亦右同様ノ意見ヲ持スル様感セラレタル際更ニ蔣介石ヲシテ謝罪セシムルハ不可能ナリト觀測サレタル次第ナリ

而シテ政府側ニ於テハ蔣介石ハ革命軍ノ總司令ニ過キス同人ノ名ニ依テ濫ニ謝罪等ヲ為スヘカラサルハ当然ニシテ日

本側カ一總司令ヲ相手ニ国民政府ノ存在ヲ知ラサルカ如キ態度ニ出テタルハ蔣氏ノ済南事件交渉ヲ外交機関ノ手ニ移ス為ト主張シ居リタルハ御承知ノ通ニシテ蔣介石ノ辭職ハ当然政府側主張トモ合致スル次第ナルニ付政府側ト協議ノ上ニ出テタルモノト見ラレサルニ非ス本十日李烈鈞ト會議ノ際モ蔣總司令ノ辭職ハ條例ニ依リ早晚来ルヘキ処ニシテ独リ蔣ノミナラス楊樹莊馮玉祥閻錫山モ艦隊乃至集團軍總司令トシテノ職ハ之ヲ解ク事トナリ居レリト述ヘ新聞紙上緊急會談開催云々ト騒キ立テ居ルニ反シ何レ月曜或ハ火曜ノ議ニ上ルヘシトテ頗ル冷静ニ構ヘ譚延闓ハ湯山ニ其ノ他ノ要人モ多ク上海ニ赴ケル様ノ状態ナリ右様ノ状態ナルヲ以テ蔣介石ノ辭職ニ依リ直ニ現政府ノ没落其ノ他ノ政変有ルヘシトモ思ハレス蔣介石亦不日別様ノ形式ニ依リ出慮スルニ至ルヘシト思料ス而シテ今後ノ国民政府ノ勢力ハ累次往電ノ通于右任、薛篤弼、李烈鈞、易培基、王正廷、唐悅良、張之江、熊斌等ノ多数ヲ擁スル馮玉祥系ト宋子文、孔祥熙總司令部幹部外軍人並ニ何應欽夫人ノ兄タル交通部部長王伯群等ノ蔣介石派（王ハ必スシモ蔣派ニ非サルモ何應欽ト行動ヲ共ニスト見ラル）ト李濟深、李宗仁、白崇禧等広

上海電第五二九号（極秘）

小官本朝帰任蔣ノ下野ヲ知り王正廷ノ外交部長就任後ノ態度等（佐々木電参照）<sup>（三八五文連）</sup>ニ依リ察スルニ南京方面ノ空気ハ済南事件ノ解決ヲ遷延シ日本ノ内政ヲ利用シ他方世界ノ輿論ヲ有利ニ指導シ恰カモ日本ヲ山東交渉以前ノ状態ニ置カントスル魂胆ナルコト今ヤ疑フノ余地ナシ若シモ日本カ優柔不断時日ヲ遷延センカ日本ハ遂ニ对支政策ノ立脚点ヲ根柢ヨリ喪失スルニ至ルヘシ故ニ速ニ事件ヲ外交交渉ニ移シ而モ其条件ハ日本単独ノ利益ニ立脚セス正々堂堂天道ニ基キ而カモ断乎タル決意ヲ以テ南京政府ニ提出スルコト必要ナリ

184 昭和3年6月11日

在上海重藤中佐より  
南参謀次長宛（電報）

蔣の下野事情および南軍の非行に対し強硬措置採択についての佐々木中佐意見具申

上海 6月11日午後5時30分発

参謀本部 6月11日午後9時21分着

上海電第五三一号（極秘）

西派アリ極右派タル西山派ハ張静江、張繼アリ近ク王寵惠帰来セハ極左派亦相当増加スヘシト観測サレ将来相当紛糾スヘキヤニハ思料サルルモ現ニ組織漸ク固マリ大体常道ヲ歩ムモノト考ヘ誤リ無キニ非サルカ唯最モ注意スヘキハ申ス迄モ無キコト乍ラ済南事件ノ解決無ク飽迄武力ヲ楯ニ全在留民ノ引揚ヲ行ツテ要求ヲ貫徹セシムルカ或ハ又面目問題ハ適當ニ妥協シ実益ヲ追フノ挙ニ出ツルカ松井中将ニシテ上海ニ来ル以上相当ノ默契アリトモ考ヘラレ若シ事実トセハ幸ナリ

公使ニ御転電ヲ請フ  
前電ノ通転電セリ  
上海ヨリ広東ニ御転電ヲ請フ

383 昭和3年6月11日

在上海重藤中佐より  
南参謀次長宛（電報）

済南事件を外交交渉に移し速やかに解決すべき旨意見具申

上海 6月11日午後5時36分発

参謀本部 6月11日午後10時34分着

南京電第十二号

蔣介石辭職ノ表面的理由ハ北伐完成セルヲ以テ戰時特設セル總司令ノ必要ナシト云フニ在ルカ裏面ノ理由ヲ察スルニ最近蔣ノ地位動揺シ軍隊ニ対スル統制力ナキヲ以テ彼一流ノ行キ方ニ依リシナラン

下野シテ再ヒ熟柿ノ落ツルヲ待ツコト  
済南事件ノ解決ニ対シテハ其權能ナシトテ回避シ居タルカ辭職ニ依リ更ニ之レヲ明ニセシコト

一般要人ハ蔣介石ノ辭職ノ意向アルヲ知ラサリシト云フモ事實ハ政府ト協議ノ上ニテ謀リタル痕跡アルコト  
二、三ノ日本人ニ面會セシ際ハ談話ノ済南事件ニ触ルルヲ避ケ而モ平常通りノ態度ニアリシコト

以上ヲ綜合スレハ從來疑ハレタル蔣ト政府トノ利害略一致シ居リ且ツ南方政府組織ハ個人ノ責任ヲ回避スルニ好都合ナル故最早ヤ蔣介石ニ拘泥スルハ不適當ナルヲ察スヘシ  
京津方面ニ於ケル南軍ノ非行ニ対シテハ先方カ飽ク迄責任ヲ回避セントスル今日是非共武力ニ訴ヘテ膺懲スルノ外無ク謝罪ノ交換条件トシテ更ニ我武威ヲ示スコトモ現下止ム

ヲ得サル一方便ナルヘシ  
関東、北京、天津、3D、6D スミ

佐々木

385 昭和3年6月11日

在上海重藤中佐より  
南参謀次長宛（電報）

済南事件解決を外交交渉に移し一大決心をも  
つて南京政府との交渉に臨むべき旨佐々木中  
佐の意見具申

上海 6月11日午後5時36分発  
参謀本部 6月11日午後10時32分着

上海電第五三二号（極秘）

在南京佐々木中佐電転電

一、王正廷外交部長就任ニ際シ非公式ニ支那新聞記者ニ話  
セシ意見ハ新聞ニテ御承知ノ事ト思ハルルカ九日夜宋子  
文カ蔣介石ノ代理トシテ民政党政務調査委員森下邦二及  
大阪朝日記者太田宇之助ヲ招待セシ際王正廷ハ右新聞ト  
略同様ノ意味ヲ森下ニ洩セリト云フ其要旨ハ「済南事件  
ニ関シテハ田中内閣ヲ对手ニセス陸軍ノ要求モ黙殺シ当  
分未解決ノ儘引摺リ置ク」カ如キ口吻ニ察セラレ又民政

386 昭和3年6月11日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛

南京における蔡交渉員追悼会について

普通送第一七三号

昭和三年六月十一日

在南京

領事 岡本 一策（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

蔡公時追悼会ニ関スル報告ノ件

本月十日午後二時ヨリ南京在住江西同郷人ハ中央大学体育  
館ニ於テ済南交渉員蔡公時及同遭難諸烈士ノ追悼会ヲ開キ  
会場ニハ党国旗、総理及蔡公時ノ写真ヲ掲ケ四壁ニハ挽聯  
ヲ懸ケ四囲ニ満シ来会者ハ江西旅京同郷、江西女子職業学  
校、蘇農砵庁合作指導員養成所ノ江西同学会及各新聞記者  
ヲ併セテ五百余アリ謝兆熊主祭トナリ「吾人今日蔡先生並  
ニ済南ニ於ケル遭難諸烈士ヲ追悼ス蔡先生ハ総理ノ大無畏  
精神ヲ持シ不撓不屈身命ヲ賭シタルハ正ニ蔡先生ノ人格ヲ  
認メ得ヘク蔡先生ノ精神ハ死セス尚継続スヘシ云々」ト一  
場ノ弔詞ヲ述ヘ嗣テ花輪ヲ献シタル後劉孝柏祭文ヲ読ミ熊

党ニ対シテハ「同シ解決スルナラ田中内閣トハシタクナ  
シ」ト煽テ上ケタルモノノ如シ

二、王ノ就任ハ日本ニ対スル思惑上張人傑カ極力反対セシ  
モノカ今回実現ヲ見タルコト、自己ノ地位ヲ考慮シテ解  
決ヲ渋リ居タル蔣介石カ辭職シ該交渉ノ相手タルコトヲ  
回避セシコト、一部ノ要人ハ「済南事件ハ間モナク解決  
スヘシ」トカ又「松井、張ノ会見ハ好結果ヲ得タリ」ト  
カ又「日本ハ当分岡本領事ヲ公使代理トシテ全権ヲ委託  
スヘシ」トカ故意ニ樂觀ヲ装ヒ居レリ  
以上ヲ綜合スルニ今ヤ南京側ハ事件ヲ有耶無耶ニ葬ラント  
スル魂胆ナルハ疑フノ余地ナク蔣介石モ名実共ニ派遣軍ノ  
交渉相手トシ得サル状態ニ至ル南方ノ政治組織ト蔣力責任  
ヲ回避スルコトヨリシテ問題ヲ彼等カ希望スル外交機関ノ  
手ニ移サントスルモノニテ既ニ公式非公式共ニ謝罪セシム  
ル方法ナシトセハ政府ハ此際事件ヲ外交機関ニ移シ一大決  
心ヲ以テ南京政府ニ臨ムニ非サレハ陸軍ノ威信失墜ハ勿論  
日本ハ王正廷ノ常套手段ニ依リ翻弄セラルル外ナカルヘシ  
関東、北京、天津、3D、6D スミ

肇藩中央大学ヲ代表シ陳治華金陵大学ヲ代表シテ各祭詞ヲ  
読ミ吳邁ハ蔡公時ノ略歴ヲ述ヘ富貴澄スル能ハス威武其ノ  
精神ヲ屈スル能ハスト称ヘ金陵海關監督多年ナルモ仍兩袖  
清風亦其ノ人格ノ廉潔ナルヲ証スヘシ吾人ハ蔡先生ノ精神  
ヲ旨トシ復仇準備ヲ尽シ以テ不平等条約ヲ取消スニ至ラシ  
ムヘク庶幾者今日蔡先生追悼ノ意ニ背カサルヘシ云々ト述  
ヘ軍事委員会委員何志道外五名ノ祭詞アリ次ニ吳遭ハ家屬  
ヲ代表シテ答詞ヲ陳ヘ弟ハ大会ニ臨ミ厚意ヲ謝スル処アリ  
タリ賀其桑ノ臨時提議ニ依リ国民政府ニ稟請シ江西省政府  
ニ指令ヲ促カシ蔡先生ノ記念碑ヲ建立セシムルコトトシ之  
ヲ通過シ後口号ヲ唱ヘ記念撮影ヲ為シ散会シタリ  
右御参考迄報告ス

本信写送付先 在支公使、上海、漢口、済南総領事

387 昭和3年6月12日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔡公時遭難に関する国民政府内政部発表につ  
いて

第二〇四号

南京 發  
本省 6月12日前着

濟南事件ニ関シ今日迄何等官庁方面ノ発表ナカリシモ内政部ハ大要左ノ如キ記事ヲ公表セリ  
外交署員遭難狀況

蔡公時ハ外交署員ト共ニ五月三日山東交渉員署内ニ於テ就職シ各機關ノ事務ヲ接收シ居ル内日兵ハ突然挑戰シ銃声起リ交通断絶シ蔡交渉員以下諸方面ニ閉チ込メラルルニ至レリ四日午後該署ヲ逃レ出テタル勤務兵張漢儒ノ報告ニ依レハ三日午前四時自分ハ該署ノ二階ニ在リテ見タルニ日本兵多数ハ同署前門内堀ノ後ニ隠レ射撃ヲ為シ居ル内一日本兵ハ向側ノ階上ヨリ飛來セル彈丸ノ為死スルヤ他ノ日本兵直ニ之ヲ引連レ該所ヨリ階段ニ達セントスルヤ又モヤ飛來セル彈丸ノ為死セリ暫クシテ日兵ハ二個ノ屍ヲ担ヒ去リ外部銃声モ漸ク熄メリ夜十一時頃日本兵約二十六名ハ小銃ヲ携ヘ内二名ハ拳銃ヲ携ヘ居リ門ヲ叩ケルモ開カサル為土壁ヲ押シ倒シテ乱入シ署員下僕等ヲ皆縛リ上ケテ一室ニ閉籠メタリ日兵ハ同日交渉員署前ニテ日兵戦死セルハ同所ノ所

ハ日本人富永隈川等ト立會檢査ニ赴ケル処日兵ヲ見掛ケタルモ蔡ノ死体ヲ見得サリシカ他所ニ隠匿セルモノナラント思ハレタリ  
公使ニ御転電ヲ請フ  
濟南へ転電セリ

388 昭和3年6月13日

在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉の促進に関する意見具申

青島 發  
本省 6月13日後着

第四三九号  
南京發閣下宛電報第二〇六号ニ関シ

目下濟南、青島ハ勿論鐵道沿線二十支里内カ南北何レノ色彩ニモ屬セサル一種ノ中立地帯ヲ形成シ居ル次第ハ御承知ノ通ナルカ山東政府ハ予テ卑見上申ノ通正シク馮玉祥系ノ支配下ニ帰セントシ彼一派ノ從來ニ於ケル排外思想ニ想到セハ我方ノ苦手トシテ少クトモ困難ノ地歩ヲ生スヘキハ想像ニ難カラス濟南事件發生後既ニ月余ヲ閱シナカラ南京政

為ナリトシテ署内ノ銃器彈藥等ノ捜査ヲ求メタルニ依リ蔡交渉員ハ日兵ヲ導キテ各室ヲ案内シタルモ之ヲ発見シ得ス依テ蔡交渉員ハ其ノ署員及下僕ノ釈放ヲ求メタルニ許サレズ次テ一日本將校ハ命令ヲ伝ヘ遂ニ蔡交渉員及各職員下僕等ノ頭部ヲ毆打シ或ハ刺シテ銃器ノ隠匿所ヲ詰問セルカ其ノ時蔡及各職員ハ顔中刀創ノ為赤ク脹レ且張庶務ノ左耳ハ切ラレテ片際ニ垂レ居ルヲ見タリ其ノ時四時半頃ニシテ又々一日本將校ハ署ニ來リ伝令セルカ蔡交渉員ハ直ニ署員ニ向ヒ「日兵ハ我等ヲ銃殺スル命ヲ受ケタルカ諸君ノ感如何」ト問ヒタルモ此ノ時前諸人員ハ皆縛セラレ哭シテ言無シ日兵ハ各人ノ上衣ヲ剝キ別ニ五本ノ繩ヲ以テ四人宛五組ニ縛リ上ケ日兵ハ順次室ヨリ後庭ニ引出セリ門口ニ出ルヤ一斉ニ銃声聞ヘタリ自分ハ第四組ニ縛セラレ居リ地上ニ跪ツケルカ当夜署内ノ電燈ハ破壊セラレ居タルモ日兵ハ手ニ懐中電燈ヲ持シ居リタルヲ以テ門口ノ地上ニ一挺ノ小刀アルヲ発見シ足ニテ搔寄セ手ニ取ルヤ繩ヲ切り四人同時ニ逃走セル処日兵ハ之ヲ見テ射撃セル故遂ニ負傷セリ自分ハ堀ヲ越ヘ逃レ出テタルカ他ノ三人ハ逃レタルヤ否ヤヲ知ラス（中略）<sup>(マ)</sup>四日交通署主任趙世瑄參議陳悼及「コーメイシン」

府カ末節ニ拘泥シ徒ニ根本問題ノ解決ヲ遷延スルハ仮令内部の事情ノ纏綿セリトハ云ヘ畢竟我ニ対スル交渉ヲ有利ニ導カントスル支那一流ノ牽制的底意ニ外ナラスト察セラレ其ノ無誠意ト陋劣サニ呆レサルヲ得ス濟南事件ノ解決方ニ付テハ累次卑見開陳シ置キタルカ是ヲ要スルニ此ノ儘有耶無耶ニ時日ヲ空費セハ益々支那側ニ乘セラレ有終ノ成果ヲ収ムルコト難キニ立至ルヘシ依テ彼我ノ交渉ヲ促進シ而モ我方ノ有利ニ是ヲ誘導スルニハ交渉相手方ノ人物ヲ本位トセス飽ク迄モ確立セル根本策ヲ提ケテ善処スヘク先ツ支那側ノ急所ヲ捕ヘテ苦痛ヲ与ヘ彼ヲシテ自ラ兜ヲ脱カシムル持久的方策ヲ採ル外ナシト存ス

其ノ方法トシテハ差当リ

(一)支那側カ在舊時日ヲ徒費セシムルヲ能事トシ濟南事件ノ解決ニ全ク誠意ヲ欠ケルヲ指摘シテ輿論ヲ高唱セシメ支那側責任当局ノ立場ヲ苦シムル一方

(二)膠濟鐵道ヲ初メ濟南、青島ノ政權ニ関与セシメサル様仕向クルニアリ

右ハ一見支那内政ニ干涉スルカ如キ嫌アルモ濟南事件ノ解決促進ノ牽制的手段トシテハ之ヲ巧妙ニ利用スルニ非サレ

ハ到底我方所期ノ目的ヲ貫徹スルコト不可能ナルヘシ加之  
若シ南方側ニ鐵道ノ經營及政權ノ授受ヲ許容セハ我軍隊ハ  
彼等ノ身辺ヲ保護スル体好キ番犬トナリ彼等ヲ増長セシム  
ルハ未タシモ濟南事件ノ如キ恐ラクハ永久ニ解決スルコト  
覺束ナキニ至ラム南京政府目下ノ急ナル欲求ハ屈指ノ貿易  
港タル青島ノ政權ヲ掌握シ鐵道ヲ管理シテ財政ニ資セムト  
スルニアル事歴然タルニ鑑ミ趙世瑄、崔士傑一派ノ青島入  
リヲ許ス事トモナレハ仮令形式的ノ誓約ヲ取付クルトモ何  
等万全ノ重サヲ為ササルノミナラス便衣隊其ノ他政客ノ潜  
入ヲ容易ナラシメ延テハ排日行為ヲ挑発シテ治安紊乱ノ因  
ヲ作り我軍隊トノ間ニ再ヒ事ヲ構フルコト無キヲ保セス卑  
見ヲ以テスレハ少クトモ濟南事件解決ヲ見ル迄ハ南北何レ  
ノ系統ニモ濟南、青島ヲ委ネシメサルヲ有利ナリト思考ス  
ルニ付篤ト御考慮ヲ仰度シ御参考迄

北京、天津、濟南、上海、南京ニ転電セリ

389 昭和3年6月15日

在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

山東派遣日本軍の縮少と持久的守備策について

モ既ニ充分御考慮ノコトト存セラレ差出カマシキ次第ナル  
モ南方側ノ誠意無キ態度ニ対応スヘキ我持久策ノ考慮ニ当  
リ此ノ際軍隊ノ編成替ハ寧ロ必要ナルヤニ認めラルルニ付  
卑見何等御参考迄ニ申進ス

北京、濟南、上海、南京へ転電セリ

390 昭和3年6月15日

谷第三師団參謀長より  
南參謀次長宛（電報）

青島市政に関する藤田總領事と趙商埠總弁との協定事項について

6月15日午後10時 発  
6月16日午前2時 着

三参第一六五号（極秘）

昨十四日藤田總領事カ商埠總弁趙棋ト協定シタル事項ナリ  
トテ師団長ニ語ル処及之レニ關係セル事項左ノ如シ

一、華府會議ニ於テ取決メタル青島市政ニ外人ヲ参与セシ  
ムルコトヲ先ツ趙棋ノ時代ニ実現セシメ置キ国民政府ヲ  
シテ之ヲ承諾セシメントス

二、之カ為メ總領事ヨリ趙棋ニ案ヲ示シ趙棋ヨリ商務總會

て

第四四三号

青島 本省 6月15日前着 発

南京發閣下宛電報第二〇八号及濟南發閣下宛電報第三七八  
号及第三八一号等ノ事實ニ徴シ南軍側ニ濟南事件ノ急速解  
決ヲ計ルヘキ誠意無キハ察知スルニ難カラス從テ之ニ対応  
スヘキ我方策トシテハ持久策ヲ考慮シ警備地域内ニ新ニ浸  
潤シ来ラムトスル南方勢力ヲ極力阻止シ濟南事件ヲ急速解  
決セサレハ南京政府ニモ極メテ不利ナルコトヲ痛感セシム  
ル一面我政府ニ於テモ現在ノ如キ二個師団ノ一時的配置ヲ  
變更シテ兵員ヲ減少シ持久的守備ニ適セル編成ト為スコト  
極メテ緊要ナルヤニ思考セラル方面目下ノ情勢ニ顧ミル  
ニ濟南及沿線一帶ニ於ケル土匪乃至南軍便衣隊ノ出没等小  
事故ノ發生ハ当分免カレ得スト雖既ニ我警備地域ヨリ南北  
兩軍ヲ完全ニ一掃シ動乱ノ中心モ山東ヲ遠サカリタルカ故  
ニ此ノ際人員ヲ平時編成ノ一個師団ニ減少シ之ニ最新式ノ  
精銳ナル武器ヲ充分ニ備ヘシムルコトニ依リテ守備ノ目的  
ヲ達シ得ヘシト認めラル本件ハ軍事ニ係リ且政府ニ於テ

ニ之ヲ諮リ兩者ノ名ヲ以テ外国側ニ会同ヲ求メ協定ス  
目下支那商民、外国人側（既ニ各国領事ニ対シ藤田總領  
事ヨリ諒解ヲ求メアリ）共ニ歡迎シアリ唯南方系学生、  
支那新聞記者等ノ反対アルノミ外字新聞ハ昨十四日二ツ  
共外人參政權獲得ノ急務ヲ論セリ

三、藤田總領事ノ主張ニ基キ趙棋ノ概シテ承認セル組織ノ  
大要

地租二十五弗以上ヲ納ムル外人ヲ公民権アルモノトシ  
參政委員十四名（支那人七名、外人七名）ヲ選舉セシメ  
趙棋ヲ其委員長トス（計十五名）此ノ委員會ヲ議決機  
関、現在ノ商埠局ヲ執行機關トシ商埠局カ現ニ取扱ヒツ  
ツアル行政、財政、警察、衛生、教育及港灣事務ノ一部  
ヲ実行セシム

港灣事務中實際海陸連絡ニ必要ナル部分ハ鐵道局ニ移シ  
其一課トス

議決機關ニ於テハ毎年予算ヲ立テ執行機關ニ之ヲ実施セ  
シムルモ其收支ヲ監督ス

四、港灣業務ノ一部タル海陸連絡事務ヲ鐵道側ニ付スルハ  
山東鐵道ノ會計同様海陸連絡ノ業務ヨリ入り来ル収入ヲ

モ日本人ノ手ニ管理セシムル為メアリ又山東鉄道ニ対シ日本勢力将来ノ増加ヲモ見越シタルモノナリ

五、目下商埠局ノ収入ハ関稅剩余金六十万弗、埠頭稅百三十万弗其他水道、雜稅等ニテ合計三百万弗ニ上リ海陸連絡ヲ鉄道ニ移スモ尚將來共之ニ近キ収入アリ軍閥ニ割取セラレサル時ハ青島發展ノ為メニ二百万弗以上ツツヲ使用シ得ル見込ナリ

此案成立セハ青島ノ將來大ニ見ルヘキモノアリ日本人ノ利益モ大ナラン之ヲ第三師団駐在中ニ決行セントスル總領事ノ腹ナリ

六、趙棋ハ山東人ニシテ旧独逸時代ノ青島軍司令部通訳出身事務官肌ノ男ニシテ英、独人ニ好ク又日本人ニ好シ又總商会ノ氣受モ悪シカラサレトモ米国人中ニハ北方軍閥ノ遺物トシテ之ヲ好マサルモノアリ米國領事ハ我特務機關ニ対シ彼ヲ守リ立ツルコトニ就キ不平ヲ述ヘタルモ特務機關ニテハ徐々ニ説明ヲ加ヘ納得セシメントシツアリ

七、趙棋ハ其政治的生命ノ長カラサルヲ自覺シアルモ自己ノ時代ニ此ノ組織ヲ完成シ出身地タル山東ノ為メニ凶ル

「今日ノ済南ノ地位ハ極メテ奇妙デアアル、事實上本月十一日カラ完全ニ日本軍隊ニ占領セラレ支那ノ主權作用ハ未ダ支那ニ対シテハ宣戰ノ布告ヲシテ居ナイ、日本ハ済南ヲ砲撃シ守備軍ヲ攻撃スル等ソノ戰ノ跡ハ宛然國際的戰鬪行為デアアルガ日本政府ハ対外的ニハ依然所謂居留民保護ノ口頭禪ヲ唱ヘ対支作戰デアルコトヲ絶対ニ否認シテ居ルカラ済南ハ戰時國際法上ノ占領地ト見ルコトガデキナイ、日本軍入城後ノ狀況ヲ見ルニ總商会等地方人士ニ対シテ行政機關ヲ回復センコトヲ請ヒ僅カニ警察庁ノ秩序維持ヲ助ケテ居ルノデアアルガ思フニ済南ノ地位ガ軍事占領地デナイカラソノ範圍ヲ越ヘテハイカヌト思ツテ居ルノデアロウ、

東京來電ニ依レバ日本ハ済南ニ掠奪盛ニ行ハレ行政機關ノ運用善シクナイ為メ行政權ヲ取り上ゲテ之ヲ執行シヤウトノ議ガアリ又齋藤少將ヲ警戒司令ニ任命シタト云フコトデアアルガ之軍事占領地ヲ以テ済南ヲ遇シ日本ノ軍政ヲ施行スルモノデアアル、

此点ニ就テハ支那カラ云ヘバ議論ノ要ハナイノデアアル、蓋シ五月十一日カラ済南ハ南北何レノ政府ノ管轄ニモ属

ト共ニ永ク青島人民トシテ其慶福ヲ享ケ度旨ヲ語レリ  
藤田總領事ハ華府會議取極メハ王正廷ノ調印シタルモノナルカ故ニ此ノ案ニ対シテハ他日國民政府ノ承認ヲ受ケサル可カラサル場合トテモ彼カ外交委員長タル以上異議ナカルヘシト称シアリ

（十五日午後六時）第六師団スミ

391 昭和3年6月15日 在吉林川越總領事より  
田中外務大臣宛

済南在留邦人の状況に関する吉林商務會機關

紙の論説について

公第三二二一號 (6月25日接受)

昭和三年六月十五日

在吉林

總領事 川越 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

済南ノ現状ニ関スル当地支那紙論評報告ノ件

本件ニ関シ当地商務會機關紙新共和報ハ本月十二日ヨリ三日間ニ亘リ「済南今日ノ地位」ト題スル論説ヲ掲ゲ大要

シテ居ナイ、又何等責任ヲ負フ官吏モナイ、三十万支那人ノ生命ト財産ハ既ニ完全ニ日本ノ支配下ニアルカラ当然日本ニ於テ絶対的責任ヲ負フベキデアアル彼レノ軍政施行ハ我ニトツテハ単ニ形式的關係ニ過ギナイガ實質上ニ於テハ支那ノ行政主權ハ既ニ行使ノ余地ガナイノデアアルカラ日本ハ何事タルニ論ナク悉ク責ニ任ズベキ且ツ日本軍ノ占領中ハ行政權ヲ投出シテ支那政府ガ派員管理スルコトヲ歡迎シタ処デ事實上不可能ナコトデアアル、蓋シ南北何レノ政府タルヲ問ハズ外國軍ノ治下ニ於テ行政上ノ責任ヲ分担スルコトハ到底デキナイコトデアアル、日本ハ居留民保護ノ為メニ出兵シ居留民保護ノ為メニ作戰シタ、居留民保護ニ就テハ最善ヲ尽シタト云フベキデアアル、然ルニ日本居留民ノ離済スルモノハ反ツテ居留民保護ノ為メノ作戰後ニ増加シソノ済南ニ殘留スルモノハ生計ニ困ラナイモノ計リデアアル、済南在任ノ日本人ハ合計二千一百六十人デアアルガ内銀行会社等規模ノ比較的大キイモノ十八商社ヲ除イテハ多ク中下流階級ノ人デ売業ニ依ツテ生活シテ居ルモノガ二百軒以上モアルトノコトデアアルガ何業ヲ売ツテ居ルカハ問ハズトモ知レタコトデ

アル、今回日本軍ガ警備ニ当ルヤ租界外ノ日本居留民ヲ警備区域内ニ避難セシメヤウトシタガ十余軒ハ危険ヲ甘受シテ避難シヤウトシナイガ之レ本國官庁ノ干渉ヲ恐ルルガ為メデアツテ之ガ為メニ寧ロ保護ヲ受ケヤウトシナイノデアル、又此輩ノ日本人ハ大部分支那服ヲ着小包ヲ背負葉袋ヲ携帶シテ内地ニ行商ニ行キ支那ノ戦争ニハ頗ル慣レテ居ルカラ政府ノ保護ヲ必要トシナイノデアル、山東省ハ年来苛斂誅求甚ダシク人民ハ塗炭ニ苦シミ各県中ニハ往々数十里ノ間人煙ノ絶ヘタ処ガアル、日本人ノ山東デ商売ヲシテ居ル者ハ此ノ影響ヲ受ケテ殆ンド失敗シナイ者ハナイ從テ皆藥品ノ販売ヲシテ生活ヲナスニ至ツタモノデ軍服店モ亦ソノ營業ノ一ツデアルガ直ニ利益ヲ得ルモノハ多クナイ、又地方ノ困憊百業ノ荒廢ニ依ツテ支那人ノ受ケル苦痛ハ日本居留民ノ数十百倍デアル日本人ハ支那人ヲ以テ商売相手トシテ居ルカ支那人ニハ最早購買力モ生産力モ無イノデアルカラ日本人ノ事業計リ繁榮スル訳ガナイノデアル、政局ガ安定シ秩序ガ回復シタナラバ尚幾分ノ望ミハアルガ今ヤ南北戦ガ終ツタカト思ヘバ次ニ日支ノ衝突ガアリ人心ノ恟々トシテ不安ナコ

アラウ、  
日本ハ明達ノ士ニ乏シクナイカラ或ハ吾人ノ所言ヲ首肯セラルルモノガアラウ」ト論評セリ  
右報告ス  
本信写送付先 北京、奉天、済南、青島

392 昭和3年6月16日 在済南福田第六師団長より  
鈴木(莊六)參謀総長宛(電報)

蔣介石の下野は責任の回避につき当分の間済南、青島および山東鉄道沿線に駐兵継続の必要について

済 南 6月16日後4時10分発  
參謀本部 6月16日後8時10分着

濟謀第八六号  
第六師団当面ノ状況ニ鑑ミ左ノ如ク意見具申ス  
意見

日本政府ハ蔣介石ノ下野ヲ機トシ済南事件ヲ外交交渉ニ移スト共ニ其解決ヲ有利ナラシメ且不安ナル居留民ノ生命財産ヲ保護スルタメ当分必要ナル軍隊ヲ済南青島及ヒ膠済沿

トハ従前ニ較ヘテ数層倍モシテイル而モ日支兩國国民ノ感情ガ其ノ余波ヲ受クベキハ当然デアツテ日本人ガ支那ヘ来ルノハ元來利益ヲ得ルコトガ目的デアツテ事ヲ構ヘテ戦ハントスルモノデナイコトハ吾人ノ能ク知ル処デアアルガ然モ日本軍庄迫ノ結果支那人ハ日本ノ武威ニ恐レヲ為シテ日本人ノ背後ニハ武力ガアルト思ヒ込デ主客ノ交歡、中外ノ和睦ヲ望ムモ困難トナルノデアル、済南省城ハ貨物ノ集散ノ地デアアルガソノ商業ハ全ク各県トノ交通ニ依ルモノデアアルガ今ヤ山東全省ハ済南事件後分裂シテ統一ノ望ミナク各県ハ動搖シテ安定セズ人心ハ恟々トシテ交通ハ多ク遮断サレテ居ル状態デアアルカラ済南ノ商業ガ大打撃ヲ蒙ルベキハ勿論デアツテ日商ノ正当營業ガ停頓スル計リデナク小商人迄ガ自活ノ余地ノナイノニ苦ンデ居ル次第デアアル、誠ニ済南ノ現状ハ居留民保護ノ兵愈々多クシテ居留民ノ残留スルモノ愈々少ナキ状態デ要之目下ノ状態ハ支那ガ苦痛ヲ感ジテ居ルコトハ勿論デアアルガ日本ノ為メニモ利ヨリモ害ノ方ガ遙カニ多イノデアアルカラ若シ之ヲ永久ニ放任シテ居タナラバ其害愈々甚ダシク遂ニ兵ノミアツテ居留民ノ隻影ヲ認メナイニ至ルデ

線ニ駐劄セシムル如ク準備スルヲ要ス

理由

一、事件当面ノ責任者タル蔣介石ノ下野ハ其名義ノ如何ニ拘ハラズ彼ノ最モ苦痛トセル済南事件ニ於ケル責任ヲ回避シ事件ヲ有耶無耶ニ葬ラントスル支那一流ノ瞞著手段タルヤ勿論ナリ從テ軍カ彼ノ責任ヲ問ヒ謝罪ヲ要求セシコトモ既ニ其対象ヲ失ヘルヲ以テ今後ハ自然之レヲ國民政府ニ要求スルコトトナルヘク果シテ然ラハ此ノ機会ニ於テ本交渉ハ全部外交問題ニ移シ以テ日本及軍部ノ威信ヲ貫徹スルト共ニ其解決迄ハ済南青島及ヒ膠済鉄道沿線ニ軍隊ヲ配置シ交渉ヲ有利ニ進展セシムルコト必要ナリ蓋シ國民政府特ニ王正廷ノ如キ狡猾ナル相手ハ彼カ洩セル言ノ如ク事件ノ解決ヲ極力遷延シ日本國民性ノ熱シ易ク冷メ易キ欠点ヲ利用セントスルハ当然ニシテ事件ノ解決ハ爾後相当長引クモノト覚悟セサルヘカラス然ルニ國民政府ノ山東ニ於ケル目標ハ政治ノ中心タル済南及ヒ收入豊富ナル鉄道沿線ト青島ヲ掌握スルコトアルハ論ナク日本軍カ此処ニ占拠シ依然トシテ支那軍ノ二十支里内進入ヲ阻止シ政權ノ擴張課税等ニマテ苦痛ヲ感セシメアル

間ハ彼ノ最モ苦ム処ニシテ王ノ所謂漫々のニ対スル唯一ノ妙薬ナルヘシ

二、駐兵ノ時期ハ斯クノ如クシテ相当長時ニ亘ルコトヲ覚悟セサルヘカラス之カ為メ外部ニ対スル顧慮ヨリ將又國帑節減ノ上ヨリ見テ目下ノ駐屯兵力ハ適當ノ時期ヨリ逐次之レヲ整頓シテ最後ニ於テハ六七千名ニ節シ其歩騎兵ノ数ヲ増加シ之レニ飛行機装甲自動車其他ノ新兵器ヲ豊富ニ配屬シテ要地ニ分駐セシメ万一ノ場合ニハ内地若シクハ満州ヨリ応援スルコトハ過般ノ事件直後ニ於ケルカ如クスルヲ有利トス

三、本駐兵間青島ニ於ケル特別市政ノ施行膠濟鉄道及青島埠頭事務ノ改善日本勢力ノ拡張等ニ関シ目下青島及済南ノ我外交官憲カ著手シ若クハ著手セントシツツアル事項ニ就キテハ軍部トシテ之レヲ後援支援スヘキハ勿論ナリ

四、以上ノ理由ニ依リ取敢ヘス左ノ処置ヲ執ルヲ要ス

イ、日本政府ハ蔣介石ノ責任回避ヲ機会トシ済南事件ハ之レヲ外交問題ニ移スヘキコトヲ声明シ師団長ノ要求セル各項ハ之ヲ交渉ノ内ニ加フ

ロ、日本政府ハ自発的ニ適當ノ時機ニ於テ現在駐屯兵力ヲ

上海及南京ニ於テ得タル本官ノ印象不取敢御参考迄

一、済南事件ニ対スル南京政府側ノ意向ハ曩ニ日本政府カ済南ニ於ケル軍事当局ヲシテ単ニ日本軍側一方ノ調査ニ基キ恰モ戦勝国力戦敗国ニ臨ムカ如キ態度ヲ以テ其ノ要求条件ヲ武力ヲ擁シテ支那側ニ押付ケントスルカ如キ態度ハ彼ノ二十一ヶ条要求ヨリモ甚シク偶々支那側ヨリ調査員ヲ現地ニ派遣セントスレハ日本官憲ハ其ノ生命ノ安全ヲ保障セスト威嚇シテ事実上支那側ニ事実真相調査ノ機会ヲ与ヘス斯ノ如キ不公平ニシテ強圧的ナル態度ハ不平等ノ圧迫ヨリ脱セン事ヲ目的トスル国民政府ノ立場ヲ無視スルモノニシテ如何ナル親日家カ其ノ局ニ当ルトモ到底容認シ難キ次第ナリ若シ日本ニシテ右ノ如キ一方的要求ヲ強制セントナラハ支那ハ現在ニ於テハ兵力ヲ以テハ日本ニ敵対スルノ力無ク又其ノ意志モ無キヲ以テ当分山東ヲ日本ノ蹂躪ニ委シ今後日本自体ノ政局ノ推移ト世界ノ公論ト支那国民ノ結束ニ俟ツノ外無シ北伐モ一通リ完成セル此ノ際日本カ山東ニ居据リタリトテ支那ハ左シタル痛痒ヲ感セス（若シ日本カ更ニ進ンテ南京漢口ヲ突カハ已ムヲ得ス政府ハ西安又ハ蘭州ニ退クノ外無シト迄

整理シ総兵力約六、七千（飛行機輸送自動車無線電信火焰放射器照明弾等ノ新兵器ヲ付ス）ヲ済南又ハ其以東ノ要點ニ配置スヘキ部隊トスレハ歩兵及ヒ騎兵ノ兵力ヲ増加スルコト必要ナリ

ハ、青島ニ於テ藤田総領事ノ採リツツアル特別市政ノ施行其他ニ就テハ充分之レヲ支援シ此機会ニ於テ山東ニ於ケル政府及邦人ノ利権ヲ確保シ以テ外交交渉ヲ有利ニ進展セシム

ニ、駐屯各地ニ於ケル兵舎其他ヲ之ニ応スルカ如ク設備ス  
關東、北京、天津スミ

393 昭和3年6月18日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南事件急速解決の必要の旨若杉書記官の意

見具申

上海 発  
本省 6月18日後着

第四〇七号  
若杉書記官ヨリ

切言セル要人有リ）要スルニ支那ハ現在無力ニ付仏国ノ「ルール」占領ニ対スル独逸當時ノ態度ノ如ク消極的抵抗ヲ以テ日本ニ当ルノ外無シト云フニアリ然レトモ若シ日本カ軍事解決ヲ捨テ公平ノ立場ニ於テ政府ト政府トノ間ノ外交交渉ニ依リ事件ヲ解決セントスルニ於テハ南京政府モ亦大ニ之ヲ望ム処ナリ現ニ過日発表セル南京政府ノ対外宣言草案中ニハ済南事件ハ之ヲ「国際調査又ハ国際（二字脱）」ニ付スル旨ヲ付記セルヲ

王正廷外交部長就任ノ翌日十五日公表サレタル対外宣言正文ニハ右ノ一句ヲ削除シタルハ同日王正廷カ外交部ニ於テ朝日新聞特派員太田ノ質問ニ対シ済南事件ハ之ヲ国際裁判ニ付スルヲ欲セス日支間ノ事ハ何処迄モ日支間ニ於テ直接解決シ度キ考ニテ日本カ若シ山東懸案解決當時ノ如ク和衷協同ノ精神ヲ以テ交渉スルニ於テハ本件ノ解決敢テ難シトセスト答ヘタルニ見ルモ略其ノ意向ヲ窺フニ足ルヘシ固ヨリ以上記スル処ハ支那人一流ノ掛引上ノ「ブラフ」モ有ルヘシト雖何レニスルモ本件ハ一日モ早ク外交交渉ヲ解決スルノ要有ルヘシ

二、排日事情ノ内容ハ頗ル複雑シ居ルモ済南事件ノ為ニ日

本ノ執リタル手段カ南京政府当局ヲシテ排日取締ヲ勵行スルニ至ラシメタル事一因ナルハ疑ヲ容レズ現ニ国民政府所在地タル南京ニ於テ其ノ取締振最著シキヲ見ル上海ニ於テモ相当嚴重ニ取締リ居ル為表面上ハ排日事件少ナキモ一面ニ於テハ南京政府ノ組織上政府ト党部トノ關係上制令徹底シ兼ヌル市党部ノ裏面ニ於ケル周密ナル画策ニ依ル排日運動依然トシテ旺盛ナルカ如ク若シ之ヲ放任セハ少年学生一般民衆ノ間ニ牢乎トシテ抜クヘカラサル排日感情扶植サルヘク将来兩國政府カ如何ニ親善ニ努力スルモ兩國民間ノ実生活上種々不安ノ因トナルヘキヲ慮ル故ニ済南事件及南京事件交渉ノ如キ機会ヲ捉ヘ排日宣傳防止条項ニ於テ此ノ点ヲ徹底的ニ突込ミ禍根ヲ芟除スルノ努力必要カト存セラル

南京ヘ転電セリ

394 昭和3年6月20日 在中国芳沢公使より  
田中 外務大臣宛（電報）

済南事件中国側対応に関する情報について

「山東問題交渉方針案」

北京 発  
本省 6月20日後着

第九一九号（極秘）  
往電第八三二号ニ関シ

六月十六日東京発「ルーター」ハ最モ信シ得ヘキ筋ヨリノ聞込トシテ日本政府ハ済南事件ニ関シ近ク正式ニ交渉ヲ開始シ死亡者及掠奪ニ対スル賠償、陳謝、暴行責任者ノ処罰及将来ノ保障等ヲ要求スヘント伝ヘタル処右要求ハ尤モノ次第ナルモノニ付考慮ヲ必要トスルハ

一、福田師団長ハ五月七日支那側ニ対シ五個条ノ要求ヲ為シ支那側ニ於テ之ニ応セザリシ為砲撃ヲ加ヘタルモノナルカ故ニ支那側ニ於テ右要求事項ハ右砲撃ニ依リ消滅シタルモノナリトノ見解ヲ有シ居ルハ（在南京領事発閣下宛電報第一九九号）当然アリ得ヘキ事ナルカ在済南西田（閣外記入）  
（三三二文書）  
（三五五文書）  
総領事代理発閣下宛電報第三〇八号ニ依レハ帝國政府モ亦右要求ハ実力ニ依リ解決済ノモノト解釈シ居ラルルハ誠ニ同感ニテ事実右五箇条ノ要求中第二項武装解除第三項軍隊ノ一定地域外立退第四項排日宣伝中止第五項済南

北京 発  
本省 6月20日前着

第九一三号

六月十九日英国公使来訪ノ際同公使カ王正廷ノ代表郭炳文ト談話中郭ハ南京ノ現ニ有スル唯一ノ外交問題ハ要スルニ済南事件ニシテ爾余ノ問題ハ之ニ比セハ小問題ニ過キサカ故ニ南京政府トシテハ之ヲ國際連盟ニ提出スルカ將又仲裁裁判ニ付スルカノ説有力ナリト述ヘタルニ対シ同公使ハ日支双方カ付託ヲ同意スルニ非サレハ仲裁説ハ成立セサルヘシト述ヘタル趣本使ノ含ミ迄極秘トシテ内話セリ

上海、南京ニ転電セリ

395 昭和3年6月20日 在中国芳沢公使より  
田中 外務大臣宛（電報）

過当なる要求を排除し済南事件を早期解決に導くべき意見具申

付記一 六月二十一日付在中国芳沢公使

二 六月二十二日付參謀本部第二部

及鉄道沿線軍隊撤退等ハ事実強力ニ依リテ実行セラレ第一項ノ責任者ノ処罰ハ既ニ砲撃ニ依リテ解決シタルモノトモ見ルヲ得ヘク又在済南總領事代理宛貴電第四三三号所謂軍事の解決要項中

(一)山東沿線地域内軍隊駐屯禁止(二)武器ノ抑留(三)責任者ノ処罰及(四)陳謝モ亦或ル程度迄ハ事実我方ノ実力ニ依リテ解決シ或ハ砲撃ニ依リテ主張ノ根拠ヲ失ヒタルモノトモ見得ヘシ

尤モ右福田師団長ノ要求ハ支那軍隊カ商埠地ノ四囲ニ塹壕ヲ築キ又付近高地ニ砲列ヲ敷キ日本居留民ハ危険ノ地位ニ置カレタル為ニ出テタルモノナリト称セララルルモ我軍隊カ支那軍ノ攻撃ニ先タチ先ツ我ヨリ発砲シタルハ如何ニ考フルモ居留民保護ノ範圍ヲ超越シタルモノト看做ササルヲ得ス唯我軍事当局ハ軍略上ノ見地ヨリ敵ノ攻撃ニ先タチ進撃シタルモノナリト解釈シ居ルモノノ如キカ右軍略上ノ理由ヲ以テハ仮令第三國ヲ首肯セシムル事アリトスルモ支那側ヲ納得セシムル事困難ナルヘク右事件善後ノ状況及其ノ要求条項ノ内容等ヨリ判スレハ七日ノ要求及八日ノ砲撃ハ寧ロ三日ノ事件ノ報復ニ基キタルモ

ノト看做シ得ヘキ節アリ若シ果シテ然リトセハ責任者ノ  
 処罰陳謝及賠償等ノ要求ハ報復ニ出テサル前ニ於テハ当  
 然提出シ得ヘキモ我方ニ於テ報復行動ヲ執リタル後ニ於  
 テハ既ニ要求ノ一部ハ満たサレタルモノナルカ故ニ唯今  
 之ヲ要求スル根拠モ強カラズ殊ニ八日以後ノ砲撃ニ依リ  
 テ支那側ノ損害ハ遙ニ我方ニ凌駕スル事実ニ顧ミレハ損  
 害賠償ヲ承認セシムル事ハ困難ナルヘシ惟フニ八日以来  
 ノ砲撃ヲ以テ三日ノ事件ノ報復ト看做スヘキヤ否ヤハ此  
 カ機微ナル問題ニシテ外部ニ對シテハ無論否定的ニ主張  
 スルヲ可トスヘク本使モ現ニ斯ク主張シツアルモ愈濟  
 南事件解決交渉ニ當リ之ヲ主張シテ果シテ勝目アリヤト  
 云フニ遺憾乍ラ無シト云ハサルヲ得ス

蓋シ若シ報復ニ非スシテ支那側カ付近高地ニ砲列ヲ敷キ  
 其ノ他攻撃の準備ヲ為シタルニ依リ我方ノ自衛上已ムヲ  
 得ス砲撃手段ニ出テタルモノトセハ敵ノ積極行動ニ對抗  
 セムカ為ニ全然防禦の必要ニ出テタル受動的行動ナラサ  
 ルヘカラス然ルニ敵ノ積極行動ニ對シテ急遽對抗措置ニ  
 出テムカ為三日ノ事件ノ責任者処罰及其ノ他ノ要求ヲ為  
 スカ如キハ聊カ解釈ニ苦シマサルヲ得ス若シ報復ニ非ス

基礎未タ鞏固ナラサル現状ニ於テハ仮令同政府ノ保障ヲ  
 得ルモ事實何等ノ効果ナキハ濟南ニ於ケル蔣介石ノ威令  
 又近クハ鮑毓麟事件ニ於ケル南京政府ノ命令ニ徴スルモ  
 明白ナルカ国民政府ヲ事實上ノ權力団体ト認ムル以上ハ  
 将来ノ保障ヲ要求セサルヲ得サルヘク唯我方ノ欲スルモ  
 ノハ一片ノ紙上ノ保障ニ非スシテ事實上ノ保障ニアルカ  
 故ニ南京政府ノ威令カ事實行ハレサル間ハ往電第五八〇  
 号ノ如ク濟南、青島間ニ駐兵スルハ已ムヲ得サルヘク又  
 我方ニ於テモ当然之ヲ主張シ得ヘシ

四、山東条約規定条項中未タ支那側ノ履行セサルモノハ濟  
 南事件トハ關係ナキモ山東ニ我軍隊ノ威力行ハルル間ニ  
 於テ支那側ニ要求スル時ハ効果アルヘキカ故ニ此ノ機會  
 ニ解決ヲ計ルハ機宜ニ適スヘク殊ニ山東交渉ノ当事者王  
 正廷カ外交部長ニ任命セラレタル今日ハ最も時機ヲ得タ  
 ルモノナルヘシ又青島埠頭ノ改善若ハ鐵道事務所長及會  
 計主任ノ権限擴張等ノ問題モ濟南事件トハ關係ナキモ是  
 亦付帯ノ問題トシテ此ノ際交渉ヲ開始シ我方ノ目的達成  
 ニ努ムルコト望マシ唯鐵道ヲ日支合弁ニ改メシムルコト  
 ハ予テ我方ノ希望スル処ナルモ

トノ説ヲ貫徹セムトセハ勢ヒ右ノ如キ多少無理ナル議論  
 ヲ為ササルヘカラス然ルニ實際ハ三日ノ事件ニ於ケル支  
 那側ノ背信暴虐ノ挙ハ天人ノ共ニ怒ル処我軍隊ノ激怒セ  
 ルハ固ヨリ当然ノ事ナルカ故ニ責任者処罰其ノ他ノ註文  
 モ出テタル訳ニテ感情ヨリ云ハハ無理ノ無キ処ナリ斯ク  
 觀シ来レハ今後交渉ヲ開始スル場合右諸種ノ要求ヲ為ス  
 モ天下ヲ首肯セシメ將又相手タル支那側ヲ承服セシムル  
 事先ツ不可能ナルヘキハ好ク諒解シ得ラルヘシ  
 二、若シ日本側ニ於テ八日以後ノ如キ砲撃ヲ加フル意向有  
 リシトセハ三日事件ノ直後ニ実行シタル方効果ヲ齎シタ  
 ルモノナルヘク支那ノ現状ニ於テハ事件直後討伐スル事  
 ハ比較的容易ナルモ事件後時ヲ經テ陳謝、処罰、賠償等  
 ヲ要求スルモ事實上到底満足ヲ得ル事困難ナルヘキハ南  
 京事件ノ事例ニ（徴シ）明白ナルカ又本年広東露國副領  
 事慘殺事件ニ關シ露國カ今ニ至ルマテ支那側ニ對シ何等  
 ノ要求ヲ為ササルハ參考ト為スニ足ルヘシ

三、右ノ如ク陳謝処罰及賠償等ハ大体ニ於テ八日以来ノ砲  
 撃ニ依リ相殺セラレタルモノト看做シ得ヘキモ我方トシ  
 テハ将来ノ保障ニ付テハ当然主張シ得ヘク唯國民政府ノ  
 華盛頓會議及山東會議當時ノ経緯及王正廷カ結局交渉ノ  
 相手トナルヘキコト等ニ鑑ミレハ到底我方ノ目的貫徹ノ  
 見込ナキノミナラス其ノ結果英米側ニ對シテハ猜疑ノ念  
 ヲ起サシムル虞アルカ故ニ絶好ノ機會アル迄提案ヲ差控  
 タルコト得策トスルヤニ認メラル

五、右ノ如ク本事件ニ關シテハ我方トシテハ路透ノ伝フル  
 カ如キ要求ヲ承認セシムルコトハ極メテ困難ナル立場ニ  
 アリテ我方ニ於テ飽ク迄之ニ拘泥スルトキハ到底解決ノ  
 機會ナカルヘク解決ヲ遷延スレハスル程我方ニ不利ナル  
 結果ヲ齎ラスヘキカ故ニ寧ロ早く相当ナル条件ニテ本問  
 題ヲ解決シ日支兩國間ノ溝渠ヲ除キテ貿易關係ノ恢復ニ  
 カメ大体ニ於テ國民政府カ滿州ニ手ヲ付ケサル限り支那  
 全体ニ亘リテ經濟上及貿易上ノ見地ヨリ提携スルヲ得策  
 ト認ム各國ニ於テモ國民黨ニ對スル感情ノ善惡ヲ問ハス  
 兎ニ角今日南北暫クハ戰爭ヲ絶タムトスル機會ヲ捉ヘ國  
 民政府ト親善ヲ計リテ經濟關係ノ増進ニ全力ヲ注クヘク  
 殊ニ米國ノ如キ伝來的ニ對支親善ヲ標榜スル國ハ必スヤ  
 今後ノ活動刮目ニ価スヘク就テハ我方ニ於テモ其ノ辺ノ  
 事情ヲモ考慮シテ濟南事件ノ御方針ヲ決定セラレムコト

ヲ希望ス

青島、済南へ転電シ上海ヨリ南京へ暗送セシム

（欄外記入） 岡本領事ニ対スル何應欽談

（付記一）

本案ハ六月二十日堀内、天羽両書記官ニ対シ口頭ヲ以テ陳述シタルモノノ要点ヲ摘録シタルモノナルカ陳述ノ際ハ口頭ナルカ故言數モ多ク從テ冗長ナルト同時ニ婉曲ナリシ次第ナルモ摘録シタル要点ハ要点ノミニ止マルカ為言辭稍直接法ニシテ其ノ結果外務省部外ノ人ヨリ見レハ多少嚴格ニ過クルノ感ヲ与フルヤモ計リ難キノ虞アリ此故ニ部外ニ之ヲ提示セラルル場合ニハ行文上多少ノ余裕ヲ設ケ若ハ言辭ヲ多少漠然タラシムルコト然ルヘシト思考ス

昭和三年六月二十一日

芳沢 謙吉

一、済南事件

(イ) 交渉時期

速カニ解決ヲ可トスルカ故ニ成ル可ク交渉ヲ開始スヘ

ノ前途ヲ觀測シテ周到ナル注意ヲ以テ之カ準備ヲ為サルヘカラス我軍事当局ハ七日以後ノ砲撃ハ報復ニ非ストナスカ故ニ諸種ノ要求ヲ為スモ右要求ヲ以テ相手ヲ承服セシムルコト不可能ナルヘク從テ我外交当局カ軍事当局ノ態度ヲ其ノ儘踏襲シ其ノ要求ヲ引繼クトキハ必ス失敗スヘシ故ニ外交当局カ所謂軍事解決ノ後ヲ受ケテ交渉ヲ為スニ当リテハ右ノ諸点ニ付事態ヲ明白ニ為シ置クノ必要アリ

(ニ) 交渉ノ場所、相手方

済南ハ我軍ノ威力行ハルルカ故ニ交渉地トシテハ我方ニ最モ都合良キモ夫レ丈ケ支那側ニ都合悪シク從テ支那側ハ到底日本軍隊ノ威力強キ所ニテハ交渉スルコトヲ欲セサルヘク結局上海、南京若クハ北京ニテ交渉スルノ外ナカルヘシ

交渉ノ相手ハ国民政府ノ全權ヲ有スルモノナレハ可ナル訳ナルモ支那トノ交渉ハ國際會議ノ外ハ外交本部ニテ行フニ非サレハ到底纏ラサルヘク從テ国民政府ノ所在地ヲ最モ可トス若シ北京ニ於テ交渉スルトキハ王正廷カ自身來京スルニ非サレハ成功セサルヘシ

シ

(ロ) 外交交渉条件

三日ノ事件ト七日以後ノ事件トハ區別シテ考フル必要アリ三日ノ事件ハ支那兵ノ掠奪ニ始リ日本側ノ正シキコトハ支那モ列国モ之ヲ認メ日本側有利ナリシモ七日以後ノ事件ハ我方ノ最後通牒及砲撃ニ基クモノニシテ居留民保護ノ目的ニ出テタリト云フヲ得ス福田師団長ノ要求ハ三日ノ事件ノ報復ノ手段ニ出テタルモノト看做ササルヲ得サルカ若シ報復ノ手段ト認メラルル時ハ日支双方ノ要求ハ相殺セラレタルモノト見ルノ外ナク從テ責任者処罰、陳謝、賠償等ハ我方ヨリ要求ノ根拠強カラス只將來ニ対スル保障ハ当然要求シ得ヘシ

(ハ) 所謂軍事解決トノ關係

所謂軍事解決事項ヲ見ルニ其ノ大部分ハ外交上ノ交渉ニ依ルヘキ性質ノモノナリ  
陸軍側ニ於テハ軍事解決成功セスシテ外交当局ノ交渉ニ移サムトスルモノノ如キカ七日以後ノ事件發生セサルトキハ我方ノ立場有利ナルモ右事件ノ為ニ甚シク不利トナリタルカ故ニ外交上ノ交渉ニ当リテハ善ク交渉

(ホ) 山東諸懸案トノ關係

済南事件トハ別問題ナルモ今回日本軍隊ノ威力行ハレ山東條約当事者王正廷カ外交部長トナリタル機會ニ於テ山東條約中支那側ニ於テ未履行ノ諸項ハ此際極力解決ニ努ムヘシ

山東ノ現状改善ニ関スル問題例ヘハ埠頭ノ改善、膠濟鐵道會計及運輸主任ノ權限拡張等ニ関スル問題ハ付帶問題トシテ此際解決ヲ計ルハ時機ヲ得タルモノナルヘシ

但シ膠濟鐵道ヲ合併トスルカ如キ山東條約ノ改正ニ関スル問題ハ華府會議ノ経緯及王正廷カ交渉ノ相手方タル等ノ理由ニ鑑ミ到底成功ノ望ミナク若シ果シテ然ルトセハ此際本問題ヲ提議スルハ大局上却テ好マシカラサル影響ヲ及ホス虞アルカ故ニ提議ヲ見合ス方可然カト思考ス

(ヘ) 撤兵ノ時期

三日ノ事件当初ニ於テハ此事件ヲ切掛ケニ淄川炭坑、済南、青島及沿線重要都市在留本邦人ノ保護ノ為ニ駐兵方ヲ希望セシモ七日ノ事件ノ為ニ事態変更シタルカ

故ニ相当ノ時期ニ撤兵スルノ外ナシ即チ日本政府ノ方針ノ如ク時局安定スル際ニ撤兵スヘク尚具体的ニ云ヘハ支那軍隊カ入り来リ日本軍隊カ秩序維持ノ責任ヲ讓渡シタル後ニ撤兵スヘク從テ濟南事件解決ノ時ナルヘシ

(ト) 撤兵ノ方法及名義

撤兵ハ必要ニ応シ徐々ニ減員スル方針ニテ漸次一部ノ撤兵ヲ為スコトトスヘク又撤兵ノ際ハ出兵ノ目的貫徹セラレ駐兵ノ必要ナキニ至リタルカ故ニ撤兵スル旨ヲ声明スルコト然ルヘシ

二、滿州問題

(イ) 権力者

滿州権力者擁立ニ対シ余リニ人為的ニ干渉シ或ハ自然ニ反シタル計画ヲ試ムルモ結局失敗ニ終ルヘシサレト右ハ必スシモ自然ノ成行ニノミ放任スヘシト云フニ非ス日本ノ權益擁護ノ目的ヲ以テ自然ノ成行ヲ監視シ之ニ適合スル方策ヲ取ラムトスル意味ナリ

陸軍側ハ張學良擁立ニ傾キ居ル由ナルカ若シ自然ノ成行カ大体学良ニ傾キ居ラハ学良又可ナリ学良奉天督弁

東三省ニモ早晚南方ノ勢力及フ虞アルカ故ニ自治ノ運動モ当然起ルヘク既ニ旧国民党系ハ右運動ヲ始メタル由ナルカ自治制度ニハ我方ニトリ有益ナル点アルト同時ニ又不利ナルモノモアルカ故ニ俄ニ之ニ対スル利害ヲ断定スルヲ得ス殊ニ日本人カ自治問題ニ干渉スルモ成功スルコト困難ナルカ故ニ日本ノ利益ヲ害セサル限リ成行ニ放任シ深入リシテ干渉スルコトヲ差控フルコト可然

旧清朝諸親王擁立ノ如キハ殆ムト問題トナラス

(ニ) 国民党トノ關係

現今ノ政況ヨリ見レハ国民党ノ勢力ハ早晚滿州ニ及フヘク其ノ結果トシテ我方ニ対シ種々ノ影響ヲ及スヘキモ人工的ニ此ノ大勢ニ逆フコトハ不可能ナルヘク又我權益ヲ侵害セサル限リ国民党勢力ノ侵入ニ反対スルコト能ハサルヘキカ故ニ我方トシテハ国民党ノ勢力ヲ利用シ誘導シ操縦スル外ナシ

(三) 治安維持問題

現内閣カ滿州ニ於ケル居留民保護ノ範圍ヲ拡張シテ滿州治安維持ノ方針ニ進ミタルハ結構ナルカ之カ為ニ常

任命ノ報道アリタルカ只今ノ所学良ハ日本ニトリ都合悪シカラサルカ故ニ之ニ適當ノ援助ヲ与フルモ可ナルヘク又滿州ノ治安ヲ乱スコトナクシテ東三省總司令ニ就職シ得ハ学良又差支ナシ

唯学良立ツモ結局日本ヲ頼リトセサレハ立行カサルカ故ニ此ノ儘ニ放任スルモ学良ハ日本ヲ頼ミトスルナルヘシ故ニ此ノ際余リ之ニ干渉シテ世話ヲ焼カハ却テ学良ヲ我ヨリ遠カラシムルニ至ルヘシ

学良立タハ楊宇霆カ補佐ノ役ニ当リ結局楊ハ実権ヲ振フヘキカ楊ハ元來國權恢復論者ニシテ郷里東三省ニ於ケル日本ノ勢力進展ヲ非常ニ嫌忌シ其ノ結果日本ヲ排斥スル行動ニ出ツルコトアルカ故ニ注意ヲ要スルモ我方トシテハ楊ニ対スル不快ノ感情ハ外部ニ表ハサス右含ニテ楊ヲ指導スルコトニ努ムルヲ得策トス張作相ハ優柔不断ニシテ且吉林省ヲ中心トシテ多年排外ノ雰囲気内ニ排外的施政ヲ為シ来リタル者ナルカ故ニ我对滿政策上迎フヘキニ非ス殊ニ作相ノ地位及手腕ノ点ヨリ東三省統御ニハ尠カラサル支障ヲ見ルヘシ

(ロ) 自治問題

時日本ノ軍隊ヲ増派シテ治安ノ維持ニ努ムルヨリモ寧ロ支那側ヲシテ治安維持ノ衝ニ当ラシメ我方ハ必要ナル程度ニ援助ヲ与フルコト可然

(ハ) 懸案解決方法

懸案中最も重要ナルハ商租問題ナリ右ニ付テハ從來交渉ノ経過ニ鑑ミ解決頗ル困難ナルモノアルヘキモ從來ノ交渉ヲ基礎トシテ今後出来得ル限リ速カニ機会ヲ捉ヘ之カ解決ニ努ムヘシ滿州ニ於ケル土地問題解決セサレハ本邦人發展ノ基礎モ確立セサルカ故ニ本問題ハ我方ニトリ最も重要ナルモノナリトス

其他一般滿州ノ懸案ニ付テハ理論トシテハ概シテ我方ニ弱味アルモノ多キカ故ニ我方ニ理屈ノアル所ハ飽迄モ主張スルコト勿論ナルモ甚シク理屈ノナキモノハ我方ニ対スル利害關係ノ重大ナルモノニ非サル限リ良イ加減ニ見切りヲ付ケ先ツ互讓ノ精神ニ基キ解決ニ努ムヘシ

(ニ) 鮮人問題

最近接手シタル東京ニ於テ關係官庁間ニ開催セル鮮人問題連合協議会ノ経緯ヲ見ルニ外務省案ハ現状維持ト

云フヨリ寧ろ無策ト云フヲ当レリトスヘキ所我方ノ意見トシテハ大体朝鮮總督府案ヲ基礎トシテ支那側ト交渉スルコト然ルヘシト認メ居レリ

三、國民政府承認問題

(イ) 承認ノ時期

最近政局ノ發展ニ依リ國民政府ノ勢力ハ北京天津ニ及ヒタルモ支那二十一省ハ未タ名実共ニ統一セラレタルモノニ非ス又國民政府ノ命令モ其ノ勢力範圍外ニ及ハサルハ勿論其ノ勢力範圍内ニ於テモ徹底セサルモノアリ（例ヘハ濟南ニ於ケル蔣介石及鮑毓麟軍ノ武装解除問題ニ於ケル韓復榘）從テ先ツ國民政府ノ威令カ普遍的ニ行ハルルヤ否ヤヲ考察セサルヘカラス

次テ南京政府ハ元來蔣介石北伐ノ遺物ナリト看做シ得ヘキモ支那全国ノ意思ノ上ニ建設セラレタルモノトイフヘカラス從テ政府トシテハ全国民ノ意思ヲ代表スル政府タラシムルコトヲ要シ之カ為ニハ先ツ國民黨ノ所謂國民會議ノ開催ヲ必要トス

然ルニ國民黨全体委員會ハ七月十五日國民會議ヲ開催スルニ決定セル由ナルモ早クモ三ヶ月以後ニ非レハ開

(ロ) 承認ノ条件

外國側トシテハ南京政府カ政府承認ニ必要ナル要素ヲ備フル場合ハ条約尊重、既得權尊重、外國人ノ生命財產保護ノ保障等ヲ条件トシテ本問題ヲ考慮スヘシ我方ノ関スル限リハ南京事件ノ解決ハ承認ノ条件ト為スヲ得サルヘク殊ニ米國カ本件ヲ解決セル今日ニ於テ特ニ然リサレト濟南事件ハ先ツ之ヲ解決セサレハ承認ヲ与フルコトハ困難ナルヘク從テ成ルヘク承認前ニ之カ解決ヲ計ルヲ要ス

(ニ) 公使館昇格問題

我方ニ於テハ予テ在支公使館昇格ノ計画アリ其ノ儘トナリ居タルカ今回若シ國民政府ニ承認ヲ与フルカ如キ場合トモナラハ承認ト同時ニ若ハ其ノ直後ニ於テ昇格ヲ断行スルコト然ル可シ殊ニ我方ニ於テ外交団首席トナルコト諸般ノ關係上便宜多シ

四、國都問題

支那ノ國都ヲ北京南京何レニ決定スルヤハ支那ノ自由ニシテ我方ノ關係セサル所ナルモ事實ニ於テハ我方ノ利害ニ關係スル所多シ今遷都論者ノ主張スル所ハ

催スルヲ得ストノコトナルカ故ニ愈集会ノ時期ハ少クトモ三四ヶ月後ナルヘシ

次ニ國民政府ハ其ノ行政ノ実狀如何、果シテ支那國民ノ現状ニ適合スル政治ヲ行ヒ永續スヘキ見込アリヤ否ヤヲモ考察セサルヘカラス

最後ニ我方トシテハ國際條約ノ尊重、外國人ノ生命財產ノ安全保障並政府トシテ其ノ保障ヲ信賴セシムルニ足ルヘキヤ否ヤヲ考察セサルヘカラス而シテ是等總テノ問題ハ支那一般ノ政局ニ支配セラルルカ現在政局ハ一旦安定シタルモ馮玉祥ノ行動ニハ尚監視ヲ必要トスルモノアリ其ノ態度如何ニ依リテハ支那ノ政局ハ再ヒ混沌状態ニ陥ルヘク從テ現在ニ於テハ承認ノ時期ハ深く考慮スルノ必要ナカルヘシ

(ロ) 承認ノ方法

順序トシテハ事實上ノ承認アリテ後法律上ノ承認ニ入ルヘク日本モ先ツ事實上ノ承認ヲ与ヘ然ル後法律上ノ承認ヲ与フルコトトナルヘシ而シテ事實上ノ承認ニ付テハ日本ハ単独ニ行動ヲ為シ差支ナキモ法律上ノ承認ノ場合ハ成ルヘク他國ト協議スルヲ適當トスヘシ

(一) 孫文ノ遺志

(二) 匪徒事件最終議定書ノ廃止

(三) 土耳其及露國ノ例ニ倣ハムトスルコト

(四) 北京「マンダリン」ノ陋習打破

等ニシテ之ニ対シ北京首府説ヲ主張スル者ハ

(一) 實際上ノ便宜

(二) 南京ニハ設備ナキコト

(三) 滿州及蒙古ニ近キカ故ニ此方面ニ対スル外國ノ侵略ニ備フルニ便利ナルコト

等ナルカ只今ノ所ハ北京説モ可ナリ有力ニシテ未タ決定セサルモノノ如シ

目下ノ所外國公使館側ニ於テハ移轉問題ヲ考慮シ居ルモノ無論ナク又事實南京ニ國都ヲ置クモ暫クハ公使館ノ移轉ヲ見ルコトナカルヘシ唯南京カ首府タルコト久シキニ及ハハ公使館モ亦移轉ノ止ムナキニ至ルヘシ但シ首府カ南京ニ移ルモ之カ為直ニ一九〇一年ノ議定書ハ廃止セラレタルモノナリトハ断定スルヲ得サルヘシ

五、條約改訂問題

(イ) 交渉開始ノ得失及時期

国民政府ノ對外宣言及王正廷ノ談話ヨリ見ルモ条約改訂問題ハ早晚提起セラルヘク既ニ効力ノ満期トナリタルモノモ未タ効力満期トナラサルモノモ一齊ニ提議セラルルヤモ計リ難シ我方トシテハ差当リ七月二十日通商条約効力更新問題ニ逢会スヘキカ故ニ先ツ之ニ対スル態度ヲ考慮シ同時ニ根本方針ニ就テモ決定シ置クノ要アリ

(ロ) 北京政府トノ交渉ノ結果ヲ如何ニスヘキヤ

従来北京政府トノ交渉ハ武漢及南京政府ニ対シ商議ノ要領ヲ通知シ兩政府モ亦黙認シ居リ殊ニ昨年八月芳沢公使南京訪問ノ際蔣介石、王寵惠ノ来訪ヲ受ケタル際談判進行ノ状況ヲ話シ相手方ハ満足ノ意ヲ表シタル關係モアリ国民政府ヲシテ北京政府ト交渉ノ結果ヲ承認セシムルコトハ困難ナラサルヘシ尤モ北京政府トノ交渉中纏リタルハ殆ントナク唯最惠国約款問題ニ於テ大部分意見ノ交換ヲ了シタリシカ若シ南京政府ニ於テ之ヲ否認セムトスル時ハ飽ク迄之ニ對抗シテ承認セシメサルヘカラス從テ七月二十日期限滿了ノ時ハ差当リ南京政府ヲシテ三ヶ月間効力ノ延長ヲ申入レシムヘク同

同年秋其ノ善後策議セラレタル際鉄道警備隊ノ案提出セラレタルカ日本ノ反対ニ依リ不成立ニ終リタリ当時若シ鉄道警備隊成立シ居タリトセハ或点迄ハ内乱ノ助長ヲ防キ得タルナルヘシサレト日本トシテハ将来日米戦争ノ際等ヲ考慮シ支那ヨリ物資ヲ求ムル必要アリシ為ニ共管ニ反対シタル次第ナリ

若シ京漢、津浦、粵漢等ノ幹線ヲ共管トシ揚子江ヲ共同警備ノ下ニ置クトキハ内乱ヲ防止シ得ヘキモ今日ニ於テハ実行難シク從テ精々重要ナル地点ニ軍隊ヲ置キテ省際ノ交通ヲ確保シ軍隊ノ通過ヲ制限スヘク例ヘハ天津、保定、徐州、南京、漢口等ニ軍隊及軍艦ヲ派遣シテ監視スルモノ一策ナルヘシ

右ハ支那内政ノ干渉ニ亘ルヘシト雖モ其ノ結果ハ却テ支那国民ノ為ニ幸福ナル影響ヲ及ホスヘシサレト現在ニ於テハ国民政府ハ極力斯クノ如キ外国ノ干渉ニ反対スヘキカ故ニ唯事態ノ推移ヲ見テ善処スル外ナカルヘシ

八、税関、塩務、郵政諸問題

国民政府ノ勢力北京ニ及ヒテヨリ先ツ北京郵政総局ハ南京（実ハ上海）ニ移サレ塩税ノ唯一ノ殘塁タル長蘆塩ノ

政府モ恐ラクハ此ノ措置ニ出ツヘシ而テ我方トシテハ其間ニ徐ニ之カ対策ニ付考究シ準備スルヲ要ス

六、裁兵問題

(イ) 実行ノ方法

支那ニ過多ノ軍隊アル為ニ不当課税起リ商業不振、産業萎微ヲ見タルカ故ニ裁兵ハ支那ニ於テハ久シク急務ト見ラレタリ從テ裁兵ハ軍隊ノ幹部以外ハ何レノ方面ヨリモ歓迎セラレ現ニ最近国民政府幹部中李宗仁ノ如キハ熱心ニ之カ実行ヲ主張シ居リ其ノ方法ニ付テモ種々ノ考案ヲ聞クモ支那ノミニ任シテハ事実成功スルコトナカルヘシ

(ロ) 外国ノ態度

裁兵ハ支那ニ任セハ実行出来ス去迎国民政府ハ本問題ハ国内ノ問題トシテ外国ノ容喙ヲ排スヘク結局実行不可能ニ終ルヘシ

七、鉄道交通問題

鉄道ノ復旧ハ支那国内統一ニ最モ重大ナル關係ヲ有サレト列国ニ於テ少クトモ鉄道管理ヲ断行スルニ非サレハ交通ノ復旧ハ困難ナルヘシ大正十二年五月臨城事件起リ

収入モ差押ニ遭ハムトシ税関モ亦南方ノ干渉ヲ受ケムトス

我方トシテハ列国ト協調シテ現状制度維持ニ努メ斯クシテ条約上ノ權利保護ニ努力シツツアル処将来列国ノ右ノ如キ努力ト国民政府ノ外人排斥運動トハ益々深刻ニ衝突スヘク結局ハ行ク所迄行カサレハ止マサルヘシ

国民政府ハ外国人ノ淘汰ニ努メ是等ノ行政機關ヲ其ノ管理下ニ置カムトスルモ會計人事等ニ於テハ最モ紊乱ヲ来スヘキカ故ニ結局其ノ運用乱ルヘシ

而シテ郵政ハ仏国人ニ於テ郵政總弁ノ地位ヲ占メ税関及塩務ハ英国人首腦者タルモ英仏ハ現在ニ於テハ現状維持ノ為日本ノ援助ヲ求メ居リ日本トシテハ之ヲ援助スルト共ニ之ヲ利用シテ我利益ノ伸展ニ努メツツアリ

(付記二)

昭和三年六月二十二日 參謀本部第二部

山東問題交渉方針案

一、交渉ハ相当長期ニ亘リ解決困難ナルヘキヲ予想セラルルモ解決ノ急速容易ナランコトヲ希望シ故ラニ我要求ヲ

手控ヘスル如キコトハ為サス正当ト信スル事項ハ何等斟酌ナク嚴重要求スルコト

二、我要求ハ国家威信ノ貫徹並将来ノ保障ニ重キヲ置キ同時ニ条約上ノ権利ヲ蹂躪シテ顧ミサルカ如キ輕率無謀ノ行動ニ対シ帝國ノ敵乎タル意思表示タルヘキコト

三、保障ニ関スル要求中ニハ左記諸項ヲ含有スルコト

(1) 外国人ノ生命財産ノ保障並支那ト各外国トノ間ニ現存スル条約乃至契約上外国ニ許シタル一切ノ権利ヲ尊重スヘキコトヲ更メテ声明セシムルコト

(2) 支那各地ノ商埠地内ニハ武装軍隊ヲ入レサルコト

(3) 外国人トノ間ニ於ケル不祥事件ノ直接間接ノ原因タルヘキ左記事項ノ禁止又ハ取締励行

(a) 一般市民及軍隊ニ対スル排外思想ノ宣伝、教育ノ禁止

(b) 商埠地内ニ於ケル便衣隊、糾察隊又ハ之ニ類似スル団隊ノ活動禁止

(c) 不良軍隊ノ暴戾行動ノ取締

(d) 土匪取締ノ励行

四、派遣軍隊ノ駐屯ハ一面之ヲ以テ交渉ノ促進ニ資スルト

支里ノ地帯内ニ支那ノ武装軍隊ヲ進入セシメサルコト

三、交渉解決ト同時ニ右地域内ニ南京政府ノ任命セル行政機関ノ進入ヲ許ス

但シ右機関ノ帯同スル武力ハ我軍ノ駐在スル間其内容人員共ニ保安警察ニ必要ナル範囲内タルコト

四、押収武器ハ交渉解決ト同時ニ國民政府ニ引渡スコト

五、津浦鉄道ハ交渉解決ト同時ニ軍事輸送ヲ許ス

(欄外記入) 之レヲ一方法トシテ山東鉄道護路警察隊ノ改組並之ニ実権アル外国人警視等ヲ採用セシム

ルコトモ可ナラン  
松井

396 昭和3年6月(22)日

在パリ佐藤連盟事務局局長より  
田中外務大臣宛(電報)

顔惠慶より国際連盟事務総長に対し済南事件  
調査委員会委員の任命要望について

パ リ 発

本 省 6月22日前着

第三三三号

在天津顔惠慶ヨリ連盟首席代表ノ資格ニテ二十一日付連盟

同時ニ一面撤退ノ時機ハ何等他ノ拘束ヲ受ケス一ツニ居留民保護上必要ノ有無ヲ判断シテ之ヲ決定シ得ル如ク自由ノ立場ヲ保留スルコトニ注意スヘキモノトス

五、新ニ利権ヲ要求スルカ如キハ之ヲ避クヘキモ条約ヲ以テ支那ノ誓約セル事項ニシテ未実行ノモノハ此際之カ実行ヲ要求スルコト

(欄外記入) 六、以上ノ外軍事交渉トノ關係上軍部トシテ外務省ニ要求スヘキ件別紙ノ如シ

(別紙)

済南事件軍事解決ヲ外交々渉ニ移スニ当リ軍部ノ

要求スヘキ事項

一、第四十軍長賀耀組ハ既ニ済南事件ノ責任者トシテ免職セラレタルコトヲ更メテ確認セシメ且ツ今後再ヒ軍職ニ任命セサルコト

該軍中事件発生当時直接軍隊ヲ指揮シテ我軍ニ対敵行為ヲ為シタル各級指揮官ヲ嚴罰ニ処スルコト

二、我派遣軍ノ完全ナル撤退迄済南及膠濟鉄道兩側各二十

事務総長ニ対シ済南事件ニ関シ調査報告シ事件解決ニ資スル為理事會ニテ中立國人ヨリ成ル調査委員會ヲ任命セラレ

タキ旨電報シ来レル趣杉村公使ヨリ内報アリタリ不取敢米ニ転電シ英、仏、独、伊、羅、白ニ郵送セリ

397 昭和3年6月(23)日

在パリ佐藤連盟事務局局長より  
田中外務大臣宛(電報)

連盟側は顔惠慶よりの要望無視について

パ リ 発  
本 省 6月23日前着

第九三三号

往電第九一号ニ関シ

顔惠慶来電ニ対シテハ連盟事務局ニ於テハ顔ノ資格明カナラサルノミナラス天津ニ於ケル居所モ不明ナルコトヲ理由トシテ何等手續ヲ執ラサルコトトナレル趣ナリ

尚同人ハ或ハ今年總會ノ代表ニ任命セラレタルモノナルヤモ計ラレサルニ付此ノ辺ノ事情御取調ノ上御回示相成様致シタシ

米へ転電シ英、独、仏、伊、白、露へ暗送セリ

398

昭和3年6月23日

田中外務大臣より  
在天津加藤総領事宛（電報）

顔惠慶の国際連盟総会代表任命の有無につい

て

本省 6月23日後発

第六二号

往電合第二三八号ニ関シ

佐藤局長来電ニ依レハ連盟事務局ニ於テハ顔惠慶ノ資格明カナラサルノミナラス天津ノ居所モ不明ナルニ付同人来電ニ対シテハ何等手續ヲ執ラサルコトナレル趣ナルカ右顔ノ電報ニ連盟首席代表トアル為同人ハ或ハ本年ノ連盟総会代表ニ任命セラレタルモノニ非サヤト推測スル向モアルニ付右事実ノ有無及同人カ本件電報ヲ発シタル事情等夫レト無ク御取調ヘノ上回電アリ度シ

北京、上海、南京、済南、青島、奉天ニ転電アリ度シ

~~~~~

399

昭和3年6月23日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

類似ノ不祥事件ヲ再発セシムル事無キヲ保セサルヘシ済南事件解決ノ御方針御決定ニ際シテハ右ノ根本義ヨリ出発シテ御考慮ノ必要アルヘシト思考ス

(二)<sup>(2)</sup> 福田師団長ノ五ヶ条要求ハ砲撃ニ依リ事実上解決セラレタルモノト解釈シ差支無キモ右ハ単ニ同師団長対蔣介石間ノ問題ニ過キス之ヲ以テ帝政府対南京政府間ノ問題迄モ解決セラレタルモノト看做ス可キモノニ非ス殊ニ本件ノ如ク我邦人ヲ虐殺凌辱シタル問題ハ民族ノ名譽ニ関スル重大問題トシテ軍事当局者間ノ解決ノミニテ満足スルコトナク宜シク帝政府ヨリ南京政府ニ対シ是非曲直ヲ明カニシ直接其ノ責任ヲ問フノ措置ニ出テテコソ始メテ国家威信ヲ保チ民心ヲ繋クコトヲ得ヘシ

(三) 元来帝政府ヨリ南京政府ニ対シ陳謝処罰及賠償ヲ求ムル所以ノモノハ第一斯ノ如キ不祥事件ヲ発生セシメタル原因ハ全然南軍側ニ在ルヲ以テ其ノ責任ヲ問フハ当然ノ措置タルコト第二南軍側ニ於テ天人共ニ許ササル故意ノ惨殺凌辱及戦争ト何等関係無キ掠奪行為ヲ敢テシタルハ我國民ヲ侮辱スルコト甚タシキモノナルヲ以テ国家ノ名譽ノ為ニ彼ノ無礼ト蛮行トヲ責メテ制裁ヲ加フル意味ニ

済南事件は国家の威信に関する重大問題として処理すべき旨意見具申

青島

発

本省 6月23日後着

第四四八号（極秘）

（三五五文書）

在支公使発閣下宛電報第九一九号ニ関シテハ本官曩ニ済南発往電第三〇八号ニテ具体案ノ大綱ヲ申進タル関係モアリ旁済南事件解決ノ根本方針御決定ノ御参考迄重ネテ卑見申進ス

(一) 済南事件ノ発端タル邦人虐殺ノ惨状ト凌辱トハ単純ナル出来事ニ非ス華府会議ヨリ更ニ溯ツテ巴里會議開催以來支那人ハ外力ヲ借りテ日本ヲ制スレハ日人ノ易シノ輕侮ノ觀念ヲ抱キ其ノ思想一般國民運動ニ迄浸潤シ遂ニ南京、漢口両事件ヲ惹起シ更ニ悪化シテ今次ノ済南事件ヲ生ムニ至リタルモノナリ從テ済南事件ナルモノハ単純ナル理屈利害若ハ政策問題ニ非スシテ国家ノ威信、國民ノ名譽ニ関スル重大ナル問題ト見做スヘク日本トシテハ此ノ機会ニ於テ極力此ノ謬想ヲ一掃シ国家ノ威嚴ヲ恢復シ國民ノ汚辱ヲ一洗スルノ方図ニ出テスンハ更ニ済南事件

外ナラス即チ我方ハ単ニ国家ノ威信問題トシテ之ヲ論シ彼ノ不都合ヲ詰責スルモノナリ從テ戦争ノ結果当然発生シタル我方軍隊ノ死傷者並ニ損害等ニ付テハ固ヨリ何等要求カマシキ提議ヲ為スモノニ非ス又支那側ノ損害力遙ニ我方ヲ凌駕シタリトテ右ハ戦争当然ノ結果ニ外ナラサルヲ以テ我方ニ於テ何等責任ヲ負フヘキ筋ニ非ス要スルニ陳謝処罰等ノ問題ハ衝突ニ依ル損害ノ大小比較ノ打算ヲ超越シテ国家ノ名譽問題ニ立脚スルコトヲ考慮スルノ要アルヘシ

(四)<sup>(3)</sup> 八日ノ砲撃ハ報復ノ性質ヲ帯ヒサルヤ否ヤハ議論ノ岐ルル処ナランモ右ハ理屈ノ問題ヲ離レテ全然当時ノ状況判断ニ待ツヘキ問題ナルヘシ我方トシテハ軍事上ノ立場ヨリ当時ノ緊急事態ハ我方ヨリ積極的行動ニ出ツルノ外絶對ニ在留民保護ノ途無カリシ事ヲ説明スレハ可ナルヘシ支那側ハ之ヲ以テ満足スル事無キヤ保シ難キモ我方ニ於テハ南軍側ノ如ク何等故意ニ良民ヲ虐殺シ蛮行ヲ加ヘントスル意図ニ出テタルニ非サルヲ以テ軍事上ニ於ケル物質的損害ノ大小問題ト国家ノ威信問題トヲ混同スル事無ク別ニ考慮シ何等相互ニ相殺セラレヘキ筋合ノモノニ非

サル事ヲ主張シ得ヘシ

(五)本件解決ノ具体案中最モ重要ナルハ申ス迄モ無ク将来ノ保障問題ナルヘシ之ヲ有効ニ解決スルニハ累次具申ノ通我方多少ノ不利益ヲ顧ミス此ノ際速ニ持久策ヲ講シ我方ノ決意ト公正嚴肅ナル態度トヲ示ス必要有リ又斯ル態度ニ出テテコソ本件ヲ正当ナル解決ニ導キ得ヘキカト思考ス尤モ我方トシテ濟南事件ヲ速ニ解決シ国民政府ト親善關係ヲ結フ事ハ内外ノ形勢ニ顧ミ固ヨリ望マシキ事ナレト先方ニ於テ曠日彌久殊更ニ本件解決ヲ遷延セシメントスル意図有ルカ如ク剩ヘ外力ヲ誘ヒテ名ヲ不必要ナル共同調査ニ藉リ我方ノ立場ヲ不利ニ陥レントスル氣トモ見受ケラルルニ付テハ尚更速ニ我方ノ決心ト態度トヲ示サル事却テ本件解決ヲ促進セシムル所以カト思考ス北京、濟南、上海ヘ転電シ上海ヨリ南京ヘ暗送セシム

400 昭和3年6月(24)日

在天津加藤總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

國際連盟へ要望せる濟南事件調査委員会組織  
に關する顏惠慶の談話について

一、右ニ関シ連盟ヨリハ未タ何等ノ通信ニ接セス從テ如何ナル反響ヲ与ヘタルヤ承知セス

尚右会见ニ依リテ得タル印象ニ依レハ顔ノ今回ノ行動ハ王寵惠辺リト連絡有リ且南方關係者ト相当話合有リシモノト想像セラルルモ左シタル根拠有リテノ行動トモ認メラレス或ハ本件ヲ通シテ今後彼自身ノ政治的立場ヲ有利ナラシメムトノ魂胆ナルニ非サヤトモ観測セラル  
在支公使ヘ転電シ濟南、青島ヘ暗送セリ

401 昭和3年7月(2)日

在青島藤田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉に關し緩和策は不適当なる  
旨意見具申

第四六六号

貴電第一五七号ニ関シ

一、駐兵中南方政治機關ヲシテ彼我ノ關係ヲ緩和セシムル事ハ政策上尤モノ次第ナレト之ニ依リ果シテ撤兵後ニ於

青島 本省 7月2日後着

第一九五号

貴電第二三八号ニ関シ

二十三日顏惠慶ノ談話要旨左ノ通

一、濟南事件ニ於ケル日支双方ノ主張ノ差甚タシキハ解決ノ基礎タルヘキ事実ノ報告ニ著シキ逕庭有ルカ為ニシテ現在ノ成リ行ノ儘ニテハ如何ナル当局ト雖円満ナル解決ヲ図ル事到底不可能ノ事ト思ハレテハ永ク兩國間ノ禍根タリ兩國国民ノ感情ヲ乖離セシメ寒心ニ堪ヘサルニ付何トカ速ニ解決スル方法無カルヘキカト種々私談ノ末南方側ノ者トモ折衝ノ結果解決ノ基礎タルヘキ事実ヲ公平ノ立場ニアルモノヲシテ闡明セシムルコト本件解決ノ近道ナルヘシト思惟シ自分カ制度上連盟ノ首席代表タルノ立場ニアルヲ幸ヒ両三日前連盟ニ電報シ利益關係無キ中立国人ヨリ成ル事実調査委員会組織方ヲ「サゼスト」セル次第ナルカ事件ノ解決其ノモノヲ第三者ニ任セントスル意味合ニハ非スシテ単ニ兩国外交当局交渉ノ基礎タルヘキ事実ノミヲ調査決定セシメントスルニ外ナラス

天津

本省 6月24日前着

発

ケル居留民ノ安全ヲ期待シ得ルヤハ甚タ疑問ナリ素ヨリ彼等ハ我駐兵中露骨ナル挙措ヲ慎ミ真面目ナル態度ヲ装フテ我方ノ意ヲ迎フル事ニカム可キモ右ハ単ニ駐兵期間ニ於ケル表面ノ隱忍策ニ過キス而モ隱忍ノ反動ハ撤兵後ニ至リ猛然トシテ擡頭シ来ル可シ加フルニ支那人ハ計算的利害觀念強ク我方ヨリ如何ニ恩惠ヲ施ストモ之ニ狎ルル傾コソアレ決シテ之ニ感スル者ニ非ス却テ恩ニ酬ユルニ仇ヲ以テセル事例ハ既往ニ徴シ其ノ例ニ乏シカラス故ニ我居留民ニ対スル安全策ハ之ヲ濟南事件ノ解決前ニ於ケル好意的接觸ニ求ムルヨリモ寧ロ事件解決ノ総決算時ニ於テ完全ナル保障ヲ取付クルニ如カスト思考ス

二、南方政治機關ヲ我警備区域内ニ入レ便衣隊並ニ不良分子ノ策動ヲ取締ラシムル事モ濟南ノ現状ニ顧ミテハ一応ノ妙案ナルカ如ク思ハルルモ右ハ聊実状ヲ穿タサル觀察ナリト云ハサルヲ得ス元來便衣隊及不良分子ノ跋扈ハ単ニ南方系政治機關存在ノ問題ヨリ来レルモノニ非ス我軍ノ態度如何ヨリ来レルモノナリ濟南カ今日南方ノ策動ニ苦シム所以ノモノハ第六師団カ南軍掃蕩後遽ニ其ノ氣勢ヲ緩メ南方勢力ノ侵入ニ直面シ乍ラ傍觀の態度ニ出テタ

ルカ為メ南方政府側ニ我軍ノ態度ヲ甘ク見ラレ彼等ヲシテ凶ニ乗ラシメタル結果ニ外ナラス其ノ罪ハ彼ニアラスシテ寧ロ我軍ニアリ其ノ反証トシテ青島一帯ノ現状ヲ見レハ思半ハニ過クルモノアルコシ青島ニ於テハ第三師團到着後逸早く二十支里以内ニ於ケル南北兩軍ノ駐屯其ノ他排日宣伝行為ヲ絶對ニ禁止シ其ノ実行ニ力メタル結果南方政府ト雖モ一指タニ染ムル能ハス治安ノ維持ニモ微動タニ来サス今ニ平穩無事ナルヲ持續シツツアル実情ハ其ノ由来スル処何レニアルヤヲ如實ニ証明スルモノナリ

三、我警備区域内ニ南方軍機関ノ存在ヲ認ムルニ至レハ南方系ノ人物ハ蟻ノ甘キニ付クカ如クニ殺到シ其ノ扶殖スル潜勢力ハ忽チ民心ノ偏向ヲ支配スヘク從テ我軍力ニ心服セル民心モ動搖シ支那官憲ニ對シ阿諛迎合ノ気分ヲ示サントシ自ラ我ニ反感ノ言動ヲ敢行スルモノアルヘキハ勢已ムヲ得サル所ナルヘシ尤モ治安ニ関スル重大事項ハ其ノ対応策容易ナリトスルモ日常ノ些事ニ至リテハ仮令責任官憲ニ取締ヲ要求スルモ到底徹底ヲ期シ難ク結局ハ我方奔命ニ疲ルルノ外ナキニ至ラン斯クテハ我軍力モ之ヲ施スニ余地ナキノミナラス我軍隊ハ恰モ南方人ヲ擁護

先米国官憲ノ報告ト相俟チテ誤解一掃ニ相当効果アルヘシト思考ス

六、本官ニ於テハ素ヨリ毫モ御訓令ニ逆ハントスルモノニアラス只御訓令実行ノ結果ハ前述ノ通我方ニ不利ナル事態發生スルコトナキヤヲ憂ヒ潜越乍ラ重ネテ所見ヲ披瀝スルニ過キス右御諒承アリタシ

北京、済南、上海、南京ニ転電セリ

402 昭和3年7月(2)日 在上海矢田總領事より  
田中外交大臣宛(電報)

王外交部長など済南事件解決に關し日本軍の  
撤兵先行を主張について

上海 発  
本省 7月2日後着

第四三八号

昨夜王正廷、崔士傑ノ清水ニ語レル談話要領

(崔士傑)、日軍ノ済南城砲撃ハ何トシテモ諒解出来ス日軍ノ行動ハ引続キ不可解ノコト多ク最近益々圧迫的ニ出テ居ルカ国民政府側トシテハ済南支那同胞全部ヲ犠牲トスルモ

スル案山子ニ同シ済南事件ノ解決モ徒ニ遷延ヲ重ネ延ヒテ我駐兵ノ意義モ没却セラルル破目ニ陥リ實際上却テ不良ナル結果ヲ招来スルコトナキヤヲ恐ル

四、惟フニ過去ニ於ケル對支交渉案件ノ行詰リハ其ノ根本原因ヲ對究スルニ交渉ノ当初支那側ニ何等ノ苦痛ヲモ与ヘス又解決ノ際何等ノ利益ヲモ与フルコトナク只正道ノ通帰着スル純理論ノミヲ楯トシテ応酬シ遂ニ支那側ノ口先ニ乗セラレ有利ノ結果ヲ齎ラスヲ得サリシニアラスヤト思考ス就テハ打算的ノ支那人ヲ相手トスル限リハ從來ノ如キ微温的手段ヲ避ケ其ノ弱点ヲ抑ヘ苦痛ヲ与ヘテコソ済南事件ヲ有利ニ且比較的容易ニ解決スルコトヲ得ヘシ今更緩和策ニ出ツルカ如キハ其ノ結果却テ面白カラサルヘキヲ憂フル次第ナリ

五、山東方面ニ於ケル我方ノ行動ニ関シ世界一般ノ誤解ヲ避ケ度ハ勿論殊ニ王正廷外交部長タル關係上事実ヲ誇張シテ同情ヲ米國方面ニ求ムルニ至ルヘキハ想像ニ難カラサルニ付テハ甚タ差出カマシキ事ナカラ此ノ際駐米大使ノ不在期間ヲ出来得ル限リ縮メラレ同使臣ヲシテ直接米國政府ニ山東方面ノ出来事ヲ説明セシムルコトトセハ出

可ナリトノ固キ決心ニテ今後共日軍カ如何ナル行為ヲナスモ一切相手ニセサル方針ニテ済南事件交渉ノ如キハ山東撤兵実行セラレサル限リ支那側ヨリ交渉ヲ開始スルカ如キコトナカルヘシ國民政府トシテハ既ニ山東在留日人ノ生命財産ヲ責任ヲ以テ保護スル旨言明シ居ルカ此ノ際撤兵ニ極レハ必ス嚴重ナル法令ヲ發布シ且最モ規律アル軍隊ヲ選抜シテ充分完全周到ナル保護ニ任スヘク万一右保護ニテモ尚不祥事件惹起ノ場合コソ日本側ヨリ如何ナル制裁ヲ受クルモ異存ナキニ付速ナル撤兵ヲ熱望ス右撤兵実行ノ場合速ニ妥協的精神ヲ以テ交渉開始スヘキハ勿論ナリ

(王正廷)、今ヤ支那ヲ統一シタル國民政府カ責任ヲ以テ完全ニ日本人ノ生命財産保護ヲ保障スルモ尚引続キ駐兵セシムル理由ハ絶對ニナシ問題ハ簡單ナリ撤兵シテ日本ノ野心ナキヲ実証セハ万事容易ニ解決スヘシ「大事勦小事小事勦無事」ノ一句日本政府ニ伝達アリタシ

北京、済南、青島、南京ヘ転電セリ

403 昭和3年7月(7)日 在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛(電報)

濟南事件解決交渉に大國の襟度をもつて臨む  
べき意見具申

南京 発  
本省 7月7日 後着

第二七六号

濟南事件ノ解決ニ際シ膠濟鉄道ヲ我手中ニ収メ山東ハ我勢力範圍内ニ置クヘシトカ或ハ飽ク迄強硬ナル態度ヲ持シテ庄迫ヲ加ヘ聽テ来ルヘキ滿州問題ノ解決ニ資スヘシトカ甚シキニ至リテハ多額ノ国費ヲ費シテ出兵シタル事ナレハ何等カノ收穫ヲ期セサルヘカラスト主張スルモノアリト聞キ及ヘル際同事件ニ対スル当方面支那側ノ空気が、有力者ノ意向等ヲ報告スルハ徒爾ナラスト史料ス

当地支那側ニ於テハ無責任ナル排日家ノ所論ハ別トシ眞面目ニ兩國ノ将来ヲ考ヘ居ル有識者ト雖モ今次ノ日本ノ態度ヲ以テ不可解トナシ他國ノ主權ヲ害シテ出兵シタルノミナラス無抵抗ノ意思ヲ表示セルニ拘ラス攻撃ヲ加ヘ而モ夥シキ生命財産ノ損害ヲ与ヘタルハ故意ニ事端ヲ滋カラシメテ何等野望ヲ逞シウセン為ナリト疑ヒ何レニスルモ八日以後ノ積極行動ハ自衛ノ範圍ヲ越ヘタル天人共ニ許ササル非道

放置シテ日本ノ困惑ヲ待ツヘシト放言セル旨殷汝耕本官ニ語レリ

日支兩方面ニ於テ右ノ如キ主張ヲ固執スル以上日本ニ於テ利害ヲ不省強力ヲ以テ主張ノ貫徹ヲ計ラサル以上本件ノ解決ハ至難ニシテ或ハ其ノ望ミ無キニ非ルカヲ思ハシムル処事件解決セサル以上我居留民ニ対スル不安ヲ除去サル事無ク撤兵モ不可能トナリ多額ノ国帑ヲ費シテ駐兵ヲ繼續スルモ居留民ノ生活ハ脅カサレ發展望ムヘカラス而ノミナラス支那民衆ノ我レニ対スル反感怨嗟ノ念ハ一層熾烈ヲ加フヘク我立場ハ益々困難トナルヘシ然ルニ于右任、譚延闓、張人傑、李烈鈞、蔣介石等巨頭連ハ漸ク其ノ緒ニ就キタル支那統一ノ事業ヲ完成セムカ為ニハ日本ト相争フノ不利ナルヲ充分自覚シ支那自身ノ為ハ勿論東亞ノ和平ノ為ニモ是非共日本ト提携セサルヘカラサルヲ感シ居ル事ハ事實ニシテ濟南事件ハ誠ニ不祥事ナルモ之ヲ以テ日支兩國ノ提携ヲ不可能ナラシムルヲ欲セス從テ出来得ル限り之ヲ輕微ニ取扱ヒ禍根ヲ胎ササル様解決シ度シト考ヘ居ルカ如ク一有力方面ヨリ「事件ヲ此ノ儘放置セハ益々解決ヲ困難ナラシメ兩國提携ニ支障ヲ来スノミナラス対日悪感ヲ深カラシメ

ノ所為ナリ強氣ヲ恃ム暴虐ナル所為ナリト憤慨シ謝罪スルカ如キ事ハ以テノ外ナリト唱フルモノ特ニ軍人中ニ多シ又当地及上海方面日支人間ニモ本末帝國政府カ山東ニ出兵セラレタルハ支那ヲ以テ一種ノ無能力者ト看做シ信頼シテ我カ在留邦人ノ保護ヲ期待シ得スト為サレタルニ依ルモノニシテ從テ我カ居留民ノ生命財産ニ被害ノ及ハムトスル際我武力ヲ以テ之ヲ防止スルノ覚悟ト決心ヲ有セラレタルハ言ヲ俟タス即チ無能者ト認メテ随意ノ行動ニ出テ之ニ報復的打撃ヲ加ヘタル以外尚進ムテ責任ヲ問ヒ無能力者ハ之ニ応スル能力無キニ非スヤ而シテ日本ノ國威ヲ汚シタリト称スルモ土匪ノ集團ニモ等シキモノヲ相手トシ僅少ノ兵力ヲ以テ多数ノ敵兵ヲ驅逐シ三四千名ヲ斃シタル以上我武威ハ示サレ國威ハ宣揚セラレタリト為スモ可ナリ之ヲ要スルニ今次ノ事件ニ対スル強硬論者ハ其ノ意中何等ノ野心無シトセハ当初無能力者ト認メ劣等國ト為シ自衛手段トシテ其ノ領土主權ヲ犯シ乍ラ事件後ニ於テハ之ヲ對等國扱ヒト為シ其ノ土匪集團ヲ正規兵ト為スノ矛盾ニ氣付カサルモノナリト言フ甚タシキハ濟南事件ハ日本ノ膺懲ノ措置ニ依リテ既に結了セリトサヘ唱フルモノアリ王正廷ノ如キ事件ハ之ヲ

國貿易ハ至大ノ影響ヲ蒙ルニ至ルヘキニ付國民政府略全國ヲ統一セル此ノ際濟南事件ト無関係ニ日本側ニ於テ何等カ顯著ナル恩惠ノ措置ニ出テラレナハ事件ノ影響ハ頗ル稀薄トナルヘク其ノ機會ニ一氣ニ本件ヲ解決セハ國民政府當局モ頗ル遣リ好ク都合ト思考ス

例<sup>(4)</sup>ヘハ不平等條約改訂問題ノ如キ今總テヲ平等ナラシムルハ支那自身ニトリ幾多ノ困難ヲ伴フヘキヲ以テ漸進主義ヲ取ルヲ可トストノ穩健說多数ナル折柄ナルニ付日本ニ於テ率先声ヲ大ニシテ不平等條約ノ廢止ヲ聲明サレ平等條約ノ大綱ノミヲ締結サルルト共ニ細目協定ニ至リテ其ノ主張ヲ固執サレ要スルニ交渉ヲ遷延サルルカ如キ拳ニ出テラレナハ必スシモ日本ニ採リ不利益ナラサルヘシ」云々ト申出テタル事アリ本官ハ斯ノ如キ事カ果シテ実行可能ナルヤ否ヤハ承知セサルモ曩ニ米國トノ間ニ南京事件ノ解決ヲ為シタル時袁良ノ言ヘルカ如ク実益ハ無クトモ一時支那國民ヲ瞞着シテ其ノ立場ヲ良好ナラシメ大ナル目的達成ニ精進セントスル意向ニ出テタルモノト解スヘク彼等素ヨリ其ノ地位ヲ維持センカ為左顧右眄責任ヲ負フテ事ニ当リ得サルハ特ニ國民政府ノ組織ヲ見テ当然ナルモ其ノ利益ノ為ニハ必ス

シモ誠意ナシト断スヘカラス只王正廷ノ如キハ誠意無ク徒  
ラニ功名ヲ逸リテ宣伝之レ務メ事件解決ニハ頗ル障碍アリ  
ト史料ス

国民政府ノ将来ハ軍閥ノ勢力争奪政府内党部内ノ軋轢等  
ニ依リ各派ノ消長アルヘク近ク右全体会議ノ前後ニ於テ相  
當ノ変動ヲ予期セサルヘカラサルヤニ史料スルモ現状ヨリ  
セハ大体ニ於テ大ナル根本的變動無キニアラスヤト史料サ  
ルル処国民政府ノ将来如何ニ拘ラス本件濟南事件ノ解決ハ  
帝國政府ニ於テ之ヲ以テ何等特殊ノ目的達成ニ利用サルル  
御意向ナラサル限リ一日モ速ニ且出来得レハ痕跡ヲ残ササ  
ル体ノ解決ヲ為サルノ要アルハ言フ俟タス（佐藤安之助  
ハ滿州問題ノ解決ニ本件ヲ利用スルカ如キ説ヲ有ストノ噂  
ヲ耳ニシタルモ斯ノ如キハ勿論謠言ニ過キサレシ）而モ  
右ハ国民政府ノ態度如何ニ依リテハ必スシモ不可能ニ非ス  
ト史料ス

即チ帝國ハ此ノ際我方将来ノ利益ノ為静ニ客觀的態度ヲ持  
シ大国ノ襟度ヲ以テ彼ニ臨ミ蔣介石其ノ他ノ謝罪ノ如キハ  
之ヲ放棄シ在支公使發貴大臣宛第九一九号（三九五文書）ノ如キ御方針ヲ  
以テ進マレ而モ右ハ当初ヨリ王正廷ノ如キ不正義ナルモノ

別電 七月十一日付田中外務大臣より在中国芳沢公

使宛第三三八号

濟南事件解決条件

本省 7月11日後2時40分發

第三三七号

濟南事件解決ニ関スル条件別電第三三八号ノ通十日閣議ノ  
席上閣員ノ了解ヲ経タリ交渉ノ時期場所其他ニ関シテハ追  
テ決定ノ筈ナルカ右極秘ノ御含迄不取敢別電ト共ニ濟南青  
島上海南京ヘ転電アリタシ

（別電）

本省 7月11日後2時40分發

第三三八号（極秘）

（一）謝罪

国民政府ハ其ノ軍隊ノ邦人ニ加エタル虐殺暴行掠奪ニ對  
シ帝國政府ニ謝罪スルコト

（二）処罰

邦人ヲ虐殺シ暴行ヲ加エ又ハ掠奪ヲ行ヒタル支那軍隊ノ  
幹部及加害者ヲ嚴罰ニ処シ其ノ旨ヲ國民政府ノ名ニ於テ

ヲ相手トセス首腦者トノ間ニ大体ノ談合ヲ遂ケ一挙ニ事ヲ  
決スルノ得策ナルヲ思フ次第ナリ

現狀ニ於テハ飽ク迄当初ノ主張ヲ枉ケストスルモ支那側ハ  
到底承服セサルヘク特ニ日本国土ノ輿論不統一ト信シ居ル  
際声ノミノ威嚇ハ将来ノ効ヲ為サス之ヲ貫徹セムトセハ特  
ニ大兵ヲ派シテ尚南京ノ如キ政治ノ中枢ヲ衝キ或ハ主力軍  
隊ヲ全滅スル等支那ノ死命ヲ制スルニ非サル限リ屈服セサ  
ルヘク斯ノ如キハ素ヨリ至難中ノ難事ナルハ言フ迄モ無シ  
山東交渉員崔士傑及周龍光等ヨリ山東方面ニ於テ日本側ニ  
故意ニ各種ノ意地悪キ挙動ニ出ツトテ種々ノ不滿ヲ聞ケル  
モ右不滿ハ暫ク措キ國民政府任命ノ官吏ヲ總テ拒否スルハ  
政策上ヨリスルモ實際上ヨリスルモ得策ナラサルヤニ思考  
セラル特ニ最モ日本側ニ都合ナルモノノミニテモ其ノ任  
ニ就カシメ実情ヲ知ラシムルノ要アルヤニ史料ス  
北京、上海、青島、濟南ヘ転電セリ

404 昭和3年7月11日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛（電報）

濟南事件解決要求条件について

濟南市内ニ告示スルコト

（三）損害賠償

(イ) 慘死者ニ對スル弔慰金ノ支払

(ロ) 負傷者及暴行ヲ受ケタル者ニ對スル慰藉金ノ支払

(ハ) 掠奪破壊等ニ對スル損害賠償

（四）将来ノ保障

(イ) 國民政府ハ在留民ノ生命財産ニ對シ完全ニ保護ノ責ニ  
任スルコト及民衆軍隊等ノ直接行動ヲ誘發スルカ如キ  
排日排外宣伝ハ一律之レヲ禁止スヘキ旨声明スルコト

(ロ) 日本軍隊撤退後ニ於ケル急激ナル事態ノ變化ヲ防ク為  
一定ノ期間支那軍隊ハ濟南及青島等ノ商埠地内ニ駐屯  
セサルコト右期間ハ日本軍隊撤退時ノ狀況ニ基キ日支  
兩國間ニ別ニ協定スルコト

(ハ) 濟南及膠濟鐵道沿線居留民ノ生命財産ノ保護ヲ一層確  
實ニスル為メ同鐵道ノ交通ヲ確保スル目的ヲ以テ日支  
間ニ必要ナル協定ヲ為スコト

（五）漢口、南京事件ヲ解決スルコト

諒解事項

一、居留民保護ノ為メ山東方面ニ在ル日本軍隊ハ支那側ニ

於テ前記保障ヲ実行シ且日本側ニ於テ居留民ニ危險ノ虞無シト認ムルニ至レハ遲滞ナク全部撤退スヘキコト  
二、日本軍隊ノ残留期間ハ事端防止ノ見地ヨリ濟南青島及膠濟鐵道沿線二十支里ノ範圍内ニハ支那軍隊ヲ駐屯セシメサルコト

405 昭和3年7月13日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛（電報）

濟南事件解決要求案中の山東鐵道協定問題について

本省 7月13日後8時10分發

第三四九号  
往電第三三七号ニ関シ

濟南事件ノ解決方ニツキテハ各方面種々ノ意見有ルモ政府ハ大局上ヨリ本件ハ本件タケトシテ解決ヲ計ルヲ得策ナリトシ從來此種事件ノ解決条件トシテ踏襲セラレタル謝罪、処罰、賠償及ヒ保障ノ四項ノ要求ニ止メタル次第ナルモ近來同種事件ノ頻発ニ顧ミ最モ重キヲ將來ノ保障ニ置ク次第ナリ從ツテ保障ノ種類ハ単ニ文書ノ保障ニ止メス具体的ノ

善ヲ疎ニスルカ如キコトヲ予防スル等ノコトハ交通確保ノ為メ必要ナリトノ見地ニ基キ此ノ目的ノ為メ山東鐵道運輸會計兩主任ノ權限ヲ擴張シ且ツ之ヲ明確ニシ日本人役員ノ數ヲ増加スルカ如キコトヲ實現セシムルコトヲ希望シ居ル次第ナルカ此際右ノ如キ細目ヲ提示スルコトハ交渉ヲ延引セシメ又世間ニ對シテハ本件ト余リ關係無キ事項ヲ要求スルカ如キ感想ヲ与ヘ面白カラサルニ付此際ハ山東鐵道交通確保ノ目的ヲ以テ必要ナル協定ヲ為スコトヲ承諾セシメ置クニ止メントスルモノナリ  
又漢口南京事件ヲ此際解決セシメムトスルハ支那側トシテモ濟南事件ノミヲ解決シ同性質ノ漢口南京事件ヲ未解決ニ放置スルノ理由無く又事理明白ナル兩事件サヘ此際解決セスト云フコトテハ仮令濟南事件ヲ解決スルモ國民政府ノ誠意ヲ疑ハシムルコトトナル次第ナレハ旁々一併解決ヲ要求スルモノナリ  
濟南、青島、上海、南京へ電シ上海ヨリ南京へ電セシム

保障方法ヲモ加エタル次第ナルノミナラス文書ノ保障ニ於テモ從來ノ如キ御座ナリノモノニ満足セス若シ此保障ヲ裏切り我居留民ノ生命財産ニ危險ヲ生スルカ如キ事態ヲ惹起スルニ於テハ其結果ハ極メテ重大ナルモノ有ルコトヲ明カニシ置クカ如キ方法ヲ執リ置クコトト致度意向ニテ右方法ノ一トシテハ例ヘハ支那政府ヨリ在留日本人ノ生命財産ニ對シ完全ニ保護ノ責ニ任スヘキコトヲ申越サシメ之レニ對シ日本政府ヨリ日本ハ支那ノ保障ニ信賴スルモ爾後万一支那官憲ノ取締不充分ナル結果又々日本居留民ノ生命財産ニ危害生スルカ如キコトアリタル場合ニハ日本政府ハ最早支那官憲ノ誠意ヲ認メ難シトアキラメ其ノ必要且適切ト認ムル手段ヲ取ラサルヲ得サルヘク其結果ハ極メテ重大ナルモノ有ルヘキニ付予メ承知シ置カレ度旨覆答スルコトトスルカ如キモ一方法ナリト思考シ居レリ次ニ保障ノ一方法トシテ山東鐵道ノ交通確保ニツキ日支間ニ協定ヲ為スコトノ一項ヲ設ケタルハ右交通確保カ濟南及山東鐵道ノ沿線ニ於ケル日本居留民ノ生命財産ノ保護ニ必要ナリトノ前提ニ基ク次第ニシテ即ハチ鐵道ヲ良好ノ状態ニ保全シ車輛ノ散逸ヲ防止シ又ハ鐵道收入ヲ軍費等ニ使用スルカ為鐵道自体ノ改

406 昭和3年7月13日 田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛（電報）

王外交部長に面会の上、濟南事件解決交渉のため代表を濟南に派遣すべき旨申し入れ方について

本省 7月13日後8時30分發

第一五七号

一、濟南事件ニ関シ政府ハ今回北京宛往電第三三八号及第三四九号ノ条件ニ基キ國民政府ト交渉開始ノコトニ決定セルニ付貴官ハ成ルヘクハ來ル十八日（水曜日）ヲ以テ王外交部長ニ面会シ本大臣ノ訓令トシテ一、日本ノ山東出兵ハ何等北伐軍阻止ノ意図ヲ有セザリシコト二、五月三日ノ出来事カ節制ナキ南軍ノ一部ニヨリ惹起セラレタルコトハ如何ニモ遺憾ニ堪エサルコト三、其後日本軍ノ執リタル措置カ軍及居留民保護ノ為已ムヲ得ザリシモノナルコト四、虐殺事件カ日本ノ輿論ヲ沸騰セシメタルコトヲ述ヘ只政府トシテハ日支国交上一日モ速カニ本件ノ如キ不祥事件ヲ解決スルヲ大局上可ナリト認メ今回國民政府ノ謝罪、責任者ノ処罰、日本居留民ノ生命身体財産

ニ加ヘラレタル損害ノ賠償、将来ノ保障ノ四条件ノ基礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルコトニ決定シ在青島藤田總領事及在濟南西田總領事代理ヲシテ本件交渉ニ當ラシムルコトト為シ同官等ハ何時ニテモ交渉ニ応スルノ用意有ルニ付國民政府ニ於テ速カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派遣シ以テ本件ノ解決ヲ図ラレ度日本トシテハ國民政府カ今ヤ革命ノ事業ヲ完成セラレムトシツツ有ル事實ヲ慶祝スルト共ニ此際本件ノ如キ不愉快ナル事件ハ潔ク之ヲ解決シテ全力ヲ挙ケテ國家建設ノ大業ニ猛進セムコトヲ希望セサルヲ得ス尚ホ南京漢口事件ノ如キ同種ノ事件ハ此際是非トモ一併解決ヲ切望スル次第ナル旨適宜敷衍ノ上我方主旨ヲ徹底セシムル様御配慮アリ度

二、濟南事件ハ我方ノ誠意ニ拘ラス解決或ハ延引スルヤノ懸念無キニアラサルカ故ニ我方公正ノ態度ハ中外ニ對シ早キニ及ンテ之レヲ明瞭ニシ置ク方得策ナリト思考シ貴官カ王外交部長ニ申入レラルル当日ヲ期シ當地英米仏伊ノ各大使ニハ右申入ノ事實ヲ内告シ又貴官ヨリ王部長ニ申入ノ報告ニ接シタル上ニテ新聞ニモ発表ノ筈ナルニ付御承知有リ度

ヲ实地調査セシメラルル要アルコト濟謀第一三二号ノ如シ尚交渉關係者中ニ此事件ニ直接關係セシモノ若干ヲ参加セシメラルルコト特ニ必要ナリト信ス

408 昭和3年7月19日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛(電報)

王正廷外交部長との会見に関する矢田在上海

總領事電報について

南京 本省 7月19日前着 発

第二九七号(至急)

矢田總領事ヨリ

往電第四七六号ニ関シ

本官十八日正午南京ニ到着外交部秘書ノ出迎ヲ受ケテ入城シ当日午後三時王正廷ト会見貴電第一五七号御訓令執行(四〇六文書)委細後電ス

北京、青島、濟南へ転電シ上海へ暗送セリ

三、北京宛往電第三三八号条件ノ詳細ハ愈々交渉開始ノ運ヒトナリタル上ニテ初メテ支那側ニ開示スヘク其レ迄ハ我方要求ハ単ニ謝罪、処罰、損害賠償及保障ノ四項ニ出テサル旨陳述スルニ止ルモノトス

北京、濟南、青島、南京へ転電アリ度シ

407 昭和3年7月17日 福田第六師団長より  
鈴木參謀總長宛(電報)

濟南事件解決交渉は濟南あるいは青島、東京にて行ふべき旨意見具申

7月17日後2時 発  
7月17日後7時17分着  
(7月19日外務省写接受)

濟謀第一三九号

次長電第一七七及西田總領事宛外相發電敬承濟南事件交渉地点ニ就キテハ今日迄ノ北京及上海方面支那側各界ノ空氣ニ徴シ此兩地ニ於テ行フコトハ絶対ニ避ケラレ度シ濟南已ムヲ得サレハ青島又ハ東京ニテ行ハレンコトヲ切望ス尚本交渉ニ當ルヘキ文武官ニハ是非共一応濟南及膠濟鐵道沿線

409 昭和3年7月19日 田中外務大臣より  
在英國佐分利臨時代理大使  
在米國沢田臨時代理大使(宛電報)

山東派遣軍漸次減兵の方針を在本邦各国大使

に通告について

付記 七月十八日付 新聞発表

本省 7月19日後4時50分発

合第二六九号

往電合第二六五号ニ関シ

本件我方公正ノ態度ハ中外ニ對シ早キニ及ンテ之ヲ明瞭ニシ置ク方得策ナリト思考シ十八日日本大臣ヨリ在本邦英米仏伊代表者ニ對シ往電合第二六五号一ノ趣旨ヲ内告シ且我派遣軍ハ居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キササルヲ以テ此ノ見地ヨリ軍隊派駐ノ必要無シト認ムルニ至ラハ全部撤退スヘキコト勿論ナルカ山東ノ現状ニ鑑ミ今直ニ全部撤退シ難キモ濟南事件ノ迅速解決ハ撤兵ノ時期ヲ早ムル効果アルヘク尤モ其ノ兵力ハ現状ヲ維持スル要ナキヲ以テ漸次減兵ノ方針ナル旨ヲ告ケタリ尚矢田總領事ハ十八日午後南京ニ於テ王外交部長ニ本件申入ヲ為シタルニ付十九日日本省ニ於テ前

記各国代表者ニ対スル説明ト同様ノ趣旨ヲ談話トシテ新聞ニ発表セリ

（英宛ノ分ニハ）仏、伊、独、白、露ニ電シ仏ヨリ連盟帝国事務局及杉村ニ転報セシメラレ度シト付記スルコト）

（付記）

（昭和三年七月十八日）

濟南事件交渉ニ関スル件（新聞記者ニ対スル談話案）

（欄外記入）  
曩ニ帝國政府ガ山東地方ニ軍隊ヲ派遣シタル目的ガ全ク同地方在留邦人保護ニ在リテ何等内政干渉殊ニ北伐軍阻止ノ如キ意図ヲ有セザリシコトハ当時政府ノ特ニ声明シタル所ナリ然ルニ凶ラズモ五月三日濟南事件ノ突発ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナルガ該事件ハ過般帝國政府ノ発表シタル声明書ニ明カナル通り節制ナキ南軍ノ一部ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ之ニ対シ日本軍ノ執リタル措置ハ軍及居留民保護ノ為全ク已ムヲ得ザルニ出デタルモノニ外ナラズ從テ本事件ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコト明カニシテ又本虐殺事件ガ本邦輿論ヲ異常ニ沸騰セシメタルハ御承知

レバ必ズシモ現在ノ兵力ヲ全部維持スルノ要無キヲ以テ漸次減兵ヲ行フ方針ナリ現ニ事件直後支那沿岸及揚子江流域各地ニ増派シタル軍艦ハ客月中旬ヨリ逐次固有ノ部隊ニ復歸セシメツツアリテ既ニ大部分ノ引揚ヲ了シタルガ山東派遣ノ陸兵ニ付テモ差当リ先ヅ第三師團ノ予後備兵ヲ帰還セシメ約七千ノ召集解除ヲ行フコトナリ尚引続キ整理ヲ行フ予定ナリ

（欄外記入）

南京來電第二九七号七月十九日朝接到シタル

ニ依リ同日午前十一時半情報部ニ於テ発表セ

リ

410 昭和3年7月19日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

王外務部長と濟南事件解決交渉開始について

上海 7月19日午前

本省 7月19日後着

第四七九号

南京領事閣下宛電報第二九七号ニ関シ

（四〇八文書）

本官岡本領事ト共ニ王正廷ト其ノ官邸ニ於テ会見（周龍光

ノ通りナリ

然レドモ帝國政府トシテハ日支間ノ親善關係ヲ維持スルノ見地ヨリ國民政府ノ謝罪、責任者ノ処罰、日本居留民ノ生命身体財産ニ加ヘラレタル損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四条件ノ基礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルコトニ決定シ七月十八日在上海帝國總領事ヲシテ國民政府ニ右ノ趣旨ヲ申入レシメ同時ニ日本側ニ於テハ青島總領事及濟南總領事代理ヲシテ濟南ニ於テ本件交渉ニ當ラシムル筈ナルニ付國民政府ニ於テモ速カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派シ至急本件ヲ解決セシメラレ度旨要求セシメタリ

尚我派遣軍ハ前述ノ如ク居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キサルヲ以テ此ノ見地ヨリ軍隊派駐ノ必要無シト認ムルニ至ラバ全部撤退スベキコト勿論ナルガ不幸濟南事件ノ突発ニ依リ同地方ノ感情著シク險惡トナリタルノミナラズ今尚便衣隊ノ襲撃事件等絶エザル状態ナル為遺憾乍ラ今日直チニ全部撤兵ノ運ビニ至リ難シ然レドモ濟南事件ニシテ速カニ解決セラルルニ於テハ同地方ノ感情モ少ナカラズ緩和セラ

ルベク從テ撤兵ノ時期ヲ早ムルノ効果アルベシト信ズ但シ派遣軍ノ兵力ハ濟南事件前後特殊ノ狀況ニ基キタルモノナ

同席ス）先ツ本官ヨリ御訓令ノ次第篤ト伝達致シタル処王ハ特ニ周ヲシテ其ノ要領ヲ筆記セシメ曰ク御申聞ノ次第ハ好ク諒解セルカ濟南事件解決ニ関シ先ツ日本政府ノ考量ヲ仰キタキハ事件發生ノ原因カ日本ノ不法ナル出兵ニ存スルコト是ナリ日本政府ニシテ此ノ点ヲ充分諒解セラルレハ本件ハ自ラ解決スヘシ固ヨリ本件カ日支間ノ不幸ナル出来事ニシテ其ノ原因乃至責任ノ那邊ニ存スルヲ問ハス御同様遺憾至極ニシテ國民政府ニ於テモ本件解決ノ一日モ速ナラムコトヲ希望シ居レリ然シ國民政府ハ前述ノ如ク山東出兵ヲ以テ濟南事件ノ原因ナリト認メ居ル次第ナレハ其ノ点日本政府ノ所見ト出发点ニ於テ相違シ居ルコトヲ声明セサルヲ

得ス

次<sup>(2)</sup>ニ事件其ノモノノ真相ニ付テモ調査ヲ為シ貴我何レカ若ハ双方其ノ責ニ任シ謝罪スヘキ事ヲ決定スル必要アリ又死傷ニ付テモ支那側ハ日本側ニ数十倍シ殊ニ國民政府ノ任命セル外交長官カ其ノ事務所ニ於テ殺害セラレタル点ハ頗ル心外ニシテ世論ノ沸騰セルハ御承知ノ通ナリ是等ノ不法行為ニ對シテ國民政府ハ日本政府ノ責任ヲ問ヒ在濟南日本軍

命財産ノ保護ハ撤兵サヘ断行サルレハ国民政府ニ於テ完全ニ責ニ任スヘク自分ハ嘗テ山東懸案解決ニ当リ保護ノ責ヲ全ウシタル経験モアレハ日本政府ハ充分信頼セラレテ可ナリ

又南京漢口両事件ヲ同時ニ解決セントノ御趣旨ハ全然異議ナシ唯交渉ノ地点ヲ済南トスル事ハ不賛成ナリ国民政府トシテハ南京ヲ適當ト認ムルモ日本政府ノ同意ヲ得ル事困難ナラハ南京以外ノ地点ニテモ差支ナキモ済南ハ絶対ニ不同意ナリト断言シ本件発生ノ地ニシテ日支間ノ感情最モ疎隔シ居ル地点ノ不適當ナル所以ヲ述ヘ殊ニ南京漢口両事件ヲ一併解決セントセハ猶更ノ事ナリ又交渉ノ相手トシテ藤田西田両総領事ヲ挙ケラレタル事ニ対シ異議ヲ申立ツル筋合ナラサルモ自分ノ希望ヲ率直ニ申セハ貴官ニ引受ケテ貰ヒタカリシナリト云ヘルニ付本官ハ南京事件ヲ指摘シ山東出兵ノ居留民保護上当然ノ措置ナル事察公時ハ日本側ニテハ外交部ト認め居ラサリシ事先年ノ山東懸案解決ト今回ノ済南事件トハ全然事情ヲ異ニスト一応反駁ヲ加ヘタル後

411 昭和3年8月3日 陸軍省

済南事件解決方法について

極秘

八月三日 陸軍省

済南事件ニ関スル解決方法ニ就テ

政府ハ既定ノ方針ニ基キ正当ニ既定案ヲ主張スルヲ可トス之カ為メ解決ノ遷延ハ敢テ辞スル所ニアラス然レトモ他ノ政策的意味ニ於テ該問題ノ解決ヲ促進スルノ必要アリトセハ二段ノ解決方法ヲ採用スルモ可ナリ但シ此場合ニ於テ第一段ノ処置トシテ仮リニ外務省案ノ如キ形式ヲ以テ保障及撤兵ニ関シ声明ヲナスモノトスルモ撤兵ハ保障ニ関スル我要求ノ実行ヲ確認シタル後ニ於テスルモノナルコトヲ該声明中ニ明ラカニスルカ若クハ尠クトモ同様ノ解釈ヲ了解事項トシテ声明ニ添付スルカ二者其一ヲ選ヒ且ツ第二段ノ処置トシテ右保障ノ実施法並ニ謝罪、損害賠償、責任者ノ処罰ニ関スル交渉ヲ一併シテ行フヲ要ス蓋シ謝罪ハ軍部トシテ特ニ重要視スル所ニシテ第二段ノ交渉ヲ更ニ保障ト謝罪、賠償、処罰トノ二ツニ区分シ為メニ謝罪

上間違ヒ無キ様貴下ノ所説ヲ今一応念ヲ押シ度シトテ貴下カ日本軍ノ撤退ヲ以テ本件解決ノ出発点ト為サントセラルルハ如何ナル意味ナリヤ撤兵セサレハ交渉ニ応セサル次第ナリヤト突キ込ミタルニ王ハ然ラス委員ニ付テハ多分周龍光ヲシテ当ラシムヘク直ニ任命差支無シ只交渉ニ当リ撤兵ヲ第一ノ解決要項トシ度シトノ意味ナリト述ヘタルヲ以テ本官ハ右ハ交渉ノ内容ナルニ付交渉開始サルレハ当然論議サルヘキ問題ニシテ軍隊引揚後ノ居留民ノ生命財産ノ保護ニ関スル国民政府ノ保障ハ日本政府ノ最モ重キヲ置ク処ナルカ右ニ依ルモ日本政府カ撤兵ノ方針ヲ決定シ居ル事明白ナラスヤ永久駐兵ヲ惧ルルカ如キ口吻ナルモ右ハ断シテ杞憂ニ過キスト述ヘタルニ王モ其ノ点ハ国民政府ニ於テ懸念シタル処ナリシカ右声明ニテ安心セリト述ヘ日本政府ニ於テ南京（已ムヲ得サレハ上海）ヲ交渉地点トスルニ異義無クンハ何時ニテモ交渉開始ノ用意アリ云々ト答ヘタリ要スルニ本会見ハ三時間余ニ亘リ曲折ヲ経タルカ王ノ所言ニシテ念ヲ押シ先ツ間違ヒ無シト認めララルル要点ハ前記ノ通り北京、青島、済南、南京ニ転電セリ

ノ実行前ニ撤兵ヲ余儀ナクセシメラルルカ如キハ之ヲ避クルヲ要スレハナリ

412 昭和3年8月6日

在上海矢田総領事より  
田中外交大臣宛（電報）

王外交部長、済南事件交渉地を上海とすべき旨主張について

上海 発  
本省 8月6日後着

第五三〇号

貴電第一七九号ニ関シ

在南京王正廷ニ対シ会见ヲ申込ミタル処五日朝王ハ崔士傑ヲ同伴来滬シ今夜晚餐ヲ共ニシテ会谈致度シトノ事ニテ本官ヲ日本料理屋ニ招待セリ席上交渉地点ニ関スル御訓令ノ趣申聞ケタルニ王ハ青島ハ問題トナラス日本軍カ治安維持ノ実権ヲ掌握シ居ル地点ニシテ絶対ニ反対ナリ日本側ニテ之ヲ強フルハ公正ヲ欠クニ非サヤト述ヘタルニ付党家莊ヲ指定シタルニ同地ハ済南ヲ隔タル二十支里外ニ在リト雖日本軍ハ必スシモ厳格ニ右範圍ヲ守ラサル懸念アリ且同地ハ

田舎ノ一駅ニテ何等設備無ク食事スラ不便ヲ感ス日本側ハ自動車ニテ濟南ヨリ通ヒ得ヘキモ支那側委員ハ宿泊スル家モ無シ曩ニ松井部長張群ト会見ノ際列車ヲ利用シタル事実之ヲ証シ得ヘク且又通信連絡不便ニテ電信ハ泰安臨城等ニ於テ接続シ南京宛片道少クトモ二日ヲ要スル実情ナルヲ以テ一般電報上極メテ不適當ナリト述ヘタルニ付

本官ハ事件解決ノ誠意タニアラハ交渉地点ノ如キ枝葉ノ問題ナレハ妥協スル事必要ナルヘシト述ヘタルモ応諾ノ見込無カリシヲ以テ本官ノ思付ナルカ泰安ニテハ如何ト諮リタルニ王ハ泰安ハ省政府事務所モ小学校内ニ設ケ居ル始末ニテ其ノ不便ナル点ハ党家庄ト殆ト大差無シ尤徐州トセハ多少考慮ノ価値アルヤニ思ハルルモ同地ニテハ日本側ニ於テ大ナル不便ヲ忍ハサルヲ得サルヘシ元來本件ハ濟南ノ一地方的問題ニ非スシテ実ニ日支間ノ重要案件ナレハ現地並其ノ附近ニ於テ多大ノ不便不利ヲ忍ヒテ交渉スヘキ理由ナク寧ロ國民政府所在地タル南京ヲ主張スヘキナルカ旅館其ノ他ノ設備ヲ考慮シ上海トスル事ニ讓歩セル次第ニテ上海ハ双方ニトリ通信連絡ノ至便ナルハ申迄モ無ク中立地ナレハ互ニ自由ナル立場ニ於テ交渉シ得ヘク党家庄等ノ地ヲ選フ

又ハ上海ニ於テ交渉ヲ開始シ大綱ヲ決定シ其ノ条項ノ第一ニ山東在留民ニ対スル將來ノ保障ヲ約スルト共ニ日本軍ノ即時撤退ヲ規定シ其ノ実行後ニ於テ濟南ノ實地調査ヲ行ヒ責任ノ所在ヲ明カニセントノ底意ナルカ如ク推測セララル尚漢口南京兩事件解決方ニ関スル御訓令ニ対シテハ本官ハ直ニ同意シ何時ニテモ貴下ト交渉開始スヘシ殊ニ南京事件ハ事實上解決サレ居レハ差シテ時日ヲ要セサルヘシト答ヘタリ

在支公使、青島、濟南、南京へ転電セリ

413 昭和3年8月16日

在南京岡本領事より  
田中外交務大臣宛（電報）

日本軍、濟南を撤兵すれば濟南を交渉地とするも差支えないとの崔山東交渉員の申出について

付記 八月二十二日付

「濟南事件ニ関スル件」

南京 8月16日後発  
本省 8月17日前着

ニ比シ其ノ半数ノ日子ニテ解決シ得ラルル事ト信ス日本政府カ上海ヲ南京以上ニ忌避セラルルハ果シテ如何ナル理由ニ基クモノナリヤト反問セルヲ以テ本官ハ此ノ点ハ政府訓令中ニ指示無キニ付即答致兼ヌルモ恐ラク其ノ土地柄ニ鑑ミ排日団ノ直接妨害内外新聞ノ中傷宣伝及各派政客ノ飛躍等カ本件交渉ノ進捗ヲ妨害スル惧アリトノ趣旨ナラムカトモ想像セラルト応酬シタルニ

王ハ一般民衆カ本件解決ヲ希望シ居ルハ事實ナレハ排日団ノ妨害支那新聞ノ宣伝等ノ余地無カルヘク若シアリトスルモ之ヲ取締ル事容易ナリ日本側ニ斯ル懸念アラハ交渉ノ場所ヲ租界内ト定ムルニ差支無シト述ヘ日本政府ニテ上海ヲ忌避セラル理由了解シ難ク現ニ南京事件モ現地ニ於テセス何レノ国モ上海ニ於テ交渉ヲ為シタルニ非サヤト上海以外ニ讓歩セサル態度ヲ示シタリ依テ本官ハ兎モ角貴下ノ意見ハ一応本省ニ電報スヘシト答ヘ置キタリ右様ノ次第ニテ交渉地点ニ関シ双方意見ノ一致ヲ見サルニ付右ニ対スル御意見至急承知致シタク右会谈ニ於テ本官ノ得タル印象ト往電第四七九号王ノ談話ヲ比較吟味スル時ハ王ハ斯ノ如ク執拗ニ上海ヲ主張スルハ王ノ本件解決ニ対スル方針カ先ツ南京

第三八八号

濟南地方ニ於ケル我軍撤退ニ関シ陸軍方面ニ於テハ居留民ノ安全保障サレ且支那側ニ於テ惡宣伝ヲ為シ或ハ日本ハ經濟上其ノ他ノ事情ニ依リ駐兵不可能トナレリトカ或ハ濟南事件ニ関シ其ノ非ヲ認メタルカ為ナリトカ軍ノ威信ニ関スルカ如キ不都合ナル宣伝ヲ為ササルニ於テハ事件解決前ト雖撤兵モ差支無ク特ニ設備ノ關係上冬營ノ必要無キ以前ニ撤兵シタキ意向ヲ有スルヤニ聞及ヘル処本日山東交渉員崔士傑本官來訪特ニ王正廷ニ於テモ承認セル趣ヲ以テ左ノ通申出テタリ本件ニ関シテハ矢田總領事專ラ王正廷ト折衝サレ近ク帰朝ノ上詳細ナル報告ヲセラルル事ト思料スルモ崔士傑ノ申出ハ本件交渉ノ停頓原因タル交渉地点問題解決ノ御参考トナルヘシト思料シ電報ス

「交渉地点トシテ濟南ヲ忌避セルハ單ニ王正廷一己ノ意見ニ非ス中央党部方面ニ於テ猛烈ニ之ニ反対シ居リ其ノ主要原因ハ勿論日本軍ノ同地駐屯ニアル次第ニシテ日本側ニ於テ撤兵ヲ実行サルルニ於テハ必スシモ濟南忌避スル訳ニ非ス就テハ日本ノ重要視セラルル処ハ將來ノ保障ニアル事ハ矢田總領事ノ説明セラレタル処ナルニ付自分先ツ全權トシ

テ濟南ニ赴キ西田領事等ト折衝ノ上不取敢濟南ノミノ秩序維持日本在留民保護ニ関スル日本側ノ要求ヲ容レ不安無カラシムル事トシ日本軍隊ヲ濟南市外適當ノ地点ニ撤退サレ商埠地ニ於テ引統キ諸般ノ交渉ヲ行ヒ或ハ膠濟沿線青島等ニ於ケル今後ノ保障問題等ヲ商議スル事ト致シタク斯クスレハ日本側ニ於テモ交渉開始前撤兵シタリトノ批難ヲ免カレ得ル訳ニシテ又支那側ニ於テモ濟南ニ於ケル交渉反對ノ理由モ大部分失ハルル次第ヲ以テ双方共ニ真ニ好都合ナリト思料セサルヲ得ス右ニ就テハ王部長モ勿論同意ニシテ自分トシテハ馮總司令ヨリ聞及ヒタル事モアリ速ニ解決シタク切望シ居レリ尤モ本件解決ハ一朝一夕ニハセラレサルヘク相当ノ長日月ヲ要スルモノト考フ云々」

右ニ就テハ一昨十三日夜崔ニ招カレタル際略々同様ノ申出アリ本官ヨリハ王正廷ノ意向確カメ方注意シ置キタル次第ナリ

在支公使、上海へ転電セリ

（付記）

濟南事件ニ関スル件

（昭和三年八月二十二日）

ニ、将来ノ保障  
ノ四条件ノ基礎ニ於テ本件解決ヲ計ルコトニ決定シ既ニ七月十八日在上海矢田總領事ヲシテ国民政府ニ右ノ趣旨ヲ申入レシメタリ尚右帝國政府ノ解決要求事項ノ詳細ハ別紙<sup>（寫數紙）</sup>号ノ通ナルカ其内容ハ目下尚極秘ニ付スヘキモノトス

三、前記矢田總領事申入ニ對シテハ支那側ニ於テモ交渉開始ニ主義上異存ナキモ今迄ノ処交渉地点ニ関スル彼我意向ノ一致ヲ見サル結果未タ交渉開始期ノ見込立タス即チ我方ニ於テハ第一次ニ濟南ヲ第二次ニ青島若ハ党家庄ヲ提議シ又矢田總領事ヨリ私案トシテ泰安ヲモ提議セルニ對シ王正廷ハ上海又ハ南京ヲ固執シ（徐州ハ多少考慮ノ価値アリトス）居レル現状ナルカ只其ノ後岡本領事ニ對シ外交部第二司長周龍光ヨリ「不取敢南京又ハ上海ニテ開始シ保障問題ヲ日本ノ満足スル様解決シタル上濟南ニ引移リテハ如何」ト（八月三日電報）又山東交渉員崔士傑ヨリ八月十五日「自分カ濟南ニ赴キ西田領事等ト折衝ノ上不取敢濟南ノミノ在留民保護ニ関シ日本側ノ要求ヲ容レ之ニ對シ日本軍ヲ濟南外ニ撤退シタル上同商埠地ニ

政務次官用トシテ作成

一、濟南事件ニ関スル政府主張ノ根本ハ  
イ、日本ノ山東出兵ハ全ク同地方在留邦人保護ノ目的ニ出テタルモノニシテ何等北伐軍阻止ノ如キ意図ヲ有セサリシコト  
ロ、五月三日ノ事件ハ節制ナキ南軍ノ一部ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ其ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコトハ、其ノ後日本軍ノ執リタル措置ハ軍及在留民保護ノ為已ムヲ得サリシモノナルコト  
ニ、虐殺事件ハ日本ノ輿論ヲ極度ニ沸騰セシメタルコトニアリ  
二、濟南事件ノ解決方ニ付テハ各方面種々ノ意見アルモ政府ハ大局上ヨリ本件ハ本件タケトシテ解決ヲ計ルヲ得策ナリト認メ此ノ見地ヨリ從來此ノ種事件ノ解決条件トシテ踏襲セラレタル謝罪、処罰賠償及保障ノ四要求ニ倣ヒイ、國民政府ノ謝罪  
ロ、責任者ノ処罰  
ハ、日本在留民ノ生命身体財産ニ加ヘラレタル損害ノ賠償

於テ諸般ノ交渉或ハ今後ノ保障問題等ヲ商議スルコトトシタキ」旨申出アリ  
尚藤田總領事ヨリハ天津ニ於テスルコトヲ一方法ナルヘキ旨具申アリタルカ帝國政府ハ未タ右等諸案ニ對シ何等意見ヲ表示シ居ラス

414 昭和3年8月22日

在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

王外交部長、馮玉祥の濟南事件解決について  
の意向および我が交渉方針に関する意見具申

南京 8月22日前発  
本省 8月22日後着

第三九八号

馮玉祥系統ニ於テ一日モ速ニ山東ヲ其ノ手中ニ収メムカ為濟南事件解決ニ焦慮シツツアルハ屢次電報ノ通ニシテ往電第三八八号ノ申出ニ對シテモ崔士傑ハ屢々帝國政府ヨリ何等回訓ノ有無ヲ問合せ来リ右ニ對シ本官ハ「濟南ヨリノ撤兵ハ臆テ膠濟線全部ヨリノ撤兵ヲ意味スルコトトナリ斯テハ帝國政府出兵ノ主要目的タル濟南及膠濟沿線ノ邦人保護

上一層ノ不安ヲ加フルモノトナシ恐ラク本件解決後完全ナル保障ヲ得ルニ非サレハ撤兵セサルナルヘク之カ為駐兵ニ要スル出費ヲ出来得ル限リ減シ持久策ヲ講スルモノト思料セラル乍併素ヨリ帝國政府ニ於テ永久駐兵意思無キハ言フ迄モ無シ」ト答ヘ置キタルカ昨二十一日重ネテ本官ヲ來訪シ王部長トモ相談シタル趣ヲ以テ「事件交渉開始前ニ於テ日本政府ニ於テ内密ニ永久駐兵ノ意思無キコト及済南ニ於ケル在留日本人ノ保護ニ対スル完全ナル保障ヲ得ルニ於テハ一定期間（例ヘハ一箇月）内ニ於テ一定地点迄撤兵シ次ノ期間（例ヘハ半箇月）内ニ更ニ一定地点迄撤兵スルカ如キ意思ヲ明示サルルニ於テハ自分或ハ適當ナル者ヲ代表トシテ済南ニ赴カシメ交渉ヲ開始スヘク其ノ際商埠地内ニ於ケル交渉公署ハ当然当方ニ明渡サレタシ」ト申出テタリ次テ二十一日夜松室馮玉祥ヨリノ迎ヘヲ受ケテ応訪セル処馮ヨリ「如何ニセハ済南事件ヲ解決シ得ルヤ日本政府ハ如何ナル程度ニ於テ同事件解決ニ応ジ得ラルルヤ」トノ申出テニ依リ右ニ対シ松室ヨリ「事件ハ既ニ外交交渉ニ移リ居ルノミナラス自分ヨリ日本側ノ要求程度ヲ御話スルハ適當ナラス貴總司令ヨリ希望条件ヲ示サレナハ取次クヲ辞セス」

件發生地タル山東住民ノ日本ニ対スル怨嗟ノ念ハ頗ル熾烈ニシテ済南居住邦人ハ恐ラク安ンシテ在留シ得サルヘシ勿論支那当局ハ凡ユル方法例ヘハ崔士傑ノ謂ヘルカ如ク邦人各戸ニ対シ軍隊乃至警察官ヲ付スル等ノ事ニ依リ身命、財産ニハ危害及ハサルヘキモ其ノ營業ハ杜絶スヘク結局引揚ヲ余儀ナクセラルルニ至ルヘキハ想像ニ難カラス就テハ帝國政府ニ於テ本事件ニ依リ山東ニ於テ何等ノ利權獲得ノ御意思無キニ於テハ当初強硬ナル我態度ヲ示スト共ニ在支公使稟請ノ如ク機会ヲ見テ大ニ讓歩シ馮玉祥ニシテ我好意ヲ感シ名実共ニ邦人ヲシテ安ンシテ居住營業セシムル様取計ハルル方得策ナルヘシ尤モ老獪ナル馮玉祥ノ事トテ誠意ヲ以テ我好意ニ報ユル事ヲ為ササルヤモ計リ難キモ前述解決方針ハ我方ニ取り決シテ不利ナラサルヤニ思料セラル僭越乍ラ卑見御参考迄

北京、上海、青島、済南へ転電セリ

415 昭和3年8月25日

在青島藤田總領事より  
有田亜細亜局長宛

済南事件解決交渉は我が方において焦慮する

ト話セル処本二十二日朝本件ニ関スル馮系ノミノ會議ヲ開催スル趣ヲ以テ松室ニモ列席方申出アリタリ如上ノ如ク馮玉祥ニ於テ本件解決ニ頗ル焦慮シツツアルハ最近蔣介石系統ニ於テ山東ニ対シ割込ミ運動ヲ計画シツツアルカ為ナリトモ伝ヘラル

本件解決ニ対スル困難ナル事情ハ右馮玉祥ノ野心ニ依リ幾分緩和サレツツアルハ御高察ノ通ナル処馮玉祥ノ欲スル処ハ言フ迄モ無ク山東ヲ其ノ手中ニ取ムルニアリテ本件ヲ日本側ニ有利ニ解決シテ日本ノ歛心ヲ買ハムトスルモノニ非ス從テ交渉開始サレナハ予メ想像サルルカ如ク国民ノ反対ニ備ヘムカ為（屢次彼ノ各方面ニ於ケル演説ニ示ス如ク）相当ノ要求提出サルルヘク我方要求通り解決スト予期シ得サルハ申迄モナシ

從テ本件交渉ハ我要求条件ニ関シ余程ノ御考慮ヲ加ヘラルルニ非サレハ恐ラク決裂スヘク斯テハ事件解決益々困難ヲ加ヘ収拾シ得サルニ至リ大局ヨリ見テ果シテ我ニ利益ナリヤ疑無キ能ハス又仮ニ馮玉祥ノ野望ニ基ク斡旋ニ依リ嫌々ナカラモ我要求貫徹サレタリトスルモ在支公使發大臣宛電報第一二三〇号ノ如ク同事件ニ対スル当国一般国民殊ニ事

必要な旨意見具申

拜啓時下益御清穆之段奉賀上候陳者在南京岡本領事發大臣宛電報第三九八号ニ依レハ馮玉祥ニ於テハ予想ノ如ク愈済南事件ノ解決ヲ焦リ始メタルヤニテ漸次我方所期ノ結果ニ接近シ来レルハ洵ニ欣快ノ至ニ存候然ルニ右電報中支那側ノ申出トシテ(一)交渉開始前日本側ヨリ永久駐兵ノ意志ナキコト(二)在留邦人保護ニ対スル支那側ノ保障ヲ得次第定期限内ニ逐次一定地点ニ撤兵ノ意思ヲ明示スルコト(三)交渉開始ニ際シ済南交渉公署ノ復活方等ヲ要求セリトノコトナルカ右(一)ニ対シテハ出兵当初ヨリノ声明ニ依リ我政府ノ態度ハ内外周知ノ事實ニシテ今更之ヲ繰返ス必要無之ヤニ考ヘラレ(二)ハ即チ居留民保護ニ対スル将来ノ保障ニ関スル問題ニシテ本件交渉中最モ重キヲ置クヘキ点ニ有之從テ彼我ノ交渉ニ当リ之ヲ有耶無耶確ニ葬リ去ルニ於テハ延テ我派兵ノ趣旨ヲ没却シ我方多大ノ犠牲モ亦無意義ニ了ル次第ナルヲ以テ慎重ノ考慮ヲ要スル義ナルハ申スマテモ無之卑見ニ依レハ撤兵ハ飽ク迄モ山東ニ於ケル局面ノ安定ト支那側ノ居留民保護ニ対スル誠意ノ有無トヲ見届ケタル上始メテ実行スヘク其方法ニ就テハ我方独自ノ見解ヲ以テ処断シ何等

支那側トノ間ニ子約スルノ必要ナキモ要ハ我声明ノ趣旨ニ合致スヘク其進退ハ何処マテモ明白ニスルニ在リト存セラレ候(三)ノ如キハ支那側ニ於テ交渉不調ノ場合ヲ予想シ撤兵後ノ濟南ニ交渉公署ヲ居据ハラシメ実権ヲ収メルトノ魂胆ナルコト疑ナク(二)ト関連シ絶對ニ容認シ難ク存セラレ候尚岡本領事ニ於テハ山東在任支那人カ我ニ對スル怨恨甚タシク若シ濟南事件ヲ我方ノ有利ニシテ解決セハ結局支那側ノ圧迫ニ堪エス其ノ引上ヲ余儀ナクセシムルニ至ルヘク懸念セラレ居ルヤニ察セラレ一応尤モトハ存セラルルモ元來事件發生地タル濟南ニ於テハ南北兩軍ノ交戦ニ依リ非常ナル打撃ヲ受ケ居ル矢先偶々南軍ト我方ノ衝突ヲ生シタルモノニシテ支那人ノ国民性ニ徴シ我方ノミニ深刻ナル憎惡心ヲ摘発包藏シ居ルモノトハ思ハレハ唯當時ノ被害者中ニ多少ノ怨恨ヲ抱ケルモノアルハ免レサル所ナルヘキモ之レトテ時日ノ經過ト共ニ漸次其忿念薄ラキ目下市内大小ノ店舗何レモ平常通りノ營業ヲ開始シ我ニ對スル反感ノ如キ片影タニ窺知セラレス外來者ヲシテ寧口奇異ノ感ニ打タシムル程ニ有之候尤モ右ハ我軍ノ威力ニ怖レ表面沈黙ヲ守リ居ルモノナリトノ考察ヲ免レサルモ從前頻々ニ出沒セル便衣隊

416 昭和3年8月(29)日

在上海清水總領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

崔山東交渉員が王外交部長のもとでの濟南事

件解決を巻憑について

上海 発  
本省 8月29日後着

第五八四号

濟南事件等ニ関シ二十八日崔士傑ノ本官ヘノ談話要領

予ハ山東交渉員ノ職責上ヨリ濟南事件交渉開始ノ一日モ速ナルヲ熱望ス王部長モ予ニ同感ナルカ馮玉祥カ地盤ノ關係上此ノ際多大ノ讓歩シテ迄モ同事件解決ヲ急キ居ルトノ新聞報道ハ当ラス馮ノ地盤ハ広ク此ノ際山東カ急ニ手ニ入ラヌトモ平氣ナリ直隸ハ閻執着ノ心無ク白崇禧ノ地盤ニ擬セラレタルモ白ハ財源豊ナル兩湖ヲ依然希望シ居ル為同省モ馮ノ地盤トスル了解成レリ馮ハ恬淡無欲ニテ濫ニ諸問題ニ意見ヲ挟ミ或ハ自派人物ノ獵官運動ヲナス如キ人物ナラス王正廷ノ部長任命モ馮ヨリ何等推薦カマシキ言動無ク主トシテ蔣介石カ推挙セルナリ實際蔣ト王ト非常ニ親密ニシテ

ノ行動等ニ顧ミ果シテ民心悪化ノ兆候アリトセハ必スヤ那辺カニ其ノ鋒鋷ヲ表ハシタルヘク彼此考察セハ最早濟南事件解決ノ如キ支那住民ニ取リテハ殆ント雲煙過眼視セラレ真劍味ヲ欠ケル状態ナルヤニ看取セラレ候ニ付事件解決ニ依ル民心ノ反動ノ如キ敢テ恐ルルニ足ラスト存候左リナカラ崔士傑所言ノ通彼我ノ円満ナル交渉ニ依リ事件解決ヲ告ケタル後ニ於テ邦人ノ居住營業ヲ不能ニ陥ラシムルカ如キ事態惹起セハ之レ即チ支那側ノ保障ニ信ヲ措キ難キ証左トシテ真向ヨリ其ノ責務ヲ糾弾シ猶聽カサルニ於テハ適切ナル自衛策ヲ執ルモ差支ヘナカルヘク思考セラレ候之ヲ要スルニ濟南事件ノ交渉ハ支那側ヨリ誠意ヲ披瀝セサル限り我方ニ於テ何等焦慮スル必要ナク当分既定ノ方針ニ規リ腰ヲ落付ケ漸次支那側ヲ引摺リツツ我方所期ノ目的貫徹ニカムルコト得策カト存セラレ思ヒ付ノ儘卑見御参考迄開陳致候

昭和三年八月二十五日

在青島

藤田總領事

有田垂細亜局長 殿

兩人間何等ノ秘密無ク相談シ居レリ政府部内ニ於テモ王ハ外交部長ノ最適任者トシテ人望高キ尠王辭職黃郛或ハ伍朝枢出馬説アル由ナルモ濟南事件ニテ大失策セル黃ノ復活ハ思ヒモヨラス伍ハ才幹王ニ及ハス又此ノ難局ヲ引受クル勇氣無ク結局王部長ノ地位極メテ安全ト云フノ外ナシ殊ニ王ハ先年ノ山東問題協定ニ際シテモ環境ニ氣兼セス断然自己ノ責任ニテ署名シタル人ニテ今日ノ如キ對日感情不良ノ際濟南事件ノ如キヲ解決スルニ足ル決断力アル人物ハ王ノ外ハ見当ラス日本ヨリモ歡迎シテ可ナル人物ナリ一方蔣介石ノ地位ニ付テモ当分動揺スルカ如キコト断シテ無キニ付此ノ際日本側ニ於テ斯ル点ニ對スル懸念無ク濟南事件交渉考慮方希望ス因ニ崔ハ兩三日中ニ離滬南京ヲ經テ来月初泰安ニ赴ク由

在支公使、青島、濟南、南京へ転電セリ

417 昭和3年9月3日

在青島藤田總領事より  
有田垂細亜局長宛

濟南事件解決交渉に關シ強硬の態度を持すべく意見具申

拜啓陳者馮玉祥ノ昵懇者松室中佐今般南京ヨリ北京ニ赴ク途次九月一日青島ニ立寄りタルヲ以テ済南事件解決ニ対スル國民政府側殊ニ馮玉祥一派ノ態度ヲ聴取セル処大要左ノ通ニ有之候

一、目下國民政府部内ニ於テ済南事件ノ解決ヲ望メルハ馮玉祥一派ノミナルカ而カモ馮ハ民國十五年國民党ニ入党セル所謂新参者ナレハ自ラ相当ノ実力ヲ有スルモ好シテ國民党ノ大勢ニ逆行スルカ如キ行動ヲ欲セス却テ國民党ヲ表面ニ押立テ其ノ意ヲ迎ヘテ之ヲ利用セムトスルズルキ考ヘテ有シ只管南京側ノ遣口ヲ傍觀セル態度ヲ執レルニ付済南事件ニ対シテモ國民党ヨリ嫌ハルル解決方法ヲ選ハス第一案トシテハ地方的ニ之ヲ解決セムコトヲ欲シ若シ能ハサルニ於テハ第二案トシテ将来ノ保障ヲ与ヘ軍隊ノ撤退ヲ先行シタル後共同調査ヲ行ヒテ謝罪加害者ノ処罰、賠償等ノ細目ヲ協定セムトスル考ヘテ持チ居レル模様ナルカスノ如キハ勿論日本側ノ応諾スヘキ限りニアラサルヲ以テ結局交渉ノ開始ハ近キニ之ヲ望ミ得サルカ如シ

二、現在國民政府ニ於テ李烈鈞、譚延闓等ノ巨頭ハ虚位ヲクスカル情勢ノ下ニ済南事件ノ解決ハ到底之ヲ望ミ得サルカト憂慮致居候

惟フニ南北統一ノ表面的成功ニ次テ今ヤ新支那ノ建設ニ夢中ナル國民党ハ更ニ英米側多少迎合ノ傾向アルニ依リテ全く有頂天トナリ其ノ鼻息頗ル荒キ折柄此際我方ヨリ何等問題ノ解決ヲ急クカ如キ氣配ヲ示スコトアラハ忽チ日本与シ易シト多寡ヲ括リ却テ集取シ難キ困難ノ事態ヲ招来スル虞ナキヲ保シ難シ從テ申迄モナク或時期迄ハ我方トシテハ形勢ヲ傍觀シツツ飽ク迄モ強硬ノ態度ト確固タル決心ヲ示シ彼等ヲシテ日本ノ了解ヲ得サル限り何事モ為シ能ハサル所以ヲ痛感セシムル方策ニ出ツルコト極メテ緊要ナルヘク少クトモ國民政府ノ実権ヲ握レル中央党部ニ於テ反省シテ緩和的態度ニ出ツルカ或ハ外部的圧迫ニ因リテ中央党部ノ勢力失墜スルカ何等局面ノ展開アル迄ハ政府現在ノ強硬ナル態度ヲ持續スルノ要アリト思考セラレ候

國民政府ノ反省時期ハ予断シ得ル限りニアラサルモ想フニ國民政府ノ現ニ全力ヲ傾注セル新支那ノ建設ハ理想乃至空論ニ依リ其ノ実現ヲ期シ得サルヤ勿論ニシテ先ツ多額ノ財源捻出ヲ必要トスヘキ処支那ノ現情ニ鑑ミ之ヲ国内ニ求ム

有セルニ過キスシテ何等実力ナク政府ノ実権ヲ掌握セルハ若手連ヨリ成ル中央党部ナリ然ルニ同党部ハ滿州問題、条約廢棄問題等ニ関連シテ極端ナル排日思想ヲ有シ日本人ヲ忌避シ居ル実情ニ付今後彼等ノ対日感情一変セサル限り將又政府ノ実権カ同党部ヨリ他ニ好転セサル限リ済南事件ハ到底解決ノ機運来ラサルヘク又王正廷ノ如キハ一ニ中央党部ノ鼻息ヲ窺ヒ其ノ意圖ヲ察シテ日本ニ強カリヲ謂ヒ居レル様ノ始末ニテ崔士傑ノ如キニ至リテハ全ク同党部ノ眼中ニナキモノノ如シ

三、蔣介石ヲ始メ其ノ一派ノモノハ此際済南事件ノ解決ヲ急クモ支那側ニ取り得ル所ナキノミナラス其ノ結果ハ山東ノ地盤ヲ馮玉祥ニ与フル丈ケナルヲ以テ地位名望ヲ賭シテ迄モ之カ解決ノ衝ニ当ラムトスル氣力ナシ云々

右松室ノ言ニ徴シ(一)目下國民政府ノ牛耳ヲ執レル中央党部ノ連中カ滿州問題及条約廢棄問題等ニ関連シテ極端ニ対日反感ヲ抱キ居リ彼ノ王正廷ノ強カリモ畢竟中央党部意圖ノ一端カ閃キ居レルニ過キサルモノナルコト及(二)唯一ノ済南事件解決希望者タル馮玉祥モ又國民政府ノ反感ヲ買ヒテ迄之カ解決ヲ図ラムトスル勇氣ナキコトヲ明瞭ニ察知シ得ヘ

ルコトハ絶対不可能ナルヲ以テ勢ヒ外資ニ仰クノ外途ナカルヘク而カモ外資ハ國民政府ニ好感ヲ有スル英米側ト雖モ日支關係險惡ヲ示セル限り投資ヲ差控ユヘキコト勿論ナルヲ以テ聽テハ反省シ我方ニ諒解ヲ求メ来ルヘキ時期モ到来スヘシ殊ニ京津方面ヲ始メ兩湖、広東ノ諸方面亦漸次險惡ノ兆候ヲ示シツツアリテ時局安定セリト謂フヲ得ス此ノ不安ナル政情ニ処シ我方トシテ依然強硬ノ態度ヲ以テ臨ムコトハ是レ却テ國民政府側ノ反省ヲ促ス所以トモナリ滿州問題、条約廢棄問題、済南事件等諸案件ノ解決ヲ促進スヘキニ非サヤト思考セラレ候

右済南事件解決ニ関スル卑見ノ一端トシテ何等御参考迄ニ申進候

昭和三年九月三日

在青島

敬具

有田重細重局長 殿

藤田總領事(印)

田中外務大臣より  
在中国芳沢公使  
在英國佐分利臨時代理大使  
在米國沢田臨時代理大使  
各宛(電報)

昭和3年9月7日

濟南事件解決交渉は国民政府の状況を觀望の

上措置する方針について

付記 日付不明

矢田總領事に付与の濟南事件解決交渉促進案

本省 9月7日後5時發

合第三五三号

事務打合ノ為予テ帰朝中ノ在上海矢田總領事ノ帰任ニ際シ  
對南方針ニ関シ詳細同總領事ニ訓示シ置キタルカ要スルニ  
條約改訂問題ト云ヒ濟南、南京等ノ不祥事件ト云ヒ日本ト  
シテハ誠意ヲ以テ之ヲ解決スルノ用意ハ有ルモ国民政府ハ  
排日運動及我ニ對スル惡宣伝ニ努メ交渉開始ノ誠意ヲ未ダ  
充分認メ難キノミナラス国民政府部内ニ動搖ノ兆見エ政府  
ノ重要ナル地位ニモ近ク一二變動ヲ見ルニ至ルヤモ測リ難  
シトノコトニテ斯ル政情混沌ノ際所謂局面打開等ノ意味ヲ  
以テ此ノ際進ンテ我方ヨリ支那側ニ交渉開始セントセハ却

テ徒ラニ政争ノ具惡宣伝ノ材料ヲ供スルニ過キササルヘキ虞  
アルヲ以テ同總領事帰任ノ上ハ先以テ篤ト国民政府ノ状況  
ヲ視察シテ勢力變動ノ実情ヲ確メ然ル後措弁ス可ク此ノ際  
ハ尚一時觀望ノ態度ヲ持統シテ敵ニ形勢推移ヲ監視スル様  
注意スヘキ旨篤ト申含メ置キタリ御含迄  
(北京宛ニハ「上海、奉天、南京ニ転電アリ度シ」英宛ニ  
ハ「仏、独、伊、白、寿府ニ転電アリ度シ」ト付記スルコ  
ト)

(付記)

濟南事件解決交渉促進案

矢田總領事帰任ニ際シ左ノ三案ノ順序ニ依リテ適宜支那側  
ト交渉スヘキ旨訓令スルコトト致度

第一案

別紙ノ如キ声明ヲ上海ニ於テ發表シタル上濟南又ハ青島  
ニ於テ事件解決交渉ヲ開始スルコト但シ別紙声明案ニ依  
レハ保障問題ヲ切離シ若ハ保障問題サヘ解決セハ撤兵ヲ  
行フモノノ如ク解セラルト雖帝國政府トシテハ保障問題  
ヲ切離スノ主旨ニアラサルノミナラス保障問題ノ外陳

テ之レヲ行ハシム

419 昭和3年9月10日

田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛(電報)

南京政府内における變動の有無等確めの上至

急回電方訓令

本省 9月10日發

\*第二〇六号

貴官出発ノ際訓令シ置キタル通りニ張群其他然ルヘキ向ト  
会见シ南京ノ政情ヲ聴取シ政府内ニ於ケル變動ノ有無等ヲ  
確メラレタル上ハ至急電報アリ度シ尚王正廷トノ面会ハ追  
テ当方ヨリ訓令スル迄見合ハサレ度シ

420 昭和3年9月11日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

王外交部長との会見見合せについて

上海 發

本省 9月11日後着

第六〇九号

謝、処罰及賠償ノ諸点ニ付協議成立スルニ非スンハ撤兵  
ヲ実行セサル主旨ナル旨予メ王外交部長ヲシテ了解セシ  
メ置クコト  
第二案  
前記ノ如キ声明ヲ為スコトノ代リニ交渉地点ヲ讓歩シ直  
ニ上海ニ於テ事件解決ノ交渉ヲ開始スルコト  
第三案  
上海ニ於テ事件解決交渉ヲ開始シタル後支那側ニ於テ冒  
頭撤兵問題ヲ固執スルカ如キ場合ニモ別紙ノ如キ声明ヲ  
為シ差支ナキコト但シ此ノ場合ニハ撤兵ノ時期ニ関シ第  
一案但書ノ通り充分支那側ヲシテ諒解セシメ置クヲ要ス  
ルコト  
(別紙)

濟南事件ニ関シ国民政府ハ山東ニ於ケル日本居留民ノ生命  
財産ニ對シ責任ヲ以テ保護スヘキ旨声明シ又日本政府ハ日  
本ノ山東派兵ハ居留民ノ生命財産保護ニ外ナラサルヲ以テ  
同居留民ノ生命財産ノ保護ニ関シ確實ナル保障ヲ得ルニ於  
テハ遲滞無ク山東ヨリ撤兵スヘキ旨声明セリ右声明ノ実行  
方法等ニ関スル協議ハ濟南事件解決ニ関スル日支委員ヲシ

貴電第二〇六号ニ関シ

本官婦任ノ当日外交部秘書陳世光來館シ王部長ハ今夜夜行ニテ南京ニ赴ク筈ナル処矢田総領事ニ於テ会见ノ希望アラハ何トカ時間ヲ都合スル様話シ見ルヘシ尤モ右ハ自分一己ノ思付ニテ王部長ノ内命ニ依ル次第ニ非スト申述ヘタル由本官ニ館員ヨリ伝達シ來レルニ付本官ハ其ノ好意ヲ謝シ別ニ其ノ希望無キ旨回答シ置キタルニ同夜陳ヨリ電話ニテ王部長ハ出発ヲ一日延期シタルカ明日ニテモ会见サルル希望無キヤト重ネテ申越シタルニ付差当リ其ノ希望無キ旨ヲ述ヘテ体良ク面会ヲ拒絶セリ

421 昭和3年9月12日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張群と国民政府の改組、外交部長の人選等に  
関し会談について

上海 発  
本省 9月12日午前

第六一一号

十一日午後本官張群ニ面会シタルカ談話要領左ノ通

リトノ意ヲ仄カシ置ケリ

四、蔣介石トノ面会ニ関シ張群ハ明日千客万來ニテ秘密ニ会见ノ取極ヲ為スコト到底不可能ナリト答ヘタルニ依リ本官ハ然ラハ他日ヲ期スヘシト断念シタルニ張群ハ実ハ蔣氏ハ日支間ノ問題ニ付各方面ヨリ種々ノ申出アルモ孰レニモ乘氣ニナラス只管貴下ノ帰任ヲ待チ居リタル次第ナレハ明日貴下カ会见セラレサルトスルモ本日ノ此ノ会见ニ付テ何トカ蔣氏ニ報告セサルヘカラストテ本官ニ政府ノ方針ヲ尋ネタルニ付万事ハ蔣氏カ行政院長ニ就任シ行政院ノ顔触確定シタル上ト致シ度只貴下ヨリ蔣氏限リノ合トシテ本官カ必スシモ世間伝フル如キ全然余裕ナキ訓令ヲ齎セル次第ニモ非サル事ヲ伝ヘラレ度ト申聞ケ置キタリ

五、張群ハ要スルニ日支ノ懸案ノ重点ハ滿州問題ニテ他ノ済南、南京、漢口事件及条約等ノ諸問題ハ滿州問題ニシテ解決セハ自ラ消滅スヘキモノナリ只日本政府カ滿州問題ノ解決ヲ図ラムカ為東三省ト南京政府トノ妥協ヲ裏面ニ於テ阻害シ居ル事ハ遺憾ナリ二者全然別問題ニ非スヤ日本トシテハ支那ノ統一ヲ助成スルト共ニ滿州問題ヲ解

一、蔣介石ハ目下寧波ニ在リ明十二日出発南京ニ帰ル予定ニテ張群モ同行スヘシ蔣ノ地位ニ付テハ日本ノ方面如何ナル報道伝ハリ居ルヤヲ知ラサルモ南京ニ於テ政府ノ組織改革案並ニ其ノ主ナル人選ニ付内相談ヲ纏メタル上ニテ郷里ニ休養ニ赴キタルナレハ南京帰還ト共ニ現実ニ一歩ヲ進メ今週中ニハ重要ナル発表ヲ見ルヘシ

二、右改組ノ要点ハ最高機關トシテ五院ヲ置ク事ハ御承知ノ通ナルカ行政院長ニ蔣介石就任シ其ノ下ニ内政、外交、財政、交通、教育、商工、農林、軍部ノ八部ヲ置クヘシ各部長ノ顔触ハ未タ確定ニ至ラス

三、張群ヨリ王外交部長ニ付テハ如何ニ考ヘラルルカト質問セルニ付本官ハ忌憚無ク申セハ王氏ノ英米ニ親シムテ我国ヲ牽制セムトスル政策ハ結局南京政府自身ノ為ニモナラサルヘシト述ヘタルニ付然ラハ伍朝枢、黃郛ハ如何ト切込ミ來レルニ付領事團ノ意向ハ勿論黃郛ノ評判良シト然ルヘク返事シタルニ其ノ外ニ適任者無キヤト質問セルニ付南京政府カ外交部長ノ資格トシテ英語ニ熟達スル事ヲ必要トセサル事實ヲ自覚スルナラハ日本留学出身中其ノ人ニ乏シカラサルヘシト暗ニ貴下ノ如キ其ノ一人ナ

決スルヲ最上策トセスヤ滿州問題ト謂フモ現在所有セル權益ノ確認並懸案タル商租、鉄道ノ両問題ノ解決以外ニハ何等重要問題ナキ筈ナリマサカ日本政府ト雖モ滿州併合ヲ企図セラルルニハ非サルヘシ等ト述ヘテ聊カ議論カマシキ話ヲ切出シタルニ付本官ハ本問題ハ本官任務ノ範圍外ニ屬ストテ輕ク談話ヲ打切りテ引取タリ  
公使、奉天、青島へ転電セリ

422 昭和3年9月12日

田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛（電報）

行政院長に就任とみられる蔣介石への祝意お  
よび希望伝達について

本省 9月12日午後6時発

第二〇九号  
本大臣個人ノ伝言トシテ左ノ趣旨ヲ蔣介石ニ伝ヘラレタシ自分ハ貴總司令カ北伐ノ完成ニ引続キ第五次全体會議ノ取纏メニ努力セラレ建設ノ一路ニ勇往邁進セラレ居ルニ対シ遙ニ敬意ヲ表スルモノナリ總司令ハ近ク行政院長ニ就任シ政府ノ改組ニ當ラルル趣ノ処同院長ハ固ヨリ新政府最重要

ノ職ニシテ国民政府前途ノ諸事業ハ一ニ其ノ双肩ニ繫ルモノト思考シ右就任ニ対シテハ深厚ノ祝意ヲ表スルト共ニ其ノ手腕ニ期待スルトコロ大ナリ自分カ国民政府ノ事業ニ同情ヲ有スルコトハ今更之ヲ繰返ス要ヲ見サルカ国民政府当局最近ノ行動ハ自分ヲシテ少カラス失望セシムルモノアリタリ総司令今ヤ南京ニ帰り近ク行政院長ニ就任セラルヘシトノ報ニ接シ衷心喜ヒニ堪ヘス今後行政院長トシテ御成功ヲ祈ルト共ニ日支関係ノ改善ニ精進セラレンコトヲ切望ス

423 昭和3年9月12日  
有田亜細亜局長より  
在中国堀公使館参事官  
在青島藤田総領事  
在濟南西田総領事代理 各宛

濟南事件解決交渉会談地に関する妥協案につ  
いて

半公信  
濟南事件解決交渉ニ関スル件

拜啓陳者先般矢田総領事出京ノ節ノ報告ニ王正廷ハ濟南事件ノ至急解決ヲ希望シ居ルモ現在ノ狀況ノ下ニ青島濟南等

財産ニ対シ責任ヲ以テ保護スヘキ旨声明シ又日本政府ハ日本ノ山東派兵ハ居留民ノ生命財産保護ニ外ナラサルヲ以テ同居居留民ノ生命財産ノ保護ニ関シ確實ナル保障ヲ得ルニ於テハ遲滞無ク山東ヨリ撤兵スヘキ旨声明セリ右声明ノ実行方法等ニ関スル協議ハ濟南事件解決ニ関スル日支委員ヲシテ之ヲ行ハシム

424 昭和3年9月13日  
田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛（電報）

蔣介石と会談の際の心得について

本省 9月13日後3時30分発

第二二一号（極秘、至急）  
往電第二〇七号ヲ以テ申進メタル追電ノ儀ハ今少シク形勢ヲ見タル上詮議スルコトトシタルニ依リ貴官蔣介石ニ面会ノ節ハ不取敢往電第二〇九号ノ本大臣ノ伝言ヲ伝ヘラレ其ノ他ノ事項ニ付テハ何等「コンミット」セサル程度ニ於テ応酬シ会见ノ模様電報アリ度シ

ニ於テ交渉ニ応スルコトハ困難ナレハ日本側カ何等カノ形式ニテ撤兵ノ声明ヲ為スニ於テハ交渉地点ノ如キ必スシモ固執スルモノニアラサルカ如キ口吻ヲ洩シ居リタリトノコトナリシニ付種々協議ノ末同総領事帰任ニ際シ田中大臣ヨリ同総領事ニ対シ交渉開始促進ノ為此際我方ヨリ讓歩的態度ヲ示スノ必要ヲ認メサルモ同総領事帰任ノ曉若シ支那側ヨリ再度交渉開始ニ付申出来ル場合ニハ日支双方ニ於テ差当リ別記ノ趣旨ノ声明ヲ上海ニ於テ発表シタル上濟南又ハ青島ニ於テ事件解決交渉ヲ開始スルコト但シ別記声明案ニ依レハ保障問題ヲ切離シ若ハ保障問題サヘ解決セハ撤兵ヲ行フモノノ如ク解セラルト雖帝國政府トシテハ保障問題ヲ切離スノ主旨ニアラサルノミナラス保障問題ノ外陳謝、処罰及賠償ノ諸点ニ付協議成立スルニ非スシハ撤兵ヲ実行セサル主旨ナル旨予メ王外交部長ヲシテ了解セシメ置クコトトシタキ所存ニ就キ右方針ニ依リ応酬スル様訓令セラレタル次第アリタルヲ以テ右貴官御含迄申進候

敬具

濟南事件ニ関シ国民政府ハ山東ニ於ケル日本居留民ノ生命

425 昭和3年9月13日  
在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張群が蔣との秘密会談の困難なる事情説明につ  
いて

上海 發  
本省 9月13日後着

第六二〇号  
貴電第二一九号及第二二一号ニ関シ  
十三日午後密ニ張群ト会见シ蔣介石トノ会见ニ関シ相談シタルカ張群ノ云フ処ニ依レハ蔣介石今回ノ帰郷ハ結婚後初メテノ夫人同伴ノ旅行ナレハ郷党ノ歡迎断ハリ難ク二日間寧波出發ヲ延期シタリトノコトナレハ多分明十四日早朝上海へ著スヘシ斯ク時日遅レタレハ上海滞在ハ短時日ナルヘク各要人、内外新聞記者等ニ包囲サルコト必定ニテ貴下ト秘密ニ会见スルコトハ不可能ト考ヘラル若シ貴下トノ会见外間ニ発表サレンカ貴下カ王正廷トノ会见ヲ避ケタルコトハ既ニ周知ノ事実トナリ鮮カラス王一派ノ感情ヲ刺戟シタル此ノ際ナレハ過般松井中将トノ会见ノ時王部長ト扞格ヲ生シタル例モアリ自分ハ勿論蔣モ再ヒ外交部ノ一派ト親

日派ノ二重外交ナリトノ非難ヲ招キ迷惑ナル地位ニ陥レラルル惧アルノミナラス蔣ト会見セラルルモ貴下ハ蔣ノ熱心ニ知ラント欲スル時局問題ニ付テハ何等具体的ノ意見ヲ述ヘラレサル由ニテモアリ旁自分ノ考ニテハ今回ノ田中總理ノ伝言ハ自分之ヲ引継キ其ノ中適當ノ時期ニ南京ニ赴キ外交部ト折衝スルト同時ニ蔣總司令ト懇談セラルルコトトセハ万事好都合ナルヘシト述ヘタルニ付本官モ張群ノ苦衷ヲ諒トシ御伝言ノ趣旨ヲ伝ヘタルニ張ハ「要スルニ田中總理ノ御伝言ハ国民政府ノ今迄ノ遺方ハ不満足ナルカ今後蔣ノ力ヲ以テ日本政府ヲ満足セシムル様セヨトノ意ナルヘク總理御注意ノ精神ハ自分ニモ能ク分リ蔣モ承知シ居レル処ナリ」ト語レリ

（欄外記入一） 田中總理ノ蔣ニ対スル伝言伝達 九月十三日

（欄外記入二） 北京へ転電セリ

（欄外記入三） 九月十四日田中總理へ写スミ

426 昭和3年9月15日 田中外交大臣より  
在上海矢田総領事宛（電報）

汪中国公使に国民政府支援を言明について

念表明について

南京 本省 9月16日後着

第四五二号

本官十二日夜赴滬十四日帰任シタルカ翌十五日周龍光来訪シ頗ル不安ノ面持ヲ以テ矢田総領事ノ齎セル帝國政府ノ訓令ニ就キ質問スルト共ニ「王部長ハ矢田総領事トハ帰任後面会スヘキ旨其ノ帰朝前ニ約束シ置キタルヲ以テ上海滞在  
中特ニ同総領事ニ面会ノ要アリヤ否ヤヲ二回迄モ問合セタルニ拘ハラス同総領事ヨリハ僅ニ其ノ要ナキ旨回答アリ他方新聞報道ニ依レハ日本政府ハ王部長ニ対シ好意ヲ有セス寧ロ辭職ノ時ヲ待テルカ如キ感アリテ部長ハ極メテ不愉快ニ感スルト同時ニ此ノ儘推移スルニ於テハ事態益々悪化スヘク少カラス憂慮シ居レリ」ト述ヘタルニ付本官ハ矢田総領事カ如何ナル訓令ヲ得テ帰任シタルヤハ今才話スルノ自由ヲ有セサルモ自分ノ感スル所ニ依レハ帝國政府ハ上海法院問題等ニ対スル貴國政府特ニ王部長ノ遣口ニ対シ甚タ信頼出来サル感ヲ有シ居ルモノノ如ク若シ貴國政府ニ於テ充分ノ誠意ヲ披瀝セラルルニ於テハ帝國政府ハ条約問題其ノ

第二一五号

本省 9月15日後4時50分発

今十五日来省セル汪公使ニ対シ自分トシテハ支那ノ革命カ露西垂式ノ過激ナル方法ニ趨ルコトナク明治維新ノ如キ行キ方ニ依リ穩健ナル方針ヲ以テ進マムコトヲ切望スル次第ナルカ今ヤ國民政府ハ五院制度ノ確立ニヨリ茲ニ初メテ真面目ナル建設ノ時代ニ入ル傾向ニアリトモ思考サルルニ付キ我国トシテモ今後ハ同政府ヲ支援シ得ヘキニ至ル見込ナリト告ケ置ケリ

其ノ際汪公使ハ貴官カ王外交部長トノ面会ヲ見合セ居ル件ニ言及シタルニ付右ハ過般同総領事帰任ノ際本大臣ヨリ國民政府ハ目下改組中ナリトノコトナレハ王部長トノ会見モ一日二日ヲ争フ要ナカルヘシト告ケ置キタルニ依ルモノト思考スル旨答へ置キタリ  
北京ニ転電セリ、南京ニ転電アリ度シ

427 昭和3年9月16日 在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

周龍光が王外交部長に対する日本の態度に懸

他諸問題ニ関シ円満解決ヲ希望スルハ勿論ニシテ特ニ國民政府ヲ回避スルカ如キ意向ヲ有セサルハ断言シ得ル所ナリ  
王部長カ其ノ才ニ任セ小策ヲ弄スルヤノ觀アルニ対シ日本朝野トモ同部長ニ誠意無キモノトノ印象ヲ受ケ居ルニ非サルヤヲ惧ルト語リタル処周ハ王部長ハ支那人間ニモ往々誤解セラルル人ニシテ自分（周）等日常接近シ居ル者ニハ縁アリ其ノ人物モ諒解セラルルモ決シテ小策ヲ弄シ誠意ヲ欠クカ如キ人物ニ非ス例ヘハ上海ニ於ケル兩法院問題ノ如キ充分ノ誠意ヲ以テ其ノ方策ヲ講究シ居ルモノナリトテ往電第四四八号ノ如キ話ヲ為シ尚御話ニ依リテ貴國政府ノ御意向略ホ推察出来サルヲ以テ部長ノ帰寧ヲ俟タス同夜直ニ上海ニ赴キ法院問題其ノ他ニ付可然部長ニ進言スヘシトテ辭去シタリ  
王部長カ我朝野ニ兎角好感ヲ有セラレサル趣ハ部長自身ニ於テモ痛切ニ之ヲ感シ駐日公使ニ対スル帝國政府回答ノ曖昧ナルヲモ右ニ帰シ居ルモノノ如ク最近我通信員ニ対スル態度応酬モ頗ル真面目ナル趣ナリ  
尚序午ヲ駐日公使候補者朱兆莘トハ本官モ再三回面談シタルカ同人ハ其ノ駐日公使タルヲ希望スル為モアルヘキモ本

官始メ同人ニ接シタル邦人ハ頗ル良好ナル印象ヲ得タリ若シ駐日公使トシテ他ニ適當ナル人物無之ニ於テハ同人ノ如ク我国ニ対シテハ多ク智識ヲ有セス而カモ我ニ接近セムト努力シツアル人物ヲ駐派セシムルハ或ハ操縦上得策ナラスヤトモ思考セラル

428 昭和3年9月16日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔣介石との会談内容報告

上海 発  
本省 9月16日後着

第六二八号

十六日張群ヨリ電話ニテ蔣介石ハ外部ニハ杭州ヨリ鉄道ニテ来滬スルコトトナリ居レルモ実ハ船ニテ本日午後三時来滬スル次第ナルカ本日ハ昨夜来ノ大雨未タ歇マス交通モ殆ト杜絶セル状態ナルヲ以テ四時頃宋子文ノ私宅（本官官舎ヨリ一丁程ノ処ニ在リ）ニ於テ蔣ト会见スレハ外間ニ洩ルル惧モ無カルヘシト申越セルニ付同時刻宋ノ宅ニテ張群ノ

用シ王部長ノ口約ヲ裏切ル如キ其ノ著シキ実例ナリト縷々説示シタル処然ラハ自分カ新制度ノ下ニ行政院長トナルコトハ如何ト反問セルニ付貴下カ新政府ノ首班トナルハ日本政府ノ歓迎スル処ニシテ右ハ田中首相ノ貴下ニ対スル伝言ニ依リテモ明カナリト答ヘタルニ其ノ理由ヲ求メラレタルニ付貴下ノ飽迄共產党ヲ排斥セル穩健政策貴下ノ信頼シ得ル人格及良ク我国情ヲ諒解セル点等ナルヘシト然ルヘク説明シ置ケリ

三、蔣ハ次ニ貴下ハ林男爵佐藤少将等ト面会セラレタリト思フ処是等人々ノ支那ノ政情ニ関スル意見如何ト問ヒ滿州問題ニ関スル政府ノ方針ヲ探ラントスル模様ナリシヲ以テ本官ハ両氏ニハ面会シタルモ宴席ナリシヲ以テ時局ニ関スル意見ノ交換ヲ為シ居ラス從テ何等答フルコトヲ得スト答ヘ置ケリ

四、蔣ハ張群ヲシテ大演習參觀ノ為渡日セシメ度シト考フル処其ノ得失如何ト質問セルニ付張群ニシテ若シ外交上ノ交渉問題ニ触レルルナラハ却テ事態ヲ紛糾セシムルモノニシテ不賛成ナリト述ヘタルニ否単ニ日本朝野ト意思疎通ヲ計ルニアリテ決シテ外交上ノ具体的問題ニ触ル

通訳ニテ三人鼎座懇談セリ其ノ要領次ノ如シ

一、蔣ハ先ツ本官ニ対シ新聞電報ニ依レハ貴下ハ辭職サレタリトノ事ナリシカ其ノ実現ヲ見スシテ再ヒ当地ニ迎フル事ヲ得タルハ衷心ヨリ喜フ処ナリト挨拶シ南京政府ノ将来ニ対スル閣下ノ意見ヲ質ネタルニ付今後権力者ノ新陳代謝ハ行ハルヘキモ南京政府トシテハ差当り分裂スルカ如キ事無ク寧ろ固マリ行クモノト觀察シ居ラルル様了解セリト答ヘタルニ国民一般ハ如何ト質問シタルニ付一部ニ悲觀論アルハ事実ナルモ輿論ハ前記首相ノ見解ニ追從スルモノト認メラルト答ヘタリ

二、蔣ハ今日ノ会见ハ全ク友人トシテノ懇談ナレハ南京政府ニ対スル貴下ノ忌憚無キ批評注文等遠慮無ク申聞ケラレ度シト述ヘタルニ付北伐完成セル今日新精神ヲ以テ建設的施設ニ當リ列國ノ信用援助ヲ獲得スル事急務ト思考セラルルニモ拘ラス国民政府カ動モスレハ奇矯ナル対外政策ヲ採リ或ハ夷ヲ以テ夷ヲ制スル旧式外交ヲ踏襲シ進ンテ援助ヲ与ヘントスル友邦ヲシテ逡巡躊躇セシムルカ如キ行動アルハ最遺憾ナリ

例<sup>(2)</sup>ヘハ本官上京中上海ニ於テ在留日本人ニ臨時弁法ヲ適

ルコト無シト述ヘタルニ付夫レナラハ宜シカラシ殊ニ張群氏ハ適任ナリト信ス（張群ハ苦笑シテ自分ハ用事多ク個人トシテハ余リ行キ度ク無シト言ヲ挾メリ）ト述ヘ序乍ラ申スヘキモ汪榮寶、王大植兩人ノ最近ノ行動ハ面白カラサルモノアリトコトナリトテ本官出發前閣下ヨリ御訓示ノ次第ヲ申聞ケ置ケリ

五、蔣ハ話頭ヲ転シテ政友会ニ内訌無キヤ田中内閣ノ将来如何ト頻リニ我国内政ノ実情ヲ探ラントスルカ如キ質問ヲ為シタルニ付本官ハ上海ニ於テ失意ノ政客ニ南京政府ノ将来ヲ質問センカ異口同音ニ明日ニモ崩壊スルカ如キ觀察ヲ述フルナルヘク之ト同シク政府反対ノ方面ヨリ種々ノ情報耳ニ入ランモ斯ル当ニナラヌ政変ヲ予想シテ対日本ノ政策ヲ考フルハ誤ナリト信スト会話ヲ打切レリ

六、辞去スルニ当ツテ蔣ハ閣下ノ伝言ニ対スル御返事ハ南京ヨリ発電スヘク張群ハ一兩日上海ニ止リ各要人ト折衝シタル上南京ニ赴ク予定ナリ五院組織ノ発表ハ其ノ後ノ事ナレハ少シ手間取ルヤモ知レズト述ヘ閣下ニ電報セララルナラハ然ルヘク自分ノ挨拶ヲ申添ヘラレ度ト付言セリ尚本会见ハ蔣ノ希望ラシク蔣ハ本官ヨリ親シク日本ノ

政情ヲ聞キ日本政府ノ蔣ニ対スル同情ノ有無出来得レハ  
満州問題ニ関スル政府ノ意図ヲ探ラント試ミタルモノナ  
ルヘク本官ヨリ予メ何等具体的ノ話ハ為シ難シト断リシ  
為カ済南事件条約等ノ具体的ノ問題ニハ何等触ルル処無  
ク其ノ様子モ何時モノ寡言ニ似ス進ンテ話題ヲ作り郷里  
ヨリ齎セル名産ナリト謂フ菓子ヲ進ムル等頗ル寛キタル  
態度ニテ好機嫌ニ談話シタリ

（欄外記入一） 矢田総領事蔣介石会見 九月十六日  
（欄外記入二） 写総理ヘスミ  
（欄外記入三） 北京へ転電セリ 九、十七、

429 昭和3年10月11日 田中外務大臣より  
在奉天林総領事宛（電報）

張群神戸発上海に向け帰国について

本省 10月11日発  
第二二〇号

本大臣発在上海総領事宛電報第二五七号  
張群五日神戸発上海丸ニテ帰滬ノコトトナレルカ同人ニ対  
シテハ条約問題及済南事件ニ関スル帝國政府ノ態度ハ既ニ

矢田総領事ヨリ

本官十八日午後四時南京着、六時國民軍總司令部ニ於テ蔣  
介石、譚延闓及王正廷ト一室ニ於テ会見シ貴電第二三二号  
御訓令ノ趣旨ヲ述ヘタル処譚ハ國民政府ヲ代表シ日本ノ好  
意ト同情的態度ニ感謝ノ意ヲ表シ誠意ヲ披瀝シテ日支間諸  
懸案ノ解決ヲ計リ度キニ依リ茲ニ王正廷ニ対シ貴官トノ交  
渉ニ関スル全權ヲ委任スルヲ以テ至急王トノ間ニ交渉ヲ遂  
ケラレ度キ旨挨拶アリ依テ明日午前十時本官王ト会見スル  
事ニ取極メ辞去セリ

431 昭和3年10月19日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

蔣介石主席等との会見の様相についての矢田  
在上海総領事報告

南京 10月19日前発  
本省 10月20日前着

第五六一号

矢田総領事ヨリ  
往電第五六〇号ニ関シ

決シ居レルモ現在ノ状況ニテハ何人ヲ相手トシテ交渉スル  
ヲ適當トスヘキヤ見當付カサル次第ニ付交渉ヲ見合セ居ル  
次第ナレハ帰滬ノ上蔣介石トモ相談シ右ノ点ニ関シ何分ノ  
義貴官へ通知スル様申入レ置キタルニ付往電第二三三号訓  
令ノ執行ニ付キテハ右通知ヲ参照シ然ル可ク御措置アリ度  
尚張ニ対シ五院制度確立ノ上ハ建設時代ニ入ルモノトシテ  
帝國政府ハ出来得ル限りノ援助ヲ咨マサル次第ナルコトモ  
申聞ケ又東三省問題ニ付テモ腹藏無キ意見ヲ開陳シ置キタ  
リ尤モ東三省問題ニ付キテハ貴官ヨリハ何等意見ヲ表示セ  
ラレサル様致度

430 昭和3年10月18日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

譚行政院長が日中懸案解決交渉を王外交部長  
と開始方言明についての矢田在上海総領事報  
告

南京 10月18日後発  
本省 10月19日前着  
第五六〇号

本官南京着ニ先立チ王正廷ヨリ外国公使等來寧ノ際ハ先ッ  
外交部ヲ訪問スルノ習慣トナリ居ルニ付日本総領事來寧ノ  
場合モ此ノ形式丈ケハ履マル様願度シト岡本領事ニ其  
ノ斡旋方依頼シ來レル趣ナリシニ依リ議論スル程ノ問題ニ  
モ非サルニ付十八日午後五時過岡本領事及上村草野ヲ從ヒ  
先ッ王ヲ訪問シ敬意ヲ表シタル処王ハ非常ニ喜ヒ直ニ是ヨ  
リ蔣主席ノ許ニ御案内致スヘシトテ本官ヲ其ノ自動車ニ請  
シ國民革命軍總司令部ニ至リ同所ニ待受ケタル蔣介石及譚  
延闓ノ許ニ伴ヒタリ依テ席定マルヤ本官ハ先ッ五院制度モ  
確立シ國民政府ノ建設時代ニ入りタルヲ祝シ次テ言葉ヲ  
改メ本官今回ノ來寧ハ政府ノ訓令ニ基キ國民政府首脳部ト  
隔意無キ意見ノ交換ヲ行ヒ以テ日支間諸懸案ノ解決ヲ計ラ  
ンカ為メニシテ蔣主席譚行政院長及王外交部長トハ是非御  
懇談致度シト存シ居リタル処斯ク一堂ニ会合スルコトヲ得  
誠ニ好都合ナリト前置シ  
貴電第二三二号御訓令ノ次第ヲ適宜説明ノ上國民政府ニ於  
テ右我方ノ趣旨ヲ諒トシ關係諸懸案ノ解決ヲ計ラムトスル  
ノ誠意ヲ披瀝セラルルニ於テハ直ニ具体的商議ニ入ルノ用  
意アル次第ナルカ先ッ國民政府ノ意向ヲ承知シタシト切出

シタル処終始敬虔ナル態度ヲ以テ謹聴シ居リタル蔣譚王ノ三人ハ遽カニ小声ニテ何事カヲ相談ヲ始メタルカ間モ無ク譚ヨリ口ヲ開キ国民政府ヲ代表シテ御答ヘスヘシトテ日本ノ理解アル同情アル態度ニハ深く感謝スル次第ニシテ日本政府ノ意ノアル処ヲ諒トシ国民政府ニ於テモ誠心誠意協力以テ諸懸案ヲ解決シ以テ善隣友好ノ実ヲ完フセンコトヲ希フ次第ニテ茲ニ王部長ニ命シ政府ヲ代表シテ専ラ貴官トノ交渉ニ当ラシムヘキニ依リ速ニ具体的商議ニ入ランコトヲ希望スト挨拶シタルヲ以テ本官ハ国民政府ノ誠意ヲ披瀝シテ懸案解決ニ当ラントスル決意ヲ承リ満足セリ本官來寧ノ目的ハ討論ノ為ニ非ス懸案解決ノ為ナリ從テ王部長ニ於テモ何等ノ懸引等ヲ為サス虚心坦懐ニ本官ト協力シ一挙不祥ナル案件ヲ一掃セラレンコトヲ望ムト述ヘ蔣、譚兩人ヲ前ニ王ノ注意ヲ喚起シタル処王ハ緊張シタル面持ニテ貴官ノ精神ニハ自分モ全く同感ナリト述ヘ既ニ全權ヲ委任セラレタル以上ハ貴官ト協力シ速ニ懸案ヲ解決シ日支善隣ノ常道ニ進ミ兩國民ノ福祉ニ資セン決心ナリト述ヘタリ依テ本官ハ明十九日午前十時王ト会见スルコトニ取極メ辞去シタリ

付協議セントスル次第ニシテ我方トシテハ第一ニ排日宣伝及暴行等ノ取締ニ関スル保障ヲ得ルノ必要アリ次ニ済南及膠濟鉄道ノ交通ヲ確保シテ鉄道沿線在住日本人ノ生命財産ノ保護ニ付遺憾ナキヲ期スル要アリ即チ我方ニ於テハ之等ノ点ニ最重キヲ置キ此ノ点ニ付テ安心ヲ得ルニ非サレハ撤兵スルヲ得サル次第ナルニ付保障問題ニ関スル貴下ノ誠意アル御意見ヲ伺ヒタシト述ヘタル処王ハ排日問題ハ日本カ撤兵セハ自然ニ消滅スヘキモノナリ済南事件ハ支那人ノ対日感情ヲ極度ニ刺戟シ居レハ日本カ山東ニ駐兵スル限リ排日ハ熄マスト答ヘタルニ依リ本官ハ然ラハ貴下ハ排日取締ノ必要ナシト云フ意ナリヤト詰リタルニ王ハ然ラス自分ハ排日ノ原因ハ山東問題ニアリト云ヘルノミ排日取締ハ省政府直接其ノ衝ニ当ルモ国民政府モ責任ヲ以テ省政府ヲ指揮監督スヘク其点ニ就テハ御安心アリ度シ

尚ホ山東ニハ軍規最モ厳格ナル孫良誠軍居ルコトトナリ居レハ信頼シテ可ナリ又済南及膠濟鉄道ノ交通確保ニ付テモ相当考ヘ居ルニ付御諒解ヲ願ヒタシ但シ支那側ニ於テハ撤兵ヲ最モ重要視シ居ル次第ナレハ

432 昭和3年10月22日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
王外交部長との済南事件解決交渉における対  
立点についての矢田在上海総領事報告

南京 10月22日前発  
本省 10月22日後着

第七七六号

矢田総領事ヨリ

十九日午後王トノ会见ニ於テ条約問題ニ引続キ済南事件ヲ議題ニ供シタルカ交渉地点問題ハ暫ク之ヲ措キ我方要求条件ノ主要点ナル謝罪、処罰、賠償及将来ノ保障ノ四項ニ付彼我意見ノ一致点ヲ見出ス為先ツ「フリー・トーク」ニ依リ隔意ナキ意見ノ交換ヲ試ミル事トシ

(イ) 将来ノ保障問題ニ付先ツ本官ヨリ口ヲ切り在支公使宛貴電第三三八号ノ趣旨ニ依リ日本ハ永久駐兵ノ意志無キ事ハ累次ノ声明ニ依リ明カナルカ第六師団ノ撤兵モ既ニ完了シ第三師団ノ整理減兵モ先日発令セラレタルカ全部ノ撤兵ハ同地方在留日本人ノ生命財産ノ安全充分保障サルルニ非スハ実行シ得サルニヨリ茲ニ将来ノ保障問題ニ

(ロ) 撤兵問題ニ付御協議致シタシトテ王ハ撤兵ヲ三区ニ分チ

各区一週間に撤兵ヲ完了シ連続是ヲ実行シ三週間内ニ全部ノ撤兵ヲ完了スルノ案ヲ提議シタリ依テ本官ハ左様ナ専門的事項ハ自分ニモ分ラサルニ付何トモ返答致シ兼ヌルカ撤兵ニ付テハ撤兵後ニ於ケル急激ナル事態ノ変化ヲ防ク為撤兵後ノ秩序維持等細目ノ点ニ付テモ予メ協定シ置ク必要アリ旁是等実行方法ハ現地ニ於テ軍部側ヲモ加ヘ協定スル方便宜ナリト答ヘタル処王ハ自分ハ日独戦後ニ於ケル山東撤兵ノ衝ニ当リ好ク存シ居ルカ当時ハ各区十日宛ニテ撤兵シ極メテ秩序好ク行ハレタリ從テ各区ノ撤兵期間ハ必スシモ七日ヲ主張スル次第ニ非ス要ハ階段ヲ分チ連続的ニ撤兵スル点ニアリ第一区ノ撤兵完了スルヤ直ニ支那兵ヲ第一区ニ入レ第二区、第三区ヲ予テノ方法ヲ執リ例ヘハ三週間ニテ日本軍ノ全部撤退ヲ完了スルヤ支那兵モ亦三週間ニシテ全部日軍撤退ノ後ニ入込ミ依テ日本軍ノ撤退ト支那軍ノ配置トノ間ニ空隙ヲ生セサル様ニシテ地方ノ治安維持ニ付遺漏無キヲ期セムトスルノ仕組ナリト説明セルニ依リ本官ハ態ト細目ノ点ニハ触レス単ニ日独戦後ノ山東撤兵ト今次ノ撤兵トハ事情

ヲ異ニシ居リ今回ハ日支兵ノ感情悪化シ居ル折柄ナレハ細心ノ用意ヲ以テ協定スルヲ要シ此ノ点ヨリ言フモ現地當局者ニ譲ルコトトスルヲ可トスヘシト述ヘ次ニ

(イ)謝罪問題ニ入ル、本官ハ先ツ濟南ニ於ケル邦人ニ対スル無慘ナル虐殺暴行掠奪ハ聞クタニモ恐ロシキ程ニテ我國民ヲ極度ニ憤激セシメ更ニ國際連盟ニモ報告セラレ世界ノ耳目ヲ衝動シタル処ナルニ依リ國民政府ハ南京事件等ト同様誠意ヲ披瀝シテ陳謝スヘキモノナリト述ヘタル処王ハ陳謝ハ此方ヨリ要求スヘキ処ナリ日本ハ國民政府累次ノ警告ニモ拘ラス國際公法ヲ無視シテ恣ニ他國ノ領土ニ出兵シタルモノナレハ國民政府ハ先ツ此ノ点ニ付日本ノ陳謝ヲ要求スヘク日本ノ出兵無カリセハ慘劇モ無カリシ次第ニ付本件ノ責任寧ロ日本ニ在リ

南京事件トハ全然性質ヲ異ニス実ハ日本人ノ慘殺モ日支兵衝突後ノ事ニシテ果シテ誰ノ仕業カ判明セサルカ若シ中国人トセハ兩國兵火ヲ交ヘタル為激昂々奮セル結果人間ノ野蛮性ヲ発露シタルモノナリ而モ日本軍ハ無防禦ノ濟南城ノ攻撃ヲ為シタルノミナラス病院内ノ無抵抗ナル中国兵ヲ刺シ殺シタルト述ヘ本官カ右ハ我兵ヲ狙撃スル

(ニ)処罰問題ニ依リ王ハ國民政府ニ於テハ賀耀組カ蔣總司令ノ命ニ從ハサリシ故其ノ職ヲ免シ処罰セリ然ルニ日本軍ハ無抵抗ノ市民ヲ殺傷シ剩ヘ執務中ノ官吏ヲ慘殺シタルカ如キ事実アルニ拘ラス其ノ責任者タル福田司令官ハ日本ニ歸リ凱旋將軍ノ如ク陛下ニ謁セリ甚タ奇ナラスヤ此点謝罪ト同様我ニ処罰ヲ要求スルナラ我モ亦日本ニ対シ其ノ責任者ヲ処罰セヨト要求スヘシト執拗ニ主張シテ下ラス

(ホ)賠償ニ付テハ王ハ素直ニ罪ナキ日本人カ殺傷セラレ或ハ財産上ノ損害ヲ受ケタルニ対シテハ慰藉料若クハ損害賠償ヲ支払フコト当然ナリト述ヘツツ但シ支那側ノ生命財産ニ対スル損害ニ対シテモ同様ノ要求ヲスルコト勿論ナリト主張シタルニ依リ本官ハ本件責任論ト同シク抑モ支那兵カ邦人ニ危害ヲ加ヘタルニ依リ自衛ノ為我兵ヨリモ攻撃シタルモノニシテ其ノ責支那ニアルハ明カナルカ故ニ我方ヨリ賠償ヲ要求スルモ我ヨリ支払フノ謂レナシト駁シ之亦押問答スルモ王ハ頑強ニ前項同様相互對等ニ履行スヘキコトヲ主張シ讓ラス時既ニ午後八時ヲ過キタルヲ以テ其儘晚餐ヲ撰リツツ議スルコトトシタルカ斯ク議

者アリタル為ノ自衛手段ナリト言ヲ挾ミタルニ王ハ泰安、濟南間ニハ鐵道沿線二十支里以外ノ地ニ於テ殺戮セラレタル死体多ク何レモ身ニ寸鉄モ帯ヒス斯ノ如キハ自衛ノ範圍ヲ超ヘタル殺戮ナリ而モ其ノ數々千ニ上リ日本人ノ損害トハ比較スヘクモ非ス從テ中国人ハ極度ニ昂奮シ対日感情未曾有ニ惡化セルコト御承知ノ通りニテ支那側ヨリ日本ニ謝罪ヲ要求スル方却テ至当ナリト口角泡ヲ飛ハシテ論シタルニ依リ本官ハ山東出兵ハ周知ノ如ク漢口事件南京事件ト南軍進出ノ度毎ニ虐殺掠奪ヲ繰返シ南軍ニハ到底信賴シ得サルカ故ニ邦人保護ノ為已ムヲ得ス実行シタルモノニシテ世界ノ輿論モ日本ノ出兵ヲ當然ト認メ居レリ國際公法ト云フモ無抵抗ノ避難民ヲ虐殺掠奪スル軍隊モ國際公法ニ無キ筈ナリ又日本ノ出兵無カリセハ慘劇無シトノ仮定モ原因結果ノ顛倒ニシテ出兵ナカリセハ二千ノ在留民ハ全滅ノ慘害ニ逢ヒシナルヘク國民政府ハ何故男ヲシク惨行ノ事実ヲ認メ其ノ非ヲ非トセサルヤト駁シ種々押問答ヲ重ネタルカ王モ頑強ニ若シ日本カ陳謝セヨト主張スルナラ日本ニモ謝罪ヲ要求スヘシト主張シ埒明カス

論シテハ際涯ナシト考ヘタルニ依リ本官ハ話頭ヲ轉シ我方要求ノ四條項及撤兵問題ニ付テハ大体隔意ナキ意見ノ交換ヲ為シ王部長ノ意向モ大体判明シタルカ撤兵、鐵道ノ交通確保、損害ノ調査ノ如キハ現地ニ於テ専門家ヲ交ヘ商議スル方便宜ナルニ依リ本官ト王部長トノ間ニ於テ単ニ大綱ヲ協定シ細目ハ現地ニ於テ協定スルコトトシ以テ本件ヲ速ニ解決スルコトトシテハ如何ト述ヘタル処王ハ即座ニ之ニ賛成シタルカ唯撤兵ノ具体的方法ハ当地ニテ協定シタルト述ヘタルニ依リ本官ハ軍事ヲ知ラスト應酬セル処王ハ武官ヲ北方又ハ日本ヨリ呼寄スルコトモ左程困難ニ非ス尚目下滯寧中ノ佐々木中佐ハ能ク山東方面ノ事情ヲ知悉シ居レリトテ撤兵ノ細目ヲ当地ニ於テ協定スヘキ旨主張シタルカ本官ハ軍ノ行動ニ関スル事項ハ日本ニテハサウ簡軍ニハ參ラスト一蹴シ兎モ角無用ノ議論ヲ避ケ解決ヲ容易ナラシムル為大綱丈ヲ王部長トノ間ニ於テ協定ストノ原則ニ依リ本官ニ於テ本件解決私案ヲ作成シ明日持參スヘキ旨述ヘタル処王モ同意シタルニ依リ本日ハ之ニテ討議ヲ打切り二十二日午後三時再會ノコトトシ夫レヨリ王夫人ヲモ交ヘ一同々夫人ノ手料理ニナル

晚餐ヲ共ニシ十時過辭去セリ

433 昭和3年10月22日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件解決交渉において王外交部長が日本  
軍撤兵の開始、完了の時期など明示を要求に  
ついで矢田在上海総領事報告

南京 10月22日前発  
本省 10月23日前着

\*第五七七号

往電第五七六号ニ関シ

矢田総領事ヨリ

十九日夜王ニ約シ置キタル濟南事件解決私案ハ二十日正午  
周外交部第二司長ニ手交シ置キ二十日午後三時約ノ如ク王  
ト会见ス本官ハ王ニ対シ先週ニ手交シ置キタル私案ハ貴下  
ト討議ノ便宜上全然本官限りノ考ニテ作成シタルモノナル  
ニ依リ何等日本政府ヲ拘束スルモノニアラサルコトヲ御承  
知アリタシト述ヘタル処王ハ点頭中同案第三項ヨリ討議シ  
タシト切出シタリ第三項左ノ如シ

カ結局無用トナリタルコトモアルニ付撤兵ノ時期ハ是非早  
目ニ知り置キ度撤兵完了迄ノ期日及段階的ニ撤兵ストノ原  
則モ支那側ニテ準備ノ為是非必要ナリト説明シタルニ依リ  
本官ハ右三項ヲ加フレハ本項ニ同意スルヤト念ヲ押シタル  
処王ハ同意スト明言シタルニ依リ本官ハ撤兵ノ時期及方法  
ハ現地ニテ協定スル方可ナリト思考スルモ夫レ丈ケノ点ヲ  
予メ知り置キ度シトノコトナレハ兎モ角請訓スルコトトス  
ヘシト述ヘ第四項濟南及膠濟鐵道確保ノ為兩國委員ヲシテ  
具体的協定ヲ行ハシムル件ニ移リタル処王ハ日本提案ノ意  
思ハ自分ハ能ク分リ居ルモ濟南事件ト本項トハ何等ノ関係  
無シ若シ日本在留民保護上濟南及膠濟鐵道交通確保ノ協定  
必要アリトノコトナラハ南京在留日本人ノ保護ノ為ニハ滬  
寧鐵道ニ付テモ同様協定ヲ必要トスルコトトナルヘシト述  
ヘタルニ依リ本官ハ夫レハ甚シキ曲弁ナリ鐵道交通ノ確保  
サルルコトナクハ鐵道沿線在住日本人ハ万一ノ場合引揚  
クルコトモ出来ス再ヒ濟南事件ヲ繰返スコトアルヘク此ノ  
苦キ經驗ニ基キ此ノ要求ヲ持チ出シタルモノニシテ我方ノ  
欲スル処ハ鐵道ノ領有ト謂フカ如キ大袈裟ノモノニ非ス極  
メテ技術的ナル事項ナルカ之モ其ノ方面ノ「エキスパ

日本政府ハ山東地方ヨリ撤兵スルノ意向アルニヨリ日支兩  
國ハ速ニ全權委員ヲ任命シ濟南ニ於テ右撤兵ノ時期及方法  
ニ関スル具体的協定ヲ行ハシムルト共ニ國民政府ハ日本軍  
撤退後ニ於ケル在留日本臣民ノ生命及財産ノ安全確保ニ付  
全責任ヲ負ヒ排日宣伝其ノ他苟モ右安全確保ヲ脅威スルカ  
如キ排外行為ヲ嚴重取締ルヘキコトヲ宣明ス

右ニ対シ王ハ末尾ノ「宣明ス」ナル字句ニ付反問シタルニ  
付「約束ス」ト言フヘキ場合ヲ幾分強ク言ヒタルニ過キス  
ト答ヘタル処王ハ然ラハ本項下半部排日取締ニ付テハ昨日  
御話ノ次第モアリ本日蔣政府主席ノ諒解ヲ得置キタルニ依  
リ國民政府ニ於テ責任ヲ負ヒ省政府ヲ嚴重監督スヘク從テ  
此ノ部分ニハ異議ナキカ撤兵ニ付テハ時期方法ヲ確立シ置  
キタシト述ヘタルニ依リ本官ハ細目ハ現地ニ於テ協定スル  
ヲ可トスル旨繰返シタルニ王ハ然ラハ(イ)撤兵開始ノ期日(ロ)  
撤兵開始ヨリ完了ニ至ル期間(ハ)撤兵ハ区ヲ分チ段階的ニ実  
行スヘキ旨ノ三点ハ是非明記スルコトトシタシトテ夫レハ日  
本軍撤兵セハ其ノ後ニハ直ニ支那軍ヲ入レサルヘカラス夫  
レカ為ニハ軍隊ヲ山東付近ニ集中用意スル必要アリ嚮ニハ  
日本軍撤兵ヲ予期シ馮軍ノ一部ヲ山東方面ニ止メ置キタル

ト」ヲ交ヘ現地ニ於テ細目ヲ協定セントスル次第ニテ決シ  
テ心配スル程ノコトニ非スト反駁セルニ王ハ若シ鐵道ノ運  
輸状態ニ付苦情アラハ國民政府ニ對シ何時ニテモ苦情ヲ申  
述ヘラレ度

國民政府ハ常ニ交通確保ノ為最善ノ努力ヲ為シ居ルニ付何  
時ニテモ御相談ニ応スヘシ恐ラクハ濟南鐵道保全ノ最良ノ  
方法ハ日本軍ノ鐵道占領ナルヘシト擲論シタルニ付本官ハ  
國民政府ニ苦情ヲ云フ位ニテハ万一ノ變ニ間ニ合ハス殊ニ  
膠濟鐵道引渡ノ条件モ支那側ニ於テ満足ニ履行サレ居ラサ  
ルニ依リ此ノ際何等カ具体的ノ方法ニ依リ交通確保ノ途ヲ  
講セントスル次第ニシテ濟南事件ニ付テハ日本ノ輿論モ強  
硬ニシテ殊ニ政府ハ將來ノ保障ニ重キヲ置キ何等カ此ノ点  
ニ付國民ニ示シ得ヘキ具体的事実無キニ於テハ撤兵モ為シ  
兼ナル次第ナルニ依リ本項承認セラレサル限り撤兵シ得サ  
ルヘシト極言シタルモ王ハ鐵道ト濟南事件トハ無関係ナリ  
此ノ一項アル時ハ何等カ日本政府ニ陰險ナル野心アル様疑  
ハルヘシト繰返シテ埒明カス兎モ角本件ハ其ノ儘トシ第一  
項謝罪及賠償、第二項中日賠償査定委員會組織ノ項ニ移リ  
タルカ第一項ニ付テハ王ハ往電第五七六号所報ノ主張ヲ繰

返シ相互主義一点張りニテ之亦議論果テス第二項ト第一項ヲ相互主義トスルニ於テハ勿論同意ナリトテ夜八時ニ入ルモ議纏ラス前回同様晚餐ヲ共ニシ午後十時辞去セルカ次回会见ハ二十二日午前十時トシ引続キ済南事件ヲ議スルコトニ取極メ置キタリ就テハ愈本協定成立セル場合ニ於ケル右撤兵開始ノ大凡ノ期日、完了ノ期間及段階のニ撤兵スルコトノ三点ニ付至急御詮議ノ上御回電アリタシ

434 昭和3年10月23日 田中外務大臣より  
在南京岡本領事宛（電報）

南京における済南事件解決交渉暫く見合せ方  
矢田総領事へ訓令

本省 10月23日後6時30分発

第一〇〇号

矢田総領事へ

済南事件ニ関スル貴官ノ電報ハ未タ全部揃ハサル為確定的意見ヲ述ヘ難キモ貴地ニ於テ斯ク迄立入りタル論議ヲ交ヘラルルコトハ当方ニ於テ予期シ居ラサリシ所ナルニ付何分ノ義申進スル迄ハ本件ニ関シ此上ノ論議ハ暫く見合シ置カ

タスシテ直ニ撤兵ヲ実行セラルル事ニモ立至ランカ之全ク九俣ノ功ヲ一簣ニ虧キ済南事件モ或ハ永遠ニ解決ノ機会ヲ逸スルニ至ルヘキヲ惧ル卑見ヲ以テスレハ我駐兵ハ山東ノ財源ヲ一日モ速ニ手ニ入レ一服セント目論メル馮玉祥一派ハ勿論延テ国民政府ノ最苦痛ニ感スル処ナルカ故ニ我方ニ於テハ其ノ弱点ヲ逆用シ何処迄モ支那側ヲ押ヘ付ケ彼ヲシテ遂ニ兜ヲ脱カシムル様仕向クルヲ要ス現ニ山東ノ財的動脈タル青島ヲ扼セラレ済南ニ至ル鉄道沿線ニ一指タニ触レ得サル省政府カ如何ニ財政難ニ陥リ居ルヤハ既ニ周知ノ事実ニシテ其ノ原因カ我駐兵ニ依リ住民ヲシテ誅求ヲ免カレシメ省政府ノ自由ニ任セラレサルニ想到セハ支那側カ撤兵問題ヲ先決条件トスル底意ヲモ容易ニ感知シ得ヘシ之ヲ要スルニ撤兵ハ須ラク出兵当時我政府ヨリ発セラレタル累次ノ声明ヲ飽迄モ支持シ済南事件解決後邦人保護ニ対スル支那側ノ誠意ヲ充分見届ケタル上初メテ実行スル事トシ夫レ迄ニ案件ノ解決ヲ期スヘク換言セハ駐兵ヲ以テ済南事件解決ノ鎖鑰タラシメサルヘカラスト存ス右ニ関シテハ政府ニ於テモ御如才モ無キ事トハ存スルモ本官思付ノ儘何等御参考迄卑見開陳ス

レ度シ

435 昭和3年10月23日 在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南事件解決交渉において撤兵問題は慎重に  
すべき旨意見具申

青島 発  
本省 10月23日後着

第五七四号

済南事件ニ関スル矢田総領事ト王正廷トノ折衝ニ付テハ南京來電ニ依リ其ノ経過承知シ居ル処本官ノ直観ニ依レハ支那側ニ於テハ何ヨリモ撤兵ヲ先決問題ト為シ居ルカ如ク之ニ対スル我方ノ言質ヲ取付クルニ腐心シ居ルヤニ窺ハル右ハ申ス迄モナク将来ニ於ケル我在留民保護ト膠済鉄道交通確保トニ対スル支那側ノ誠意如何ニ関連重大問題ナルヲ以テ政府ニ於テ軽々シク支那側ノ提議ニ同意ヲ与ヘラルル事万無カルヘキヲ確信スト雖彼我交渉上ノ懸引ニ因レハ事件ノ速決ヲ計ラントスル焦慮ノ結果方一ニモ支那側ノ保障ニ対シ単ニ一札ヲ入レシムルノミニテ済南事件ノ解決ヲモ待

436 昭和3年10月23日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南事件解決条件に關し王外交部長が陳謝・  
賠償の相互主義を主張についての矢田在上海  
総領事報告

南京 10月23日前発  
本省 10月23日後着

第五八一号

往電第五七七号ニ関シ  
（四三三文書）

矢田総領事ヨリ

済南事件解決案ニ就テハ二十二日午前、午後ニ亘リ王ト商議ヲ重ネタルカ  
膠済鉄道交通確保ノ原則ヲ認メ之カ細目商議ヲ済南ニテ行フ件ニ就テハ王ハ前回同様全然別問題ナリトノ主張ヲ繰返シ本件ハ今次貴下ノ提出セル要求中最モ道理ニ適ハサルモノナリ此協定発表サレンカ世界ハ日本ノ意圖ニ対シ疑惑ヲ起シ支那民衆モ日本政府山東出兵ノ真意果シテ此処ニ在リタリト依然抱キシ疑念ハ確信トナルニ至ルヘシト力説セル

ニ依リ本官ハ我ニ於テ膠濟鐵道ヲ占領セントスルカ如キ意  
 図無ク單ニ鐵道ヲ良好ノ状態ニ保全シ車輛ノ散逸ヲ防キ及  
 鐵道ノ收入ヲ軍費等ニ使用シ鐵道自体ノ改善ヲ疎ニスルカ  
 如キコトヲ予防スル為ニ必要ナル事項ヲ協定シ置カントスル  
 モノナルニ依リ單ニ鐵道交通確保ト謂ヒテハ一般ノ誤解ヲ  
 招ク惧レアリトノコトナラハ右列挙ノ目的ヲ明記スルモ可  
 ナリト述ヘタルニ王ハ夫レ丈ケノ事ナラハ何モ今更濟南事  
 件ニ引懸ケテ協定スルニモ及ハサルヘシ張宗昌ナラハイサ  
 知ラス國民政府ハ素ヨリ交通ヲ確保シ鐵道借款ノ利子ヲ支  
 払フヘシ其ノ証拠ニハ國民政府治下ノ他ノ鐵道ヲ見ラレタ  
 シト応シタルモ本官ハ國民政府ヲ絕對ニ信用シ得レハ斯様  
 ナ問題ヲ提起セスト頑強ニ主張シタル処王ハ暫ク沈思ヲシ  
 タル後實ハ今度鐵道部獨立シ膠濟鐵道ニ對スル日本ノ態度  
 ニ付テハ鐵道部モ注目シ居リ其ノ方面ヨリ強硬ナル反對ア  
 ルニ依リ此ノ際ハ本件ニ觸レス日本側ニテ不満アラハ其ノ  
 際問題ヲ提起シテ實際的ニ解決スル方賢明ナル遣方ナリト  
 テ孫科一派ヲ憚リ到底本件協議ヲ庄シ付クル見込ナキ様見  
 受ケラレタルニ依リ單ニ交通確保ノ約ヲ為シ得ルヤト質問  
 シタルニ王ハ保障ハ責任ヲ以テ致スヘキモ文書ニ認メテ差

ヤ斯ル不合理ナル主張カ世界ノ公正ナル輿論ノ批判ニ堪ヘ  
 得ルト思フヤト逆襲シタルニ依リ本官ハ其ノ問題ハ既ニ一  
 昨日以來論シ尽セリ一言ニシテ云ヘハ日本政府ハ國家自衛  
 權ノ發動ナリト認ムルモノナリ然シ最早議論ヲ止メ何トカ  
 本件ヲ纏ムル工夫ヲナスヘシト説示シタルモ王ハ午後二至  
 ル迄本問題ヲ五月蠅ク持出シタルニ付本官モ用兵ノ事ハ陛  
 下ノ大權ニ屬スルヲ以テ出兵ニ付日本ニ陳謝セヨト云フハ  
 陛下ニ謝罪セヨト云フコトト同様ニ解セラレ此ノ事ノミニ  
 テ日本ノ國論沸騰シ濟南事件ノ解決ハ全然絶望トナル事明  
 ナルニ付若シ本件解決ヲ欲セハ決シテ本件ニハ觸レサル事  
 得策ナルヘシト抑ヘ置キタルモ尚王ハ機會アル毎ニ依然本  
 問題ヲ口ニスル事ヲ忘レス更ニ五月三日事件ニ對スル陳謝  
 及賠償ニ付テハ絶對ニ相互主義ヲ固持シ前回同シ議論ヲ  
 蒸シ返シテ果テシナキニ依リ本官ハ議論ヲ避ケ種々妥協案  
 ヲ作成シテ示スモ頑トシテ譲ラス  
 最後ニ範ヲ南京事件ニ関スル英、米軍艦ノ砲撃事件協定ニ  
 執リタル妥協案ヲ作成シ是ハ本官ノ最後ノ通牒ナリ「イエ  
 ス」「ノー」ノ返答ヲ要求スト述ヘテ王ニ手交シタル処王  
 モ流石ニ緊張シ熟考シ居リタルカ聽テ對案ヲ作成シ頑トシ

出ス事ハ國民政府ノ不信用ヲ証明スル事トナレハ同意シ得  
 スト執拗ニ反對シタルニ付本官ハ若シ之ニテモ聽カレヌム  
 ハ我方ハ撤兵後ノ保障ニ付國民ヲ納得セシムヘキ何物モ無  
 キヲ以テ我方撤兵シ得サルヘク濟南事件解決ノ望モ無キニ  
 依リ早々引揚クル外ナシト強硬ナル態度ヲ示シタル処王モ  
 決々乍ラ右ノ趣何等カノ形式ニテ文書ニ認ムルコトトスヘ  
 シト折レタリ

謝罪、処罰、賠償問題、午前ノ會議ニ於テ王ノ本件ニ関ス  
 ル支那側對案ヲ提出シタルカ其ノ要点ハ  
 (イ)山東出兵ニ對シ日本ヨリ謝罪スルコト  
 (ロ)五月三日ノ事件ハ日支委員ヲ組織シ實地調査ノ上責任ア  
 リト決シタル側ニ於テ謝罪スルコト  
 (ハ)賠償ハ相互ニ支払フコト  
 (ニ)賠償額ハ中日委員實地調査シテ査定スルコト  
 ノ四項ナリシヲ以テ本官ハ一読ノ上斯様ナ對案ヲ出スモ我  
 方ニテ承諾シ得サル事ハ貴下モ御承知ノ通ナルニ依リ今少  
 シ考慮シ得ル案ヲ提出サレ度シト拒絶シタル処王モ躍起ト  
 ナリ他國ノ領土ヘ其ノ國ノ再三ノ抗議ヲ無視シテ出兵セル  
 事自体ニ付日本政府ハ當然ノ權利ナリト認メ居ル次第ナリ

テ陳謝及賠償ニ関スル絶對相互主義ヲ棄テス此ノ調子ニテ  
 何日押問答スルモ何十回對案ヲ作成スルモ到底妥協案ヲ得  
 ル望無キコト明トナリタルニ依リ此ノ際無理ニ纏ムルモ面  
 白カラス去リトテ全然決裂トスルモ折角好転セントスル日  
 支關係ノ現状ニ鑑ミ面白カラスト思考シ既ニ決定シタル撤  
 兵及排日取締並膠濟鐵道交通確保ニ関スル國民政府ノ保障  
 ノ件丈ケハ纏メ置キ濟南事件夫レ自体ノ解決ハ濟南ニ於テ  
 行フコトニ取極メ置ケハ日本カ撤兵スルノ意向モ支那民衆  
 ニ徹底シ兎モ角濟南事件ニ付テモ一応ノ片ヲ付ケタルコト  
 トナリ本件決裂ノ方カ日支關係ニ及ホス影響ニ比シ遙ニ有  
 利ナリト思考シタルニ依リ右本官ノ意向ヲ披瀝シ王ノ意見  
 ヲ質シタル処王ハ賛成シ乍ラ尚出兵ノ責任ヲ云々シ居ルニ  
 依リ本官モ決然トシテ今尚出兵ノ責任ヲ云々スルナラ最早  
 席ヲ蹴ツテ去ルノ外無シト切言シタルニ依リ王モ漸ク断念  
 シ本官ノ提出通牒ムルコトニ同意シタリ時既ニ午後七時ニ  
 近ク王ハ七時ヨリ同所ニ於テ來寧セル日本ノ代議士一行ヲ  
 招待スルコトトナリ居ル為取極案文ハ明日午前十時ヨリ審  
 議スルコトトシ解散セリ

昭和3年10月23日 在南京岡本領事より  
田中外交務大臣宛（電報）

濟南事件に関する交換公文案審議についての

矢田在上海総領事報告

別電一 十月二十三日付在南京岡本領事より田中外

務大臣宛第五八四号

撤兵に関する日本政府照会案

二 十月二十三日付在南京岡本領事より田中外

務大臣宛第五八五号

撤兵に関する国民政府回答案

三 十月二十三日付在南京岡本領事より田中外

務大臣宛第五八六号

邦人の保護、排日取締に関する国民政府来

翰案

四 十月二十四日付在南京岡本領事より田中外

務大臣宛第五八七号

濟南事件解決のための調査に関する日本政

府照会案

五 十月二十四日付在南京岡本領事より田中外

依り具体的措置ヲ協定スル以上本公文ニ於テハ単ニ撤兵ノ声明ノミヲ記載スレハ足ルヘク殊ニ在留日本人ノ保護排日取締及鉄道交通確保ノ如キヲ撤兵ノ条件トシテ明記スル事ハ国民政府ノ面目上面白カラス且如何ニモ今日迄国民政府力其ノ責任ヲ尽ササリシカ如キ感触ヲ与フルニ依リ承認シ難シトテ条件ノ削除方ヲ主張シタルモ本官ハ頑強ニ提案ヲ固執シ結局双方妥協ノ上別電第五八四号ノ通文句ヲ緩和シ且排日宣伝取締ノ如キ用語ヲ避ケ之ヲ在留民ノ保護中ニ包含セシメ排日取締ニ就テハ別ニ協定スル事ニ折合セタリ

王部長復翰ニ付テハ本官ハ往翰ノ趣旨ヲ全然「コンファーム」スルコトヲ主張シタルモ王ハ邦人ノ保護、排日取締及鉄道ノ交通確保ニ付テハ別ニ具体的約束ヲ為スヘキニ付枉ケテ支那案ヲ採用サレ度キ旨執拗ニ懇願シタルニ依リ別電第五八五号ノ通決定セリ

二、邦人ノ保護、排日取締及膠濟鉄道交通確保ニ関スル公文

本官ハ邦人ノ保護及排日取締ニ付テハ具体的方法ヲ協定シ中央政府ヨリ山東政府ニ又中央党部ヨリハ省党部ニ訓

務大臣宛第五八八号

濟南事件解決のための調査に関する国民政

府回答案

付記 十月二十五日付在南京岡本領事より田中外務

大臣宛第五九八号

撤兵に関する国民政府回答案の訂正について

南京 10月23日後発

本省 10月24日前着

\*第五八三号

矢田総領事ヨリ

二十三日午前午後ヲ通シ濟南事件ニ関スル公文ノ文案ニ付討議ス

一、撤兵ニ関スル往復文書

本官ハ撤兵ニ関スル王部長宛往翰ニ於テ撤兵ハ国民政府カ山東地方在留邦人ノ生命財産ノ保護ヲ確保スル事並ニ排日宣伝其ノ他ノ排外行動ヲ取締ル為及膠濟鉄道ノ交通確保ノ為我方ヲ満足セシムルニ足ル措置ヲ執ル事ヲ条件トシテ居ル旨明記シ別ノ公文ニ依リ右三点ニ関スル具体的措置ヲ協定シ置カン事ヲ主張シタルモ王ハ別ノ公文ニ

令シ右訓令写ヲ公文ヲ以テ送付アリ度ク又膠濟鉄道交通確保ノ具体的方法ヲ協定センコトヲ主張シタルカ王ハ邦人ノ保護及膠濟鉄道確保ニ付テハ中央政府ヨリ命令ヲ発スヘク該命令ハ政府公報ニ録載セシメ右公報ヲ送付スヘキ旨主張シテ讓ラス本官モ敢テ形式ニ拘泥セス実効ヲ得ル方可ナリト思考シタルニ依リ命令ノ要点ハ別ニ交換スヘキ會議録中ニ明記スル諒解ノ下ニ右形式ニ同意セリ前記公報送付ノ形式別電第五八六号ノ通

排日宣伝取締ニ付テハ王ハ右ハ主トシテ党部ノ仕事ニシテ政府ハ党部ニ対シ命令シ得サル筋合ナルニ依リ勸告スルコトトシタルト主張シタルニ依リ本官ハ排日取締ニ付政府ハ責任ヲ負ハサルヤト反問シタルニ王ハ勿論責任ヲ負担スト答ヘタルヲ以テ然ラハ中央政府ヨリ省政府ニ命令シ又政府ハ中央党部ヲ動かシ中央党部ヨリ省党部ニ命令セシメ右各命令ノ写ヲ送付アリ度キ旨要求シタル処王ハ省政府及省党部ニ命令セシムルコトニハ同意シタルカ右命令ハ密令ナレハ写送付ノ点ハ即答シ難シトテ確答ヲ留保シタルカ執レニスルモ此ノ点ハ全權會議録中ニ明記スルコトトセリ

五 第二次山東出兵（済南事件と解決交渉）

三、済南事件自体ノ解決方法ニ関スル往復文書

済南事件自体ハ往電第五八一号ノ通りノ趣旨ニテ只交渉地点ヲ済南ト明記セス現地トシ別電第五八七号及第五八八号ノ通取極メタリ然ルニ王ハ撤兵セサル以上日本軍ノ占領地域ニ於テ实地調査ヲナスコト支那側ニ取リテハ不可能ナレハ内交渉ヲ山東以外ノ地ニ於テ行フハ差支ナキモ撤兵以前ニ現地ニ於テ正式交渉ヲ開始シ得スト主張シタルニ端ヲ発シ此ノ際寧ロ一層互譲ノ精神ニ依リ今一応済南事件自体ノ解決案ヲ研究スルコトニ意見一致シ午後六時半散会双方妥協案ヲ作製ノ上明朝更ニ会见審議スルコトトナレリ

（別電一）

南京 10月23日発  
本省 10月24日着

\*第五八四号

矢田総領事ヨリ

日本政府ノ照会案（訳文）

日本政府ハ現ニ山東ニ在ル日本軍隊全数撤退帰国セシムル

ノ用意アルヲ以テ国民政府ハ之カ引継ニ関シ手配セラレム

コトヲ望ム右撤退ハ：月：日ヨリ：月：日迄：期ニ分チ逐次之ヲ行フ即チ：月：日ニ於テ其ノ全数ノ撤退ヲ完了セシム日本軍ノ撤退及中国軍隊引継ニ関スル一切ノ細則ハ中日委員及双方ノ軍事長官ニ於テ現地ニ於テ接洽弁理セシム抑々日本軍ノ山東撤退ハ国民政府委員ニ於テ責任ヲ以テ在支日本在留民ノ生命財産ノ安全ヲ保障シ及山東地方在留日本人ノ保護ヲ一層確實ナラシムル為膠濟鉄道ノ交通確保ニ付充分ナル措置ヲ講スルモノト諒解シ居ルカ為ナルニ付右ニ関スル貴見御回答相成度シ

（別電二）

南京 10月23日発  
本省 10月24日着

\*第五八五号

矢田総領事ヨリ

国民政府ノ回答案（訳文）

：月：日付照会ヲ以テ（全文挿入）ノ旨御来示ノ趣了承日本軍撤退ノ事実及ヒ逐次撤退ノ方法ハ御来示ノ通弁理スル

ニ異議無ク「国民政府カ全責任ヲ以テ在支日本在留民ノ生命財産ノ安全ヲ保障スルハ勿論ノ義ニシテ尚膠濟鉄道ノ交通確保ニ就テハ国民政府ニ信頼アリ度キ」旨效ニ回答ス

（別電三）

南京 10月23日発  
本省 10月24日着

\*第五八六号

矢田総領事ヨリ

国民政府ノ来翰案（訳文）

在支日本在留民及膠濟鉄道ノ交通保障ニ関シテハ本部部长ヨリ曩ニ：月：日付ヲ以テ照会致シ置キタル処右命令ハ：月：日発令シ：月：日ノ政府公報ニ登載セラレタリ茲ニ該公報一部貴：：ニ送付スルニ付右ニ御承知相成度シ（外交部名、普通公文体）

（別電四）

南京 10月24日前発  
本省 10月24日着

\*第五八七号  
矢田総領事ヨリ  
日本政府ノ照会案（訳文）  
日支両国政府ハ本年五月三日済南ニ於テ発生セル事件ヲ解決セムカ為茲ニ両国政府ハ各同数ノ委員ヲ任命シ現地ニ於テ切実ナル調査ヲ行ヒ相互ニ公平ナル弁法ヲ協商シ速ニ本件ノ円満ナル解決ヲ期ス事ト致度シ右ニ対シ貴見御回答ヲ請フ

（別電五）

南京 10月24日前発  
本省 10月25日前着

\*第五八八号

矢田総領事ヨリ

国民政府ノ回答案（訳文）

：月：日付照会ヲ以テ日支両国政府ハ本年五月三日済南ニ於テ発生セル事件ヲ解決セムカ為両国政府ハ各同数ノ委員ヲ任命シ現地ニ於テ切実ナル調査ヲ行ヒ相互ニ公平ナル弁法ヲ協商シ速ニ本件ノ円満ナル解決ヲ期ス事ト致シタキヲ

以テ当方意見承知致シタキ旨御申越ノ次第アリタル処国民政府ハ右ニ賛同スルモノナル旨致ニ回答ス

(付記)

南京 10月25日後発  
本省 10月26日前着

第五九八号

矢田総領事ヨリ

往電第五八五号国民政府回答案中「国民政府カ」ヨリ「信頼アリタキ」迄ヲ左ノ通訂正ス  
在支日本在留民ノ生命財産ヲ保護スルハ当然ノ義ニシテ尚膠濟鉄道ノ交通ニ関シテハ国民政府ハ当然ノ措置ヲ講スヘク貴国政府ニ於テ信頼アリタキ旨

438 昭和3年10月23日

在南京岡本領事より  
田中外交務大臣宛(電報)

濟南事件における陳謝問題に關し日本側も讓歩の必要ある旨の矢田在上海總領事意見具申

セラル然ルニ今次漢口、南京兩事件ニ付国民政府ニ於テ我方ニ陳謝スルト共ニ我官民ノ損害ニ對シ賠償ノ責任ヲ確認シタル以上ハ漢口事件ノ案文確定セサルモ右主義ハ既ニ確認セリ我方ニ於テモ前記出兵ノ理由ヲ公文中ニ記載スルモ差支無カルヘキニ依リ此ノ文字ノ挿入ト我軍ノ砲撃ニ依リ無辜ノ支那人ヲ殺傷シタルコトハ自衛上已ムヲ得サル処ナリト雖モ被害者ニ對シテハ氣ノ毒ナリトノ意ヲ表明スレハ国民政府ニ於テモ濟南事件ニ關スル陳謝ヲ承諾スル可能性アルヤニ觀察セラルルヲ以テ此ノ際如上ノ方針ヲ以テ一氣ニ此ノ難点ヲ解決スルコト得策ナルヘキカト存セラル右ハ多大ノ讓歩ナリトシテ山東方面居留民ハ勿論一部ノ批難モ予想セラレサルニ非サル解決案ナリト雖本官ノ觀ル処ヲ以テスレハ陳謝、処罰、賠償等ノ我方ノ要求ハ今回他ノ諸懸案解決ト同時ニ此ノ勢ニ乘シテ曲リナリニモ結末ヲ付ケ置カサルニ於テハ將來貫徹ノ見込少ク又漢口、南京事件解決後ニ於テハ支那側ノ要求ヲ全部排除シ我方ノ要求ノミヲ執拗ニ固執スル理由乏シトシテ一般輿論ノ支持ヲ期待スルコト困難ナルヘシト認メラルルヲ以テ本官一身上ノ利害ヨリ言ヘハ難局ヲ避ケ之カ交渉ヲ其ノ儘山東ニ移スコト望マシ

南京 10月23日後発  
本省 10月24日後着

第五八九号

矢田総領事ヨリ

本官曩ニ帰朝ノ際松井中将ヨリ濟南事件ノ交渉ハ藤田總領事ヲ主任トシテ当ランメタシトノ意向ヲ聞キタルコトアリ同總領事並ニ西田領事任命ノコトハ去ル八月本官帰朝前王正廷ニ通シタルコトニテモアリ本官ニ於テモ素ヨリ異存ナキ次第ナルカ翻テ本件交渉ノ經過ヲ顧ミルニ累次ノ拙電ニテ御承知ノ通王正廷ハ

(一)山東出兵其ノモノニ對スル国民政府ノ抗議ニ付日本側ヨリ何等カノ意思表示ヲ為シ結末ヲ付クルコト  
(二)蔡公時始メ支那側ノ死傷損害ニ對スル日本政府ノ陳謝ナケレハ濟南居留民ノ虐殺ニ付テモ陳謝ヲ為ササルコト  
ノ二点ニ付テハ終始一貫其ノ主張ヲ枉ケス右ハ国民政府ノ濟南事件交渉ニ關スル既定ノ方針ナルヘシト觀察セラル抑々山東出兵ニ關スル我方ノ論拠ハ漢口事件、南京事件等不祥事件続出スル事態ニ鑑ミ国民軍ニ信頼シ得サリシヲ以テ自衛上已ムヲ得ス出兵ヲ断行シタリト言フ点ニ在リト存

キ次第ナルモ熟々大局ヲ鑑ミ当方面ノ一般ノ空氣並數日來ノ支那側ノ態度ニ鑑ミ此ノ際本官ニ於テ其ノ点ノ解決ヲ計ルコト國家ニ忠ナル所以ナリト信セラレタルヲ以テ前掲ノ経緯ハ承知シ居ルモ會議ノ形勢如何ニヨリテハ右方針ニヨリ解決ヲ計ルコトアルヘキニ付右陸軍側ヘモ然ル可ク御諒解ヲ着ケラルル様希望ス

439 昭和3年10月24日

田中外交務大臣より  
在南京岡本領事宛(電報)

南京における濟南事件交渉に關し交渉中止方  
矢田在上海總領事へ訓令

本省 10月24日後8時35分発

第一〇三号

矢田総領事へ左ノ通

濟南事件ハ帝國政府ニ於テ重大ナル交渉案件トシテ其交渉ノ順序方法ハ最モ慎重ヲ要スト思考シ居リタル次第ナリ今次王正廷トノ交渉ニ於テ貴官カ直ニ各条件ノ内容ニ立入り論議ヲ重ネラレ殊ニ膠濟鉄道交通確保ノ問題迄モ持出サレタルハ当初訓令ノ範圍ヲ逸脱シタルモノト認メサルヲ得ス

就テハ十九日以来ノ貴官ノ勞ハ誠ニ多トスル所ナルモ濟南事件ニ関スル今日迄ノ論議ハ単ニ貴官ノ私見ニ過キスシテ政府ノ承認ヲ得ルコト能ハサリシ旨ヲ告ケテ撤回セラレ貴官帰任ノ際ノ内訓ノ基礎ニ於テ（本件交渉ハ濟南若ハ青島ニ於テ之ヲ行フノ主義ヲ棄テス唯交渉地点ヲ濟南若ハ青島トスルニ付必要ナラハ上海ニ於テ貴官ト支那側トノ間ニ撤兵及保障ニ関スル声明案ニ付交渉スルヲ得ヘシトノ趣旨）改メテ交渉セラレ支那側ノ態度電報アリ度シ

440 昭和3年10月25日

在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

南京における濟南事件交渉は物別れに終れる  
旨の矢田在上海総領事報告

南京 10月25日後発  
本省 10月26日前着

\* 第五九四号

往電第五八三号末段ニ関シ  
（四三七文書）

矢田総領事ヨリ

二十四日午前王ト会見本官ヨリ濟南事件ノ際ノ英米軍艦ノ

右ノ如ク濟南事件ニ付テハ双方ノ立場根本的ニ一致セス此ノ際如何ニ説得スルモ先方ヲ反省セシムル事不可能ト認めラルルヲ以テ本件ハ一先ツ往電第五八七号ノ通取極メ置ク考ナリ

441 昭和3年10月25日

安満（欽一）第三師団長より  
鈴木參謀総長宛（電報）

濟南事件交渉において居留民安全保障の確認  
がない限り撤兵不可について

10月25日後9時45分発  
10月26日前8時8分着

\* 三参第八八二号

諸方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ濟南交渉ハ我カ撤兵ヲ先決問題トナシアルカ如キモ本事件解決前撤兵ヲ具体的ニ声明スルカ如キハ特ニ注意ヲ要ス蓋シ駐兵ハ彼ノ最モ苦痛トスル所ナレハ之レニ依リ交渉ヲ有利ニナラシメ得ヘク又山東ノ現況ハ我ト南方政権トノ感情依然疎隔シ友好的状態ニ導クニ尚大ナル距離アルノミナラス二十支里我声明地帯間ノ支那地方機関ハ我軍ノ存在ニヨリ逐次安定鞏固ノ域ニ進ミ

砲撃ニ関スル交換公文ノ例ニ倣ヒタル妥協案（往電（四三六文書）第五八一号参照）ヲ示シ王ノ考慮ヲ求メタル処王ハ往電第五八一号ノ場合ト同様南京事件ト濟南事件トハ支那側ノ立場根本的ニ異なる所以ヲ縷々陳述シタル後支那側ノ對案ヲ提出シタルカ右對案ニテハ支那側モ可ナリ讓歩シ最早日本ノ出兵其ノモノニ對シテハ何等言及セサルカ陳謝及ヒ賠償ノ点ニ付テハ飽迄対等ノ形式ヲ主張セルニ依リ本官ハ本官帰朝當時得タル本省及陸軍側ノ空氣ヲ説明ノ上前記本官ノ妥協案ニテモ本國政府ノ承認ヲ得ルヤ否ヤ疑ナキ能ハサル程ナレハ支那側カ飽迄陳謝ノ点ニ付絶対平等ノ形式ヲ主張スルニ於テハ解決案ヲ得ル事絶対ニ望ミ無ク或ハ折角昨日取極メタル撤兵ノ公文モ濟南事件自体ノ解決ニ付見極メ付ク迄ハ期日ヲ明記シ得サル事トナルヤモ計ラレズト述ヘタル処王モ其ノ点ヲ心配シ居ル次第ナリト答ヘ支那側ニ於テモ此ノ際何トカ本件ノ解決ヲ計ラムト焦慮シ居ル模様見ヘ幾度カ對案ヲ作り変ヘタルカ何レモ字句乃至形式ヲ改変スルノミニシテ陳謝及賠償ニ関スル絶対対等ノ根本趣旨ニ就テハ終始一貫一步モ讓ラス午後一時半迄審議ヲ続ケタルカ結局何等成案ヲ得ルニ至ラス其ノ儘物別レトナリタリ

ツツアルニ拘ラス今遽ニ撤兵時期其他ヲ具体的ニ表示スルニ於テハ再ヒ該地方機関ノ動揺ヲ来シ治安ノ維持困難ナルノミナラス我カ居留民ノ經濟生活ヲ脅威シ過去永年ニ亘リ扶殖セル山東ノ權益ノ大部ヲ放擲スルニ至ル恐アレハナリ故ニ九月九日次長發電第一四九号末文ノ通り保障ノ確認ヲ得ル迄ハ絶対ニ撤兵セサルヲ言明スルヲ可ナリト信ス御參考迄

442 昭和3年10月26日

在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

濟南事件に関する王外交部長との交渉取まとめ方法についての矢田在上海総領事請訓

付記一 濟南事件に関する矢田総領事王外交部長討議要領（第一回―第五回）  
二 濟南事件解決に関する矢田・王案と本省方針との比較

南京 10月26日前発  
本省 10月26日後着

\* 第六〇二号

貴電第一〇三三號ニ関シ

矢田総領事ヨリ

今回王正廷トノ会見ニ於テハ王モ此ノ際一氣ニ諸懸案ヲ解決セント待構ヘ居リタル際ナルニ依リ本官モ王ニ対シテニ何等具体的訓令アリタル次第ニハ非サルモ貴下トノ間ニ隔意無キ意見ノ交換ヲ行ヒ以テ兩國意見ノ一致点ヲ見出シ度旨ヲ述ヘ王モ之ニ賛成シタル次第ニシテ本官モ瀕踏ヲ為シ置クコト将来ノ交渉上好都合ナルヘシト存シ殊更所有問題ニ触レ先方ノ腹ヲ探ルコトニ努メタルモノニシテ膠濟鐵道問題ニ付テモ当初ハ往電第五八一號ノ交通確保ノ原則ヲ当地ニ於テ決定シ其ノ具体的綱目ヲ濟南ニ於テ協定センコトヲ提議シタルモ王ハ協定ニ飽迄反対シタルニ依リ往電第五八三號ノ如ク兎モ角保障ノ言質丈ケハ取付ケ置キ後ニ本件ヲ持出スノ手掛ヲ付ケ置カントシタルモノナリ然ルニ二十五日王ト最後ノ会見間際ニ貴電第一〇三三號ニ接シタルカ惟フニ鐵道交通確保等ニ付テハ未タ何等具体的取極ヲ為シタル次第ニモ非ス且本官王トノ連日ノ交渉ハ何レモ私見ナレハ御訓令ニ依リ取消スコトハ何時ニテモ出来ルコトニテモアリ此ノ際突如右御訓令ハ到底申入レヲ為スコ

右保障トシテ日本ハ（一）排日宣伝及暴行ノ取締（二）濟南及膠濟鐵道交通確保ヲ最重要視シ此ノ点ニ付安心ヲ得ルニ非サレハ撤兵スル事ヲ得ス

王外交部長 排日ハ日本カ撤兵セハ自然消滅スヘキカ國民政府トシテモ責任ヲ以テ省政府ヲ指揮監督シ之ヲ取締ルヘク山東ニハ軍規最モ嚴格ナル孫良誠軍アリ濟南及膠濟鐵道交通確保モ相当考ヘ居ルニ付諒解アリタシ

ロ、撤兵問題

王外交部長 支那側ハ撤兵ヲ最重要視シ居ルカ撤兵ハ日独戦後ノ山東撤兵ノ例ニ依リ例ヘハ三区ニ分チ各区一週間毎ニ逐次之ヲ行ヒ其ノ後ニ支那兵ヲ順次入ルルコトトシタシ

矢田総領事 撤兵後ノ秩序維持等細目ノ点ニ付テモ協定ノ要アリ現地当局者ヲシテ之ニ当ラシムルヲ可トスヘシハ、謝罪問題

矢田総領事 濟南ニ於ケル支那暴虐ニ付南京事件等ト同様國民政府ノ陳謝ヲ求ム

王外交部長 支那側ハ日本ノ出兵ニ対シ陳謝ヲ要求ス出兵ナカリシナラハ慘劇モナカリシモノナリ南京事件トハ全

トカ如何ニモ會議ノ空氣ニ副ハサリシノミナラス全体ノ交渉ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ予想シ得ラレサルモノアリタルニ付当日ハ濟南事件ニ関シ一言モ触レス從テ交通確保ノ命令内容ニ関スル議事録モ作成セス今回ノ商議ハ之レニテ打切り往電第五九六號ノ通一応帰任スルコトニ決定セリ就テハ閣下ニ於カレテモ今回本官ト王トノ交渉經過並ニ意見ノ一致セル諸点ニ付篤ト御考慮ノ上何ノ程度迄当地ニ於テ本官ト王トノ間ニ取極メ置キ然ルヘキヤ折返シ御回電アリタク本官ハ近ク再ヒ來寧ノ予定ナルニ付其際改メテ御回訓ノ次第王ニ申出ツルコトト致度キ所存ナリ

（付記一）

\* 濟南事件ニ関スル矢田総領事王正廷間

ノ討議（於南京）要領

第一回（十月十九日）

自由討議ニヨリ隔意ナキ意見交換ヲ試ミルコトトス  
イ、将来ノ保障問題

矢田総領事 日本ハ山東ニ永久駐兵ノ意思ナキモ全部ノ撤兵ハ同地方居留民ノ安全保障セララル迄実行スル能ハス

ク性質ヲ異ニス日本軍ハ自衛ノ程度ヲ超エ支那側ノ損害ハ日本側ニ比シ莫大ナリ支那側ヨリ陳謝ヲ要求スルコト至当ナリ

矢田総領事 出兵ハ南軍ニ信賴シ得サリシニ因ル出兵セザリシナラハ居留民ノ全滅ヲ見タルヤモ知レス

王外交部長 頑強ニ日本カ陳謝ヲ要求スルナラハ支那ヨリモ同様要求スヘシト主張ス

ニ、処罰問題

王外交部長 國民政府ハ賀耀組カ蔣總司令ノ命ニ從ハサリシ故免職処罰セリ日本軍ハ無抵抗ノ市民ヲ殺傷シ執務中ノ官吏ヲ慘殺シタルカ福田司令官ハ榮譽ヲ担ヘルハ奇ナリ責任者処罰ハ相互的ニ要求ス

ホ、賠償問題

王外交部長 罪ナキ日本人ノ殺傷及財産上ノ損害ニ慰藉料又ハ損害賠償ヲ支払フハ当然ナルモ支那側ノ損害ニ付テモ同様ノ要求ヲ為スヘシ

矢田総領事 支那側ノ損害ハ支那側カ之カ原因ヲ作レリ

王外交部長 頑強ニ相互ニ賠償履行ヲ主張スヘ、議事進捗方法

矢田総領事 単ニ大綱ヲ協定シ細目ハ現地ニ於テ協定スヘシ  
王外交部長 右ニ賛成但撤兵ノ具体的方法ハ当地ニテ協定シタシ  
大綱丈ヲ協定ストノ原則ニ依リ矢田総領事ニ於テ解決私案作成ノコトトス

第二回（十月二十日）

矢田総領事作成ノ済南事件解決私案ニ付討議セルカ劈頭右私案ハ討議ノ便宜上同総領事限リノ考ニテ作成セルモノニシテ何等日本政府ヲ拘束スルモノニ非ルコトヲ明ニセリ  
イ、撤兵及将来ノ保障（居留民保護並排外行為取締）問題  
矢田総領事 私案第三項「日本政府ハ山東地方ヨリ撤兵スルノ意向アルニ依リ日支両国ハ速ニ全權委員ヲ任命シ済南ニ於テ右撤兵ノ時期及方法ニ関スル具体的協定ヲ行ハシムルト共ニ国民政府ハ日本軍撤退後ニ於ケル在留日本臣民ノ生命及財産ノ安全確保ニ付全責任ヲ負ヒ排日宣伝其他苟モ右安全確保ヲ脅威スルカ如キ排外行為ヲ嚴重取締ルヘキコトヲ宣明ス」

キヲ置キ此点ニ付国民ニ示シ得ヘキ具体的事実ナキニ於テハ撤兵シ得サルヘシ  
ハ、謝罪及賠償（私案第一項）  
王部長相互主義一点張り  
ニ、中日賠償査定委員会組織（私案第二項）  
王部長ハ第一項ヲ相互主義トスルニ於テハ勿論同意ス

第三回（十月二十二日）

イ、済南及膠済鉄道交通確保ノ為兩國委員ヲシテ具体的協定ヲ行ハシムル件  
王外交部長 本件ハ済南事件トハ別問題ナル旨繰返シ日本側要求中最モ道理ニ適ハサルモノニテ日本ノ山東出兵ノ動機ニ付疑惑ヲ強カラシムヘシ国民政府ニテハ鉄道部獨立シタルカ此ノ方面ヨリモ強硬ナル反対アリ  
矢田総領事 日本側ノ意思ハ鉄道ヲ良好ナル状態ニ置カントスルニ在リ其ノ具体的目的ヲ明記スルモ可ナリ  
王外交部長 日本側ノ求ムル所カ右ノ通ナラハ済南事件ニ引掛クルニ及ハス不満足アル場合問題ヲ起シ實際的ニ解決スル方賢明ナリ

王外交部長 排日取締ニ付テハ蔣政府主席ノ諒解モ得置キタルヲ以テ国民政府ニ於テ責任ヲ以テ省政府ヲ嚴重監督スヘク此ノ部分ニハ異議ナシ撤兵ノ細目ハ現地ニ於テ協定スルモノトシテモ撤兵開始ノ期日、開始ヨリ完了ニ至ル期間及撤兵ハ区ヲ分チ段階的ニ実行スルノ三点ハ明記シ置キタク日本撤兵ノ後ニハ支那軍ヲ入レル為ノ準備モアリ是非必要ナリ  
矢田総領事 撤兵ノ時期方法ハ現地ニテ協定スルヲ可ト信スルモ前記ノ点ハ兎モ角請訓シ見ルヘシ  
ロ、済南及膠済鉄道交通確保ノ為兩國委員ヲシテ具体的協定ヲ行ハシムル件（私案第四項）

王外交部長 済南事件ト本項トハ何等ノ關係ナシ日本側ノ論法ヲ以テスレハ南京居留民保護ノ為滬寧鉄道ニ付テモ同様協定ヲ必要トスルコトナルヘシ此ノ一項ノ為日本ニ陰險ナル野心アルヲ疑ハルヘシ鉄道運輸状態ニ付苦情アラハ何時ニテモ国民政府ニ対シ之ヲ述ヘラレタク御相談ニ応スヘシ

矢田総領事 日本ノ欲スル所ハ鉄道領有ノ如キ大袈裟ノモノニ非ス極メテ技術的ノモノナリ日本ハ将来ノ保障ニ重矢田総領事 単ナル交通確保ノ約ヲ為シ得ルヤ之サヘ為シ得スト言フナラ日本側ハ撤兵後ノ保障ニ付国民ヲ納得セシメ得ル何物モナシ  
王外交部長 文書ニテ右約束ヲ為スニハ同意シ得サルコトヲ主張シタルカ結局何等カノ形式ニテ文書ニ認ムルコトヲ承諾ス  
ロ、謝罪、処罰及賠償問題

王外交部長ヨリ(イ)山東出兵ニ付日本ヨリ謝罪スルコト(ロ)五月三日ノ事件ハ日支委員ヲ組織シ实地調査ノ上責任アリト決シタル側ニ於テ謝罪スルコト(ハ)賠償ハ相互ニ支払フコト(ニ)賠償ハ中日委員实地調査シテ査定スルコト等ヲ要点トスル対案ヲ提出シ陳謝及賠償ニ付絶対的相互主義ヲ棄テス

矢田総領事 出兵ハ国家自衛権ノ発動ニテ出兵ニ付陳謝ヲ求ムルハ陛下ニ陳謝ヲ求ムルニ等シトテ嚴重反対ス  
ハ、議事進捗方法  
如上ノ儘決裂ニ終ルハ面白カラサルニ付既ニ一応決定セル撤兵排日取締及膠済鉄道交通確保ニ関スル保障ノ件丈ハ之ヲ纏メ済南事件夫レ自体ノ解決ハ済南ニ於テ行フコトニ取

極メルコトトシ次回取極案文協議ノコトトス

#### 第四回（十月二十三日）

前回ノ約ニヨリ意見一致ヲ見タル点ニ付取極案文ヲ討議ス  
イ、撤兵ニ関スル文書

a、日本側往翰

矢田総領事 撤兵ハ(イ)居留民生命財産ノ保護確保(ロ)排外行  
動取締及(ハ)膠濟鐵道交通確保ノ為日本ノ満足スル措置ヲ  
取ルコトヲ条件トセル旨明記シ別ノ公文ニテ右三点ノ具  
体的措置ヲ協定スヘシ

王外交部長 別ニ具体的措置ヲ協定スル以上本公文中ニハ  
撤兵ノ声明ノミニテ足ル殊ニ排外取締、交通確保ヲ条件  
トスルカ如キハ国民政府ノ面目上面白カラス

(欄外記入一)

別紙甲号ノ通決定

b、支那側復翰

矢田総領事往翰ノ趣旨ヲ全然「コンファーム」センコトヲ  
求ム

王外交部長 別ニ具体的約束ヲ為ス次第ナルコトヲ理由ト  
シテ右ニ反対ス

執レニスルモ右ノ点會議録中ニ明記スルコトトス

(欄外記入四)

ハ、濟南事件自体ノ解決方法ニ関スル文書

a、日本側往翰別紙丁号ノ通決定

b、支那側復翰別紙戊号ノ通決定

王外交部長 撤兵前日本占領地域内ニテ实地調査ヲ行フコ  
ト支那側ニ取り不可能故内交渉ヲ山東以外ノ地ニテ行フ  
ハ差支ナキモ現地ニ於ケル正式ノ交渉ハ開始シ得スト主  
張ス

今一応濟南事件自体ノ解決案ヲ研究スルコトニ意見一致ス

(欄外記入一) 南京來電第五八四号

(欄外記入二) 南京來電第五八五号

(欄外記入三) 南京來電第五八六号

(欄外記入四) 南京來電第五八七号 南京來電第五八八号

#### 第五回（十月二十四日）

前回ノ約ニ依リ濟南事件自体ノ解決案ヲ研究ス

矢田総領事南京事件ノ英米砲撃ニ関スル交換公文ニ倣ヒタ  
ル妥協案ヲ提出ス

王外交部長 南京事件ト濟南事件トハ支那側ノ立場根本的

(欄外記入二)

別紙乙号ノ通決定

ロ、居留民保護、排日取締及膠濟鐵道交通確保ニ関スル文  
書

矢田総領事 居留民保護、排日取締ニ付具体的方法ヲ協定  
シ中央政府ヨリ省政府ヘ又中央党部ヨリ省党部ヘ訓令シ  
訓令写ヲ公文ニテ送付アリタシ又膠濟鐵道交通確保ノ具  
体的方法モ協定ヲ要ス

王外交部長 居留民保護及鐵道確保ニ付中央政府ヨリ發令  
スヘク之ヲ政府公報ニ載セ同公報ヲ送付スヘシ

(欄外記入三)

右送付ノ形式別紙丙号ノ通決定尙右命令ノ要点ハ會議録中  
ニ明記スルコトニ了解

王外交部長 排日取締ノ点ハ主トシテ党部ノ仕事ニテ政府  
ハ之ニ命令シ得サルモ勸告スヘシ尤モ政府モ責任ヲ負担  
スルコト勿論ナリ

矢田総領事 中央政府ヨリ省政府ニ命令スルト共ニ中央党  
部ヲ動シ之ヨリ省党部ニ命令セシメ命令ノ写ヲ送付セン  
コトヲ要求ス

王外交部長 右發令ニ同意スルモ右命令ハ密令ナル故写送  
付ノ点ハ即答シ難シ

ニ異ルト述ヘ日本ノ出兵ニ付テハ何等言及セサルカ陳謝  
及賠償ノ点ニ付テハ絶対々等ノ形式ヲ固執セル対案ヲ提  
出ス

矢田総領事 前記妥協案ニテモ政府ノ承認ヲ得ラルヘキヤ  
疑アリ支那側カ飽迄右対等ノ形式ヲ主張スル結果ハ解決  
案ヲ得ル望ミ絶対ニナク既ニ取極メタル撤兵ノ公文モ濟  
南事件自体ノ解決ニ付見極メ付ク迄ハ期日ヲ明記シ得サ  
ルコトトナルヤモ知レス

王外交部長 自分モ此ノ点ヲ心配シ居ル次第ナリ

支那側陳謝賠償ニ関シ絶対々等ノ根本主義ニ付讓ラサル為  
結局前回以上ノ進展ヲ見ス

(付記二)

濟南事件解決ニ関スル矢田、王案ト本省方針トノ比較

一、撤兵

甲、矢田、王作成案

(イ)日本側公文中左記趣旨ヲ述フ

日本側ニ撤兵ノ用意アリ支那側ノ引継手配ヲ望ム  
撤兵ハ 月 日開始 月 日完了此間逐次ニ行フ

撤兵及引継ノ細目ハ現地ニ於テ協定ス右撤兵ハ居留民保護及膠濟鐵道交通確保ニ付国民政府カ責ヲ尽スモノト諒解セルニ依ル

(ロ)支那側公文中右撤兵ノ時日及方法ニ付異議ナキ旨ヲ述フ

乙、本省方針

(イ)諒解事項トシテ左ノ通り定ム

支那側カ将来ノ保障ヲ実行シ且日本側ニ於テ居留民ニ危険ノ虞ナシト認ムルニ至レハ遲滞ナク全部撤兵ス（撤退条件ハ情況ニ依リ適當ノ変更ヲ加フルコトヲ得）

日本軍残留期間中ハ濟南、青島及沿線二十支里内ニ支那軍隊ヲ駐屯セシメス

(ロ)但シ濟南及青島ニ於ケル交渉ノ端緒ヲ得ル目的ノ為支那側ノ山東居留民保護ノ声明ト交換的ニ「山東居留民保護ニ付確實ナル保障ヲ得タル場合ニハ遲滞ナク撤兵ス」トノ趣旨ヲ声明スルヲ妨ケス然シ乍我方ノ真意ハ保障問題ノミナラス陳謝処罰及賠償ニ付協議成立スルニ非サレハ撤兵スルモノニ非サルコトヲ

ム（此ノ支那側声明ニ對シ日本側ハ之カ裏切ラレタル場合ニハ必要適切ト認ムル手段ヲ取ルヘキ旨覆答スルモノ一方法ナルヘシトス）

(ロ)撤兵後一定期間支那軍隊ヲ濟南青島等ノ商埠内ニ入ラシメス

(イ)膠濟鐵道交通確保ノ為必要ナル協定ヲ為スコトヲ約セシム（協定細目ノ提示ハ交渉ヲ延期セシムルノミナラス又本件ト比較的關係少キ事項ヲ要求スル如キ感ヲ与フルニ付協定ヲ約束セシムルニ止ム）

三、事件自体ノ解決方法（陳謝、処罰、賠償等）

（備考、支那側ハ陳謝、処罰、賠償ニ付相互主義ヲ固持ス）

甲、矢田、王作成案

兩國同數ノ委員ヲ任命現地ニテ調査ヲ行ヒ公平ノ弁法ヲ協商ス

乙、本省方針

処罰ハ必スシモ固執セサルカ陳謝及賠償ハ之ヲ主張ス相互主義ノ如キハ容認ノ限りニ非ス調査委員會モ予想シ居ラス

王正廷ヲシテ了解セシメ置クヲ必要トス  
二、将来ノ保障

甲、矢田、王作成案

(イ)日本側公文中日本ノ撤兵ハ支那側カ責任ヲ以テ在支居留民ヲ保護シ又膠濟鐵道交通確保ニ付充分措置ヲ講スルモノト諒解セルニ因ルモノナルコトヲ声明ス  
(ロ)右ニ對シ支那側公文中全責任ヲ以テ居留民ヲ保護スルコト勿論ニテ鐵道交通確保ニ付テハ国民政府ニ於テ当然ノ措置ヲ講スヘク同政府ニ信頼アリタシト声明ス

(イ)更ニ別ノ支那側公文ヲ以テ居留民保護及鐵道交通確保ニ関スル国民政府ノ発令ヲ登載セル政府公報ヲ送付越ス（右命令ノ要点ハ會議録中ニ明記スルコトニ了解）

(ニ)（排日取締ニ付テモ中央政府ハ省政府ニ命令シ又中央党部ヲ動シ省党部ニ命令セシムルコトトシ其旨會議録ニ明記スルコトニ了解）

乙、本省方針

(イ)支那側ヲシテ居留民保護及排外行動禁止ヲ声明セシ

443

昭和3年10月27日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

岡本領事の招宴延期の事情等について

上海 10月27日後発

本省 10月27日後着

\*第七六八号

今回ノ交渉ニ関シ王部長ハ当初本官ノ資格ニ付疑義ヲ挿ミ貴下ノ身分ハ上海駐在ノ總領事ナレハ貴下ノ協定ハ先ツ在北京ノ代理公使ノ承認ヲ仰キ然ル後外務大臣ノ訓令ニ依リ確定ヲ見ル次第ナルヘク其ノ辺ノ事情ニ付国民政府部内ニモ議論アリ現ニ貴下来寧ノ際部内ニ異論アリタルモ貴下ハ今回特別ノ使命ヲ田中外相ヨリ受ケ居レリトノコトニテ自分モ尽力シテ伊国公使ニ對スルト同様ノ待遇ヲ与ヘ蔣主席ニモ面会スル様取計ヒタルカ嚴格ニ云ヘハ貴下カ總領事タル資格ニテハ蔣主席ハ引見スル能ハサリシナルヘシト述ヘ（英國總領事ハ本官ニ對シ着任後直ニ蔣ニ對シ面会ヲ求メタルカ既ニ二個月ヲ経過シ時々催促スルモ未タ其ノ取計ナシト不平ヲ漏セリ）

十九日夜岡本領事ノ名ニ於テ蔣以下各院長ヲ招待シタルモ  
 間際ニ至リ皆断ハリ来リタルニ付其真相ヲ質シタルニ胡漢  
 民等カ執レノ国ニテモ大統領以下閣僚カ一地方領事ノ招宴  
 ニ列席スルコト無シ右ハ国民政府ノ權威ヲ傷クルモノナリ  
 ト謂フニアリトノコトナリ本官ハ交渉ヲ目前ニ控ヘスル  
 「デリケート」ナル而モ取扱振り如何ニ依リテハ両国民ノ  
 感情ニ意外ニ大ナル影響ヲ及ホスヘキ事件ニテ爭議ヲ惹起  
 スルトキハ内外ノ通信記者ハ得タリト大袈裟ニ報道スヘク  
 其ノ影響計リ知ルヘカラスト感シタルヲ以テ王ト相談ノ上  
 會議ノ都合上宴会ヲ延期スルコトトシ會議場タル王正廷ノ  
 官邸ニ引続キ會議ヲナシ夜十時過帰宅セシテ表面ヲ糊塗  
 スルコトトセリ

右ハ国民政府カラ

一、南京ニ各国公使館ヲ設置セシメムトスル魂胆ト  
 二、王正廷ノ外務大臣タル地位ヲ高メムトスル私心トニ基  
 クモノナルヘク生意氣千万ナリト一蹴シ去レハ夫レ迄ナ  
 ルヘケレト茲ニ考慮セサルヲ得サルハ其ノ根本的原因カ  
 国民政府カ自己ノ國際的地位ヲ絶對平等ノ点迄引上ケム  
 トスル熱望ノ発言ニシテ王ニ代ルニ他人ヲ以テスルモ變

而モ総領事ナリトテ不便不利ノ地位ニ置カルコトハ本  
 官一人ノ榮辱ノ問題ニ非ス国家ノ損失ナリト存セラルル  
 ヲ以テ左記ノ点至急御詮議御発令ヲ仰ク様希望ス

一、本官ヲ大使館参事官ニ兼任ヲ命セラルル事

右ニ対スル反對論ノ論拠ハ国民政府承認ノ第一歩ヲ示  
 ス事トナリ面白カラスト云フニアルカ如キモ国民政府  
 ハ今ヤ正式承認ニ重キヲ置キ居ラス正式承認ヲ求メテ  
 列国ヨリ条件ヲ持チ出サルルヨリモ現状ノ儘ニテ不便  
 ナシト為シ居ルモノノ如シ我方ニテ南京ヲ去ル百八十  
 哩ノ上海ニ兼任大使館参事官ヲ在勤セシメルトモ既ニ  
 数百哩ノ北京ニ本任公使ノアル以上承認問題ニ関シテ  
 何等我方ノ態度ニ變更ヲ加フル所以ニ非スト信ス

二、岡本領事ヲ公使館書記官兼任ヲ命スルコト

444

昭和3年11月(2)日

在南京岡本領事より  
 田中外務大臣宛（電報）

矢田在上海総領事に対し帰任前の訓令に立ち  
 戻り交渉するよう指示の必要ありとの有田  
 細亞局長意見具申

ルコトナカルヘク他方伊国公使ハ目下南京ニ滞在シ条約  
 問題交渉中ニテ白耳義代理公使モ二十五日来寧シ和蘭公  
 使モ来ル二十八日北京発来寧ノ途ニ就クコトナリ其ノ  
 他丁抹、葡萄牙等ノ各公使モ最近ニ相前後シテ国民政府  
 ヲ訪問スルアリ各国ノ態度カ進ンテ此ノ国民政府ノ熱望  
 ニ迎合セムトスル点ニアリ

然ルニ我方ニ於テハ条約問題ニテ意見略一致ヲ見正式交  
 渉ニ入ル事モ結局遠カラサル将来ノ事ナルヘク他方国民  
 政府ノ北京移転ノ如キハ今日ノ現状ニテハ到底問題トナ  
 ラサルヘク（南京発往電第六〇〇号）又他方国民政府ト  
 我方トノ交渉益頻繁トナリ行クヘキハ疑ヲ容レサル処ナ  
 レハ我ニ於テモ差向キ此ノ新事態ニ対スル適応ノ方法ヲ  
 講セサルヘカラスト存セラル

或ハ北京公使館移転ハ輕々ニ実行シ難ク芳沢公使ノ当地  
 出張モ急場ノ間ニ合ハス又仮令間ニ合ヒタリトモ交渉繼  
 続ノ中途ニテ公使ト本官ト交替スルハ事實上我ニ不利甚  
 タシキモノアルヘク結局公使ノ来寧ハ交渉一段落ヲ告ケ  
 タル後ナラサルヘカラスト然ラハ当分本官交渉ノ局ニ当ラ  
 サルヲ得ス

南京 本省 11月2日着 発

\*第六一〇号

有田ヨリ第三号

済南事件ハ矢田ニ思違アリシモノノ如シ帰任前ノ訓令ニ立  
 返リテ話ヲスルノ余地アリト申居レリ

尚藤田ノ新聞記者会見談（二十六日青島新報、二十七日山  
 東新報参照）ノ為藤田ヲ当方面ニ呼寄セ交渉ニ参加セシム  
 ル事ハ内外ノ関係目下妙ナラサルモノアルヘシ旁々矢田ニ  
 ハ大臣発岡本宛電報第一〇三号ニ対スル大臣宛矢田発電ノ  
 返電トシテ帰任前ノ訓令ニ立返リテ支那側ト接触スヘキ旨  
 訓令サルルコト必要ナラン

本官ハ一日朝南京着蔣介石トハ先方ノ都合ニ依リ二日会見  
 一日ニハ不敢王正廷ニ挨拶シ置ク筈

445

昭和3年11月(4)日

在上海矢田総領事より  
 田中外務大臣宛（電報）

済南事件撤兵問題に関する交渉振りについて

第七七七号

上海 発  
本省 11月4日後着

南京発往電第六〇二号ニ関シ

本官王正廷トノ討議ニ於テ三省會議ノ決議ニ基ク御訓令ノ旨ヲ逸脱シタルハ遺憾ニ存スル次第ナル処右事情ノ詳細ハ有田局長ヨリ御聴取アリタシ他方同局長ヨリ御申聞ケノ次第モアリ改メテ左記ノ基礎ニ於テ交渉致度シト存スルニ付右ニテ御異存ナキヤ何分ノ儀至急御回電アリ度シ

一、撤兵声明ニ関シテハ本官帰朝ノ際内訓セラレタル声明案ヲ其ノ儘声明シ南京又ハ上海ニ於テ公表スルコト

二、右撤兵声明ノ件及済南事件ノ交渉ヲ現地ニ於テ行フ件ハ別ニ議定書若クハ交換公文ノ形式ニヨリ明確ニ規定シ置クモ右ハ差当リ公表セサルコト

三、撤兵後ノ保障問題並ニ済南事件ノ解決ニ関スル日支間ノ協議成立スル迄ハ撤兵ヲ実行シ得サル旨先方ト諒解ヲ遂ケ右諒解ニ関シ將來誤解ノ生スルヲ防ク為適當ノ措置ヲ講シ置クコト

御稟申ノ基礎ニテ更メテ交渉方成ルヘク速カニ取運ハレタシ尚右貴電後段第二項現地交渉ノ件ヲ議定書等ニテ明確ニシ置クコトハ至極適當ト存スルモ撤兵声明ニ関スル議定書ハ既ニ第一項ノ声明及公表ヲ為ス以上外ニ議定書等ノ文書ヲ必要トセサルヤニモ思考セラルル処右議定書ニ関スル貴官腹案御回示アリ度シ尚本件ニ関シ当方トシテハ貴官帰任ノ際ニ与ヘタル内訓ノ趣旨ヲ毫モ変更シ居ル次第ニアラサルニ付御含アリ度為念

448 昭和3年11月12日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南事件撤兵に関する議定書の腹案について

上海 11月12日前発  
本省 11月12日後着

\*第八二一号

貴電特第五号ニ関シ

往電第七七七号列記ノ第二点ハ本官ノ腹案ニテハ議定書ノ形式ト為シ右議定書中ニハ一、本議定書調印ト同時ニ（若クハ調印ノ後何日ニ又ハ別ニ兩國協議ノ日付ヲ以テ）左

446 昭和3年11月9日

田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛（電報）

御大典終了次第済南事件等の解決交渉再開について

本省 11月9日後6時40分発

\*特第四号

済南事件及漢口事件ニ付テハ別電第五号及第六号ノ通り訓令シ南京事件条約問題ニ付テハ南京宛往電第一〇一号及第一〇二号及第九九号並ニ上海宛往電第二九八号及第二九九号ノ通り付テハ御大典済次第成ルヘク速カニ交渉ヲ再開セラレ度シ

447 昭和3年11月9日

田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛（電報）

済南事件撤兵声明に関する議定書の必要性について

本省 11月9日後6時40分発

\*特第五号

貴電第七七七号ニ関シ

記声明書ヲ南京（若クハ上海）ニ於テ公表スルコトヲ規定シ左記トシテ御内訓ノ声明案全文ヲ挿入スル事ニ、済南事件解決ニ関スル交渉ハ之ヲ現地ニ於テ行フ事ノ二点ヲ規定スル積ナルカ場合ニ依リテハ交換公文等ノ形式ニ依ル事アルヘシ蓋シ從來王正廷トノ交渉ニ於テハ案文等ニ付両者ノ意見一致シタル後ニ於テモ屢々字句等ニ付勝手ニ改竄ヲ施シ或ハ曩ニ口頭ニテ取極メタル事モ後ニ至リテ主張ヲ変ヘ之ヲ詰レハ右取極ニハ書類ニ認メ「イニシアル」ヲ付シアルヤ等ト途方モナキ事ヲ言出スニ依リ今回ノ南京ニ於ケル會議ニ於テハ両者意見ノ一致シタル案文ニ付テハ直ニ同文ニ通ヲ作製シテ本官及王ノ「イニシアル」ヲ付シ置ク事トシタル次第ニテ右声明ニ付テモ発表ノ時機内容及場所ニ付後ニ至リ悶著起ラサル様何等カノ形式ニ於テ取極ヲ作製シ署名シ置クヲ万全ノ策ナリト思考シ居ル次第ナリ

449 昭和3年11月22日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

済南事件解決交渉に関する中国側の思惑についての矢田在上海総領事報告

第六六五号

矢田総領事ヨリ

南京 11月22日前発  
本省 11月22日後着

本官十九日夜南京ニ到着セルカ同日ノ南京「警報」ハ「矢田又來ル」トノ題下ニ「惟フニ矢田氏ハ今次モ亦必スヤ從前ノ議論ヲ繰返シ時間ヲ延長スヘク交渉ハ遂ニ不成立ニ終ルヘシ日本政府カ日支交渉ニ付中国国民ニ氣受好キ矢田総領事ヲ当ラシメ居ル以上日本国民ハ田中外交ニ対スル不満ヲ表明シ難ク各政党モ亦攻撃ヲ緩メ形勢ノ変化ヲ待タサルヲ得ス即チ矢田氏ヲ用フルコトハ田中内閣ノ声明ニ対シ無形ノ中ニ一個ノ有力ナル保障ヲ与フルコトナリ一方中国ノ不備ニ乘シ他面各国ヲ惑ハシ其ノ对支政策ヲ漸次「リード」シ得ヘシ田中首相ノ目的ハ実ニ茲ニ存シ矢田氏ハ唯右目的ノ為使ハルル道具ニ過キス故ニ吾人ハ同氏ニ多クヲ期待シ得ス氏ハ前同シク遠カラス又帰滬スルモノト予想ス」云々ト論述シ居ルヲ發見セル処翌二十日朝周龍光ヨリ電話ニテ王部長ハ本日午前ハ会々行政院會議ニ列席ノ為差支アルニ付午後三時会見致スヘシトノ旨申越シタリ然ルニ

然ルニ同夜岡本領事ノ招宴後周崔兩人ハ王部長ト明日ノ会見ニ付打合アル模様ニテ早々辞去セルカ翌二十一日ニ至リ午前中ニ会見時刻ヲ通知シ來ルモノト期待シ居タルニ右兩人再ヒ本官ヲ來訪シ王ノ伝言トシテ濟南事件ノ解決ニ付テハ折角元ニ戻リ掛ケタル日支ノ關係ハ再ヒ逆転スルニ非サヤト憂慮セラレ居ル処支那側ノ最重要視シ居ルハ撤兵ノ時期ヲ確定スル点ニ在リ從テ若シ此ノ点ニ付今回討議スルヲ得サルニ於テハ交渉ニ入ルモ全ク無駄ナリトテ暗ニ会見忌避ノ態度ヲ示シテ本官ヲ「コンミット」セシメムトスル策ニ出テタリ依テ本官ハ今回態々南京ニ來リ王部長ヨリスル伝言ヲ聞クハ甚タ其ノ意ヲ得ス王部長ト会見セハ何レ本件モ論議スヘキニ付本官ニ對シスル意思ヲ表示スルノ必要アラハ右正式会見ノ席上ニ於テ為サルコト可然其ノ上ニテ本官ニ於テ必要アリト認ムレハ本省ニ請訓スルモ亦可ナリ兎ニ角本件ハ本件トシ他ノ諸案件ハ諸案件トシテ解決シ得ヘキモノハ之ヲ解決スルコト大局上相互ノ為得策ナルヘシト懇諭シタルニ周等亦之ヲ諒トシ然ラハ何レ部長報告ノ上何分ノ儀返事スヘシトテ引取りタリ

午後ニ至リ周龍光、崔士傑兩名本官ヲ來訪シ部長ハ引続キ會議ニ在リテ今日ハ会見不可能ニ付会見ヲ延シ我々ハ郊外湯山温泉ニ清遊スルコトトシテハ如何トノ事ナリシニ依リ之ヲ承諾シ三人一ツノ自動車ニ同乗出發セルニ途中周及崔ヨリ交々最近各方面ヨリノ情報及日本新聞等ニ頻リニ田中内閣ノ对支政策硬化セル旨伝ヘラレ濟南事件ニ関シテモ有田局長ハ藤田総領事等ノ談話トシテ事件ノ完全ナル解決ヲ見ル迄ハ全部ノ撤兵ハ之レヲ行ハサル方針ナリトノ記事掲ケラレ支那側ニ對シ再ヒ日本ハ永久駐兵ノ意思アルニ非サヤトノ疑惑ヲ起サシメタリ

即チ日本政府ハ貴下ヲシテ交渉ニ當ラシメ誠意アルカ如ク見セ掛ケ居ルモ其ノ実解決ヲ遷延シ次第ニ依リテハ貴下ヲ犠牲ニスルノ覚悟ニテ無事今期ノ議會ヲ切抜セントスルノ魂胆ナルヤニモ想像セラレ交渉ノ局ニ当ル自分等ニ於テモ多少ノ疑念ナキ能ハス右日本政府ノ真意ニ関シ貴下ノ腹藏ナキ意見ヲ伺ヒ度シト述ヘタルニ付本官ハ自分ノ関スル限リ永久駐兵ノ意思ナキコトヲ強ク否定シ其ノ他ノ点ハ王部長トノ会見ニ於テ討議スヘシト述ヘ何等深入リスルヲ避ケ湯山遊覽ヲ終ヘテ帰來シタリ

450 昭和3年11月22日

在南京岡本領事ヨリ  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉に関する王外交部長との非公式会谈についての矢田在上海総領事報告

南京 11月22日前発  
本省 11月22日後着

第六七〇号

往電第六六五号ニ関シ  
（四九文書）

矢田総領事ヨリ

其後周龍光ヨリ電話ヲ以テ本日会見ノ趣ヲ王部長ニ伝ヘタル処同部長ハ今夜下関外賓館ニ於テ余人ヲ避ケ極メテ非公式ニ御話ヲ伺ヒ食事ヲ共ニ致度キ希望ナリトノ旨申越シタリ依テ午後七時本官一人同所ニ赴キタルニ王ハ実ハ今夜ハ白耳義公使ト閣議条約調印ヲ了セルヲ以テ成功ヲ祝スル為同公使トノ宴席ニ貴下ヲ招待シタル次第ナルカ同公使ハ今尚外交部ニテ書類ヲ整理シ居リ未タ多少時間ノ余裕モアリト述ヘ次テ最近各方面ヨリ山東日本軍ノ撤退交渉ニ関シ盛ニ激励ノ電報ヲ寄セ來リ殊ニ南洋華僑ヨリ來レルモノ最多ク中ニハ自分カ知ラサル知名ノモノモアリ此ノ儘ニテハ重

大ナル内政問題化シ延テ政府ノ基礎ニモ動揺ヲ来スノ虞アリテ大イニ当惑シ居ルカ之ニ比スレハ条約問題ノ如キ実質上ヨリ重要ナル問題ハ結局一般ノ智識程度ノ低キ為却テ注目ヲ引カサル実情ナリトテ前電周所述ノ伝言ノ趣旨ヲ述ヘ本問題ニ関シ藤田総領事ヲ交渉ノ相手トスルコトニハ異存ナキモ同総領事ニ対スル国民政府ノ態度並ニ解決条件ニ付テモ先ツ山東出兵ニ対スル謝罪ノ要求ヲ為ス等貴下ニ対スルモノトハ自ラ差異アルヲ免レサルヘシ等種々本官ニ恩ヲ着セタル話ヲ為シタルニ付本官ハ何レニスルモ本官ト会議ヲ開キ各種案件ニ付討議ニ入ルコト必要ニシテ撤兵ニ関シテ貴下ノ前述ノ議論ハ其ノ席上ニ於テ述ヘラルルニ於テハ本官モ亦本省ニ報告スルコト可然旨繰返シ力説セル結果王モ明二十二日午後三時開会スルコトヲ承諾セリ次テ白耳義公使来訪シ酒席ニ著ケルカ右席上王ハ曩ニ諾威公使ヲ送り間モナク今回白耳義公使ヲ迎ヘ近ク仏国公使来寧スヘク次テ效二三週間内ニ瑞典、丁抹、英吉利、西班牙、葡萄牙及伊太利ノ各公使ノ来訪ヲ受ケ夫々調印ノ運トナルヘシト述ヘ頗ル得意気ニ見受ケラレタリ

尤モ王ハ之ニテ全然決裂トナリタルモノトハ思考セス新聞等ニ対シテモ日本政府ノ訓令接到迄暫ク商議ヲ中止スル旨発表シ度キ旨申出テタリ  
本官ハ宋ト上海ニ於テ会见ノ必要モアルニ依リ明二十三日帰滬ノ筈右不取敢

452 昭和3年11月23日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

王外交部長との濟南事件解決交渉決裂の模様  
についての矢田在上海総領事報告

南京 11月23日前発  
本省 11月23日後着

\*第六七五号  
矢田総領事ヨリ

約ノ如ク二十二日午後王正廷ト会见セル処議事ニ入ルニ先チ王ハ先ツ口ヲ開キ貴官来寧スル事茲ニ三回各種案件ニ関スル交渉ハ相当具體的ニ進行シタルニ拘ラス山東撤兵ノ時期ニ付テハ未タ極メテ曖昧ニシテ決スル処無シ然ルニ支那側ノ最モ重キヲ置ク点ハ撤兵問題ニシテ日本カ山東ニ駐兵

451 昭和3年11月22日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
日本軍の撤兵時期明確とならない限り濟南事件解決交渉は無用との王外交部長の態度についての矢田在上海総領事報告

南京 11月22日後発  
本省 11月23日前着

\*第六七四号  
矢田総領事ヨリ

二十二日午後三時王正廷ト会见セル処王ハ議事ニ入ルニ先立チ先ツ口ヲ開キ支那側ハ日本ノ山東撤兵ニ最モ重キヲ置キ撤兵ノ時日決定セサル以上他ノ案件ヲ論スルモ無益ナリト思考シ居ル次第ナルニ付テハ貴官ハ今回右撤兵ノ時日記入ノ権限ヲ与ヘラレタリヤ否ヤニ付承知致度シト切出シタルニ付未タ撤兵ノ時日ヲ決定スル時期ニ達シ居ラスト答ヘタルニ王ハ然ラハ最早他ノ案件ニ付討議スルモ無駄ナリト言放チ本官モ之ニ対シ王カ俄然スル不信ノ態度ニ出テタル理由ヲ詰問シ押問答ヲ重ネタルモ遂ニ商議ニ入ルニ至ラス物別レトナリタリ詳細後報ス

スル限り支那ノ民心ハ常ニ日本ヲ恨ミ日支間ノ親善關係ハ到底望ミ難ク從テ自分トシテハ撤兵問題解決セスムハ爾余ノ交渉ニ応シ難シト明ラ様ニ言フヲ欲セスト雖モ爾余ノ懸案ヲ解決スルモ無益ナリト感セサルヲ得ス就テハ先ツ第一ニ御尋ネシタキハ撤兵ノ期日ヲ明確ニ定ムルモ差支ナシトノ訓令ヲ得居ラルルヤ否ヤノ点ニアリト切り出シタルニ依リ本官ハ今更貴下ヨリスル言ヲ聞クハ心外ナリ日本政府ハ濟南事件其ノモノノ解決ヲ見タル上初メテ撤兵ニ移ル意向ニシテ今日トナリ商議ノ跡ヲ顧ミルニ双方ノ主張ニハ著シク懸隔アリテ撤兵ノ期日ヲ確定スルハ到底不可能ナル事言ヲ俟タスト述ヘタルニ王ハ若シ此ノ際撤兵ノ期日ヲ明確ニシ得スムハ此ノ上他ノ案件ニ付商議ヲ継続スルモ無益ナリト応シタルヲ以テ本官ハ開キ直リ今日迄各種案件ノ交渉ハ各々別個ノ問題トシテ論議シ来レル筈ナルニ貴下ハ突如其ノ態度ヲ豹変シ撤兵問題解決セサル以上他ノ案件ノ交渉継続ヲ欲セスト云フカ如キハ極メテ奇怪ナル言動ニシテ日本政府ニ於テモ是等理由ヲ解スルニ苦シムヘシ此ノ点ニ関スル明白ナル説明ヲ求ムト切込ミタルニ王ハ決シテ豹変ニ非ス第一回ノ会合ニ於テハ一週間ヲ費シ便宜上或ハ漢口事件

或ハ南京事件ト機ニ応シ各種案件ニ論及シタルモ自分ハ不  
断撤兵問題ヲ念頭ニ置キ機会アル毎ニ之ニ触レタル筈ナリ  
然ルニ其ノ後日本政府ノ意図ヲ疑ハサルヲ得サルカ如キ情  
報アリ而シテ今日第三回ノ会合ヲ開催スルモ既ニ日本政府  
カ撤兵ノ時機ヲ明確ニスルノ意向ナキコト明瞭トナリタル  
以上爾余ノ問題ニ付討議ヲ進ムルモ兩國ノ国交ニ益スル所  
無シ

自分ハ貴官ニ二日間モ会見セス御待タセシタルハ誠ニ遺憾  
トスル処ニシテ幾重ニモ御詫ヒスル次第ナルカ国民政府ニ  
ハ目下各国トノ解決案件山積シ無益ナル論議ニ空費スル期  
間ノ余裕ナシト言切リタルヲ以テ撤兵ノ時期ニ関スル明確  
ナル訓令アル迄ハ一切ノ懸案交渉ヲ停止ストノ意味ナリヤ  
然ラハ重大ナル結果ヲ惹起スヘント念ヲ押シタルニ王ハ然  
リ山東駐兵ハ全国民ノ甚シク痛苦トスル処ナリ撤兵セサル  
以上爾余ノ案件ヲ解決スルモ国交親善ニ寸毫ノ利スル処ナ  
シト述ヘ更ニ其ノ意ヲ明確ニ伝フル為ニヤ英語ニテ「日本  
軍ノ山東撤退ノ確定時日ニ関スル主要問題定マラサル限り  
此ノ上談合スルモ従来論議シ来レル爾余一切ノ問題ニ付吾  
人ヲ更ニ接近セシムル事無キ状態ニ到達セリト言ハサルヲ

ハ頻リニ本官ニ対シ今日ノ会見報告ニ対スル回訓到達迄当  
地ニ滞在サレタシト勸メタルカ本官ハ之ニ答ヘス王ニ対シ  
貴下モ一切ノ交渉ヲ停止スルト云フハ例ヘハ差等税率ニ関  
スル本官ト宋子文トノ内交渉力結局外交部ト我カ在支公使  
間ノ文書ノ往復ト謂フカ如キ形式ニ移ル場合ニモ及ホス意  
ナリヤト念ヲ押シタルニ夫レハ夫レトシテ別ニ考慮スヘシ  
トテ単ニ目下本官ト王トノ交渉案件ノミヲ停止スルノ意ヲ  
明ニシタリ依テ最早議論ノ余地無シトテ帰リ仕度ヲ為シタ  
ル処同席ノ者モ立上リ別室ニ去リ王ト二人切リトナリタル  
際王ハ本官ニ接近シ来リ実ハ済南事件ニ関シテハ激励ノ手  
紙モ山積シ居ルコト昨夜御話シタル通りニシテ殊ニ二十日  
ノ政治会議ニ於テハ自分ノ済南事件ノ交渉振りニ関シテ甚  
シキ攻撃ヲ受ケ日本カ山東撤兵ノ意思ヲ明確ニセサル以上  
爾余ノ諸懸案ノ交渉ヲモ止ムヘシト謂ハレタルニ依リ今回  
ノ会見ニ於テハ斯ク改マツテ強硬ノ態度ヲ示シタル次第ナ  
リト弁解シタルヲ以テ本官ハ日本カ永久駐兵ノ意思ナキコ  
トハ既ニ屢々説明シタル通ニシテ既ニ爾余ノ諸懸案モ殆ト  
近ク解決ヲ見ムトスル今日斯ル事態ヲ惹起シ日支関係ヲ逆  
転セシムルハ大局上誠ニ遺憾ナルニ付済南事件ニ付テハ撤

得ス」ト述ヘタルニ依リ其ノ言ヲ今一度繰返サレ度シト言  
ヒタルニ右趣旨ノ英文ヲ紙片ニ記シ本官ニ示シタリ依テ本  
官ハ貴下ノ態度既ニ斯クノ如クナル以上今日迄自分等カ日  
支関係ノ改善ニ努力シ来レル苦心モ全然水泡ニ帰シ日支ノ  
関係ハ再ヒ今次ノ交渉開始以前ノ陰鬱ナル状態ニ逆行スル  
コト明カナルカ貴下ハ之ヲ覚悟ナリヤト詰寄りタルニ王ハ  
斯ル事態ハ自分ノ作りタルモノニ非スト逃ケタルヲ以テ責  
任ヲ論シ居ルニ非ス貴下ノ覚悟ヲ聞カントスルモノナリト  
追及シタルニ王ハ簡單ニ其ノ覚悟ナリ之モ已ムヲ得スト答  
ヘタルカ本官二十日当地着以来ノ経緯ニモ顧ミ今更此ノ際  
王ヲ説得スルモ無益ナリト思考シタルニ依リ本官ハ既ニ貴  
下ニ其覚悟アル以上此ノ上貴下ト議論スルモ効ナキニ依リ  
之ニテ切上ケ本日会見ノ模様ハ其ノ儘政府ニ報告シ政府ノ  
訓令ヲ俟ツコトトスヘシト述ヘタルニ王ハ何卒有ノ儘ヲ報  
告サレタク自分トシテハ撤兵ノ期日ヲ明定セスンハ爾余ノ  
案件ヲ討議セスト云フハ欲セサル処ナルモ是モ已ムヲ得サ  
ル次第ナリ但シ自分ハ之ニテ交渉決裂シタリトハ思考セス  
從テ外部ニハ交渉決裂ナトトハ云ハス単ニ政府ノ訓令接到  
迄休会スルコトトシタル様発表シタシト述ヘ同席ノ崔士傑

兵ノ声明ヲナシ済南事件其ノモノノ交渉ハ別ニ現地ニ於テ  
行フコトトシ一応本件ニ片ヲ付クルコトトシテハ如何ト  
「サヂエスト」シタルニ王ハ今トナリテハ撤兵ノ期日ヲ明  
記セサル以上国民政府ノ承認ヲ得ルコト不可能ナリ尤モ改  
メテ藤田総領事ト交渉スルニ付テハ何等異議無キモ貴下ニ  
対スルトハ関係モ異ナルニ付自分カ相手トナルヲ得ス多分  
崔士傑ヲ代表トスルコトトナルヘシト述ヘタルニ依リ然ラ  
ハ藤田総領事及西田総領事代理ハ既ニ済南事件交渉ノ委員  
ニ任命セラレタル次第モアリ今後本件ニ関スル一切ノ交渉  
ハ右両委員ノ手ニ移ス様政府ニ稟請スヘキニ付済南事件問  
題ニ関シ本官ト貴下トノ間ノ従来ノ交渉ハ一切放棄スルコ  
トト致シ度シト述ヘタルニ王ハ承知セリ藤田総領事ト商議  
ノ遣リ直シヲスルコトトスヘシト明確ニ答弁セルヲ以テ之  
ニテ話ヲ打切り辞去セリ  
事情右ノ如ク王ノ態度急ニ硬化シタルハ支那側カ日本ニ撤  
兵ノ誠意ナシト認メ二十日午前ノ政治会議ニ於テ王ヲ激励  
シタルニ依ルモノノ如ク松室中佐カ得タル情報電通カ他ノ  
支那人有力者ヨリ得タル情報等モ全然右王ノ言ヲ裏書スル  
次第ニシテ事態斯ノ如クナル以上曩ニ本官ニ対シ御内訓ア

リタル解決案ニテハ到底交渉ノ余地無く去リトテ支那側ノ主張スルカ如ク撤兵ノ時期ヲ明定スルコトハ我方ノ根本方針ニ鑑ミ濟南事件其ノモノノ解決ヲ待ツテ初メテ決定シ得ラルル筋合ナルニ依リ所詮本官ニ与ヘラレタル権限ノ範圍内ニ於テハ本件解決ニ当ル事不可能ナリト認メラルルヲ以テ改メテ藤田總領事及西田領事ヲシテ交渉ノ衝ニ当ラシメ本件ノ根本的解決ヲ計ラシムル様茲ニ稟請ス

453 昭和3年11月23日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

王外交部長が中国側態度急変は満州問題に原因すると事情説明についての矢田在上海総領事報告

南京 11月23日 前発  
本省 11月23日 後着

第六七七号

矢田総領事ヨリ

往電第六七五号ニ関シ

二十二日王ト二人切リトナリタル際王ハ本官ニ対シ此ノコ

告ヲ差控ヘタル次第ナルモ支那側態度急変ノ真相ヲ知ル上ニハ是非共御内聞ニ達シ置カサルヘカラスト存シ熟慮ノ末茲ニ追電スルコトトシタル次第ナリ

454 昭和3年11月24日

田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛（電報）

王外交部長の態度に鑑み暫らく事態静観の方針について

本省 11月24日 発

第三三三号

王正廷ハ貴官トノ今次会合ニ於テ単ニ濟南事件ノミナラス是迄貴官ト王トノ間ニ交渉シ来レル一切ノ案件ヲシテ交渉

停止ノ状態ニ陥ラシメタル処元来此等諸案件ハ我方ヨリ特ニ進ンテ解決ヲ要スルモノ無ク過般日支間睨合ヒノ状態ヨリ交渉再開ニ至リタルモ実ハ当時支那側ノ態度ニ聊カ誠意ノ認ムヘキモノアリタルヲ以テ我方ニ於テ国民政府ニ對シ同情的態度ニ出テタルモノナルニ外ナラス例ヘハ条約廢棄問題ノ如キ支那側ノ不法ナル態度ニ顧ミ交渉開始ニ応セザリシモノナルカ最近支那側ニ於テ稍其ノ態度ヲ改メ来リタ

トハ単ニ友人トシテ極メテ卒直ニ御話スル次第ナレハ政府ヘノ報告ハ差控ヘラレタシト念ヲ押シタル上実ハ今次国民政府ノ態度急変シタル真因ハ満州問題ニ在リ我等ハ敢テ満州問題ノ解決ヲ忌避スルモノニアラス日本政府カ国民政府ヲ支那唯一ノ政權ト認メ之ヲ相手ニ正面ヨリ交渉ヲ開始スルニ於テハ其ノ解決必スシモ困難ニアラサルヘシ先般有田局長蔣主席ト会見ノ後蔣主席ハ自分等ヲ呼ビ有田氏ニ對シ日本政府ヲ代表シテ交渉セムトナ（脱）直接王外交部長ト御話サレタシト挨拶シ何等立入りタル話ヲ為スコトヲ拒否シタル旨語レルカ其ノ後遂ニ有田局長ハ自分（王）ヲ訪問セス急遽帰朝セラレタリ然ルニ他方日本カ則チ満州問題ト濟南事件トヲ関連セシメ撤兵問題ヲ満州問題ノ解決ニ利用セントシ居ルコトハ日本ノ非公式代表等ノ言ニ依リ周知ノ事実トナリ居ル矢先キ最近又復日本ニ於テハ滿蒙積極政策ナルモノ強調セラレ夫レカ為政黨ノ離合行ハレタルハ御承知ノ通ナリ此ノ種情報カ著シク国民政府ノ感触ヲ刺激シ其ノ態度ヲ硬化セシメタルハ御推察ニ任ス云々ト語レリ

尚唐悦良モ二十二日同様ノコトヲ松室中佐ニ語レル趣ナリ右ハ極メテ「デリケート」ノ点モアルニ依リ前電ニテハ報ルニ依リ我方モ好意ヲ以テ改訂商議ニ応セムトシタルモノナリ將又南京事件及漢口事件ニ付テハ今更我方トシテ特ニ解決ヲ急ク要ナキモ既ニ主義上意見ノ一致ヲ見居ルモノナレハ国民政府カ他ノ問題ニ付誠意アル態度ヲ示ス以上此ノ種案件モ速ニ解決スルコト日支国交上望マシト認メ能ハ限リ簡單ニ解決方努メ居ル次第ナリ更ニ濟南事件ニ至ツテハ之カ未解決ノ状態ニ依リ苦痛ヲ受クルハ支那側ニ外ナラサルモ斯クテハ兩國々交上面白カラサルコト勿論ナルニ依リ支那側ニ於テ誠意ヲ示サハ我方モ出来ル丈ケ条件ヲ緩和シテ解決セムトシツアル次第ナリ然ルニ今回故ナク突然支那側カ撤兵期日ノ明示ヲ迫リ此等諸案件ノ交渉ヲ一律回避スルノ態度ニ出テタルハ全ク我好意ヲ無視スルモノニシテ甚タ遺憾ナルモ支那側カスル態度ニ出ツル以上我方トシテハ強ヒテ此等諸問題ノ交渉解決ヲ求ムルノ要ナク先ツ冷静ナル態度ヲ持シ支那側ノ反省ヲ待ツ外ナシ然レトモ我國ヨリ国民政府相手ニ好ンテ争ヲナスカ如キ大人ラシカラサル態度ヲ持スルハ快シトセサルヲ以テ王正廷カ今回ノ所謂交渉停止ノ範圍外ナリト称スル差等税問題乃至ハ本件交渉ト關係無キ塩政問題等ニ付テハ從來通りノ態度ニテ交渉ヲ進

メ度ク依テ夫々別電ニテ訓令スル次第ニ付御含アリタシ  
（欄外記入） 陸軍省軍務局長 參謀本部第二部長 海軍省  
軍務局長 海軍軍令部第二班長（写送付済  
（十一月二十七日）

455 昭和3年12月(1)日 在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

済南事件解決交渉等に関する王外交部長の記者会見について

南京 本省 12月1日前着

第六九一号

昨二十九日王正廷ノ記者団ニ対スル談話要領左ノ通

一、米国及日本トハ条約未タ満期トナラサルカ故ニ今回修約シ単ニ関税問題ニ及ヒタル迄ナルカ白耳義及伊太利トハ条約既ニ満期トナリタルヲ以テ関税自主問題ヲ提議スルト共ニ領事裁判権撤廃ヲ争ヒタル処伊太利ハ（再）来年初頭ヨリ領事裁判権撤廃ニ同意シ白耳義ハ締約国半数以上カ撤廃ニ同意スル日ニ至リ之ヲ撤廃スルコトヲ

及ヒ大村ハ日本ニテハ支那カ内政上ノ理由ニテ済南事件ノ解決遷延ヲ欲シ突然談判中止ノ態度ヲ取ルニ至レルモノナリト観測シ居ル向モアリト語レル処王ハ右ハ非常ナ誤解ナリトテ盛ニ弁解シタルヲ以テ然ラハ貴下ノ真意ヲ伝フル機会ヲ作ル為日本側有志ト共ニ午餐ヲ共ニシテハ如何ト述ヘタルニ王ハ喜ンテ出席スヘク尚ホ本官出席サルレハ更ニ好都合ナリト述ヘタル趣ニテ大村ヨリ本官ニモ出席方徳憑セルニ付本官モ王カ交渉再開ヲ焦慮シ居ル事果シテ事実ナラハ其ノ真意ヲ突留ムル事モ無益ニ非スト存シ出席者少数ニテ外部ニ洩レサルニ於テハ臨席スヘント答ヘ三日三井社宅ニ於テ日本側ハ大村、高木、船津及福島支那側ハ王及崔士傑出席午餐ヲ共ニセリ其ノ際王ハ撤兵ノ時期明示ヲ迫リタルハ撤兵ニ関スル日本ノ真意ヲ疑ヒ居タル為ナル処交渉停頓シテハ尚更日本カ撤兵スル等モ無キヲ以テ何トカ局面ヲ打開シ速ニ済南事件ヲ解決シ依テ日支間ノ懸案ヲ一掃シ度シト苦慮シ居ル趣語リタルニ依リ本官ハ日本ニ撤兵ノ意思アルコトハ今更繰返ス必要ナシト雖モ事態クナリタル上ハ曩ニ貴下カ撤兵ノ時期ヲ明示セスムハ一切ノ交渉ニ入ラスト謂ヘルカ如キ暴言ヲ取消シ交渉再開ノ誠意ヲ示スニ非

承認セリ今後十三ヶ月間ニ其ノ他ノ締約国ノ同意ヲ得ル為メ我國民ト政府ハ協同ノ努力ヲ要ス

一、日支交渉ハ既ニ停頓セルカ我方ハ冷静ナル態度ヲ以テ之ニ処シツツアリ今回ノ交渉停頓ノ責任カ日本側ニアルコトハ既ニ言ヘル処ナルカ目下我方ハ日本カ撤兵セサレハ談判セスト飽迄強硬ニ主張シ居レリ國民ハ冷静ナルト同時ニ熱心ニ政府ノ後楯トナリ目的ヲ達セサレハ止マサルコトヲ希望ス

一、日英同盟説ハ決シテ事実ニ非ス日本側ノ宣伝ハ何等為ニセントスルモノナリ

456 昭和3年12月(4)日 在上海矢田総領事より  
田中外交大臣宛（電報）

王外交部長の済南事件解決交渉再開の意向について

上海 本省 12月4日後着

第九〇五号

大村徳太郎王正廷ト会谈ノ折談偶々日支交渉ノ停頓問題ニ

スムハ日本トシテモ之ニ応スル事困難ナルヘシト述ヘタルニ其ノ点ニ付テハ何トカ方法ヲ考フル事トスヘク自分ハ余儀ナキ用事ノ為今夜帰寧ノ筈ナルカ明日崔ヲ貴官ノ許ニ遣ハスヘキニ付支那側ノ意図ヲ聴取り願度シト挨拶シ場所柄モアリ双方共余リ立入りタル話ヲ為サリシカ四日前十時崔ハ王ト協議ノ結果ヲ齎シテ来訪シ支那カ終始一貫希望シテ止マサルハ山東ノ撤兵ニアリ日本政府累次声明ノ次第ハアルモ支那側ニ於テハ其真意ヲ疑ヒ居リ為ニ一旦ハ強硬ニ出テタルモノノ交渉決裂ハ支那側ノ欲スル処ニ非ス望ム処ハ撤兵ノ実現ニアリ依テ若シ日本ノ撤兵ヲ躊躇シ居ル所以カ撤兵後ニ於ケル在留日本人ノ保護ニ関シ支那政府ヲ信頼シ得ストノ事ナレハ兎モ角一部分丈ニテモ撤退シ支那官憲保護ノ成績ヲ見ルコトトシテハ如何  
例ヘハ済南城内ノ日本軍ヲ撤退シテ商埠ニ収メ城内ニ支那ノ警察ヲ入レテ治安維持ニ当ラセ其ノ成績ヲ試ムル事トシ他方之ヲ切掛ニ撤兵問題ノ交渉ヲ開始スルコトトシ之ニ引続キ懸案ノ交渉ヲ継続セストノ声明モ事実上取消サレタル事トナリ日本ノ面子モ立ツコトナレハ日本ニ懸案解決ノ誠意アル以上之位ノ処ニテ再開シ得ラレスト謂フハヨモ無カ

ルヘント述へ本官ハ只聴取シ置クニ止メタリ  
 本官王及崔ト会見ノ印象ニ依レハ支那側ニハ懸案解決ノ誠  
 意アルモ今尚撤兵ニ対スル日本ノ真意ニ疑ヲ插ミ何トカ撤  
 兵ニ関スル確實ナル言質ヲ得度シト焦慮シ一旦ハ強硬ニ撤  
 兵時期ノ明示ヲ迫リタルモノノ交渉停頓トナリテハ尚更撤  
 兵実現ノ筈ナキヲ以テ茲ニ再ヒ交渉再開ヲ思立チタルモノ  
 ナレハ我方ニ於テ撤兵ニ関シ支那側ヲ安心セシムル丈ノ用  
 意ナキ以上漫然交渉ヲ再開スルモ再ヒ前回同様ノ暗礁ニ乗  
 リ上クル事必定ナルヘント存セラレ

457 昭和3年12月27日

在南京岡本領事より  
 田中外交大臣宛（電報）

田中首相の密使と称する阿部某の動静につ  
 て

南京 本省 12月27日後着

\*第七八二号

当地ニ於テ得タル情報ニ依レハ帝国政府ハ国民政府ト新タ  
 ニ山東撤兵問題等ニ関シ内密折衝セシムル為最近阿部某ト

ニ付其ノ旨貴官ノ許ニ電報アリタルモノト想像セラルルヲ  
 以テナリト答ヘタルニ付本官ハ貴方ニ於テ態度ヲ改メサル  
 限リハ我方ニテ進テ無条件ニ貴方要求ヲ容レテ交渉再開ヲ  
 為スコトナシト信スル旨ヲ述ヘタルニ周ハ兎ニ角兩三日内  
 ニハ貴官ニ対シ東京ヨリ訓令アル筈ナレハ支那側トシテハ  
 之ヲ待チ居ル次第ナリト述ヘタルニ付本官ハ聞込ミタル風  
 評モアリ旁々田中首相ノ密使ト称スル阿部某ノ言フ処ナル  
 ヘシト切込ミタル処周ハ笑ニ紛ラシ先ツ其ノ辺ノ処ナルヘ  
 シト言外ニ肯定セリ

右周ノ自白ニヨリ最近支那側ノ態度一変ノ内情ヲ推察シ得  
 ラルル様存セラル尚其ノ際周ハ局面ノ転回ノ為芳沢公使南  
 京へ乗込マルルトノ風評モアル処同公使出発ニ先立チ日本  
 政府ニ於テ撤兵時期ヲ声明セラルルカ又ハ右訓令ヲ握リテ  
 来寧サルルニ非サレハ国民政府トシテモ待遇仕様モ無キノ  
 ミナラス床次氏来寧ノ際以上ノ「デモンストレーション」  
 アルヤモ知レス貴官ハ床次氏ノ済南ニ於ケル演説ヲ讀ミタ  
 ルヤ之ニ対シ日本ニ於テ反対ノ議論起ラサルニ徴スルモ日  
 本国民ノ意向カ自發撤兵ニ賛成シ居ル事明カナリ  
 西班牙トハ此処二三日中ニ条約調印トナルヘク之ニテ全部

称スル密使ヲ派遣シ同人ハ先日上海ニ於テ王正廷、張群等  
 トモ来往意見ノ交換ヲ為シ居ル趣ノ処本月二十三日上海へ  
 赴ケル周龍光モ同人ト会見等ノ為當分帰寧セサル趣ナリ

458 昭和3年12月27日

在上海矢田総領事より  
 田中外交大臣宛（電報）

芳沢公使の南京行の前に山東撤兵時期の明示  
 を希望するとの中国側の意向周龍光が表明せ  
 ることについて

上海 12月27日後発  
 本省 12月27日後着

\*第九九八号

二十五日午後周龍光夫妻ヲ晚餐ニ招待シタルニ其ノ際周ハ  
 只今迄王部長ノ許ニ在リタルカ同部長ハ今夜十一時南京ニ  
 帰ル筈ニテ夫レ迄ハ外出セサルニ付若シ矢田総領事ノ許ニ  
 東京ヨリ良キ「ニュース」来リ居レハ早速電話ヲ掛ケ呉レ  
 トノ依頼ナリト述ヘタルニ付良キ「ニュース」トハ如何ナ  
 ル意味ナリヤト反問シタルニ最近確カナル筋ノ情報ニ依レ  
 ハ田中首相ハ愈々山東撤兵ノ決意ヲ為シタリトノコトナル

調印済トナリ残ルハ愈々日本一國トナリタレハ自分等ハ遠  
 カラス日本政府モ折レテ来ルモノト信シ居レリ云々ト語レ  
 リ

459 昭和3年12月28日

田中外交大臣より  
 在上海矢田総領事宛（電報）

済南事件解決と満州問題を関連させる意向な  
 く、また阿部某とは何等関係なきことにつ  
 て

本省 12月28日後6時20分発

\*第三九〇号

貴電<sup>（四五八文書）</sup>第九九八号ニ関シ

政府ハ済南事件ヲ東三省問題ト引懸ケムトスルカ如キ意思  
 無ク済南事件ハ済南事件トシテ独立解決シ速カニ撤兵スル  
 ノ用意アルコトハ申ス迄モ無キト同時ニ撤兵期日ノ如キハ  
 事件解決前ニ之ヲ明示スルコト能ハサルハ之亦言ヲ俟タサ  
 ル所ナリ政府ハ公正ナル基礎ノ上ニ事件ヲ成ルヘク速カニ  
 解決スルコトヲ希望スルコトハ支那側ニモ劣ラサル所ニシ  
 テ過般南京ニ於テ執リタルカ如キ王正廷ノ態度サヘ無ケレ

ハ本件ノ円満解決モ差シテ難事ニ非サルヲ信スルモノナリ  
支那側ニ於テハ床次氏ノ意見及阿部某ナルモノノ言動等ニ  
依リ政府カ即時撤兵ヲ決スルニ至ルカ如キコトヲ考ヘ居ル  
カ如キモ右ノ如キハ全然見当違ヒニシテ殊ニ本大臣ノ密使  
ト称スル阿部某ノ如キハ本大臣ノ何等關係無キ所ナルニ付  
斯クノ如キ者ノ言動ニ迷ハサレ頼ミ難キヲ頼ンテ濟南事件  
ノ交渉ヲ遷延シ又本件ノ解決トハ関連セシメ難キノミナラ

ス大体ニ於テ話合纏リ居ル七種差等税率問題ノ取纏サヘモ  
故意ニ遷延セシムルニ至リテハ日支ノ關係ヲ取り返ヘシノ  
付カサル状態ニ導カムトスルモノナリ就テハ貴官ハ王正廷  
其ノ他然ルヘキ方面ニ右ノ点ヲ指摘シテ誤解無カラシムル  
様然ルヘク御措置アリ度シ

## 六 南京・漢口両事件解決交渉

460 昭和3年1月12日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉再開に関するマクマレー米国公  
使との会談について

北京 1月12日後発  
本省 1月13日前着

\*第三号

十二日米国公使来訪ノ際同公使ハ新聞ノ報道ニ依レハ日本  
ノ南京領事ハ復帰シタル由ナルカ事実ナリヤト尋ネタルニ  
付事実ナリト答ヘシニ同公使ハ南京事件解決ニ先立チ復帰  
スルコトハ右解決ニ影響ヲ及ホス虞ナキヤト尋ネシニ本使  
ハ我方ニ於テハ居留民中城内ニ帰リタキ希望ヲ有スルモノ  
モアリ旁々領事自身カ「ハルク」ヲ引揚ケ領事館ニ帰ル方  
得策ト認メ政府ニ於テモ右様決定シタル次第ニテ南京事件  
ノ解決トハ自ラ別個ノ問題ナリト思考スト述ヘタル処同公  
使ハ自分ハ率直ニ言ヘハ右解決ニ影響アルヤニ感セラルト  
述ヘタルニ付本使ハ其点ニ付テハ見解ヲ異ニスルモ速ニ南

京事件ノ解決ヲ計ルコトハ我方ニ於テモ考慮シ居ル処幸ヒ  
蔣介石モ再ヒ總司令ニ復任シタル次第モアリ南京政府ト交  
渉ヲ再開スルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ同公使ハ実ハ  
北方支那ハ目下ノ処大体ニ於テ秩序アリト看做シ得ラルル  
モ揚子江流域ニ至リテハ内訌熾ム時ナク自分モ為ス処ヲ知  
ラサル状況ナリ交渉ヲ開クトセハ矢張伍朝枢ト交渉スルコ  
トトナルヘシト述ヘタルニ付本使ハ伍朝枢ハ現ニ辞表ヲ提  
出シ黄郛或ハ王正廷之ニ代ルヘシトノ話アリト述ヘタル処  
同公使ハ自分ノ最近入手シタル報道ニ依レハ伍朝枢ハ一旦  
辞表ヲ提出シタルモ後任ニ擬セラレタル右兩人カ互ニ競争  
シテ暗闘ヲ為シタル為伍朝枢ハ其儘居残ルコトトナリタル  
モノノ如シト述ヘタルカ本件ニ付テハ本使ハ尚考慮ノ上更  
ニ協議ヲ継続シタキ心底ニテ此辺ニテ話ヲ打切りタリ

461

昭和3年1月24日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉再開に関するランブソン英国公